

【令和2年度】平成28年度以降入学者対象 カリキュラム表(動物看護学専攻)

注1 :表内の数字は単位数であり、○数字は選択科目を示す

注2 :△印は、当該期間中のいずれか1回のみ履修可能

注3 :◆印は、A～Fのうち、いずれか1科目を選択

注4 :「専攻」欄の表記は次のとおり

① 共 :動物看護学専攻・動物人間関係学専攻(以下、両専攻とする)を対象として開講する科目

② 看 :動物看護学専攻を対象として開講する科目

注5 : \*印は、両専攻を対象として開講し、専攻によって種別(必修/選択)が異なる科目

区分	専攻	授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		備考			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
人文と社会	共	生活と哲学	②								左記に加え、 教養教育科目 8単位以上 選択4単位以上 10単位以上 取得のこと			
		生活と法律	②											
		生命倫理学				2								
		芸術と表現	②											
		文学と人間		②										
		心理学入門	②											
		生活と経済	②											
		生活と社会				②								
		動物とジャーナリズム		②										
		キャリアマネジメント入門				②								
		キャリアマネジメント演習					①							
		自然科学		②										
		環境科学				②								
		基礎生物学	②											
		基礎化学	②											
基礎生化学		②												
自然と環境	共	英語 I A～F	1◆								選択4単位以上			
		英語 II A～F		1◆										
		英語 III A～F			1◆									
		英語 IV A～F				1◆								
		フランス語入門		②										
		情報リテラシ(基礎)	1											
		情報リテラシ(応用)		1										
		文章作法入門		②										
		健康とスポーツ			②									
		健康とスポーツ実技			①△	①△								
		言語・情報・スポーツ	共	生命科学概論			2							選択4単位以上
				動物看護学概論	2									
				動物人間関係学概論	2									
				動物機能形態学	2									
				動物生理学		2								
解剖・生理実習						1*								
動物生態学				2										
動物行動学						2								
動物遺伝学						2								
動物薬理学						2								
動物病理学						2								
専門基礎科目	共			動物臨床看護学(基礎)	2								専門教育科目より90単位以上取得のこと	
				動物臨床看護学(基礎)実習	2									
				動物臨床看護学(内科)			2*							
	看			動物臨床看護学(内科)実習			2							
		動物臨床看護学(外科)				2*								
	共	動物臨床看護学(外科)実習				2								
		動物臨床看護学(総合)							②					
	看	動物臨床看護学(総合)実習								①				
		動物臨床検査学				2*								
	共	動物臨床検査学実習				2								
		特殊検査								②				
		動物医療機器				2								
		動物口腔ケア論						②						
		動物口腔ケア実習							①					
	専門科目	共	ヒトと動物の共通感染症					2*						
動物公衆衛生学					2									
看		動物生化学		②										
		微生物学					②							
共		血液学						②						
		寄生虫学					2*							
看		小動物放射線学					2							
		動物臨床繁殖学							②					

区分	専攻	授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	共	小動物栄養学			2*						専門教育科目より90単位以上取得のこと
		小動物臨床栄養学				②					
		リハビリテーション論					②				
		動物リハビリテーション							②		
		動物病院実習						2			
	看	コバニオンアニマルケア(グルーミング)論	2								
		コバニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習	1△	1△							
		コバニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習			①△	①△					
		イヌの特性論				2					
		ジェロントロジーとドッグウォーキング							②		
		ネコの特性論				②					
		コバニオンボードの特性論					②				
		実験動物学								②	
		生物統計学				②					
		動物愛護・福祉と関連法規						2			
共	ペットロス論								②*		
	高齢動物看護学								②		
	動物自然療法論								②		
	在宅・訪問動物看護論								②		
	サイエンスイングリッシュ					②					
共	アドバンストイングリッシュ							②			
	研究法							2			
	卒業論文								4		
	インターンシップ							①	①		
	研修・ボランティア活動	①△	①△	①△	①△						
総合科目	共	動物実習短期留学	④△	④△	④△	④△					
		アssenブリーアワーⅠ(動物と看護)	1								
		アssenブリーアワーⅡ(動物と環境)			1						
		アssenブリーアワーⅢ(動物と職業)					1				
		アssenブリーアワーⅣ(動物と社会)								1	

【卒業要件】

区分	必修	選択		合計
		専攻	共通	
教養教育	人文と社会	2	8	34
	自然と環境	—	4	
	言語・情報・スポーツ	6	4	
小計		8	26	
専門教育	専門基礎	21		90
	専門	43	22	
	総合	4		
小計		68		
合計		76	48	124

【備考】

- 卒業要件の詳細については、履修ガイド49ページを参照すること。
- 動物人間関係学専攻を対象として開講される専門教育科目を履修し、単位を修得した場合は、専門教育科目の選択科目としてみなし、卒業要件に算入する。

実務家教員担当科目一覧(動物看護学専攻)

	科目名	必修/選択	学年	開講期	単位数
1	動物臨床検査学実習	必修	3	通年	2単位
	特に受託検査項目の種類と特徴及び受託検査における異常データ出現原因やその発見、それに対する対処方法について、実務経験を活かした授業を展開している。				
2	小動物臨床栄養学	選択	2	後期	2単位
	民間企業、動物愛護団体でのペットフード開発等の実務経験と大学での獣医学博士としての犬猫栄養学研究、ならびに栄養学についての獣医師向け講座・セミナー実施経験を基に、深みがありつつ理解し易い講義を行います。				
3	動物リハビリテーション	選択	4	前期	2単位
	動物病院の動物看護師としての実務と動物リハビリテーションを米国の獣医大学教育病院で研鑽した経験を活かし臨場感のある授業を展開。小動物医療現場で実践する理学療法の理論と技術をわかりやすく指導すると共に動物看護の可能性を探求する。				
4	動物病院実習	必修	3	通年	2単位
	動物病院様の協力を得て、動物看護師として現場で遭遇するであろう実践部分の教育をお願いしている。事前授業と事後授業を組み合わせることにより、現場での実務者からの指導をより意義のあるものとしている。				
5	動物愛護・福祉と関連法規	必修	3	前期	2単位
	前職「(公財)日本動物愛護協会」で30年間、当該運動の普及啓発に勤しみ、目下は、抽象的で難解な思想に具体的実践を導入し、分かりやすく持論を展開。また、海外実務研修に基づいて世界の動物愛護の歴史を繙き、人と動物の関わる文化の深淵を探る。				
6	高齢動物看護学	選択	4	前期	2単位
	動物の高齢化に伴い動物の加齢性変化に応じた看護も必要となってくることに對し、臨床実務経験者の獣医師が生活の質の維持・向上を根底に、疾患別看護についてはそれぞれの得意分野を担当し、全般的な感染症、認知症、代替医療、グリーフケアについても経験を活かして講義する。				
7	動物自然療法論	選択	4	後期	2単位
	動物病院及び動物の自然療法院(栄養療法、鍼灸療法など)に30年以上勤務医としてとしての実務経験者と動物の理学療法(リハビリテーション)を主として行い、オーストラリアから講師を呼んでの国際セミナーを担当している実務経験のある獣医師により動物看護に応用できる療法を教授する。				
8	在宅・訪問動物看護論	選択	4	後期	2単位
	小動物臨床に獣医師として長年携わってきた経験をもとに、高齢化あるいは疾患を有する動物などの在宅及び訪問における動物看護の方法、役割、意義を講義し、さらに在宅・訪問看護に当たって動物看護師の前に人間としてのマナーについても経験を生かして講義する。				

実務家教員担当科目一覧(動物看護学専攻)

	科目名	必修/選択	学年	開講期	単位数
9	インターンシップ	選択	3・4	通年	1単位
	ペット関連産業の実務経験者である教員が、ペット関連産業の市場規模や業態等の特殊性も踏まえた上での社会人基礎力の教育を事前授業にて行う。また、インターンシップ実施中においても、学生が現場で抱える悩み等に実務経験者として対応する。				
10	動物実習短期留学	選択	1・2・3・4	通年	4単位
	米国のヴェテリナリーテクニシヤンの資格をもつ教員が、オーストラリアでの動物園および動物病院での実習において、必要に応じて、研修先スタッフとともに学生の指導にあたる。				
実務家教員担当科目:21単位/卒業要件:124単位					

# 授業科目 目次 (動物看護学専攻)

区分	授業科目	担当教員	頁
人文と社会	生活と哲学	高橋 克樹	65
	生活と法律	渋谷 寛	66
	生命倫理学	高橋 克樹	67
	芸術と表現	斉藤 康介	68
	文学と人間	島森 尚子	69
	心理学入門	加藤 理絵	70
	生活と経済	矢島 隆志	71
	生活と社会	◎新島 典子・奥野 卓司	72
	動物とジャーナリズム	仁科 邦男	73
	キャリアマネジメント入門	◎原島 恒雄・荒木 幸子	74
	キャリアマネジメント演習	原島 恒雄	75
	自然科学	石川 牧子	76
	自然と環境	環境科学	石川 牧子
基礎生物学		茂木 千恵	78
基礎化学		石川 牧子	79
基礎生化学		◎梅村 隆志・植田 富貴子	80
英語ⅠA～F		島森 尚子・大橋 山紀子 加藤 剛	81   86
英語ⅡA～F		島森 尚子・大橋 由紀子 加藤 剛	87   92
英語ⅢA～F		大橋 由紀子・阿部 敬子 林 孝憲	93   98
英語ⅣA～F		大橋 山紀子・阿部 敬子 林 孝憲	99   104
フランス語入門		白川 理恵	105
情報リテラシ (基礎)		若林 義啓	106
情報リテラシ (応用)	若林 義啓	107	
文章作法入門	高橋 克樹	108	
健康とスポーツ	中山 多美	109	
健康とスポーツ実技	中山 多美	110	
言語・情報・スポーツ	生命科学概論	◎小黑 美枝子・石川 牧子 茂木 千恵	111
	動物看護学概論	◎内田 明彦・岡崎 登志夫 今村 伸一郎・梅村 隆志 関谷 順一	112
	動物人間関係学概論	◎古川 力・小黑 美枝子 島森 尚子・新島 典子 石川 牧子・奥野 卓司 加藤 理絵・堀井 陸行 秋山 順子	113
	動物機能形態学	今村 伸一郎	114
	動物生理学	今村 伸一郎	115
	解剖・生理実習	今村 伸一郎	116
	動物生態学	茂木 千恵	117
	動物行動学	茂木 千恵	118
	動物遺伝学	古川 力	119
	動物薬理学	◎富田 幸子・尾崎 明恵	120
	動物病理学	梅村 隆志	121
	授業科目	担当教員	頁

区分	授業科目	担当教員	頁
専門教育科目	動物臨床看護学(基礎)	鈴木 友子	124
	動物臨床看護学(基礎)実習	◎富田 幸子・荒川 真希 秋山 蘭・友野 悠・三井 香奈	125
	動物臨床看護学(内科)	富田 幸子	126
	動物臨床看護学(内科)実習	◎富田 幸子・荒川 真希 秋山 蘭・友野 悠・三井 香奈 藤井 聖久	127
	動物臨床看護学(外科)	今村 伸一郎	128
	動物臨床看護学(外科)実習	◎秋山 蘭・尾崎 明恵 沼本 涼子	129
	動物臨床看護学(総合)	◎本田 三緒子・富田 幸子 小方 宗次	130
	動物臨床看護学(総合)実習	◎本田 三緒子・富田 幸子 小方 宗次	131
	動物臨床検査学	◎岡崎 登志夫・宮井 紗弥香	132
	動物臨床検査学実習	◎岡崎 登志夫 <sub>※</sub> ・宮井 紗弥香 荒川 真希	133
	特殊検査	◎岡崎 登志夫・宮井 紗弥香	134
	動物医療機器	鈴木 友子	135
	動物口腔ケア論	鈴木 友子	136
	動物口腔ケア実習	鈴木 友子	137
	ヒトと動物の共通感染症	関谷 順一	138
	動物公衆衛生学	植田 富貴子	139
	動物生化学	小黑 美枝子	140
	微生物学	梅村 隆志	141
	血液学	岡崎 登志夫	142
	寄生虫学	内田 明彦	143
	小動物放射線学	根本 有希	144
	動物臨床繁殖学	関谷 順一	145
	小動物栄養学	◎大島 誠之助・荒木 幸子	146
	小動物臨床栄養学	◎大島 誠之助・荒木 幸子 <sub>※</sub>	147
	リハビリテーション論	手塚 潤一	155
	動物リハビリテーション	井上 留美 <sub>※</sub>	156
	動物病院実習	◎今村 伸一郎・茂木 千恵 荒川 真希・友野 悠	157
コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論	◎福山 貴昭・早田 由貴子	164	
コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習	◎福山 貴昭・土屋 恵美 嶋崎 加奈恵・武田 侑子 早田 由貴子	165	
コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習	◎福山 貴昭・土屋 恵美 嶋崎 加奈恵・武田 侑子 富田 淳嗣	166	
イヌの特性論	◎山崎 薫・古川 力 福山 貴昭・富田 淳嗣	167	
ジェロントロジーとドッグウォーキング	秋山 順子	172	
ネコの特性論	早田 由貴子	173	
コンパニオンバードの特性論	◎島森 尚子・小嶋 篤史	174	
実験動物学	◎今村 伸一郎・梅村 隆志	177	

# 授業科目 目次 (動物看護学専攻)

区分	科目名	担当教員	単位数
専門科目	生物統計学	植田 富貴子	179
	動物愛護・福祉と関連法規	◎関谷 順一・会田 保彦	181
	ペットロス論	◎新島 典子・山川 伊津子	182
	高齢動物看護学	◎富田 幸子・鈴木 友子 花田 道子※・本田 三緒子	183
	動物自然療法論	◎花田 道子※・本田 三緒子	184
	在宅・訪問動物看護論	◎富田 幸子・花田 道子※ 本田 三緒子	185
	サイエンスイングリッシュ	小黑 美枝子	191
	実用英語	◎大橋 由紀子	192
	アドバンストイングリッシュ	◎新島 典子・茂木 千恵	193
	研究法	小黑 美枝子・岡崎 登志夫 今村 伸一郎・内田 明彦 島森 尚子・富田 幸子 梅村 隆志・高橋 克樹 古川 力・石川 牧子 新島 典子・奥野 卓司 若林 義啓・植田 富貴子 関谷 順一・加藤 理絵 大橋 由紀子・茂木 千恵 鈴木 友子・堀井 隆行 福山 貴昭・秋山 順子 宮井 紗弥香・荒川 真希 秋山 (蘭)	194
	卒業論文	天野 卓・小黑 美枝子 岡崎 登志夫・今村 伸一郎 内田 明彦・島森 尚子 富田 幸子・梅村 隆志 高橋 克樹・古川 力 石川 牧子・新島 典子 奥野 卓司・若林 義啓 植田 富貴子・関谷 順一 加藤 理絵・大橋 由紀子 茂木 千恵・鈴木 友子 堀井 隆行・福山 貴昭 秋山 順子・宮井 紗弥香 荒川 真希・秋山 (蘭)	195
	インターンシップ	◎堀井 隆行・秋山 蘭 三井 香奈	196
	研修・ボランティア活動	◎加藤 理絵・宮井 紗弥香	197
	動物実習短期留学	◎山崎 薫・島森 尚子 荒木 幸子※	198
総合科目	アッセンブリーアワーⅠ(動物と看護)	◎若林 義啓・秋山 順子	199
	アッセンブリーアワーⅡ(動物と環境)	◎新島 典子・植田 富貴子	200
	アッセンブリーアワーⅢ(動物と職業)	◎関谷 順一・秋山 蘭	201
	アッセンブリーアワーⅣ(動物と社会)	◎小黑 美枝子・加藤 理絵	202

名前についているマークについて

◎：複数教員が担当する科目の授業科目目次及び、シラバスの科目担当教員欄において、名前の前に◎がついた教員は「科目担当責任者」となります。

※：名前の後ろに「※」がついた教員は、「実務家教員」となります。

【令和2年度】平成28年度以降入学者対象 カリキュラム表(動物人間関係学専攻)

注1：表内の数字は単位数であり、○数字は選択科目を示す

注2：△印は、当該期間中のいずれか1回のみ履修可能

注3：◆印は、A～Fのうち、いずれか1科目を選択

注4：「専攻」欄の表記は次のとおり

① 共：動物看護学専攻・動物人間関係学専攻(以下、両専攻とする)を対象として開講する科目

② 人：動物人間関係学専攻を対象として開講する科目

注5：\*印は、両専攻を対象として開講し、専攻によって種別(必修/選択)が異なる科目

区分	専攻	授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		備考		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
人文と社会	共	生活と哲学	②								左記に加え、 教養教育科目 全体から選択 10単位以上 取得のこと		
		生活と法律	②										
		生命倫理学			2								
		芸術と表現	②										
		文学と人間		②									
		心理学入門	②										
		生活と経済	②										
		生活と社会			②								
		動物とジャーナリズム		②									
		キャリアマネジメント入門			②								
		キャリアマネジメント演習				①							
		自然と環境	共	自然科学		②							選択4単位以上
				環境科学			②						
				基礎生物学	②								
				基礎化学	②								
基礎生化学	②												
言語・情報・スポーツ	共			英語ⅠA～F	1◆							選択4単位以上	
				英語ⅡA～F	1◆								
				英語ⅢA～F		1◆							
				英語ⅣA～F			1◆						
				フランス語入門		②							
				情報リテラシ(基礎)	1								
				情報リテラシ(応用)		1							
				文章作法入門		②							
				健康とスポーツ			②						
				健康とスポーツ実技			①△	①△					
		専門基礎科目	共	生命科学概論			2						専門教育科目より90単位以上取得のこと
				動物看護学概論	2								
				動物人間関係学概論	2								
				動物機能形態学	2								
				動物生理学	2								
解剖・生理実習					①*								
動物生態学	2												
動物行動学					2								
動物遺伝学					2								
動物文化論					2								
人	アニマルアシステッドセラピー論						2						
専門教育科目	共			動物臨床看護学(基礎)	2							専門教育科目より90単位以上取得のこと	
				動物臨床看護学(基礎)実習	2								
				動物臨床看護学(内科)			②*						
				動物臨床看護学(外科)				②*					
		動物臨床検査学				②*							
		ヒトと動物の共通感染症					②*						
		動物公衆衛生学		2									
		寄生虫学				②*							
		動物臨床繁殖学					②						
		小動物栄養学			②*								
		人	人	ヒトと動物の関係学			②						
				社会福祉論		②							
				臨床心理学		②							
				コミュニケーション論				②					
				子ども福祉と心理ケア			②						
高齢者福祉と心理ケア							②						
障がい者福祉と心理ケア				②									
アニマルアシステッドセラピー実習							①						
アシスタントドッグ論						②							
アシスタントドッグ演習								①					
伴侶動物育種・資源学							②						
動物飼育管理論					2								
動物飼育管理実習						1							

区分	専攻	授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門科目	共	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論	2								専門教育科目より90単位以上取得のこと
		コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習	1△	1△							
		コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習			①△	①△					
		イヌの特性論				2					
		伴侶動物行動学					2				
	人	伴侶動物行動演習						①			
		コンパニオンドッグトレーニング論						②			
		コンパニオンドッグトレーニング実習							①		
		ジェロントロジーとドッグウォーキング							②		
		ネコの特性論			②						
	共	コンパニオンバードの特性論					②				
		保全生物学					②				
		実験動物学							②		
		産業動物学					②				
		野生動物学				②					
人	バイオテクノロジー			②							
	動物愛護・福祉と関連法規					2					
	ペットロス論							2*			
	動物災害・危機管理								②		
	ペットビジネス起業論							②			
人	簿記基礎							②			
	動物とアート								②		
	動物文化人類学					②					
	サイエンスイングリッシュ					②					
	実用英語			②							
共	アドバンスイングリッシュ							②			
	研究法							2			
	卒業論文								4		
	インターンシップ						①	①			
	研修・ボランティア活動	①△	①△	①△	①△	①△	①△				
総合科目	動物実習短期留学	④△	④△	④△	④△	④△	④△				
	アッセンブリーアワーⅠ(動物と看護)	1									
	アッセンブリーアワーⅡ(動物と環境)		1								
	アッセンブリーアワーⅢ(動物と職業)				1						
	アッセンブリーアワーⅣ(動物と社会)								1		

【卒業要件】

区分	必修		選択		合計
	2	8	4	10	
教養教育	2	8	4	10	34
専門基礎	20				
専門	26		40		90
総合	4				
小計	50				
合計	58		66		124

【備考】

- 卒業要件の詳細については、履修ガイド49ページを参照すること。
- 動物看護学専攻を対象として開講される専門教育科目を履修し、単位を修得した場合は、専門教育科目の選択科目としてみなし、卒業要件に算入する。

実務家教員担当科目一覧(動物人間関係学専攻)

	科目名	必修/選択	学年	開講期	単位数
1	臨床心理学	選択	2	前期	2単位
	これまで行ってきた学生相談業務、また、現在行っている中高でのスクールカウンセラーという心理臨床の実践経験で得た知識、また実践における最新の状況等について随時講義において情報提供を行っている。				
2	コミュニケーション論	選択	3	後期	2単位
	これまで行ってきたカウンセリング業務において他者との対話やコミュニケーションにおいて重要なノウハウにとどまらず、自分自身との対話を重要視し、トータル的なコミュニケーション能力、スキル、スタイルの確立を促すプログラムとして構成している。				
3	子ども福祉と心理ケア	選択	2	後期	2単位
	中高でのカウンセリング業務での経験を活かし、特に思春期における子どもの心理についての知識を提供し、ケアの重要性の理解を促すことを心掛けている。				
4	高齢者福祉と心理ケア	選択	3	後期	2単位
	これまでのカウンセリング業務の経験を活用し、高齢者自身というよりは、介護等における周囲の家族に対するケアについての知識、理解を促すことを心掛けている。				
5	障がい者福祉と心理ケア	選択	2	前期	2単位
	これまでのカウンセリング業務の経験から主に、精神障害、発達障害についての最新の知識、ケアについての理解を促すよう心掛けている。				
6	伴侶動物育種・資源学	選択	3	後期	2単位
	畜産試験場などにおいて動物育種の実務や研究に携わった経験に基づき、伴侶動物育種理論について基礎から応用まで実務に役立つように教授するとともに、動物育種の具体的な事例を解説する。				
7	動物飼育管理実習	必修	2	後期	1単位
	動物飼育管理実習では、ウマ領域では八王子乗馬倶楽部ディレクターの細野茂之、爬虫類・両生類領域では田園調布動物病院院長の田向健一、観賞魚領域では日本観賞魚振興事業協同組合専務理事の吉田俊一という各領域の第一人者が、業界・現場の実態に即した飼育管理方法について知識・技術の指導を行っている。				

実務家教員担当科目一覧(動物人間関係学専攻)

	科目名	必修/選択	学年	開講期	単位数
8	コンパニオンドッグトレーニング実習	選択	4	前期	1単位
	国内外における家庭犬、使役犬、シェルター犬の育成、行動修正、トレーニングの経験を活かし、行動の科学と理論に裏付けされた犬の行動特性を基本としたトレーニング技術の習得を目指す。				
9	保全生物学	選択	3	前期	2単位
	農業生物資源研究所などにおいて動物遺伝資源の探索・保全の実務と研究に携わった経験に基づき、生物多様性保全の背景から国際的枠組みや遺伝的多様性保全のための理論を教授するとともに具体的な取り組みを解説する。				
10	産業動物学	選択	3	前期	2単位
	畜産試験場などにおいて産業動物の研究に携わった経験に基づき、各種産業動物の現状と課題および今後の展望について教授するとともに、行政部局や研究機関から得た最新情報を紹介する。				
11	動物愛護・福祉と関連法規	必修	3	前期	2単位
	前職「(公財)日本動物愛護協会」で30年間、当該運動の普及啓発に勤しみ、目下は、抽象的で難解な思想に具体的実践を導入し、分かりやすく持論を展開。また、海外実務研修に基づいて世界の動物愛護の歴史を繙き、人と動物の関わる文化の深淵を探る。				
12	ペットビジネス起業論	選択	3	後期	2単位
	小動物臨床に獣医師として約5年ほど従事し、その後、アニコム損害保険株式会社に2005年から勤務。現在は経営企画部で新規事業の立上げやイベントの企画などに従事している。実務経験からペット業界の現状と傾向、また、その中からニーズをくみ取りビジネスにしていく過程を基本的な考えから講義する。				
13	インターンシップ	選択	3・4	通年	1単位
	ペット関連産業の実務経験者である教員が、ペット関連産業の市場規模や業態等の特殊性も踏まえた上での社会人基礎力の教育を事前授業にて行う。また、インターンシップ実施中においても、学生が現場で抱える悩み等に実務経験者として対応する。				
14	動物実習短期留学	選択	1・2・3・4	通年	4単位
	米国のヴェテリナリーテクニシヤンの資格をもつ教員が、オーストラリアでの動物園および動物病院での実習において、必要に応じて、研修先スタッフとともに学生の指導にあたる。				
実務家教員担当科目:27単位/卒業要件:124単位					

授業科目 目次 (動物人間関係学専攻)

区分	授業科目	担当教員	頁	
人文と社会	生活と哲学	高橋 克樹	65	
	生活と法律	渋谷 寛	66	
	生命倫理学	高橋 克樹	67	
	芸術と表現	斉藤 康介	68	
	文学と人間	島森 尚子	69	
	心理学入門	加藤 理絵	70	
	生活と経済	矢島 隆志	71	
	生活と社会	◎新島 典子・奥野 卓司	72	
	動物とジャーナリズム	仁科 昂男	73	
	キャリアマネジメント入門	◎原島 恒雄・荒木 幸子	74	
	キャリアマネジメント演習	原島 恒雄	75	
自然と環境	自然科学	石川 牧子	76	
	環境科学	石川 牧子	77	
	基礎生物学	茂木 千恵	78	
	基礎化学	石川 牧子	79	
	基礎生化学	◎梅村 隆志・植田 富貴子	80	
	英語ⅠA～F	島森 尚子・大橋 由紀子 加藤 剛	81   86	
	英語ⅡA～F	島森 尚子・大橋 由紀子 加藤 剛	87   92	
	英語ⅢA～F	大橋 由紀子・阿部 敬子 林 孝憲	93   98	
	英語ⅣA～F	大橋 由紀子・阿部 敬子 林 孝憲	99   104	
	フランス語入門	白川 理恵	105	
言語・情報・スポーツ	情報リテラシ(基礎)	若林 義啓	106	
	情報リテラシ(応用)	若林 義啓	107	
	文章作法入門	高橋 克樹	108	
	健康とスポーツ	中山 多美	109	
	健康とスポーツ実技	中山 多美	110	
	専門基礎科目	生命科学概論	◎小黒 美枝子・石川 牧子 茂木 千恵	111
		動物看護学概論	◎内田 明彦・岡崎 登志夫 今村 伸一郎・梅村 隆志 関谷 順一	112
		動物人間関係学概論	◎古川 力・小黒 美枝子 島森 尚子・新島 典子 石川 牧子・奥野 卓司 加藤 理絵・堀井 隆行 秋山 順子	113
		動物機能形態学	今村 伸一郎	114
		動物生理学	今村 伸一郎	115
解剖・生理実習		今村 伸一郎	116	
動物生態学		茂木 千恵	117	
動物行動学		茂木 千恵	118	
動物遺伝学		古川 力	119	
動物文化論		◎小黒 美枝子・古川 力 天野 卓・島森 尚子 新島 典子	122	
アニマルアシステッドセラピー論		◎山崎 薫・秋山 順子 山崎 恵子	123	

区分	授業科目	担当教員	頁
専門教育科目	動物臨床看護学(基礎)	鈴木 友子	124
	動物臨床看護学(基礎)実習	◎富田 幸子・荒川 真希 秋山 蘭・友野 悠・三井 香奈	125
	動物臨床看護学(内科)	富田 幸子	126
	動物臨床看護学(外科)	今村 伸一郎	128
	動物臨床検査学	◎岡崎 登志夫・宮井 紗弥香	132
	ヒトと動物の共通感染症	関谷 順一	138
	動物公衆衛生学	植田 富貴子	139
	寄生虫学	内田 明彦	143
	動物臨床繁殖学	関谷 順一	145
	小動物栄養学	◎大島 綾之助・荒木 幸子	146
	ヒトと動物の関係学	安藤 孝敏	151
	社会福祉論	山川 伊津子	152
	臨床心理学	加藤 理絵	153
	コミュニケーション論	加藤 理絵	154
	子ども福祉と心理ケア	◎加藤 理絵・山川 伊津子	155
	高齢者福祉と心理ケア	◎加藤 理絵・山川 伊津子	156
	障がい者福祉と心理ケア	◎加藤 理絵・山川 伊津子	157
	アニマルアシステッドセラピー実習	◎秋山 順子・堀井 隆行 山川 伊津子	158
	アシスタンスドッグ論	◎秋山 順子・高柳 友子	159
	アシスタンスドッグ演習	◎秋山 順子・堀井 隆行 山川 伊津子	160
	伴侶動物育種・資源学	◎古川 力・天野 卓	161
	動物飼育管理論	◎堀井 隆行・島森 尚子 田向 健一・吉田 俊一	162
	動物飼育管理実習	◎堀井 隆行・島森 尚子 田向 健一・細野 茂之 吉田 俊一	163
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論	◎福山 貴昭・早田 山貴子	164
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習	◎福山 貴昭・上屋 恵美 嶋崎 加奈恵・武田 侑子 早田 由貴子	165
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習	◎福山 貴昭・上屋 恵美 嶋崎 加奈恵・武田 侑子 宮田 淳嗣	166
	イヌの特性論	◎山崎 薫・古川 力 福山 貴昭・宮田 淳嗣	167
	伴侶動物行動学	堀井 隆行	168
	伴侶動物行動演習	堀井 隆行	169
	コンパニオンドッグトレーニング論	山本 央子・◎堀井 隆行	170
	コンパニオンドッグトレーニング実習	山本 央子	171
	ジェロントロジーとドッグウォーキング	秋山 順子	172
ネコの特性論	早田 由貴子	173	
コンパニオンパードの特性論	◎島森 尚子・小嶋 篤史	174	
保全生物学	◎古川 力・天野 卓	175	
実験動物学	◎今村 伸一郎・梅村 隆志	176	
産業動物学	古川 力	177	
野生動物学	天野 卓	178	
生物統計学	植田 富貴子	179	
バイオテクノロジー	小黒 美枝子	180	

# 授業科目 目次 (動物人間関係学専攻)

区分	授業科目	担当教員	頁
専門科目	動物愛護・福祉と関連法規	◎関谷 順一・会田 保彦 <sub>注</sub>	181
	ペットロス論	◎新島 典子・山川 伊津子	182
	動物災害・危機管理	◎福山 貴昭・会田 保彦 小島 香代子	186
	ペットビジネス起業論	宮下 めぐみ	187
	簿記基礎	荒木 幸子	188
	動物とアート	長能 美香	189
	動物文化人類学	奥野 卓司	190
	サイエンスイングリッシュ	小黒 美枝子	191
	実用英語	大橋 由紀子	192
	アドバンストイングリッシュ	◎新島 典子・茂木 千恵	193
	研究法	小黒 美枝子・岡崎 登志夫 今村 伸一郎・内田 明彦 島森 尚子・富田 幸子 梅村 隆志・高橋 克樹 古川 力・石川 牧子 新島 典子・奥野 卓司 若林 義啓・植田 富貴子 関谷 順一・加藤 理絵 大橋 由紀子・茂木 千恵 鈴木 友子・梶井 隆行 福山 貴昭・秋山 順子 宮井 紗弥香・荒川 真希 秋山 (蘭)	194
	卒業論文	天野 卓・小黒 美枝子 岡崎 登志夫・今村 伸一郎 内田 明彦・島森 尚子 富田 幸子・梅村 隆志 高橋 克樹・古川 力 石川 牧子・新島 典子 奥野 卓司・若林 義啓 植田 富貴子・関谷 順一 加藤 理絵・大橋 由紀子 茂木 千恵・鈴木 友子 梶井 隆行・福山 貴昭 秋山 順子・宮井 紗弥香 荒川 真希・秋山 (蘭)	195
	インターンシップ	◎梶井 隆行・秋山 蘭 三井 香奈	196
	研修・ボランティア活動	◎加藤 理絵・宮井 紗弥香	197
	総合科目	動物実習短期留学	◎山崎 薫・島森 尚子 荒木 幸子 <sub>注</sub>
アッセンブリーアワーⅠ(動物と看護)		◎若林 義啓・秋山 順子	199
アッセンブリーアワーⅡ(動物と環境)		◎新島 典子・植田 富貴子	200
アッセンブリーアワーⅢ(動物と職業)		◎関谷 順一・秋山 蘭	201
	アッセンブリーアワーⅣ(動物と社会)	◎小黒 美枝子・加藤 理絵	202

マークについて

◎：複数教員が担当する科目の授業科目目次及び、シラバスの科目担当教員欄において、名前の前に◎がついた教員は「科目担当責任者」となります。

※：名前の後ろに「※」がついた教員は、「実務家教員」となります。

授業科目	生活と哲学				担当教員	高橋 克樹
科目英名	Life and Philosophy					
開講期間	1年次 前期	選択科目 2単位	授業 形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]
<b>到達目標</b>						
<p>「生きた哲学は現実を理解しうるものでなくてはならない」とは九鬼周造のことばです。なぜ人は愛する人を喪うと生き方が変わるのか。2018年と2019年にもっとも読まれた本のひとつ「君たちはどう生きるか」を手掛かりに日常生活での哲学的思考の修得を目指す。</p>						
<b>講義概要</b>						
<p>吉野源三郎著「君たちはどう生きるか」(岩波文庫)を丁寧に購読することで、日常生活の中での哲学的思考の修得を目指す。</p> <p>本書(テキスト)は、80年間も読み継がれてきた本で、哲学の入門書といえるものである。私たちは、自分で自分の生き方を決める力を持っているが、誤りを犯すこともある。しかし、誤りから立ち直ることができることを授業の中で学ぶ。</p>						
<b>授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「豊かさ」について①—貧しい友人と油揚げ事件・いじめ—</li> <li>2 「豊かさ」について②—生産する人、消費する人—</li> <li>3 「友だち」について①—本当の友だちとは?—</li> <li>4 「友だち」について②—消えることのない過ちへの対処—</li> <li>5 「歴史」について①—なぜ紛争はなくなるのか—</li> <li>6 「歴史」について②—歴史に学ぶ生き方—</li> <li>7 「どう生きるか」について①—ナポレオンは偉大か—</li> <li>8 「どう生きるか」について②—本を読むという営み—</li> <li>9 「哲学する」について①—心が折れそうになるときでも—</li> <li>10 「哲学する」について②—裏切りからの回復—</li> <li>11 パトスの知①—われ思う、ゆえにわれ在りから—</li> <li>12 パトスの知②—われ悲しむ、ゆえにわれあり—</li> <li>13 「私たちはどう生きるか」①—どう生きてきたかを検証する—</li> <li>14 「私たちはどう生きるか」②—これからをどう生きていくのか—</li> <li>15 まとめと振り返り</li> </ol>						
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b>						
リアクションペーパーでの質問、意見、要望について、次週の授業で回答する。						
<b>履修上の注意</b>						
教科書をしっかり読み、各自の問題意識を持って授業に出席すること。						
<b>事前・事後学修(予習・復習)の内容</b>						
事前にテキストを読んでおくこと。						
<b>評価方法(評価基準を含む)</b>						
授業への参加度と貢献度(50%)、リアクションペーパー(20%)、定期試験(30%)から総合的に評価する。						
<b>教科書</b>						
『君たちはどう生きるか』(吉野源三郎 岩波文庫)						
<b>参考書、教材等</b>						
『君たちはどう生きるかの哲学』(上原隆 幻冬舎新書) その他授業のなかで適宜取りあげて 必要な参考文献を紹介する。						

授業科目	生活と法律					担当教員	渋谷 寛
科目英名	Law in Everyday Life						
開講期間	1年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育〔人文と社会〕	
到達目標							
日常生活において必要な法的知識、法的紛争解決手続きを修得することを到達目標とする。							
講義概要							
<p>憲法、民法そして刑法などの基本的な法律の知識を得る。売買契約、消費貸借契約、賃貸借契約、請負契約そして寄託契約などの契約類型についても学ぶ。</p> <p>訴訟制度、特に裁判員制度について学ぶ。</p> <p>更に、ペットに関する業界特有の法知識の習得も志す。動物愛護管理法の規定を知る。獣医療過誤訴訟の実態、そのほかのペットを取り巻く日常的な法律問題を学ぶ。</p>							
授業計画							
1	法学入門、法の歴史、江戸時代の生類憐れみの令						
2	日本国憲法、人権問題、戦争放棄、天皇制、政治の仕組み、憲法改正など						
3	売買契約に関すること、消費者保護制度、クーリングオフなど						
4	① 賃貸借契約に関すること、契約締結に関する注意事項、大家さんとのトラブル解決法 ② その他の民法上の契約、消費貸借、委任契約、寄託契約など						
5	① 家庭的な法律問題、結婚、離婚、相続など ② 保険制度、労働法に関する問題、就業規則、不当解雇など						
6	① 犯罪と刑罰に関する問題、覚せい剤犯罪、動物愛護法の罰則規定など ② 裁判に関する法、民事訴訟と刑事訴訟の手続の流れ						
7	裁判員制度について1（制度の概説）						
8	裁判員制度について2（放火の事例）						
9	裁判員制度について3（殺人未遂・傷害の事例）						
10	裁判員制度について4（殺害・正当防衛の事例）						
11	未成年者の飲酒の禁止と交通法規						
12	獣医療過誤事件1						
13	獣医療過誤事件2						
14	動物愛護法など動物に関する法律1						
15	動物愛護法など動物に関する法律2						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業中の質問については、適切に答える。授業に対する要望があれば、できる限り対応する。							
履修上の注意							
試験問題のほとんどは、授業で扱ったところから出題されるので、授業中にメモを取ることが望ましい予習よりも復習が大切。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
配布した資料を読み返す。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業内容をよく理解したか否か、および日常生活に関する基本的な法的知識を備えたか否か、更に動物に関する法律問題に対する知識を備えたか否かを評価基準とし、授業への参加度（3%）と定期試験（97%）により総合的に評価する。							
教科書							
「ペットのトラブル相談Q&A（第2版）」 渋谷寛他2名共著 発行所 株式会社民事法研究会							
参考書、教材等							
「ペットの判例ガイドブック」 渋谷寛他共著 発行所 株式会社民事法研究会							
「動物看護コアテキスト第1巻（第2版）人と動物の関係」 発行所 株式会社ファームプレス							
「ねこの法律とお金」発行所 廣済堂出版							

授業科目	生命倫理学					担当教員	高橋 克樹
科目英名	Bioethics						
開講期間	2年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
到達目標							
<p>生命倫理学は生きとし生けるいのちとの関係についての学びである。現代社会は科学技術の驚異的な進歩によって「いのち」にかかわる生命倫理上の課題が急速に立ち現われるようになった。生殖医療や出生前診断、ターミナルケアの現場に直面したときに、どうすべきか判断が求められるようになった。医療現場においては、インフォームド Consent など様々な課題を抱えている。安楽死の問題をどのように考えるか、病状告知をいかにすべきか、家族への配慮も求められる。それら「いのち」にかかわる事柄に対して、基本的姿勢や考え方を樹立することが目標である。</p>							
講義概要							
<p>ケア（看護）という営みは、ケア提供者とケアを受ける者との関係性の上に成り立っている。生命倫理上の諸問題を、これらの視点から考察していく。</p>							
授業計画							
1	生命倫理とは何か① ～「いのち」の根源を問う						
2	生命倫理とは何か② ～関係から「いのち」を捉える						
3	生命倫理が要請されてきた背景 ～「いのち」は誰のものか						
4	「いのち」の尊厳性と優生思想 ～アウシュヴィッツ、ヒロシマ、ナガサキから考える						
5	自死は死ぬ権利？～自死は正当化できるか						
6	出生前診断・遺伝子検査～「いのち」の選択は正しいことなのか						
7	インフォームド・ Consent および生殖補助医療～正しく情報を伝える						
8	安楽死と尊厳死～安楽死は本当の尊厳を与えるのか						
9	脳死と臓器移植～あなたは自分の臓器を提供しますか？						
10	ターミナルケア（終末期医療）～スピリチャリティの視点から						
11	遺伝管理社会～健康が義務となる社会						
12	生命倫理と優生思想～「いのち」に価値の差はあるのか？						
13	グリーフ・ワークとペットロス of 心理的傾向						
14	動物の権利①～動物の生存権について						
15	動物の権利②～人間と動物の共存の道						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
リアクションペーパーでの質問、意見、要望について、次週の授業で回答する。							
履修上の注意							
動物を初めすべての生けるいのちへの広い関心と人間としての責任を自覚する姿勢を求めたい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
各授業回で配布した資料の内容をよく読んでおくこと。							
評価方法（評価基準を含む）							
定期的に要求するリアクションペーパー（20%）、授業への参加度（50%）そして定期試験（30%）から総合的に評価する。							
教科書							
特には指定しない							
参考書、教材等							
授業の中で適宜紹介する。							

授業科目	芸術と表現					担当教員	斉藤 康介
科目英名	Art and Expression						
開講期間	1年次 前期	選択科目 2単位	授業 形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
<b>到達目標</b>							
デッサンを通して質感・構図・物の変化を捉えることにより、バランス感覚・空間意識を持てるようになる。ペットを描くことで、動物に対して関心を高め、構図・バランス・質感の違い、観察力が身に付く。自然石に動物を表現することで造形力・想像力を養い、立体に対する意識を持つ。自由な発想で動物の世界を描くことで、オリジナリティーある表現・構成力・想像力を身に付け、客観的に物を見る力を身につける。							
<b>講義概要</b>							
芸術に親しみデッサン法、色彩技術を学ぶことで、確かな観察眼と事象を正確に伝達するために欠かせない表現力を育むことを狙いとする。歴史上、優れた芸術家たちの作品を通して、技法デッサン力、絵画、立体作品における造形力、想像力を養う。過去にアートの分野に接触経験が少ない学生は本講座を受講することで豊かな人間性を身につけていく。							
<b>授業計画</b>							
1 絵画について カリキュラムの意味 基礎デッサン① 鉛筆デッサンにより明暗の調子を学ぶ							
2 基礎デッサン② ハッチングの方向、グラデーションの幅の広い表現、動き、バランス表現							
3 基礎デッサン① 鉛筆、ダーマトグラフ (白)、コンテ (白) により質感、構図、明暗の調子を学ぶ							
4 基礎デッサン② ダーマトグラフ (白)、コンテ (白) により質感、構図、明暗の調子を学ぶ							
5 作品完成と合評							
6 動物の絵 (自分の周りにいる動物を描く) ① 構図、バランスを考え、特徴をつかむ							
7 動物の絵 (自分の周りにいる動物を描く) ② 毛の方向を意識して描く							
8 動物の絵 (自分の周りにいる動物を描く) ③ 作品の完成と合評							
9 自然石を利用した立体表現① 動物をイメージして、顔 (頭部)、全身を表現する							
10 自然石を利用した立体表現② 自然石の造形の妙を理解、消化する							
11 自然石を利用した立体表現③ 作品の完成と合評							
12 動物 (生き物) の世界① 同一画面に構図、画面構成を考え、様々な生き物を自由に入れる							
13 動物 (生き物) の世界② 同一画面に構図、画面構成を考え、様々な生き物を自由に入れる							
14 動物 (生き物) の世界③ 同一画面に構図、画面構成を考え、様々な生き物を自由に入れる							
15 レビューと合評							
<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>							
実技のため、試験やレポート等無し。要望メッセージは、初回の授業カリキュラム説明の際に質問を受ける。 1 課題ごとに合評を行う。							
<b>履修上の注意</b>							
課題ごとに持ち物を忘れないこと							
<b>事前・事後学修 (予習・復習) の内容</b>							
基本的に予習・復習無し。15回の授業で5課題行う。各課題のスタート時に課題ごとの内容説明、ねらい、必要性、目的等を伝え、学生はそのための準備が必要である。実技で必要な道具、資料等忘れ物をしないこと。また、1課題ごとの合評をとおして、目的を達成出来たか、自分の力を十分に発揮出来たか、次のステップに結び付く為の意欲を持たせる。実技の性格上、授業時間内に終わらなかった場合は、必ず仕上げて提出すること。							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
課題ごとの作品評価 (90%) と授業への参加度 (10%) の総合的評価							
<b>教科書</b>							
特に指定しない							
<b>参考書、教材等</b>							
田中光常「動物ワールド」写真集		※デッサン作品資料		レオナルド・ダ・ヴィンチ			
上野動物園グラフ				アルブレヒト・デューラー			
		※油絵資料 (動物作品)		アンリ・ルソー			
				サルバドール・ダリ			

授業科目	文学と人間					担当教員	島森 尚子
科目英名	Literature and Human Beings						
開講期間	1年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
<b>到達目標</b>							
古今のイギリス文学作品について、講義や解説、批評等を参考に、自分で決めた主題でレポートを書くことにより、調査方法や文章作法を学びながら、複眼的な視座と柔軟な思考力を身につける。							
<b>講義概要</b>							
優れた文学作品を読むとき、我々は作者の鋭い視力を通して世界を見、豊かな言葉を通じて彼の体験を追体験する。が、作品との付き合い方を知らなければ、書物は単なる紙の束に、文字は空疎な記号にもなりうるのであって、彼の豊穡な作品世界を享受したいなら、読者としての訓練は必須である。この講義では、近世イギリス文学の優れた作品を2作選び、それを教材として、よりよい読者になるための基礎訓練を行う。また、時代背景や物語の雰囲気を理解するために、視聴覚資料（映画や音楽、絵画）も紹介する。最終的には、自ら選んだテーマに基づいて作品の解説や批評を読み、レポートにまとめてもらう。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 文学をなぜ読むか</li> <li>2 イギリスの歴史と文学入門2：社会と文学</li> <li>3 文学作品の解釈とレポートの書き方1</li> <li>4 文学作品の解釈とレポートの書き方2</li> <li>5 イギリス・ルネサンスの文学1：『ハムレット』</li> <li>6 イギリス・ルネサンスの文学2：『ハムレット』</li> <li>7 イギリス・ルネサンスの文学3：映画鑑賞『ハムレット』</li> <li>8 イギリス・ルネサンスの文学4：映画鑑賞『ハムレット』</li> <li>9 イギリス・ルネサンスの文学5：映画鑑賞『ハムレット』</li> <li>10 英国18世紀の社会と諷刺の精神</li> <li>11 18世紀の英文学1：『ガリヴァー旅行記』第1部</li> <li>12 18世紀の英文学2：『ガリヴァー旅行記』第2部</li> <li>13 18世紀の英文学3：『ガリヴァー旅行記』第3部</li> <li>14 18世紀の英文学4：『ガリヴァー旅行記』第4部</li> <li>15 まとめと課題</li> </ol>							
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
課題・質問等については毎回の講義で解説する。 最終回でレビューを行い、疑問点を解消できるようにする。							
<b>履修上の注意</b>							
教科書に指定した作品の入手方法等はガイダンスで指示するので、必ず1回目から出席すること。 課題作品の翻訳は複数あるが、必ずガイダンスで指定する版を入手すること。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
指定された小課題を各自作成、提出すること。 指定する時期までに作品を読み終えておくこと。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
小課題提出（平常点）30%、レポート70%の割合で総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
シェイクスピア『ハムレット』福田恒存訳 新潮文庫 スウィフト『ガリヴァー旅行記』平井正穂訳 岩波文庫							
<b>参考書、教材等</b>							
原 佑他『西洋思想の流れ』UP選書、東京大学出版会。 C. D. ルーイス『詩を読む若き人々のために』深瀬基寛訳、ちくま文庫。 福田恒存『人間・この劇的なもの』新潮文庫。 その他、教場にて配布・指示する。							

授業科目	心理学入門					担当教員	加藤 理絵
科目英名	Introduction to Psychology						
開講期間	1年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
<b>到達目標</b>							
<p>心理学は独自の科学的方法と視点から、私たちが日常で経験している感情や認識、記憶、判断、知覚、人間関係、悩みなどの現象が、どのようなメカニズムで動いているのかを明らかにしてきた。これらの知識は、社会や人間関係の動き方、個人の内面の状態を理解したり、問題を改善したりすることに役立ってきた。本講義では、従来の心理学的な方向性のみならず、ポジティブ心理学という新しいアプローチを加え、人間の心の動きを身体的基盤も含めて多様な方面から学び、他者や自分への関心や理解を深め、日常生活や社会のなかで共に生きていけるような力を養うことを目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本講義では、心理学の基礎的な項目として知覚や記憶、学習、知能、感情、脳と神経、社会と個人の関係、心理的・社会的発達に関する事柄に加え、ポジティブ心理学という新しい分野についても学ぶ。心理臨床領域として性格、心の問題と解決、予防と援助を学び、次に学修する臨床心理学、高齢者心理学ケア、カウンセリング論、発達心理学などの基礎であることを理解する。心理学系の科目としては最初の講義であるが、日常的な例を取り上げた双方向的で視聴覚教材を用いた授業によって、心理学は身近な学問であることを学修する。</p>							
<b>授業計画</b>							
	1	心理学の歴史					
	2	心理学の研究					
	3	心と脳Ⅰ：心と脳					
	4	心と脳Ⅱ：心と神経					
	5	知覚					
	6	記憶Ⅰ：記憶のあらまし					
	7	記憶Ⅱ：生きることと記憶					
	8	学習					
	9	情動					
	10	自己と人間関係					
	11	人間の発達Ⅰ：乳児期から児童期					
	12	人間の発達Ⅱ：青年期以降					
	13	心の問題と援助Ⅰ：ストレス					
	14	心の問題と援助Ⅱ：メンタルヘルス・正常と異常					
	15	試験と解説					
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
フィードバックとしてテストを回収後、解答の解説を行う							
<b>履修上の注意</b>							
<p>講義内容を実感をもって理解するためには、学生が自分自身の心理的体験を振り返ることが必要である。また、復習や感想レポートの提出を着実に行うこと。授業に積極的に参加し、欠席、遅刻、私語はしないこと。尚、本講義では、出欠の確認、ワーク、リアクションペーパーの回収の効率化を行う目的から、座席を学籍番号順に指定する。</p>							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前学修「各授業回の内容に関連するテーマについて調べておくこと」							
事後学修「毎授業後、授業における重要キーワードについての理解、整理をしておくこと」							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加態度、意欲度（70%）・試験（30%）から総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
PDFデータを用意する。必要に際し、各自資料をダウンロード、プリントアウト可能。							
<b>参考書、教材等</b>							
参考書は講義中に紹介する。ビデオなど視聴覚機材も用いる。							

授業科目	生活と経済					担当教員	矢島 隆志
科目英名	Life and Economy						
開講期間	1年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
<b>到達目標</b>							
身近な社会変化やふだんの生活の中にある事例を取り上げながら、生活に密着した経済について基本的な知識を身につけることを到達目標とする。また社会に出てから必要となる基礎知識を学び、実務に役立つ経済をわかりやすく学ぶことで、社会人としての常識を備えられるようになることを本講義の到達目標とする。							
<b>講義概要</b>							
社会生活においては、経済についての考え方が大切である。経済的な考え方なしでは、社会の中で生きていくことは困難である。日々の生活の中では経済活動の中心となっている「金銭的価値」という尺度は、社会の中でも重要な判断の物差しとなっている。本講義では、社会や生活の中の経済について基本知識を身につけるとともに、ビジネスプランの作成・経営ノウハウなどの社会に出てから必要となる基礎知識や実務を勉強する。							
<b>授業計画</b>							
1	経済とは何か						
2	世界経済はどう動いているか						
3	日本の経済問題のポイント						
4	企業経営にチャレンジ						
5	起業するにはどうしたらいいか						
6	経営マネジメントを学ぶ						
7	ビジネスプランの作り方 (1)						
8	ビジネスプランの作り方 (2)						
9	ニュービジネスはこれだ						
10	マーケティングのノウハウ						
11	価格戦略のおもしろさ						
12	グローバル化している経済						
13	環境と経済						
14	これからの経済						
15	生活と経済のまとめ						
<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>							
フィードバックとして小テストを回収後、翌週の講義で問題点や課題についてのコメントを行う。							
<b>履修上の注意</b>							
毎回の授業の終わりに小テストをする。 期末テストの代わりに課題の提出(PowerPointによるグループワーク)を行う。							
<b>事前・事後学修 (予習・復習) の内容</b>							
事後学修として、毎授業後に配布した資料をよく再読すること。							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
課題の評価 (70%)、授業への参加度 (30%) から総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
毎回プリントを配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
「18歳からの格差論」井出英策 東洋経済新報社 (1080円)							

授業科目	生活と社会					担当教員	◎新島 典子・奥野 卓司
科目英名	Sociology in Everyday Life						
開講期間	2年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
到達目標							
<p>本科目では、多様な問題にあふれる現代社会における私たちの生活を、人間や動物の「生命」のあり方という視点から学生自身が読み解けるようになることを目標とする。具体的には、日常生活における「生、喪失、死」に関わる様々な問題を取りあげ、検討・議論することを通じて、動物病院でクライアント（飼い主）や患者に対峙する際、配慮あるサポート・支援が出来るようになることを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>現代社会において、人間や動物を含めた様々な「生命」は、他者とのあいだに多様な関係性を構築し様々な体験を重ねている。なかでも、特に多くの人々がその生活や人生において対峙する可能性のあるいくつかの問題について取り上げ、具体的な事例や最新のデータを紹介し、担当教員の専門分野社会学（新島）、文化人類学（奥野）の見地から検討・考察を行う。諸問題のリアリティに迫るため、さまざまな資料や調査事例などをプリント、スライドやビデオで紹介し、理解を深めてゆく。</p>							
授業計画							担当教員
1	現代の生活と社会のとらえ方（オリエンテーション）						新島
2	世界の多様な生活様式における動物の「生命」						奥野
3	人間は「死ぬ」生き物：イニシエーションとアニミズム						奥野
4	社会における価値観の変遷：「生命」観の時代的変遷						奥野
5	「生物」と「生命」と「ロボット」の間						奥野
6	現代社会と高度生殖医療：私たちの生活と「生命」操作のあり方（1）						奥野
7	少子高齢社会と生活：データのとらえ方（1）						新島
8	超高齢社会と生活：データのとらえ方（2）						新島
9	現代社会における安楽死：私たちの生活と「生命」操作のあり方（2）						新島
10	食べ物はどこから来たのか：動物の「生命」の取り扱い方（1）						新島
11	終末期医療について：「生命」の終わりの迎え方（1）						新島
12	喪失体験と回復：「生命」の終わりの迎え方（2）						新島
13	難病患者の家族と救世主きょうだい：「生命」の終わりの受け入れ方（1）						新島
14	葬儀の意義と多様化：「生命」の終わりの受け入れ方（2）						新島
15	現代の生活と社会のあり方（総括）						新島
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとしてレポートを回収後、解答例の共有、解説を行う。							
履修上の注意							
講義内容および資料に関する論評や課題を作成し、不定期に提出してもらう。論評は出席票を兼ねる。授業計画の各回の内容や順番は、前後する場合がある。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」							
事後学修「授業で扱ったテーマを、読書やウェブ検索により深化させ、定着させること」							
評価方法（評価基準を含む）							
試験あるいはレポート（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。							
教科書							
『動物のいのちを考える』高槻成紀（編著）政岡 俊夫・太田 匡彦・新島 典子・成島 悦雄・柏崎 直巳・羽澄 俊裕（共著） 朔北社							
その他、教材は実践的な事例をビデオやスライドなどで紹介する。							
参考書、教材等							
その他、参考書は講義中に紹介する。							

授業科目	動物とジャーナリズム					担当教員	仁科 邦男
科目英名	Animal and Journalism						
開講期間	1年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
到達目標							
<p>動物に関する人の価値観、考え方は、時代や民族や地域によって大きく異なり、今も変化し続けている。新聞・雑誌・テレビなどで報じられる、動物についてのさまざまな出来事——外来種の問題、絶滅の恐れのある希少動物の問題、シカ・イノシシなど増加する野生動物と人の生活の関係などをテーマに取り上げ、近代における人と動物（野生動物、家畜、ペット）との関わり方、意識の変化について学び、理解することを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>新聞、雑誌の記事、テレビ・ニュース、動物関連書籍、論文、統計などを素材に講義する。犬猫だけでなく、野生動物全般についても随時触れる。 動物愛護法、自然環境保全法など時代による法律の変化についても言及する。 動物に絡む諸問題を理解するために、生態や行動など動物学の基礎についても触れる。</p>							
授業計画							
1	最近のニュース	犬はなぜ「イヌ」というのか。猫はなぜ「ネコ」というのか。語源を考える。					
2	最近のニュース	犬と猫の帰家（帰巢）能力を考える。帰家世界記録、日本記録。					
3	最近のニュース	アライグマ、ハクビシン、マングース、アカゲザル、野生化した外来動物の波紋。					
4	最近のニュース	クマ、シカ、イノシシ…野生動物と人の暮らし。その問題点。					
5	最近のニュース	世界の侵略的動物ワースト100になぜネコ（野猫）が選ばれたのか。					
6	最近のニュース	捨て犬、捨て猫は犯罪である。動物愛護管理法改正。					
7	最近のニュース	絶滅した動物たち。ニホンオオカミ、リョコウバト、フクロオオカミほか。					
8	最近のニュース	動物と病気。キタキツネとエキノコックス、狂犬病と犬、マダニ感染症ほか。					
9	最近のニュース	人類に最も大きな影響を与えた学説、ダーウィン進化論の伝わり方、考え方。					
10	最近のニュース	カッコウ、ホトトギス…托卵鳥に見る進化の不思議。					
11	最近のニュース	ゴリラ、チンパンジー、ボノボ、ニホンザル…ヒトとサルに分かれ目。					
12	最近のニュース	ゴリラ、コアラ…動物園のブリーディング・ローン（繁殖のため貸与）の成果。					
13	最近のニュース	オオタカ、シジュウカラガン、ナベヅル、アホウドリ…増え始めた動物たち。					
14	最近のニュース	忠犬ハチ公はどうして「忠犬」になったのか。動物報道のあり方を考える。					
15	最近のニュース	「ヒトは知れたがるサルである」。動物ジャーナリズム小論。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>前の週の講義後、受講者全員から提出されたミニレポート（学生の感想、質問）をもとに質問への回答、補足説明をする。</p>							
履修上の注意							
<p>A4で2ページ程度の資料を授業当日に配る。 受講者には出席票を兼ね、感想・質問の提出を求める。 テーマは時々のニュースにより変わることがある。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>必要に応じて次週講義のテーマ、概要を説明する</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業への参加度 50% 授業後の感想・質問（ミニレポート。出席票を兼ねる）10%、学期末レポート 40%。</p>							
教科書							
なし							

授業科目	キャリアマネジメント入門					担当教員	◎原島 恒雄・荒木 幸子
科目英名	Introduction to Career Management						
開講期間	2年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育〔人文と社会〕	
<b>到達目標</b>							
<p>社会・経済構造の変化により、人々の就業形態も多様化し、個人の職業観と勤労意識も変化している。労働市場の流動化により、現代は個人主導のキャリア形成が求められているが、学生が適職を探し、将来のキャリアを思い描くことは容易ではない。そこで働くことの意味を考え、自己理解を深めると共に、自己啓発を促していく。2年次の段階で職業について知識を持ち、必要な能力の育成を行うことが大切である。本学での履修を活かしたキャリア形成を自覚し、実践できる事を到達目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>キャリアとは、生涯を通じての人間の生き方とその表現である。学校、職場、地域貢献、ボランティア活動等の広義での仕事を含め、人生の経験を複合的に積むことで得る。本講義では、講義と実践によりキャリアデザインの基礎を理解する。ワークシートを作成し自己分析を行い、自己の理解を深めると共に自己啓発を促す。そして社会が求める人材について検討し、「社会人になるということは?」「社会のメカニズムは?」「人間は何故働くの?」を出発点として、キャリアで必要とされる基礎知識や社会人としてのマナーを学ぶ。同時にどのようなキャリアの選択肢があるのか、自分のプランを考え希望する選択肢を実現させるために、どのように考え行動していくのかを講義する。</p>							
<b>授業計画</b>							
1	オリエンテーション：授業の目的、内容、進め方、成績評価の基準の説明、挨拶の励行について						
2	現代社会とキャリアデザイン：キャリアデザインの基礎理解：自己分析・自己発見⇒職務適性試験						
3	キャリアと人生設計（1）：ライフサイクルと職業						
4	キャリアと人生設計（2）：生涯収支と職業						
5	キャリアと人生設計（3）：キャリアと生涯発達						
6	キャリアのための自己理解（1）：働く意味と自分の職業感						
7	キャリアのための自己理解（2）：自分の強みと弱みを知る⇒就活三大質問の処方箋						
8	キャリアと仕事理解（1）：学生生活とキャリア意識の明確化						
9	キャリアと仕事理解（2）：経済・雇用環境の変化と働き方を考える						
10	キャリアと職場理解（1）：キャリア形成と多様な職種と業種の中で自分の適職を検討する						
11	キャリアと職場理解（2）：公務員としての警察官・科捜研の仕事理解と警察犬						
12	ケーススタディ（1）：ペット関連業界でのキャリア						
13	ケーススタディ（2）：その他の業界でのキャリア						
14	キャリアマネジメント（1）：キャリアデザインの方向性						
15	キャリアマネジメント（2）：まとめ						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
フィードバックとしてレポート回収後、解説・アドバイス等を行う。							
<b>履修上の注意</b>							
一部内容・回の順番を替える場合は、講義内で連絡をする。 社会人に必要な事はなんであるか。学生と社会人の違いを考えておこう。自己分析、自己PR、自分の長所・短所も考えておこう。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」 事後学修「毎授業後、関連する内容をインターネット・図書館等で調べ、まとめておくこと」							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度を30%、発表および課題提出（ワークシート、レポート）を70%とし、総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
『キャリアデザイン講座 第3版—理論と実践で自己決定力を伸ばす』 日経BPソフトプレス (適宜、資料を配布する)							
<b>参考書、教材等</b>							
講義中に紹介する。また、講義のレジュメ等を配布する。							

授業科目	キャリアマネジメント演習					担当教員	原島 恒雄
科目英名	Seminar in Career Management						
開講期間	3年次 前期	選択科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
到達目標							
<p>職業によって異なる特徴、求められる資質を知り、具体的に自己のキャリアを構築していく。自分に適したキャリアを追求していくための原点（キャリア・アンカー）を知り、適した職業に就くよう職業に関する情報を得、検討を重ねる。そして自らの目標とするキャリア形成を行いそこに到達するための必要な手段等を発表する。動物病院でのキャリア、動物関連業界でのキャリア等の事例研究を通し、より実現可能なキャリアの形成を目指す。さらに社会人・職業人としての基礎力養成を図る事も到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>「キャリアマネジメント入門」を基礎とし、キャリア形成についての理解を深め、働き方についての研究を行う。キャリアの構築のために必要な知識を取得し、より適性のある職業に就くよう目標と計画を立てる。また、3年次選択科目であることから就職活動も視野に入れ、経済産業省が打ち出している「社会人基礎力」をもとに社会人として必要な基礎知識と自己表現力の修得を図る。自己PR文の書き方、有効なプレゼンテーション、業界人・卒業生等を交えグループディスカッションを行う。</p>							
授業計画							
1	オリエンテーション：授業の概要、進め方、到達目標、評価基準、挨拶の励行について						
2	大学生活とキャリアマネジメント：明確なキャリアマネジメントの意義「適性検査」と自分の適性						
3	社会が求める能力（1）：社会人基礎力「働くということ」「自立するということ」						
4	社会が求める能力（2）：社会人基礎力「敬語の使い方」「コミュニケーションについて」						
5	社会が求める能力（3）：社会人基礎力「履歴書の書き方と自己表現のコツ(短所も長所に!!)」						
6	プレゼンテーション：プレゼンテーションの方法						
7	動物病院でのキャリア（1）：事例研究「動物看護師としての一日」						
8	動物病院でのキャリア（2）：動物看護師としてのキャリア形成						
9	ペット関連企業でのキャリア（1）：事例研究「ペット関連企業での一日」						
10	ペット関連企業でのキャリア（2）：企業人としてのキャリア形成						
11	就職市場の動向：的確な就職活動に向けて(業界・業種研究)						
12	自己表現（1）：自己PR文の書き方						
13	自己表現（2）：面接とDVD						
14	自己表現（3）：就活とグループディスカッション						
15	総括						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとしてレポート回収後、解説・アドバイス等を行います。							
履修上の注意							
「キャリアマネジメント入門」を履修していることが望ましい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の関連する内容をインターネット・図書館等で調べ、まとめておくこと」							
事後学修「毎授業後、関連する内容をコミュ力養う為にも友人同士議論しまとめておくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度 30%、発表および課題提出(ワークシート、レポート)を 70%とし、総合的に評価する。							
教科書							
適宜、資料を配布する							
参考書、教材等							
講義中に紹介する。							
また、講義のレジュメ等を配布する。							

授業科目	自然科学					担当教員	石川 牧子
科目英名	Natural Science						
開講期間	1年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [自然と環境]	
<b>到達目標</b>							
<p>本講義では、自然現象の観察・理解に必要な原理・法則・理論の体系的な学修を通じ、自然科学の基幹をなす物理、化学、生物、地球科学の基礎的事項について包括的かつ互いに関連性を持って理解することを到達目標とする。更に、人類が培い発展させてきた自然科学史を概観することにより、自然科学が私たち人類社会に与えてきた影響についても概説できるようにする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>自然科学は、自然現象の成り立ちと、そこから導かれる法則性の理解を目標とした学問で、その研究成果は科学技術に応用され、人間生活に役立っている。本講義では、ミクロからマクロへと自然科学を俯瞰し、概念の理解を助けるための視覚的な資料も用いながら、「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」という根源的な問いに対する自然科学的な理解が得られるように講述する。</p>							
<b>授業計画</b>							
1	自然科学とはI；自然科学の誕生と発展						
2	自然科学とはII；近代科学史						
3	自然科学とはIII；自然を理解する方法						
4	宇宙のなりたち						
5	元素の起源						
6	太陽系；太陽系の誕生，太陽系の構造						
7	地球の進化						
8	生命の起源						
9	地球と生命の自然科学I；原核生物と真核生物						
10	地球と生命の自然科学II；多細胞生物の出現と進化						
11	地球と生命の自然科学III；大量絶滅						
12	地球と生命の自然科学IV；哺乳類の時代へ						
13	人類の出現と進化						
14	自然科学の進歩と問題						
15	これからの自然科学，課題と講義内テスト，解説						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
レポート課題や質問は、返却課題内のコメントや講義内でフィードバックする。							
<b>履修上の注意</b>							
講義内で適宜小課題を課すため、本学図書館等を通じ、関連書籍を積極的に利用すること。また、博物館等の展示や資料の積極的な利用も推奨する。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前学修：授業計画に沿って参考資料を読んでおくこと。 事後学修：指定された期限内に課題を提出すること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
課題と講義内テスト（65%）、授業への参加度・発表や提出課題（35%）の総合評価。							
<b>教科書</b>							
特に指定しない。必要に応じ適宜参考資料を配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
海部宣男、星元紀 共著；自然を理解するために－現代の自然科学概論－，放送大学教育振興会，2012。 C. ジンマー他著，更科功他訳；進化の教科書 1～3 巻，講談社，2016，2017。 佐藤文衛他著；宇宙地球科学，講談社，2018。							

授業科目	環境科学					担当教員	石川 牧子
科目英名	Environmental Science						
開講期間	2年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [自然と環境]	
<b>到達目標</b>							
<p>本科目を通じ、現代の地球環境とそれを形成してきた地球環境史を軸に、地球環境の特性や物質循環、地域、あるいは地球規模の環境問題に対する基礎知識を修得する。これらの知識に基づき、現在、地球規模で起こっている重要な環境問題の生成要因について基本的理解を得、抑制策について考え、自らの言葉で表現できるようになることを到達目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>環境科学とは、ヒトを含む生物を取り巻く自然環境の成り立ちや特性を理解する学問である。本講義では、地球環境の変動史、地球上の生物の進化、人類の誕生および現代科学社会の形成にともなう自然環境の変化を学ぶ。その知識をもとに、環境保全、環境修復について積極的に考えていく素養を身に付け、環境問題について統合的に理解できるような内容とする。また、講義の中で環境問題に関する新聞記事等を教材とした小論文を書くことにより、身につけた知識を整理し自分の言葉で表現する演習を行う。</p>							
<b>授業計画</b>							
1	太陽系の中の地球、固体地球						
2	地球環境変化、現在の環境の形成						
3	大気圏 I ; 大気圏の構造						
4	大気圏 II ; 大気圏の運動						
5	大気汚染						
6	水圏 I ; 陸水						
7	水圏 II ; 海洋						
8	水質汚染、土壌汚染						
9	生物多様性						
10	人類と環境 I ; 人類の出現と影響						
11	人類と環境 II ; エネルギーと環境						
12	人類と環境 III ; 生物多様性の危機						
13	人類と環境 IV ; 気候変動						
14	環境保全への取り組み						
15	これからの環境科学、講義内テストと小論文						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
返却課題内のコメントや講義内でフィードバックする。							
<b>履修上の注意</b>							
講義では新聞記事等を教材とするため、新聞報道などを通じ、意識的に時事問題に関心を持つことを心掛けてほしい。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前学修：積極的に新聞報道に目を通し、時事問題に関する知識を吸収する。							
事後学修：返却課題をコメントに沿って修正するなど、講義内配布資料の復習をする。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
小論文と講義内テスト(60%)、授業への参加度と講義内での提出課題(40%)の総合評価。							
<b>教科書</b>							
特に指定しない。必要に応じ適宜参考資料を配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
九里徳泰他編著、新訂 地球環境の教科書 10 講、東京書籍、2014。							
鷲谷いづみ他編；現代生物学入門 6 地球環境と保全生物学、岩波書店、2010。							
吉原利一他編；環境科学、オーム社、2010。							

授業科目	基礎生物学					担当教員	茂木 千恵
科目英名	Basic Biology						
開講期間	1年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育〔自然と環境〕	
到達目標							
細菌や植物を含め、広範囲の生物学的基礎知識を習得する。本講義の履修終了時の目標は、生体を構成する物質、構造、代謝、遺伝方式、動物の正常な生命活動全般の専門用語について具体的なイメージが浮かび、説明できるようになることである。							
講義概要							
本講義では、動物看護師などの動物看護分野における専門的な教育の前提として必須である生物学の基本概念および用語の解説を行う。この授業で学ぶ内容は、2年次以降の必修科目である専門基礎科目群で取り扱われる内容の概説となっており、動物のみならず細菌や植物などを含めた広範囲にわたる生物種に共通する構成物質、構造を取り扱う。更に後半では哺乳類の恒常性の維持、代謝、遺伝方式など生体の正常な生命活動全般および、免疫機構に関する基本的な事柄を中心に講義する。							
授業計画							
1	生物の系統と分類						
2	細胞の構造						
3	生体を構成する物質						
4	栄養素と代謝						
5	遺伝の仕組み（遺伝の法則）						
6	遺伝の仕組み（遺伝子突然変異）						
7	生殖（細胞周期）						
8	生殖（減数分裂）						
9	発生（有性生殖と無性生殖）						
10	動物の組織（上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織、血液）						
11	動物の器官（消化器系、血液循環系、呼吸器系、感覚器系）						
12	恒常性（生体の調節とホルモン）						
13	外部刺激と反応（神経系の機能と調節）						
14	免疫機構（免疫細胞と免疫応答）						
15	まとめ（14回までの授業内容から特に重要な部分を再解説する）						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業内容に関する質問は毎回講義終了後に受け付け、次回講義開始時に解説する。 課題レポートにコメント・評価を付して（修正フィードバック）返却する。							
履修上の注意							
授業は配布資料、パワーポイントおよび板書をもとに進めていく。重要事項を積極的にノートに書きとるようにし、自筆ノートの作成と記憶の定着を心がけること。配布資料は忘れず持参すること。 *欠席した場合は、次の授業の時に、欠席届を提出すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修：次回の授業範囲の資料を精読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：各授業回の重要内容に該当する部分をノートにまとめること。配布資料を再度読んでおくこと。							
評価方法（評価基準を含む）							
学期末試験（60%）、授業への参加度（30%）、およびレポート課題（10%）から総合的に評価する。 レポート課題は第7回講義終了時に提示する。第8回講義終了時に提出のこと。							
教科書							
特になし。資料を講義時に配布する。							
参考書、教材等							
参考書は講義の中で紹介する。							

授業科目	基礎化学					担当教員	石川 牧子
科目英名	Basic Chemistry						
開講期間	1年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [自然と環境]	
<b>到達目標</b>							
<p>本講義では、生命、生活、環境と密着した化学の基本に重点を置き、基本原理から有機化学、生体物質化学の基礎を理解することを目標とする。更に、医療・看護系において生体や医薬品を扱う場合に不可欠な応用知識までを広範に身に付け、専門教育科目の基盤を構築することを到達目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>化学とは、地球上の全ての物質の理解に欠かせない広大な学問分野である。化学は、生命現象を司る様々な物質が我々の体の中で互いにどのように関わっているかを明らかにし、また、我々人類の生活にも大きな貢献をしている。本科目では、原子の構造から有機化学までを総合的に学ぶとともに、消毒液や薬剤などの作製に当たり医療従事者にとって不可欠である溶液調製についても演習を通じて理解する構成とする。</p>							
<b>授業計画</b>							
1	化学のなりたち						
2	原子とその構造						
3	電子配置と周期表, 元素						
4	化学結合と分子						
5	物質の量と状態, 溶液調製						
6	物質の状態変化						
7	溶液の化学						
8	酸と塩基, 酸化と還元						
9	有機化学 I; 有機化合物の構造						
10	有機化学 II; 異性体と立体化学						
11	有機化学 III; 有機化学反応						
12	有機化合物 I; 高分子化合物, 糖質と脂質						
13	有機化合物 II; アミノ酸, タンパク質, 核酸						
14	動物と化学						
15	医療, 動物看護, 生活と化学の関わり						
<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>							
小課題や質問は、課題返却時および講義内でフィードバックする。							
<b>履修上の注意</b>							
講義内で適宜小課題を行い、学修内容の定着を確認する。							
<b>事前・事後学修 (予習・復習) の内容</b>							
事前学修：授業計画に沿って教科書を読んでおく。							
事後学修：講義内で配布された資料の復習、小課題の解き直しを行う。							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
試験 (65%), 授業への参加度・受講態度・提出課題(35%)の総合評価。							
<b>教科書</b>							
齋藤勝裕, 荒井貞夫, 久保勘二著; コ・メディカル化学, 裳華房, 2015.							
<b>参考書、教材等</b>							
梅本宏信編; 基礎から学ぶ大学の化学, 培風館, 2012.							
桜井弘編; 薬学のための分析化学, 化学同人, 2012.							
H. ハートラ著, 秋葉欣哉・奥彬共訳; 基礎有機化学 改訂版, 2002.							
他、必要に応じ適宜参考資料を配布する。							

授業科目	基礎生化学					担当 教員	◎梅村 隆志・ 植田 富貴子
科目英名	Basic Biochemistry						
開講期間	1年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [自然と環境]	
到達目標							
<p>大学レベルの生物学は、今日では「生化学」、「分子生物学」、「細胞生物学」などに細分化されているが、いずれも複雑な生命現象を理解するための手段であり、その意味では全てが「生命科学」の範疇に入れられる。「生化学」はさまざまな生体物質の働きや代謝を手がかりとして生命現象を明らかにする学問であるが、本講義は「生化学」を柱として教養レベルの「生命科学」を修得することを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>生物学を基にした最新のテクノロジーは、私たちの食物やペットのえさや、生命や地球環境に大きな影響を与えている。しかも非常な勢いで進歩している。進歩の早い生物学、生物化学（生化学）を読み解けるように、生物の基本的な3つの能力、“代謝”、“遺伝”、“恒常性”を理解する。とくに“生物は何か”をイメージするに役立つように、タンパク質が動く物質であること、また、その物質の情報がDNAに保存されていることを学ぶ。タンパク質を軸に生物を理解できるように解説する。</p>							
授業計画							担当教員
1	生物とは何か						梅村
2	自然の成り立ち 生態系						植田
3	自然の成り立ち 種と分類、種分化の仕組み						植田
4	細胞						植田
5	生物の分子 アミノ酸、タンパク質						植田
6	生物の分子 糖質、脂質						植田
7	生物の分子 核酸						植田
8	生物の分子 無機化合物						植田
9	代謝 代謝経路						植田
10	代謝 酵素の働き						植田
11	遺伝 セントラルドグマ						植田
12	遺伝 遺伝情報の発現調節						植田
13	恒常性：タンパク質の働き、DNA 修復						植田
14	恒常性：受容体						植田
15	まとめ						梅村
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
提出されたレポートに関して、後日、評価基準の説明を行う予定である。							
履修上の注意							
2 学年以上にて履修する「動物生化学」や「小動物栄養学」などを理解する上で非常に参考となるので、特に高校までで、「化学」や「生物」を履修していない、あるいは不得意であった学生は履修が望ましい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
シラバスを参考に事前に基礎知識の収集に努めること。授業中に示された資料に基づきノートをまとめ、図書館等を利用して知識の上積みに努めること。							
評価方法（評価基準を含む）							
定期試験（60%）、レポート提出（20%）、授業への参加度（20%）を基に総合的に評価する。							
教科書							
生物科学入門 - 代謝遺伝恒常性 - 白木賢太郎著 東京化学同人							
参考書、教材等							
参考書：「図解よくわかる生化学」（中島邦夫・柏俣重夫・榎田広重 著、南山堂）							

授業科目	英語 I A					担当教員	島森 尚子
科目英名	English IA						
開講期間	1年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
<b>到達目標</b>							
英語を聞き、読み、さらに書き、話すための基礎的な統語の知識を身につけることによって英語の4技能をレベルアップし、グローバル化社会を見据えて、大学教養英語の基礎を確立する。							
<b>講義概要</b>							
英語は日本語とは全く異なる統語法に基づいて書かれ、話されている。従って、日本語に頼った学習法では、実際に使える英語はなかなか身につかない。本講義では、日本語を介さずに英語を理解できるよう、基礎的な動詞や単純な文を用いて、英語の文構造・基本動詞の語法等、基本的な統語論を中心に学んでゆく。また、時制や法助動詞、代名詞等についても掘り下げて学ぶ。授業では、読解教材や視聴覚教材を用い、実例に基づいて文法の理解を深める。受講生諸君の英語運用能力の向上のため、一方的な文法の解説や訳読ではなく、随時発表を促すことになるので、予習・復習は必須である。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス・英語の品詞と統語の基礎・音声学基礎、'Introduction'リスニング、読解</li> <li>2 状態動詞と動作動詞 1 解説と問題演習、'Tropical Rainforests' リスニング、読解と問題演習</li> <li>3 状態動詞と動作動詞 2 解説と問題演習、'Tropical Rainforests' リスニング、読解と問題演習</li> <li>4 品詞と文型 1 解説と問題演習、'Rainforest Layers'リスニング、読解と問題演習</li> <li>5 品詞と文型 2 解説と問題演習、'Rainforest Layers'リスニング、読解と問題演習</li> <li>6 レビュー1 Quiz1 と解説</li> <li>7 動詞の時制 単純時制 1 解説と問題演習、'Plants' リスニング、読解と問題演習</li> <li>8 動詞の時制 単純時制 2 解説と問題演習、'Plants' リスニング、読解と問題演習</li> <li>9 法助動詞の種類と用法 1 解説と問題演習、'Rivers'リスニング、読解と問題演習</li> <li>10 法助動詞の種類と用法 2 解説と問題演習、'Rivers'リスニング、読解と問題演習</li> <li>11 レビュー2 Quiz 2 と解説</li> <li>12 名詞と代名詞 解説と問題演習、'Mammals' リスニング、読解と問題演習</li> <li>13 前置詞と前置詞句 解説と問題演習、'Mammals'リスニング、読解と問題演習</li> <li>14 レビュー3 総まとめと問題演習</li> <li>15 復習試験および解説</li> </ol>							
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
Quiz の後、教場で解説する。 最終回には復習試験をし、終了後解説する。							
<b>履修上の注意</b>							
履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づいて決定されている。 使い慣れた辞書を必ず持参すること。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
次回の授業内容は教場で指示するので、必ず予習すること。毎回、その日に学んだ内容を復習すること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度（発言、発表など）30%、Quiz 30%、試験 40%として総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
<i>Life in Rainforest.</i> Oxford Read and Discover series, OUP. その他、教場にて配付する。							
<b>参考書、教材等</b>							
教場にて指示、あるいは配付する。							

授業科目	英語 I B					担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English IB						
開講期間	1年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
<b>到達目標</b>							
この授業では、大学教養レベルの文法を身につけるために、英文を読みながら文法事項を解説する。大学レベルの英文法基礎を修得し、基本的な英文記事や論文要旨、および文献を読むための土台づくりを目標とする。							
<b>講義概要</b>							
この授業は、学修事項の解説および演習が中心となる。大学生にとって必要な文法事項の復習を、解説をおとした演習形式で学ぶ。学修内容を確実に理解できるよう、グループワークも含めて反復して練習問題に取り組む。ディスカッションやプレゼンテーション等で発表の機会を増やし、発信型の授業となるように展開する。							
<b>授業計画</b>							
1	ガイダンス・品詞の解説						
2	動詞の種類 動詞の形の解説と問題演習						
3	Literature and Culture on Animals 1 (リスニング、リーディング、語彙と文法)						
4	Literature and Culture on Animals 2 (ペアワーク、問題演習)						
5	動詞の種類について、小テストと復習を含んだ解説						
6	未来形 (文法解説と問題演習、グループ活動)						
7	Pet Keeping 1 (リスニング、リーディング、語彙と文法)						
8	Pet Keeping 2 (ペアワーク、問題演習)						
9	未来形について、小テストと復習を含んだ解説						
10	法助動詞 (文法解説と問題演習、ペアワーク)						
11	Animal Behaviour 1 (リスニング、リーディング、語彙と文法)						
12	Animal Behaviour 2 (グループワーク、問題演習)						
13	法助動詞 (文法解説と問題演習、グループ活動)						
14	全内容までの総復習、構文、表現に関する小テストおよび解説						
15	総復習 (テストと解説)						
<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
<b>履修上の注意</b>							
オリエンテーション時に実施した学習傾向試験の結果に基づき、履修クラスを決定している。 受講にあたっては、毎回、予習・復習を欠かさず行う必要がある。 授業では、積極的に発言することが望まれる。							
<b>事前・事後学修 (予習・復習) の内容</b>							
事前学習として、テキスト (該当箇所は教場で指示) を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
試験 (60%)、発言など授業への参加度 (40%) から総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
『シンプルセンテンスで学ぶ基本英文法』 Simply Grammar 南雲堂							
<b>参考書、教材等</b>							
教場で指導する。							

授業科目	英語 I C					担当教員	加藤 剛
科目英名	English IC						
開講期間	1年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>大学で研究をする上で必要な英文読解力を習得することを主たる目的とする。英文読解力を身につけることは、大学での研究活動を成功させるために必須である。課題であれ自主学習であれ、今後、英語で書かれた文献を読む機会が増えるはずである。その際に運用可能な英文読解力を養うために、精読と速読のスキル、英文法、及び語彙 (GSL=頻出語) を習得することを目指す。なお、前期の授業では、読解の基礎をなす語彙と文法に重点を置いて授業を進める。</p>							
講義概要							
<p>英文読解力を習得するために、主に3つの活動を行う。1. 精読 (英文を正確に読むのための様々なスキル習得)、2. 速読 (速さと正確さの両立、及び全体の把握と記憶保持のスキル習得)、3. 語彙習得 (GSLテスト=頻出語のテスト)。以上の活動を、ペアワークやグループワークを通して行うので、学生諸君の積極的な参加が望まれる。</p>							
授業計画							
1	ガイダンス					GSLテスト1	(1-120)
2	精読1 (英文の構造・1文単位)		速読1			GSLテスト2	(121-180)
3	精読2 (品詞の役割)		速読2			GSLテスト3	(181-240)
4	精読3 (英文の構造・全体)		速読3			GSLテスト4	(241-300)
5	Review 1		速読4			GSLテスト5	(301-360)
6	精読4 (名詞)		速読5			GSLテスト6	(361-420)
7	精読5 (動詞の用法1・文型)		速読6			GSLテスト7	(421-480)
8	精読6 (動詞の用法2・態)		速読7			GSLテスト8	(481-540)
9	精読7 (動詞の用法3・時制)		速読8			GSLテスト9	(541-600)
10	Review 2		速読9			GSLテスト10	(601-660)
11	精読8 (修飾語・形容詞)		速読10			GSLテスト11	(661-720)
12	精読9 (修飾語・副詞)		速読11			GSLテスト12	(721-780)
13	精読10 (節を作る語1・接続詞)		速読12			GSLテスト13	(781-840)
14	精読11 (節を作る語2・関係詞、疑問詞)		速読13			GSLテスト14	(841-900)
15	Review 3		速読14			GSLテスト15	(901-960)
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
GSLテストについては、採点した答案を翌週に返却し解説をする。							
履修上の注意							
履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づき決定している。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学修 → GSLテストの予習。							
事後学修 → GSLテストの復習、精読の復習、音読。							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業への参加度と貢献度 (70%)、GSLの成績 (30%) を総合して判断する。							
教科書							
使用しない。							
参考書、教材等							
適宜印刷教材や視聴覚教材を使用する。また、毎回必ず英和辞典を持参すること。							

授業科目	英語 I D					担当教員	加藤 剛
科目英名	English ID						
開講期間	1年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
<b>到達目標</b>							
<p>大学で研究をする上で必要な英文読解力を習得することを主たる目的とする。英文読解力を身につけることは、大学での研究活動を成功させるために必須である。課題であれ自主学習であれ、今後、英語で書かれた文献を読む機会が増えるはずである。その際に運用可能な英文読解力を養うために、精読と速読のスキル、英文法、及び語彙（GSL＝頻出語）を習得することを目指す。なお、前期の授業では、読解の基礎をなす語彙と文法に重点を置いて授業を進める。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>英文読解力を習得するために、主に3つの活動を行う。1. 精読（英文を正確に読むのための様々なスキル習得）、2. 速読（速さと正確さの両立、及び全体の把握と記憶保持のスキル習得）、3. 語彙習得（GSLテスト＝頻出語のテスト）。以上の活動を、ペアワークやグループワークを通して行うので、学生諸君の積極的な参加が望まれる。</p>							
<b>授業計画</b>							
1	ガイダンス					GSL テスト 1	(1-120)
2	精読 1 (英文の構造・1文単位)			速読 1		GSL テスト 2	(121-180)
3	精読 2 (品詞の役割)			速読 2		GSL テスト 3	(181-240)
4	精読 3 (英文の構造・全体)			速読 3		GSL テスト 4	(241-300)
5	Review 1			速読 4		GSL テスト 5	(301-360)
6	精読 4 (名詞)			速読 5		GSL テスト 6	(361-420)
7	精読 5 (動詞の用法 1・文型)			速読 6		GSL テスト 7	(421-480)
8	精読 6 (動詞の用法 2・態)			速読 7		GSL テスト 8	(481-540)
9	精読 7 (動詞の用法 3・時制)			速読 8		GSL テスト 9	(541-600)
10	Review 2			速読 9		GSL テスト 10	(601-660)
11	精読 8 (修飾語・形容詞)			速読 10		GSL テスト 11	(661-720)
12	精読 9 (修飾語・副詞)			速読 11		GSL テスト 12	(721-780)
13	精読 10 (節を作る語 1・接続詞)			速読 12		GSL テスト 13	(781-840)
14	精読 11 (節を作る語 2・関係詞、疑問詞)			速読 13		GSL テスト 14	(841-900)
15	Review 3			速読 14		GSL テスト 15	(901-960)
<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>							
GSL テストについては、採点した答案を翌週に返却し解説をする。							
<b>履修上の注意</b>							
履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づき決定している。							
<b>事前・事後学修 (予習・復習) の内容</b>							
事前学修 → GSL テストの予習。							
事後学修 → GSL テストの復習、精読の復習、音読。							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
授業への参加度と貢献度 (70%)、GSL の成績 (30%) を総合して判断する。							
<b>教科書</b>							
使用しない。							
<b>参考書、教材等</b>							
適宜印刷教材や視聴覚教材を使用する。また、毎回必ず英和辞典を持参すること。							

授業科目	英語 I E					担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English IE						
開講期間	1年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
<b>到達目標</b>							
この授業では、基本的な文法、構文、語彙等の知識を応用し、それらを用いた英文を正確に読み、使えるようになることを目標とする。英文の中で頻出する英文法や単語の復習を行いながら、一人で内容の理解ができるよう、英文の効果的な読み方を修得し、最終的には内容を英文で説明できるようになることを目標とする。							
<b>講義概要</b>							
この授業では、動物に関する記事を扱ったプリントを使用し、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能を伸ばせるよう、解説を含んだ演習の形式で行う。記事を読み、内容理解をディスカッション等で確認後、その内容に含まれる構文を応用した英文構成、および口語でも使用できる表現を使ったスピーキングの活動を行う。授業ではグループワーク、ペアワークを含み、グループメンバーで意見交換することが望まれる。構文、表現、語彙に関する小テストも含むため、予習だけでなく復習が必要である。							
<b>授業計画</b>							
1	ガイダンス（後期授業について、および前期の復習）						
2	文章の構成 1（英文構成の種類を紹介し、読み方を理解する。）						
3	Literature and Culture on Animals 1（リスニング、リーディング、語彙と文法）						
4	Literature and Culture on Animals 2（ディスカッション、問題演習）						
5	Pet Keeping 1（リスニング、リーディング、語彙と文法）						
6	Pet Keeping 2（ペアワーク、問題演習）						
7	Animal Behaviour 1（リスニング、リーディング、語彙と文法）						
8	Animal Behaviour 2（グループワーク、発表）						
9	Animal Nursing 1（リスニング、リーディング、語彙と文法）						
10	Animal Nursing 2（ディスカッション、問題演習）						
11	News on Animals（ペアワーク、問題演習）						
12	News on Animals（グループワーク、発表）						
13	Animal Science and Studies（リスニング、リーディング、語彙と文法）						
14	全内容までの総復習、構文、表現に関する小テストおよび解説						
15	復習試験						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
<b>履修上の注意</b>							
履修クラスは、オリエンテーション時に実施した学習傾向試験に基づき、決定する。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前学習として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
指定なし。							
<b>参考書、教材等</b>							
教場で指導する。							

授業科目	英語 I F					担当教員	島森 尚子
科目英名	English IF						
開講期間	1年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
<b>到達目標</b>							
<p>コミュニケーションな英語を運用するための基礎知識を確認し、さらに、英語独特の発想や表現を身につけることを目標とする。統語や語法の確認に重点を置くことになるが、加えて語彙や表現の修得と運用能力の向上を目指す。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>動物に関するさまざまなジャンルの文章を読み、あるいは音声や映像教材を用いてリスニングの訓練をしつつ、統語や語法を中心とした演習を行う。教材はその都度配布するが、学生諸君の興味等を考慮して適宜変更もありうる。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、演習問題と解説</li> <li>2 Article on animals 1 内容理解、問題演習、シャドーイング</li> <li>3 Article on animals 2 内容理解、問題演習、シャドーイング</li> <li>4 Article on animals 3 内容理解、問題演習、シャドーイング</li> <li>5 Article on animals 4 内容理解、問題演習、シャドーイング</li> <li>6 Article on animal conservation1 内容理解、問題演習、シャドーイング</li> <li>7 Article on animal conservation2 内容理解、問題演習、シャドーイング</li> <li>8 Article on animal conservation3 内容理解、問題演習、シャドーイング</li> <li>9 Article on animal conservation 4 内容理解、問題演習、シャドーイング</li> <li>10 Article on globalization 1 内容理解、問題演習、シャドーイング</li> <li>11 Article on globalization 2 内容理解、問題演習、シャドーイング</li> <li>12 Article on glibalisation 3 内容理解、問題演習、シャドーイング</li> <li>13 Article on glibalisation 4 内容理解、問題演習、シャドーイング</li> <li>14 復習、問題演習</li> <li>15 復習試験および解説</li> </ol>							
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
最終回には復習試験をし、終了後解説する。							
<b>履修上の注意</b>							
<p>履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づいて決定されている。ガイダンスの後で授業を行うので、使い慣れた辞書（英英辞典を含む）およびノートを必ず持参すること。ペアワーク、発表等のアクティビティを行うので、受講者には、積極的な自宅学習と授業参加とが望まれる。</p>							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
<p>次回の授業内容は教場で指示するので、必ず予習すること。毎回、その日に学んだ内容を復習すること。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>平常点（授業参加、課題等）30%、復習試験70%として総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>教場にて配布する。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>教場にて指示する。</p>							

授業科目	英語ⅡA					担当教員	島森 尚子
科目英名	EnglishⅡA						
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕	
到達目標							
前期に学んだ知識を発展させてより複雑な英文を理解する力を養い、さらに実用的な英作文や会話ができるようになる。							
講義概要							
前期に引き続き統語論を中心に学ぶが、後期は英語独特の文構造に重点を置き、読解の教材で実際の用法も学ぶ。前期同様、毎回の予習と復習が必須であるが、後期にはかなり高度な内容が含まれるので、前期に学んだ事項を含め、予習だけでなく復習にも十分な時間を割くことが重要になる。また、問題演習としてペアワークやライティング等の作業を行い、英語の発信力を強化する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、前期の復習と問題演習</li> <li>2 動詞の相：進行相と完了相 解説と問題演習、'Minibeasts' リスニング、読解と問題演習</li> <li>3 態：受動態と能動態 解説と問題演習、'Minibeasts' リスニング、読解と問題演習</li> <li>4 接続詞 1 等位接続詞 解説と問題演習、'Birds' リスニング、読解と問題演習</li> <li>5 接続詞 2 従属接続詞 解説と問題演習、'Birds' リスニング、読解と問題演習</li> <li>6 レビュー1 語彙と表現の修得 Quiz 1</li> <li>7 関係詞 1 解説と問題演習、'People' リスニング、読解と問題演習</li> <li>8 関係詞 2 解説と問題演習、'Poeples' リスニング、読解と問題演習</li> <li>9 比較の表現 解説と問題演習</li> <li>10 法：直説法と仮定法 解説と問題演習、'Rainforest Problems' リスニング、読解と問題演習</li> <li>11 レビュー2 Quiz2 と解説</li> <li>12 準動詞 1 動名詞 解説と問題演習、'Rainforest Problems' リスニング、読解と問題演習</li> <li>13 準動詞 2 不定詞 解説と問題演習、'Save the Rainforests!' リスニング、読解と問題演習</li> <li>14 準動詞 3 分詞 解説と問題演習、'Save the Rainforests!' リスニング、読解と問題演習</li> <li>15 復習試験と解説</li> </ol>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
Quiz および復習試験の後、教場で解説を行う。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。前期同様、毎回必ず予習をして出席すること。使い慣れた辞書を必ず持参すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
リスニングは自宅でも欠かさず学習すること。教科書は予習を欠かさず行い、不明点は授業で理解する。文法については、前期の範囲も含め適宜復習し、英語の運用能力を高める。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度 30%、Quiz 30%、試験 40%として総合的に評価する。							
教科書							
<i>Life in Rainforest</i> . Oxford Read and Discover series, OUP.							
参考書、教材等							
教場にて指示、あるいは配付する。							

授業科目	英語ⅡB					担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English II B						
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
<b>到達目標</b>							
この授業では、大学教養レベルの英文法の総復習を行い、コミュニケーションな英語を運用するための基礎知識を学ぶ。英文読解に必要な基本的な構文の解釈、および日常コミュニケーションにおいて必要な語彙の修得を目標とする。							
<b>講義概要</b>							
英語ⅠBに引き続き、英語を読み、書くために必要な文法事項を確実に修得するため、教科書の演習問題に加え、応用問題を課題として与える。基礎、応用問題で演習後、動物関連の文献を読み、語彙、表現、および構文を学ぶ。最終的には一人で英文要旨の理解ができるように、文章構成や英文の組み立て方に関する解説を行う。授業では、ペアワークやグループワークも行うため、積極的な参加が期待される。また、毎授業で辞書を持参し、頻繁に辞書を活用することが要求される。							
<b>授業計画</b>							
1	ガイダンス（後期授業について、および前期の復習）						
2	時制（文法解説と問題演習、ペアワーク）						
3	Animal Nursing 1（リスニング、リーディング、語彙と文法）						
4	Animal Nursing 2（ディスカッション、問題演習）						
5	時制について小テストと解説						
6	前置詞（文法解説と問題演習、ペアワーク）						
7	News on Animals 1（リスニング、リーディング、語彙と文法）						
8	News on Animals 2（グループワーク、問題演習）						
9	前置詞について小テストと解説						
10	不定詞（文法解説と問題演習、ペアワーク）						
11	Animal Science and Studies 1（リスニング、リーディング、語彙と文法）						
12	Animal Science and Studies 2（グループワーク、問題演習）						
13	不定詞について小テストと解説						
14	英文記事について、グループワークと発表						
15	総復習（テストと解説）						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
<b>履修上の注意</b>							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は、変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前学習として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
『シンプルセンテンスで学ぶ基本英文法』 Simply Grammar 南雲堂							
<b>参考書、教材等</b>							
教場で指導する。							

授業科目	英語ⅡC					担当教員	加藤 剛
科目英名	English II C						
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕	
到達目標							
<p>動物看護に関する様々な英文を読み、大学で研究をする上で必要な英文読解力を習得することを主たる目的とする。英文読解力を身につけることは、大学での研究活動を成功させるために必須である。課題であれ自主学習であれ、今後、英語で書かれた文献を読む機会が増えるはずである。その際に運用可能な英文読解力を養うために、精読と速読のスキル、英文法、及び語彙（GSL＝頻出語と、動物看護関連語＝専門用語）を習得することを目指す。</p>							
講義概要							
<p>英文読解力を習得するために、主に3つの活動を行う。1. 長文読解（科学論文読解のための様々なスキル習得）、2. 速読（速さと正確さの両立、及び全体の把握と記憶保持のスキル習得）、3. 語彙習得（GSLテスト及び動物看護関連語の習得）。以上の活動を、ペアワークやグループワークを通して行うので、学生諸君の積極的な参加が望まれる。なお、速読とGSLテストは、前期「英語ⅠC」の続きを行う。</p>							
授業計画							
1	ガイダンス						
2	Science in short 1（科学論文の構成）			速読 15	GSLテスト 16	(961-1020)	
3	Science in short 2（スキミング）			速読 16	GSLテスト 17	(1021-1080)	
4	Science in short 3（スキヤニング）			速読 17	GSLテスト 18	(1081-1140)	
5	Science in short 4（全体の構成）			速読 18	GSLテスト 19	(1141-1200)	
6	Science in short 5（科学論文の構成・要旨）			速読 19	GSLテスト 20	(1201-1260)	
7	Review 1			速読 20	GSLテスト 21	(1261-1320)	
8	Reading Scientific Journal 1①（タイトル、Abstract）			速読 21	GSLテスト 22	(1321-1380)	
9	Reading Scientific Journal 1②（段落の要旨）			速読 22	GSLテスト 23	(1381-1440)	
10	Reading Scientific Journal 1③（全体の構成・要旨）			速読 23	GSLテスト 24	(1441-1500)	
11	Review 2			速読 24	GSLテスト 25	(1501-1560)	
12	Reading Scientific Journal 2①（タイトル、Abstract）			速読 25	GSLテスト 26	(1561-1620)	
13	Reading Scientific Journal 2②（段落の要旨）			速読 26	GSLテスト 27	(1621-1680)	
14	Reading Scientific Journal 2③（全体の構成・要旨）			速読 27	GSLテスト 28	(1681-1740)	
15	Review 3			速読 28	GSLテスト 29	(1741-1800)	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>GSL テストと長文読解のワークシートについては、採点及び添削したものを翌週に返却し解説をする。</p>							
履修上の注意							
<p>前期の成績に応じてクラスを変更する場合がある。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修 → GSL テストの予習。 事後学修 → GSL テストの復習、長文読解の復習、音読。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業への参加度と貢献度（50%）、長文読解のワークシート（20%）、及び GSL の成績（30%）を総合して判断する。</p>							
教科書							
<p>使用しない。</p>							
参考書、教材等							
<p>適宜印刷教材や視聴覚教材を使用する。また、毎回必ず英和辞典を持参すること。</p>							

授業科目	英語 II D					担当教員	加藤 剛
科目英名	English II D						
開講期間	1 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>動物看護に関する様々な英文を読み、大学で研究をする上で必要な英文読解力を習得することを主たる目的とする。英文読解力を身につけることは、大学での研究活動を成功させるために必須である。課題であれ自主学習であれ、今後、英語で書かれた文献を読む機会が増えるはずである。その際に運用可能な英文読解力を養うために、精読と速読のスキル、英文法、及び語彙 (GSL=頻出語と、動物看護関連語=専門用語) を習得することを目指す。</p>							
講義概要							
<p>英文読解力を習得するために、主に 3 つの活動を行う。1. 長文読解 (科学論文読解のための様々なスキル習得)、2. 速読 (速さと正確さの両立、及び全体の把握と記憶保持のスキル習得)、3. 語彙習得 (GSL テスト及び動物看護関連語の習得)。以上の活動を、ペアワークやグループワークを通して行うので、学生諸君の積極的な参加が望まれる。なお、速読と GSL テストは、前期「英語 I D」の続きを行う。</p>							
授業計画							
1	ガイダンス						
2	Science in short 1 (科学論文の構成)			速読 15	GSL テスト 16	(961-1020)	
3	Science in short 2 (スキミング)			速読 16	GSL テスト 17	(1021-1080)	
4	Science in short 3 (スキミング)			速読 17	GSL テスト 18	(1081-1140)	
5	Science in short 4 (全体の構成)			速読 18	GSL テスト 19	(1141-1200)	
6	Science in short 5 (科学論文の構成・要旨)			速読 19	GSL テスト 20	(1201-1260)	
7	Review 1			速読 20	GSL テスト 21	(1261-1320)	
8	Reading Scientific Journal 1① (タイトル、Abstract)			速読 21	GSL テスト 22	(1321-1380)	
9	Reading Scientific Journal 1② (段落の要旨)			速読 22	GSL テスト 23	(1381-1440)	
10	Reading Scientific Journal 1③ (全体の構成・要旨)			速読 23	GSL テスト 24	(1441-1500)	
11	Review 2			速読 24	GSL テスト 25	(1501-1560)	
12	Reading Scientific Journal 2① (タイトル、Abstract)			速読 25	GSL テスト 26	(1561-1620)	
13	Reading Scientific Journal 2② (段落の要旨)			速読 26	GSL テスト 27	(1621-1680)	
14	Reading Scientific Journal 2③ (全体の構成・要旨)			速読 27	GSL テスト 28	(1681-1740)	
15	Review 3			速読 28	GSL テスト 29	(1741-1800)	
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
<p>GSL テストと長文読解のワークシートについては、採点及び添削したものを翌週に返却し解説をする。</p>							
履修上の注意							
<p>前期の成績に応じてクラスを変更する場合がある。</p>							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
<p>事前学修 → GSL テストの予習。 事後学修 → GSL テストの復習、長文読解の復習、音読。</p>							
評価方法 (評価基準を含む)							
<p>授業への参加度と貢献度 (50%)、長文読解のワークシート (20%)、及び GSL の成績 (30%) を総合して判断する。</p>							
教科書							
<p>使用しない。</p>							
参考書、教材等							
<p>適宜印刷教材や視聴覚教材を使用する。また、毎回必ず英和辞典を持参すること。</p>							

授業科目	英語ⅡE					担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English ⅡE						
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
この授業では前期に学んだ文法事項に基づき、動物に関するDVDをみながら、リスニングおよびディクテーション等の作業を通して、動物関連の英語表現を学び、翻訳せずに英語のまま内容を理解することを目標とする。更に、動物看護の現場で役立つ表現を学び、それを応用して自ら文章化できるようにする。							
講義概要							
授業では、主に1シーン(10分程度)の映像を見て、各シーンに関連した英語表現を学ぶ。画像説明の際に聞いた英文をディクテーションし、リスニング訓練、内容確認を行った後、英文に使用された語彙・表現の特徴を学ぶ。画像、講義によるインプットをもとに、学んだ内容を自らスピーキングとライティングによるアウトプットができるよう、実践的な活動を行う。ペアによる活動や、グループディスカッションを含むため、積極的に発言することが望まれる。							
授業計画							
1	ガイダンス(前期授業について、および1学年の復習)						
2	野生動物の生活1 'Viverridae'(解説後、グループワーク)						
3	野生動物の生活2 'Wild birds'(解説後、グループワーク)						
4	Wild animalsに関連する英文記事を読み、解説後グループワーク、発表						
5	海洋生物1 'Deep-water fish'(解説後、ディスカッション)						
6	海洋生物2 'Creature in the sea and undersea life'(ディスカッションを行う)						
7	Creature in the seaに関する英文記事を読み、解説後、グループワーク、発表						
8	前回までの総復習(小テスト、解説)						
9	昆虫1 'Aquatic insects'(解説後、グループワーク)						
10	昆虫2 'Body invaders'(解説後、グループワーク)						
11	Insectsに関する英文記事を読み、解説後、グループワーク、発表						
12	英文記事の理解1 'GM foods'(グループワーク、mini quiz)						
13	英文記事の理解2 'Dog training'(ディスカッション、mini quiz)						
14	英文記事の理解3 'Nutrition'(ディスカッション、mini quiz)						
15	総復習(小テスト、および解説を行う)						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
事前・事後学修(予習・復習)の内容							
事前学習として、テキスト(該当箇所は教場で指示)を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法(評価基準を含む)							
試験(60%)、授業への参加度(40%)から総合的に評価する。							
教科書							
指定なし。							
参考書、教材等							
教場で指導する。							

授業科目	英語ⅡF					担当教員	島森 尚子
科目英名	English IIF						
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
<b>到達目標</b>							
<p>英文の内容を正確に把握し、英語を用いて自分の意見を書き、話す練習に重点を置く。動物に関する英文を教材とするので、今後必要となるであろう語彙や表現の修得にも力を入れ、英語運用力を向上させることを目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>前期に引き続き動物に関連する英文を読む。教材は厳選し、音声教材を用いた演習も行う。ペアワーク、発表等のアクティビティを行うので、受講者には、予習・復習はもちろんのこと、積極的な自宅学習と授業参加とが望まれる。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、問題演習</li> <li>2 Literature on animals 1 リスニング、リーディング、ペアワーク</li> <li>3 Literature on animals 2 リスニング、リーディング、ペアワーク</li> <li>4 Literature on animals 3 リスニング、リーディング、ペアワーク</li> <li>5 Article on Pet Animals 1 リスニング、リーディング、ペアワーク</li> <li>6 Article on Pet Animals 2 リスニング、リーディング、ペアワーク</li> <li>7 Article on Zoology 1 リスニング、リーディング、ペアワーク</li> <li>8 Article on Zoology 2 リスニング、リーディング、ペアワーク</li> <li>9 Article on Animal Behaviour 1 リスニング、リーディング、ペアワーク</li> <li>10 Article on Animal Behaviour 2 リスニング、リーディング、ペアワーク</li> <li>11 Article on Animal Health 1 リスニング、リーディング、ペアワーク</li> <li>12 Article on Animal Health 2 リスニング、リーディング、ペアワーク</li> <li>13 ライティングとディスカッション</li> <li>14 ライティングとディスカッション</li> <li>15 復習試験と解説</li> </ol>							
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
<p>復習試験終了後、教場で解説する。</p>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。ガイダンス終了後授業を行うので、使い慣れた辞書（英英辞典含む）およびノート等を持参すること。</p>							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
<p>予習として、配布した教材の下調べを、辞書や図鑑等の資料を用いておこない、不明な点は授業中に解決できるようにする。授業で得た知識はその日のうちに復習して身につける。リスニングの練習は自宅で欠かさず行う。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>平常点（授業参加など）40%、復習試験 60%として総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>教場にて配布する。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>教場にて配布する。</p>							

授業科目	英語ⅢA					担当教員	林 孝憲
科目英名	EnglishⅢA						
開講期間	2年次 前期	必修科目1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
動物関連の英文を題材にして様々な技能を学ぶことを通じてより高度な英語運用力を身につけ、グローバルな視点を養うことを目標とする。							
講義概要							
動物と美術を扱った教科書を用いて、リスニング、リーディング、ライティングといったアクティビティを行い、さらに、教員の提示したテーマに関してグループでディスカッションを行う。いずれのアクティビティも、必要に応じて文法事項を確認しつつ行うことになる。							
授業計画							
1 ガイダンス、'Introduction'							
2 'Animal Shapes' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション							
3 'Animal Shapes' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション							
4 'Animal Shapes' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション							
5 'Wild Animals' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション							
6 'Wild Animals' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション							
7 'Wild Animals' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション							
8 復習と試験							
9 'Peole and Pets' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション							
10 'Peole and Pets' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション							
11 'Peole and Pets' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション							
12 'Animals Outside' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション							
13 'Animals Outside' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション							
14 'Animals Outside' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション							
15 復習と試験							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして小テスト、試験を回収後、解答の解説を行います。							
履修上の注意							
前年度の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。 予習・復習は必須である。使い慣れた辞書（英英辞典を含む）を必ず持参すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」							
事後学修「毎授業後、ノートや配布物を整理し、試験に備えること」							
評価方法（評価基準を含む）							
2回の試験合計60%、平常点（授業参加度）40%として総合的に評価する。							
教科書							
<i>Animals in Art</i> . Oxford Read and Discover series, OUP. その他、必要に応じて教場にて配布する。							
参考書、教材等							
教場にて指示する。							

授業科目	英語ⅢB					担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English ⅢB						
開講期間	2年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
この授業では英文を読み、読解に必要な英文法、および単語を解説しながら、文構造を理解することを目標とする。最終的には文献を一人で読み進めることができるよう、自ら考え、修得した知識から応用力をつけることを目指す。							
講義概要							
この授業では、様々な分野の英文に慣れるために、簡単な英文から多読による英文読解を行い、英文に慣れることから始める。多読による訓練後、速読を取り入れ、正確で早い意味処理ができるよう訓練する。その後、動物関連の記事を含む難易度の高い英文を読み込み、英文から最新情報をつかめるよう、解説を行う。ペアワークやグループワークも含むため、積極的な参加が望まれる。							
授業計画							
1	ガイダンス（後期授業について、および前期の復習）						
2	'Professional appearance of AHT' を読み内容を理解する						
3	'Common procedures of AHT' に関する内容を読む						
4	'Common procedures of AHT' に関する内容を読み、ペアワーク						
5	'Common procedures of AHT' に関する内容を読み、ディスカッション						
6	Review 1（前回までの内容の復習、小テスト、および解説）						
7	'Occupational Safety and Health' に関する内容を読む						
8	'Occupational Safety and Health' に関する内容を読み、ペアワーク						
9	'Occupational Safety and Health' に関する内容を読み、ディスカッション						
10	Review 2（前回までの内容の復習、小テスト、および解説）						
11	英文解釈1 一般的な内容の記事を読み、英文の構造を解説する						
12	英文解釈2 記事を読み、内容を解説する（ディスカッションを含む）						
13	最新の英文記事1 最新の動物に関する記事を英文で読み、内容を理解する						
14	最新の英文記事2 最新の動物に関する記事を英文で読み、内容を理解する						
15	総復習（小テスト、解説）						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
1年次の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
試験（60%）、発言など授業への参加度（40%）から総合的に評価する。							
教科書							
指定なし。							
参考書、教材等							
教場で指導する。							

授業科目	英語ⅢC					担当教員	阿部 敬子
科目英名	English III C						
開講期間	2年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
<b>到達目標</b>							
1年次に学んだ知識を基にして、より実用的な英語の運用能力習得を目標とする。British Council、VOA、BBC等から選んだ、動物に関する様々な英文を読んで語彙と文法を学び、速読力及び、内容を正確に把握する力を養う。さらに、視聴覚教材に取り組む事により、リスニングとスピーキングの能力を鍛える。							
<b>講義概要</b>							
毎回、動物に関する様々な英文を読む。速読して全体をおおまかに捉えた上で、細部を正確に把握する訓練を行う。また、動物を題材とした視聴覚教材を用いて、リスニング及びスピーキングの練習も行う。翌週、前回の復習テストを実施する。							
<b>授業計画</b>							
1	Introduction			ガイダンス・問題演習			
2	Article on Animals (British Council)			速読・精読・リスニング・スピーキング			
3	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
4	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
5	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
6	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
7	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
8	Review 1			復習試験・解説			
9	Article on Animals (VOA)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
10	Article on Animals (VOA)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
11	Article on Animals (VOA)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
12	Article on Animals (BBC)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
13	Article on Animals (BBC)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
14	Article on Animals (BBC)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
15	Review 2			復習試験・解説			
<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>							
小テスト及び復習試験実施後、教場で解説を行う。							
<b>履修上の注意</b>							
1年次の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
<b>事前・事後学修 (予習・復習) の内容</b>							
事前学修 → 次回の授業内容は教場で指示するので、予習する事。							
事後学修 → 小テスト及び復習試験に向けて、授業で学習した内容を復習する事。							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
平常点 (小テスト、授業への参加度等) 40%							
復習試験 60%							
<b>教科書</b>							
使用しない。							
<b>参考書、教材等</b>							
適宜、印刷教材や視聴覚教材を使用する。また、英和辞典を持参すること。							

授業科目	英語ⅢD					担当教員	阿部 敬子
科目英名	English ⅢD						
開講期間	2年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
1年次に学んだ知識を基にして、より実用的な英語の運用能力習得を目標とする。British Council、VOA、BBC等から選んだ、動物に関する様々な英文を読んで語彙と文法を学び、速読力及び、内容を正確に把握する力を養う。さらに、視聴覚教材に取組む事により、リスニングとスピーキングの能力を鍛える。							
講義概要							
毎回、動物に関する様々な英文を読む。速読して全体をおおまかに捉えた上で、細部を正確に把握する訓練を行う。また、動物を題材とした視聴覚教材を用いて、リスニング及びスピーキングの練習も行う。翌週、前回の復習テストを実施する。							
授業計画							
1	Introduction			ガイダンス・問題演習			
2	Article on Animals (British Council)			速読・精読・リスニング・スピーキング			
3	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
4	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
5	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
6	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
7	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
8	Review 1			復習試験・解説			
9	Article on Animals (VOA)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
10	Article on Animals (VOA)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
11	Article on Animals (VOA)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
12	Article on Animals (BBC)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
13	Article on Animals (BBC)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
14	Article on Animals (BBC)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
15	Review 2			復習試験・解説			
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
小テスト及び復習試験実施後、教場で解説を行う。							
履修上の注意							
1年次の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学修 → 次回の授業内容は教場で指示するので、予習する事。							
事後学修 → 小テスト及び復習試験に向けて、授業で学習した内容を復習する事。							
評価方法 (評価基準を含む)							
平常点 (小テスト、授業への参加度等) 40%							
復習試験 60%							
教科書							
使用しない。							
参考書、教材等							
適宜、印刷教材や視聴覚教材を使用する。また、英和辞典を持参すること。							

授業科目	英語ⅢE					担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English III E						
開講期間	2年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
この授業は、英文読解を中心に構文や文法の解説を行い、動物に関する記事を英語で理解し、コミュニケーションな英語を運用するための基礎知識を身につける。さらに、動物に関するトピックを学び、関連語彙および表現を修得することを目標とする。							
講義概要							
この授業では、主に動物に関する記事やエッセイを扱ったテキスト内容を解説し、英文内容理解だけでなく、テキスト内で使用されている構文や表現の使い方を学ぶ。スピーキング活動では、グループワークやディスカッションも行う。グループ活動では、グループ内で積極的に意見を交換することが期待される。テキストには専門的な語彙が含まれるため、予習が必須である。							
授業計画							
1	ガイダンス後、テキストの introduction を読む						
2	'A real winner' part 1 (読解後、内容確認等解説)						
3	'A real winner' part 2 (読解後、内容確認等解説後、グループワーク)						
4	Dog sled races に関する関連記事を読み、内容確認後、基本構文、表現を学ぶ						
5	'Zoo dentists' part 1 (読解後、内容確認等解説)						
6	'Zoo dentists' part 2 (読解後、内容確認等解説後、グループワーク)						
7	Zoo keeper, zoo dentist に関する記事を読み、ディスカッション、発表を行う						
8	全内容までの総復習、構文、表現に関する小テストおよび解説						
9	'Solar Cooking' part 1 (読解後、内容確認等解説)						
10	Solar Cooking' part 2 (読解後、内容確認等解説後、グループワーク)						
11	Solar power に関する記事を読み、ディスカッション、発表を行う						
12	'Bird Girl' part 1 (読解、解説後、)						
13	'Bird Girl' part 2 (読解、内容確認等解説後、グループワーク)						
14	Bird Girl に関連する記事を読み、ディスカッション、発表を行う						
15	復習試験						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
1年次の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。授業には毎回辞書を持参すること。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学習として、テキスト (該当箇所は教場で指示) を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法 (評価基準を含む)							
試験 (60%)、授業への参加度 (40%) から総合的に評価する。							
教科書							
<i>Snapshots from the Globe</i> (CENGAGE Learning)							
参考書、教材等							
教場で指導する。							

授業科目	英語ⅢF					担当 教員	林 孝憲
科目英名	EnglishⅢF						
開講期間	2年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
より高度な英語運用力を身に着けるために、英文読解を中心に語彙や表現の増強を図る。英文をただ訳すのではなく、内容を正確に理解できるような読み方を身につけ、時には辞書以外の参考資料も駆使して英文を読み進めてゆく。英語の文章構成や論旨展開を意識しながら読むことで、将来専門的な英文を読み、書く上での基礎力が身につくことを目標とする。							
講義概要							
野生動物をテーマとした英文を読み、運用力を向上させるためのアクティビティを行う。リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション等を組み合わせて授業を進める。							
授業計画							
1	ガイダンス、The Giant Leader of the African Plain			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
2	The Giant Leader of the African Plain			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
3	The Giant Leader of the African Plain			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
4	Thinkers of the Forest			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
5	Thinkers of the Forest			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
6	Thinkers of the Forest			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
7	The Heart-Warming Story of Two Emperor Penguin Chicks			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
8	The Heart-Warming Story of Two Emperor Penguin Chicks			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
9	The Heart-Warming Story of Two Emperor Penguin Chicks			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
10	The Impossible Romance of a Short-tailed Albatross			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
11	The Impossible Romance of a Short-tailed Albatross			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
12	The Impossible Romance of a Short-tailed Albatross			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
13	Hero or Victim?			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
14	Hero or Victim?			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
15	復習試験と解説						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして小テスト、試験を回収後、解答の解説を行います。							
履修上の注意							
前年度の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。使い慣れた辞書（英英辞典含む）を持参すること。予習・復習は必須である。授業への積極的な参加が望まれる。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」							
事後学修「毎授業後、ノートや配布物を整理し、試験に備えること」							
評価方法（評価基準を含む）							
平常点（発言、発表等）を40%、復習試験点数を60%として総合的に評価する。							
教科書							
<i>The Fight for Life-True Stories from the Wild Animal Kingdom</i> 英語で読む「心ふるえる野生動物の物語」（南雲堂）							
参考書、教材等							
教場で指示する。							

授業科目	英語ⅣA					担当教員	林 孝憲
科目英名	EnglishⅣA						
開講期間	2年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>教養教育課程の語学授業の仕上げとして、語彙・表現の増強、および文法事項の総復習を図り、自信をもって英語を読み、自分の意見を英語で話すことができるようになる。</p>							
講義概要							
<p>前期に引き続き <i>Animals in Art</i> を読みながら、語彙や表現の増強を図り、「使える英語」を身に付ける。授業では、必要に応じて補助教材を用い、教科書で紹介された事柄の内容も理解するように努めたい。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、'Animals in Books' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>2 'Animals in Books' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>3 'Animals in Books' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>4 'Animal Symbols' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>5 'Animal Symbols' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>6 'Animal Symbols' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>7 復習と試験</li> <li>8 'Different Animals' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>9 'Different Animals' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>10 'Different Animals' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>11 'Teapots and Toys' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>12 'Teapots and Toys' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>13 'Dragons and Unicorns' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>14 'Dragons and Unicorns' リスニング、英文和訳、英作文、プレゼンテーション</li> <li>15 復習と試験</li> </ol>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして小テスト、試験を回収後、解答の解説を行います。							
履修上の注意							
<p>前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。 予習、復習は必須である。使い慣れた辞書（英英辞典含む）を持参すること。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」 事後学修「毎授業後、ノートや配布物を整理し、試験に備えること」</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
2回の試験合計60%、平常点（授業参加度）40%として総合的に評価する。							
教科書							
<p><i>Animals in Art</i>. Oxford Read and Discover series, OUP. その他、必要に応じて教場にて配布する。</p>							
参考書、教材等							
教場にて指示する							

授業科目	英語ⅣB					担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English IVB						
開講期間	2年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
この授業では、英語ⅡBで学んだ基本的な文法、語彙を応用し、それらを用いた英文を正確に読み、内容説明ができるようになることを目標とする。英文の中で頻出する英文法や単語の復習を行いながら、最終的には一人で英文内容のアウトプットができることが目標である。							
講義概要							
この授業では、英文解釈だけではなく、身につけた英語の知識を自ら発信できるようにする訓練を行う。グループ活動による意見交換なども行うため、積極的に発言することが望まれる。英語ⅡBで身につけた文法・語彙・読解力の知識や実力を基に、動物看護師の仕事について書かれた洋書から抜粋した英文を読み、グループワーク等を行う。また、動物看護の現場で役立つ表現を学び、それを応用して自ら文章化できるよう演習する。							
授業計画							
1	ガイダンス（後期授業について、および前期の復習）						
2	'Client communication' に関する内容を読む						
3	'Client communication' に関する内容を読み、ペアワーク						
4	'Client communication' に関する内容を読み、ディスカッション						
5	Review 1（前回までの内容の復習、小テスト、および解説）						
6	'Veterinary Staff: Roles and Responsibility' に関する内容を読む						
7	'Veterinary Staff: Roles and Responsibility' に関する内容を読み、ペアワーク						
8	'Veterinary Staff: Roles and Responsibility' に関する内容を読み、ディスカッション						
9	Review 2（前回までの内容の復習、小テスト、および解説）						
10	英文読解1 英語で書かれた論文要旨を読み、解説する						
11	英文読解2 英語で書かれた論文要旨を読み、解説する（グループ活動を含む）						
12	動物看護英語1（語彙と表現の修得、ペアワーク、quiz 1）						
13	動物看護英語2（語彙と表現の修得、ペアワーク、quiz 2）						
14	動物看護英語3（ディスカッションおよびプレゼンテーション、quiz 3）						
15	総復習とテスト						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
試験（60%）、発言など授業への参加度（40%）から総合的に評価する。							
教科書							
指定なし。							
参考書、教材等							
教場で指導する。							

授業科目	英語ⅣC					担当教員	阿部 敬子
科目英名	English IV C						
開講期間	2年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
<b>到達目標</b>							
前期に学んだ知識を基にして、より実用的な英語の運用能力習得を目標とする。British Council、VOA、BBC等から選んだ、動物に関する様々な英文を読んで語彙と文法を学び、速読力及び、内容を正確に把握する力を養う。さらに、視聴覚教材に取組む事により、リスニングとスピーキングの能力を鍛える。							
<b>講義概要</b>							
毎回、動物に関する様々な英文を読む。速読して全体をおおまかに捉えた上で、細部を正確に把握する訓練を行う。また、動物を題材とした視聴覚教材を用いて、リスニング及びスピーキングの練習も行う。翌週、前回の復習テストを実施する。							
<b>授業計画</b>							
1	Introduction			ガイダンス・問題演習			
2	Article on Animals (British Council)			速読・精読・リスニング・スピーキング			
3	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
4	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
5	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
6	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
7	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
8	Review 1			復習試験・解説			
9	Article on Animals (VOA)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
10	Article on Animals (VOA)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
11	Article on Animals (VOA)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
12	Article on Animals (BBC)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
13	Article on Animals (BBC)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
14	Article on Animals (BBC)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
15	Review 2			復習試験・解説			
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
小テスト及び復習試験実施後、教場で解説を行う。							
<b>履修上の注意</b>							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前学修 → 次回の授業内容は教場で指示するので、予習する事。							
事後学修 → 小テスト及び復習試験に向けて、授業で学習した内容を復習する事。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
平常点（小テスト、授業への参加度等）40%							
復習試験 60%							
<b>教科書</b>							
使用しない。							
<b>参考書、教材等</b>							
適宜、印刷教材や視聴覚教材を使用する。また、英和辞典を持参すること。							

授業科目	英語ⅣD					担当教員	阿部 敬子
科目英名	English IV D						
開講期間	2年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>前期に学んだ知識を基にして、より実用的な英語の運用能力習得を目標と。British Council、VOA、BBC等から選んだ、動物に関する様々な英文を読んで語彙と文法を学び、速読力及び、内容を正確に把握する力を養う。さらに、視聴覚教材に取り組む事により、リスニングとスピーキングの能力を鍛える。</p>							
講義概要							
<p>毎回、動物に関する様々な英文を読む。速読して全体をおおまかに捉えた上で、細部を正確に把握する訓練を行う。また、動物を題材とした視聴覚教材を用いて、リスニング及びスピーキングの練習も行う。翌週、前回の復習テストを実施する。</p>							
授業計画							
1	Introduction			ガイダンス・問題演習			
2	Article on Animals (British Council)			速読・精読・リスニング・スピーキング			
3	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
4	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
5	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
6	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
7	Article on Animals (British Council)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
8	Review 1			復習試験・解説			
9	Article on Animals (VOA)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
10	Article on Animals (VOA)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
11	Article on Animals (VOA)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
12	Article on Animals (BBC)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
13	Article on Animals (BBC)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
14	Article on Animals (BBC)			小テスト・速読・精読・リスニング・スピーキング			
15	Review 2			復習試験・解説			
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
小テスト及び復習試験実施後、教場で解説を行う。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学修 → 次回の授業内容は教場で指示するので、予習する事。							
事後学修 → 小テスト及び復習試験に向けて、授業で学習した内容を復習する事。							
評価方法 (評価基準を含む)							
平常点 (小テスト、授業への参加度等) 40%							
復習試験 60%							
教科書							
使用しない。							
参考書、教材等							
適宜、印刷教材や視聴覚教材を使用する。また、英和辞典を持参すること。							

授業科目	英語ⅣE					担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English IVE						
開講期間	2年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>この授業では、インプットとして与えられた英語知識を応用し、自ら文章化できることを目的とする。テーマに基づいた映像を使用し、語彙、表現、構文を解説後、状況に応じて自ら適切な表現や語彙を選択しながら話し、書けるようになることを目指す。最終的には、学んだ知識から、自ら適切な語彙や表現を選び、自由にアウトプットできるようになることが目標である。</p>							
講義概要							
<p>この授業では、テーマに見合った画像による英文理解、および内容確認、解説を行い、文法、構文、表現の使用法に関する総復習を行った後、スピーキング、ライティング活動を行う。英文作成のための表現、構成を解説、修得した後、演習形式で段階的なアウトプットの訓練を行う。読んで書くことを中心に、リスニング、スピーキングの訓練も平行して行う。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 'Beagle Patrol' part 1 (読解後、内容確認等解説)</li> <li>2 'Beagle Patrol' part 2 (読解後、内容確認等解説後、グループワーク)</li> <li>3 Beagle に関する映像から、内容確認後、基本構文、表現を学ぶ</li> <li>4 'Polar Bears in Trouble' part 1 (読解後、内容確認等解説)</li> <li>5 'Polar Bears in Trouble' part 2 (読解後、内容確認等解説後、グループワーク)</li> <li>6 Polar bear に関する映像から、内容理解後、発表を行う</li> <li>7 'Aquarium on Wheels' part 1 (読解後、内容確認等解説)</li> <li>8 'Aquarium on Wheels' part 2 (読解後、内容確認等解説後、グループワーク)</li> <li>9 Aquarium に関する映像をみて、ディスカッション、発表を行う</li> <li>10 英文構成 1 (英文作成基礎。表現、構成を学ぶ)</li> <li>11 英文構成 2 (英文作成応用。表現力を磨く)</li> <li>12 英文構成 3 (英文記事を読み、その内容について要約し、感想を英語で書く)</li> <li>13 英文構成 4 (動物看護に関する簡単な論文要旨を読む)</li> <li>14 英文構成 5 (動物看護に関する記事を読み、要約を書く)</li> <li>15 総復習 (小テスト、および解説)</li> </ol>							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
<p>フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。</p>							
履修上の注意							
<p>進度に従い、小テストなどを行う予定である。前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。</p>							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
<p>事前学習として、テキスト (該当箇所は教場で指示) を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。</p>							
評価方法 (評価基準を含む)							
<p>試験 (60%)、授業への参加度 (40%) から総合的に評価する。</p>							
教科書							
<p><i>Snapshots from the Globe</i> (CENGAGE Learning)</p>							
参考書、教材等							
<p>教場で指導する。</p>							

授業科目	英語ⅣF					担当教員	林 孝憲
科目英名	EnglishⅣF						
開講期間	2年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
英語Ⅲまでに培った基礎力を十分に活かして、グローバル化社会で活躍するのに必要な英語での発信力を向上させる。							
講義概要							
前期に引き続き、野生動物をテーマとした英文を読み、それに基づいて、運用力を向上させるためのアクティビティも行う。読解は速読と要約を重視し、さらにライティング、およびプレゼンテーションやディスカッションに時間を割き、英語による発進力を高める。							
授業計画							
1	ガイダンス、The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
2	The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
3	The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
4	The Gray Whale's Struggle for Survival			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
5	The Gray Whale's Struggle for Survival			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
6	The Gray Whale's Struggle for Survival			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
7	The Story of Sheila, The Baby Walrus			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
8	The Story of Sheila, The Baby Walrus			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
9	The Story of Sheila, The Baby Walrus			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
10	The Lion Raised in a London Furniture Shop			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
11	The Lion Raised in a London Furniture Shop			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
12	The Lion Raised in a London Furniture Shop			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
13	The Wise Wolf King of Currumpaw			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
14	The Wise Wolf King of Currumpaw			リスニング、英文和訳、英作文、ディスカッション、プレゼンテーション			
15	復習試験と解説						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして小テスト、試験を回収後、解答の解説を行います。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。使い慣れた辞書（英英辞典含む）を持参すること。予習・復習は必須である。授業への積極的な参加が望まれる。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」 事後学修「毎授業後、ノートや配布物を整理し、試験に備えること」							
評価方法（評価基準を含む）							
平常点（発言、発表等）を40%、復習試験点数を60%として総合的に評価する。							
教科書							
<i>The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom</i> 英語で読む「心ふるえる野生動物の物語」（南雲堂）							
参考書、教材等							
教場で指示する。							

授業科目	フランス語入門				担当教員	白川 理恵
科目英名	French Basic Course					
開講期間	1 年次 後期	選択科目 2 単位	授業 形態	講義	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]
到達目標	<p>基礎的なフランス語能力（「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」）の修得を目標とし、フランスの文化や習慣にも親しみ、異文化コミュニケーションについて学ぶきっかけとする。</p>					
講義概要	<p>発音練習を繰り返し、「フランス語特有の音」に慣れ親しむ。また、「語彙」や「文法」の基礎的知識を学び、文の構造を理解する。さらに、「フランス語の表現・成句」を通して、様々なシチュエーションを想定した実践的なフランス語運用能力を身につける。</p> <p>時間の許す限り、フランス文化（歌や映画など）を紹介し、西洋ヨーロッパの中心であるフランスの文化や考え方にも触れてみたい。</p>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに（授業ガイダンス、フランス語のあいさつ・アルファベ）</li> <li>2 「名前を言う」（主語人称代名詞・第1群規則動詞（-er 動詞））</li> <li>3 「国籍を言う」（名詞の性と数・動詞 être）</li> <li>4 発音に親しむ（フランス語の読み方、綴り字記号・リエゾン・アンシェヌマン・エリズィオン）</li> <li>5 「職業を言う」（形容詞の性と数の一致・形容詞の位置）</li> <li>6 「持ち物を尋ねる」（提示の表現 c'est ～・冠詞・動詞 avoir）</li> <li>7 「趣味を語る」（疑問文・疑問文に対する答え・疑問形容詞）</li> <li>8 「誰か尋ねる」（否定文・否定疑問文・否定疑問文に対する答え）</li> <li>9 「したいことを尋ねる」（前置詞と定冠詞の縮約・指示形容詞）</li> <li>10 「場所を示す」（提示の表現 il y a ～・場所を表す前置詞）</li> <li>11 ここまでの復習（中間試験、フランス文化）</li> <li>12 「住んでいるところを言う」（人称代名詞の強勢形・所有形容詞・動詞 connaître）</li> <li>13 「何をしているか尋ねる」（疑問代名詞・動詞 faire）</li> <li>14 「年齢を言う」（疑問副詞・数詞）</li> <li>15 まとめ（期末試験について、総復習）</li> </ol>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	フィードバックとして中間試験を回収後、解答の解説を行う。					
履修上の注意	<p>遅刻や欠席は評価の対象とするので十分注意すること。</p> <p>予習と復習を怠らないこと。</p> <p>予習と復習に必要なため「仏和辞典」を用意すること。</p>					
事前・事後学修（予習・復習）の内容	<p>事前学修：授業で示された教科書の練習問題を解き、授業に臨むこと。</p> <p>事後学修：授業で学んだことを復習し、単語や動詞の活用を覚えること。</p>					
評価方法（評価基準を含む）	中間試験・期末試験・レポート（50%）・授業への参加度（50%）で評価を行う。					
教科書	『パスカル・オ・ジャポン』白水社、藤田裕二著					
参考書、教材等	<p>仏和辞典については、初回授業のガイダンスで説明を行う。</p> <p>例えば、Casio EX-word（電子辞書）、ワイルド仏和中辞典（旺文社）、クワン仏和辞典（三省堂）、など。</p>					

授業科目	情報リテラシ（基礎）					担当教員	若林 義啓
科目英名	Information Literacy (Basic)						
開講期間	1年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	実習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>情報技術に関する基礎的知識、および、情報倫理、情報セキュリティの知識を身につける。また、大学のPC・ネットワーク環境を理解し、PCを活用した情報検索や情報活用、アプリケーションソフトの操作などの演習を通して、学修に活用していくために必要な技量を身につける。</p>							
講義概要							
<p>大学生活で必要となるコンピューターとメールの使い方や情報社会で守るべき法律やと危険への対処法を学び、情報機器の活用力と情報社会への関わり方を身に付ける。コンピューターの基礎操作としてタッチタイピングを毎回の授業で練習し、実技テストも行う。また Microsoft Word によるレポート作成技術と Microsoft Excel による表計算の基礎を演習を通して学ぶ。</p>							
授業計画							
1	情報リテラシーとは、大学でのコンピューター利用						
2	タッチタイピング、メールの設定						
3	インターネットとは、メールのマナー						
4	情報機器、ネットモラル						
5	ファイルとフォルダ、フリーソフト						
6	メールのエラー、日本語変換ソフト						
7	Microsoft Word 基本操作						
8	レポートの書き方① 図表の挿入とキャプション						
9	レポートの書き方② 書式、段組み、印刷						
10	レポートの書き方③ PDF ファイル、見出しスタイル、数式						
11	レポートの書き方④ レポートの構成						
12	Microsoft Excel の特長、オートフィル						
13	相対参照と絶対参照、基本的な関数						
14	応用的な関数						
15	まとめ (Word、Excel の理解度・活用力の確認)						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
課題は次の回に解説を行う。							
履修上の注意							
演習時や課題などの主体的に授業に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、確認テスト等の成績評価について説明する。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
教科書を予習し、授業後は配布資料と共に復習し理解を深めておくこと。課題はその回に学んだことの復習であることからすべて完成させておくこと。タッチタイピングは授業内の練習だけでなく、授業時間外にも練習をしておくこと。							
評価方法（評価基準を含む）							
課題（30%）、授業内のテスト（50%）、主体的に学修に取り組む態度（20%）の総合評価とする。							
教科書							
情報リテラシー Windows10/Office2019 対応、富士通エフ・オー・エム株式会社、FOM 出版							
参考書、教材等							
特になし							

授業科目	情報リテラシ (応用)					担当教員 若林 義啓
科目英名	Information Literacy (Applied)					
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	実習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]
到達目標	<p>現代の情報社会では誰もが様々な情報を容易に得ることができるようになったが、情報を作る側になることには消極的である。社会に出て活躍するためには情報を作り、表現する側へ踏み出す必要がある。この授業では、学業だけでなく普段の生活の中で使える情報技術を学び、応用的な活用へ発展させ、コンピューターの活用場面を拡大する。4つのコンテンツ制作を通して情報活用力を身につけることで、学業や生活の中でコンピューターを積極的に活用できるようになることを目標とする。</p>					
講義概要	<p>情報リテラシ (基礎) で学んだ Excel の基礎に続き、応用的な機能の活用と学術研究用のグラフの作成方法を学ぶ。PowerPoint によるプレゼンテーションでは、デザインの原則と情報の伝え方について学び、スライド作成とプレゼンテーションを行う。コンピューターの応用的な活用としてフリーソフトを使った合成画像制作でデジタル画像の知識と加工技術を学び、PowerPoint と連携して缶バッジ制作を行い、知識と技術やソフトウェアの連携を学ぶ。</p>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Microsoft Excel 関数のネスト</li> <li>2 条件付き書式、フィルター</li> <li>3 グラフの特長と学術研究用のグラフ</li> <li>4 プレゼンテーション① プレゼンテーションとは、Microsoft PowerPoint の特長</li> <li>5 プレゼンテーション② PowerPoint の基本操作</li> <li>6 プレゼンテーション③ デザインの原則、効果的なスライド</li> <li>7 プレゼンテーション④ スライド作成演習 1 情報をまとめる</li> <li>8 プレゼンテーション⑤ スライド作成演習 2 情報の表現</li> <li>9 まとめ (Excel、PowerPoint の理解度・応用力の確認)</li> <li>10 デジタル画像の加工① デジタル画像の基礎</li> <li>11 デジタル画像の加工② 画像修正</li> <li>12 デジタル画像の加工③ 合成画像の制作</li> <li>13 デジタル画像の加工④ 合成画像品評会</li> <li>14 コンピューターの活用① 缶バッジのデザイン、ソフトウェアの連携</li> <li>15 コンピューターの活用② 缶バッジの制作</li> </ol>					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック	制作課題について品評会で評価を行う。					
履修上の注意	前期「情報リテラシ (基礎)」の内容を理解し、身に付けていること。制作課題、グループ活動などすべてにおいて主体的な取り組みが必要である。この科目では、授業内での説明に基づく授業時間外での活動が必須となるため、授業を欠席すると何もできなくなるので注意すること。					
事前・事後学修 (予習・復習) の内容	各コンテンツで学んだ知識・技術を復習し、次回授業の準備をしておくこと。制作課題は授業前までに準備・制作作業を行い、到達目標まで進めておくこと。					
評価方法 (評価基準を含む)	課題 (40%)、授業内のテスト (30%)、主体的に学修に取り組む態度 (30%) の総合評価とする。					
教科書	情報リテラシー Windows10/Office2019 対応、富士通エフ・オー・エム株式会社、FOM 出版					
参考書、教材等	特になし					

授業科目	文章作法入門					担当教員 高橋 克樹
科目英名	Introduction to Literary Style					
開講期間	1 年次 後期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]
到達目標						
<p>学修活動や社会生活に不可欠な文章作成に関する基本を理解し、大学での学修・研究に必要なレポートや実用文、および論文の作成方法を修得することを到達目標とする。そのための具体的な目標は、以下のとおりである。1. 文章作成に関する基本的な知識を理解し、具体的で客観的な文章を作成するために必要な技法を身に付ける、2. レポート作成や論理的な文章作成の作法を身に付ける、3. プレゼンテーション資料、掲示・案内文、手紙や履歴書・エントリーシート等実用文作成に関する理解を深める、4. 論文作成の進め方や準備方法を知る。</p>						
講義概要						
<p>本講義では、文章作成に関する教員による講義と、受講生自身の課題への取り組みやグループワークを通じた体験的な学修の両面から、文章作成や表現力の能力向上を目指す。全体の流れとしては、最初に文章作成に関する基本的な知識や技能に関して学び、続いて、レポートや実用文の作成等具体的なテーマを通し、伝えたい内容を的確に文章化することを修得する。その後、論文作成の基礎を知ること、今後の大学生活における学修・研究に活かすことをねらいとする。</p>						
授業計画						
1	オリエンテーション：文章を読み取る（指定された字数に要約する）					
2	文章作成に関する基本的な知識と技法（1）：読みやすい文章とは(基本的なルール)					
3	文章作成に関する基本的な知識と技法（2）：より豊かな文章表現、敬語の基本					
4	文章作成に関する基本的な知識と技法（3）：文章の組み立て方					
5	文章作成に関する基本的な知識と技法（4）：与えられたテーマによる作文					
6	科学論文とは：その種類					
7	科学論文の書き方					
8	まとめと小テスト					
9	レポート作成の基本（1）：レポートの構成と論理的な文章表現					
10	レポート作成の基本（2）：レポート作成の進め方					
11	レポート作成の基本（3）：簡易レポートの作成と検討					
12	実用文作成の基本（1）：手紙・メール、履歴書・エントリーシートの書き方					
13	実用文作成の基本（2）：プレゼンテーション資料や掲示・案内文の作成					
14	実用文作成の基本（2）：ビジネス文章の作成					
15	まとめと小テスト					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
<p>試験の答案用紙は原則返却はしないが、質問には応じる。またレポートについても答案用紙と同様の扱いとするが、必要に応じて返却をする。</p>						
履修上の注意						
<p>国語辞典を用意すること（種類は問わない、電子辞書も可）。教員による講義だけではなく、「文章作成作業」や「グループワーク・グループ討議」など体験的な学修時間が多くあることを理解した上で履修すること。各人の作成した文章を更によりよい文章にするために、グループ内で報告しあい意見交換をする時間も予定している。お互いの成長のために、前向きな姿勢での議論を期待する。</p>						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
<p>シラバスに当日の講義内容が示されているので予習をすること、また復習についても必ず講義の後まとめたノート作りをする。</p>						
評価方法（評価基準を含む）						
<p>学期中に2回の小テストを実施し、その合計点で評価する。</p>						
教科書						
指定なし						
参考書、教材等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小笠原信之『伝わる! 文章力が豊かになる本』高橋書店</li> <li>・「レポート・論文の書き方入門」河野哲也 慶応義塾大学出版</li> <li>・「論文の書き方」講談社学術文庫 その他、必要に応じて講義中に紹介する。</li> </ul>						

授業科目	健康とスポーツ					担当教員	中山 多美
科目英名	Wellness & Physical activity						
開講期間	2年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
<b>到達目標</b>							
スポーツを続け、健康な体と心を育てていく事の大切さを学び、健康で一生を送るために有用な知識や情報を学び、自身の健康を見直すことを目標とする。							
<b>講義概要</b>							
人間の身体の間違った食生活、乱れた生活習慣による疾病が発生することが明らかである。そのため、自らの生活習慣を見直す必要がある。そこで、体、骨、筋肉、血管について教授し、日常生活の中に潜んでいる病気、感染症、熱中症などの健康問題を例に、その対処法、生活の中で取り入れる運動などを学修する。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 人体、骨、筋肉の仕組み</li> <li>3 花粉症対策</li> <li>4 熱中症対策</li> <li>5 紫外線対策</li> <li>6 体幹トレーニング</li> <li>7 免疫力を高める食と運動</li> <li>8 冷え性対策</li> <li>9 リンパマッサージ</li> <li>10 救命救急処置</li> <li>11 ねんざの処置、対策</li> <li>12 肩甲骨はがし</li> <li>13 拒食症</li> <li>14 試験</li> <li>15 出産について</li> </ol>							
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
フィードバックとして、授業後、解答の解説を行う。							
<b>履修上の注意</b>							
履修方法についてはオリエンテーション時の説明をよく聞くこと。 基本的に、他人に迷惑のかかる行為や大学生としてふさわしくない行為は慎むこと。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事後学修「毎授業のレビューを聞き、ノートを整理・作成すること。」							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度（70%）とレポート試験（30%）、授業態度の総合評価							
<b>教科書</b>							
適宜プリントを配布							
<b>参考書、教材等</b>							
なし							

授業科目	健康とスポーツ実技					担当教員	中山 多美
科目英名	Wellness & Fitness						
開講期間	2年次 前後期	選択科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>コンディショニングにより、しなやかで強い身体づくりをし、「健康美」を目指す。 運動を通してスポーツマンシップやマナーの修得、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p>							
講義概要							
<p>身体を動かすことでスポーツを楽しみながら、各自の体力に合わせて健康とスポーツを実践することにより、安全かつ効果的なエクササイズの方法を体得し、自分自身の健康管理に対する認識を深める。また授業を通してスポーツマンシップやマナー、ルール of 修得を目指す。一生を通してスポーツを生活の一部とすることを学ぶとともに、自身の健康を考え人生を豊かにするために、健康になるための運動を体得させる。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 卓球 1</li> <li>3 卓球 2</li> <li>4 卓球 3 (ダブルス)</li> <li>5 卓球 4 (ダブルス)</li> <li>6 フットサル 1</li> <li>7 フットサル 2</li> <li>8 フットサル 3</li> <li>9 アルティメット 1</li> <li>10 アルティメット 2</li> <li>11 アルティメット 3</li> <li>12 バドミントン 1</li> <li>13 バドミントン 2</li> <li>14 バドミントン 3</li> <li>15 バドミントン 4</li> </ol>							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
<p>学生からの質問や意見に対しては、その都度、口頭で回答する。</p>							
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>*履修希望者が多数の場合は履修時期等の調整を行う。</li> <li>*トレーニング・ウェア、ソックス、シューズを着用の事</li> <li>*筆記用具の用意</li> <li>*スポーツが苦手な人も受け入れる。</li> <li>*履修方法及び服装他、詳細についてはオリエンテーション時に説明する。</li> </ul>							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
<p>怪我をしない体づくりをして、自分の健康状態を保って授業に参加する。</p>							
評価方法 (評価基準を含む)							
<p>授業への参加度 (60%)、授業への取り組み (40%) の総合評価 スポーツが苦手でも、成績には関係ない。</p>							
教科書							
<p>適宜プリントを配布</p>							
参考書、教材等							
<p>なし</p>							

授業科目	生命科学概論					担当教員 ◎小黒 美枝子・ 石川 牧子・茂木 千恵
科目英名	Introduction to Life Science					
開講期間	2年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕
到達目標						
現代は日常生活のさまざまな面に生命科学に関する知識や情報が影響を与える時代である。生命科学の現状やそれに関わる諸問題を理解するための基礎的知識と、科学的考え方を身につけることを到達目標とする。						
講義概要						
21世紀は、生命科学分野の研究の進展は速く、広い領域にわたる。「生命とは何か」、「ヒトを含め、生物はどのように進化してきたのか」、「地球環境と持続的な人間社会の発展はどうあるべきか」、「クローン生物や遺伝子診断、生殖医療などに関わる生命倫理はどのように捉えるべきか」など、生命科学に関わる多くの問題が、私たち一人一人にとって重要な問題である。本講義では、学生諸君が生命科学分野を含む、広範囲な科学的知識を理解できるような「科学リテラシー」を身につけるために、3名の教員がそれぞれの分野から生命科学を包括的に講義する。 (オムニバス形式15回) 小黒 現代生命科学の基礎 (5回) 茂木 生命科学研究で明らかになった生命のしくみ (5回) 石川 生命科学技術の進歩と社会との関係 (5回)						
授業計画						担当教員
1 生命科学と現代社会のかかわり 2 生命はどのように設計されているか。 3 ゲノム情報はどのように発現するか。 4 複雑な体はどのようにしてつくられるか。 5 現代生命科学の基礎に関するまとめ、テスト 6 脳はどこまでわかったか。 7 がんとはどのような現象か。 8 私たちの食と健康の関係 9 ヒトは病原体にどのように備えるか。 10 生命科学研究で明らかになった生命のしくみに関するまとめ、テスト 11 環境と生物はどのようにかかわるか。 12 生命科学技術はここまで進んだ。 13 生命科学に関する倫理的・法的規制はどのようになっているか。 14 生命科学の新たな展開。 15 生命科学技術の進歩と社会との関係に関するまとめ、テスト						小黒 小黒 小黒 小黒 小黒 茂木 茂木 茂木 茂木 茂木 石川 石川 石川 石川 石川
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック						
レポート課題や質問は、各教員が実施する5回目の授業において、フィードバックする。						
履修上の注意						
本学図書館等を利用して、日々進展する生命科学に関するトピックスなどに積極的に触れて欲しい。						
事前・事後学修 (予習・復習) の内容						
事前学修 「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」 事後学修 「5回目、10回目、15回目の授業後、指定された期限内に課題レポートを提出すること」						
評価方法 (評価基準を含む)						
授業内テスト (75 %) および授業への参加度 (25 %) から総合的に評価する。						
教科書						
現代生命科学 第2版 東京大学生命科学教科書編集委員会編 羊土社						
参考書、教材等						
講義中に適宜紹介する。						

授業科目	動物看護学概論					担当教員 ◎内田 明彦・岡崎 登志夫 今村 伸一郎・梅村 隆志 関谷 順一
科目英名	Veterinary Technology Outline					
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕
到達目標						
<p>本概論は動物看護学の核となる講義であることから、学生は看護の基にある動物の病気を理解するとともに、患者を看護するために必要な知識を理論的に説明し、さらに、その具体的方法論について実施できる。特に、動物看護学を実践的学問と位置付け、患者と飼主、さらに獣医師との関係から、社会における動物看護師の位置を明確にすると共に、動物看護師による動物看護の必要性を理解できる。また、看護に伴う社会的責任について、倫理的および法的根拠を基に動物看護の立場についても理解することを到達目標とする。</p>						
講義概要						
<p>動物看護学は新しい分野であることから、学生はまず、看護学の本質を理解する必要がある。特に、動物看護学とヒトの看護学の共通性と相違を比較して、動物看護学の重要性和特殊性を認識すると共に、動物医療における動物看護師の必要性を理解できる。さらに、看護学が実践的学問として重要な位置を占めることを教育するために、疾病とその看護を中心とした教育方法を取り入れ、“病気の動物を看護する”という1つの流れの中で、動物看護の方法を修得する。</p>						
授業計画						担当教員
1 獣医療の歴史と概念						内田 明彦
2 動物看護の歴史と動物看護師の必要性和社会的認知（山川伊津子）						内田 明彦
3 動物看護の基本となる概念（1）						内田 明彦
4 動物看護の基本となる概念（2）						内田 明彦
5 動物看護学の成立と特徴						今村 伸一郎
6 動物看護学の教育と愛玩動物看護師国家試験、動物看護師統一認定試験						今村 伸一郎
7 動物看護における飼主支援・ペットロスを中心として（山川伊津子）						内田 明彦
8 動物看護師の役割						岡崎 登志夫
9 専門職団体の活動						岡崎 登志夫
10 動物の終末期看護（桜井富士朗）						内田 明彦
11 さまざまな動物観と環境要因（桜井富士朗）						内田 明彦
12 動物福祉の概念						梅村 隆志
13 動物福祉と社会						梅村 隆志
14 伴侶動物の福祉						関谷 順一
15 展示動物および使役動物の福祉						関谷 順一
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
フィードバックとして、提出されたレポートの内容について解説をします。						
履修上の注意						
これから学修する動物看護の原点を司る授業であることから、内容は多岐にわたる。従って、毎回の授業をまとめて、整理しておく必要がある。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」						
事後学修「毎授業後、講義資料の内容を復習し、興味ある点を自習により補足すること」						
評価方法（評価基準を含む）						
授業への参加度とレポート提出（50%）および試験（50%）によって評価を行う。						
教科書						
「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 応用動物看護学①（動物看護学概論、人間動物関係学、動物福祉・倫理）動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編、インターズー						
参考書、教材等						
1. 獣医看護学 上下巻、山村穂積訳、チクサン出版						
2. 動物看護学 各論・総論、日本動物看護学会教科書編集委員会編、インターズー						

授業科目	動物人間関係学概論					担当教員 ◎古川 力・小黒 美枝子・ 島森 尚子・新島 典子・ 石川 牧子・奥野 卓司・ 加藤 理絵・堀井 隆行・ 秋山 順子
科目英名	Introduction to Animal-Human Relationship Studies					
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]
到達目標						
<p>動物看護学科を構成する2専攻のうち、動物人間関係学専攻では、動物と人との関係に関する学問分野が多岐にわたることを学修する。さらにそれらの分野が社会のニーズに連動していること、それらを学ぶことにより様々な動物関連分野への進路選択について視野が広がることも学修する。当該分野の概論的知識の修得のみならず、1年次の終了時にどちらの専攻を選択するか判断材料とすると共に、在学中、明確な目標をもって学べるようになることを到達目標とする。</p>						
講義概要						
<p>上記の到達目標を達成するため、最初に動物人間関係学専攻が自然科学系、社会科学系、人文系ならびにそれらの境界領域で構成されていることを解説する。さらに本専攻所属教員が具体的にどのような教育・研究を行っているかを講義し、動物人間関係学専攻における教育・研究内容全体の概要を学修する。次いで本専攻における人材養成目標が、動物介在福祉、動物関連産業、動物関連団体等の分野で活躍できる人物の養成であること、あるいは動物を介して学んだ知識と経験を基に前述の分野以外においてもしっかりと活躍できる人材の養成であることを認識してもらい、動物人間関係学が「動物と人との関係」を多方面な分野から追究する学問であることを明確に理解してもらうよう教授する。具体的には以下の授業計画により講義を展開する。</p>						
授業計画						担当教員
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、動物人間関係学専攻の教育・研究分野とその特徴</li> <li>2 動物とのよりよい関わりを目指す上での自己理解</li> <li>3 現代社会における人と動物の多様な関係性</li> <li>4 伴侶動物と飼い主を取り巻く様々な社会的背景</li> <li>5 動物が人の健康にもたらす影響—アニマルアシステッドセラピーとは何か—</li> <li>6 伴侶動物のバイオテクノロジー—西洋犬—</li> <li>7 伴侶動物のバイオテクノロジー—日本犬—</li> <li>8 動物の多様性—進化の歴史—</li> <li>9 動物の多様性—人間との関わり—</li> <li>10 伴侶動物のストレス管理、行動修正</li> <li>11 伴侶動物と人間—アニマルスタディーズの視座から—</li> <li>12 伴侶動物と人間—「炭鉱のカナリア」とは何だったか—</li> <li>13 動物から見た文化人類学</li> <li>14 様々な民族の動物観</li> <li>15 総括</li> </ol>						古川 加藤 新島 新島 秋山 小黒 小黒 石川 石川 堀井 島森 島森 奥野 奥野 古川
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
レポートや質問について「総括」においてフィードバックする。						
履修上の注意						
<p>本学図書館は当該分野の書籍だけでなく視聴覚教材も多数所蔵している。これらを利用して積極的に多くの知識を吸収し、講義と並行しながら自己の将来への明確な勉学方針を把握すること。</p>						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
事前学習：授業計画に沿って、本や資料を読んでおく。						
事後学習：授業で配布されて資料等を復習し、指定された期間内にレポートを提出する。						
評価方法（評価基準を含む）						
授業参加度 50%、レポート 50%として総合的に評価する。						
教科書						
特に指定しない。						
参考書、教材等						
教材としてプリント、スライド等を随時使用する。						

授業科目	動物機能形態学					担当教員	今村 伸一郎
科目英名	Veterinary Functional Anatomy						
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
<p>体の仕組みや働きを充分理解することは、動物の病気の理解や病気の予防および看護にきわめて重要なことである。そうしたことから形態学は動物看護学における重要な基礎科目の一つとなっている。本講義の到達目標は、動物の体の正常な構造と機能を関連づけて説明できるようになることである。</p>							
講義概要							
<p>動物の体は無数の細胞が集まって組織を作り、その組織が集合して器官を形成している。それぞれの器官は動物の体を構成して生命活動を行っている。本講義では、骨格、筋肉、消化器、呼吸器、循環器などの構造や機能を系統的に解説する。特に、動物看護の実際に役立つようにイヌおよびネコの機能形態学や臨床解剖学に重点を置いて解説する。</p>							
授業計画							
1	形態学とは 細胞、組織、器官とは						
2	骨格系 (骨の基本構造、骨組織、造血組織、体幹骨)						
3	骨格系 (体肢骨、関節)						
4	骨格系 (骨格筋: 筋組織、頭部、頸部、胸部、腰部、腹部)						
5	骨格系 (骨格筋: 前肢、後肢)						
6	呼吸器系、<冒頭小テスト>						
7	循環器系						
8	消化器系 (口腔、咽頭、食道、胃)						
9	消化器系 (小腸、大腸、肝臓、膵臓)						
10	泌尿器系						
11	生殖器系、<冒頭小テスト>						
12	脳神経系						
13	特殊感覚器系						
14	外皮系、皮膚感覚器系						
15	臨床解剖学、<冒頭小テスト>						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
<p>授業内で行なう小テストについて、テスト終了後に模範解答を配布するので、正解を確認し、復習に役立ててほしい。</p>							
履修上の注意							
<p>毎回出席をとる。覚える内容が膨大なので日頃から少しずつ整理しておくように。また解剖学用語は正確に覚えるよう心がけてほしい。できるだけ漢字で表記できるようにする。 カラーリングアトラスは自己学修で色付けをし、予習、復習に役立てる。2年次の実習時に役立つ。</p>							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
<p>授業は基本的にシラバス通りの順で行なうので、指定された教科書のその単元部分について目を通してくること。授業後は配付された資料を基に、授業中とったノートとの付け合わせを行なってほしい。</p>							
評価方法 (評価基準を含む)							
<p>授業への参加度 (20%)、小テスト (3回・30%)、定期試験 (50%) の総合判定で評価する。</p>							
教科書							
<p>1. 基礎動物看護学 I 動物形態機能学・動物繁殖学、全国動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編、インターズー 2. 犬の解剖カラーリングアトラス、日本獣医解剖学会監修、学窓社 必要に応じて資料を配布する。</p>							
参考書、教材等							
<p>1. Color Atlas of Veterinary Anatomy、浅利昌男監訳、インターズー 2. 獣医看護学 上下巻、山村穂積訳、チクサン出版 3. カラーアトラス 獣医解剖学 上下巻、カラーアトラス獣医解剖学編集委員会監訳、インターズー 4. 家畜比較解剖図説 上下巻、加藤嘉太郎著、養賢堂</p>							

授業科目	動物生理学					担当教員	今村 伸一郎
科目英名	Animal Physiology						
開講期間	1年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕	
到達目標							
<p>動物は、体を構成している様々な細胞や基幹系を精巧に連携させ、また調節、統合させながら複雑な生命活動を営んでいる。このような生命現象を理解するために、その基本となる様々な器官や組織とそれらの機能についての基礎知識が必要である。本講義の到達目標は、動物の体の正常な“しくみ”について理解し、説明できるようになることである。</p>							
講義概要							
<p>近年の生命科学の著しい進歩にともない、動物生理学の内容は盛り沢山になり、また、難解になってきている。そこで、動物看護学を学ぶに当たり修得しておくべき内容について、基点となる教科書を使用し、できるだけ凡例を示しながら講義する。また、生理学を通じて生命のしくみの全体像を理解してもらうために、できる限り広い内容の解説に努める。同時に、ヒトも動物の一員であるという意味から、生理学的機能を自分の身体に当てはめて“感じる”ことを実感しながら理解を進めてもらいたい。</p>							
授業計画							
1	生理学とは 細胞の構造と機能、遺伝子						
2	体液と電解質						
3	体液調節と尿の生成						
4	血液（造血器、免疫機能含む）						
5	呼吸とその調節						
6	心臓と血液循環（心臓、心筋特性、心筋の興奮、心周期）、＜冒頭小テスト＞						
7	心臓と血液循環（心機能調節、血液循環の原理、循環の調節、血管の特性）						
8	消化と吸収（機械的消化活動、胃腸の化学的消化、消化ホルモン）						
9	消化と吸収（膵臓機能、肝臓機能、栄養素の吸収、鳥類・反芻獣の消化機能）						
10	生殖機能、生殖系ホルモン、性周期						
11	内分泌系機能、各種ホルモンの働き、＜冒頭小テスト＞						
12	神経系（活動電位、興奮の伝導と伝達、シナプス）						
13	神経系（中枢神経機能、末梢神経機能（自律神経機能含む））						
14	感覚の一般、体性感覚、特殊感覚						
15	骨格筋の構造と特性、反射運動、＜冒頭小テスト＞						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>授業内で行なう小テストについて、テスト終了後に模範解答を配布するので、正解を確認し、復習に役立ててほしい。</p>							
履修上の注意							
<p>毎回出席をとる。授業をよく聞き、ノートを積極的にとるよう取り組むこと。 講義内容を自分の身体に当てはめ、“実感する”ことを行ってほしい。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>授業は基本的にシラバス通りの順で行なうので、指定された教科書のその単元部分について目を通してくること。授業後は、授業中にとったノート整理を行なうこと。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業への参加度（20%）、小テスト（3回・30%）、定期試験（50%）からの総合判定で評価する。</p>							
教科書							
<p>基礎動物看護学1 動物形態機能学・動物繁殖学、全国動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編、インターズー 必要に応じて資料を配布する。</p>							
参考書、教材等							
<p>基礎動物生理学、東條英昭著、アドスリー 生理学、真島英信、文光堂 医科生理学展望、星猛ら、丸善 わかりやすい獣医解剖生理学 浅利昌男 監訳 文永堂</p>							

授業科目	解剖・生理実習					担当教員	今村 伸一郎
科目英名	Practice for Anatomy and Physiology						
開講期間	2 年次 後期	動物看護学専攻	動物人間関係学専攻	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門基礎]
		必修科目 1 単位	選択科目 1 単位				
到達目標							
講義で得た組織、器官および体の構造や機能に関する知識を、観察と実験を通じて具体的に体現し、理解を定着させることを目標とする。							
講義概要							
実習の 2/3 を解剖学に関する実習、1/3 を生理学に関する実習にあてる。解剖学の実習はイヌを中心として、動物看護の実践に役立つよう表面解剖学、局所解剖学および機能解剖学に重点をおいた実習とする。 生理学の実習では、主に循環器系、感覚器系、腎機能等についての実習を行う。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習全体のオリエンテーション、骨格に関する実習 (イヌ) (頭骨、椎骨、胸部の観察スケッチ)</li> <li>2 骨格に関する実習 (イヌ) (前肢骨、後肢骨の観察スケッチ)</li> <li>3 筋肉に関する実習 (イヌ) (頭部、体幹の筋肉の観察、粘土で骨格筋再現)</li> <li>4 筋肉に関する実習 (イヌ) (頸部、前肢の筋肉の観察、粘土で骨格筋再現)</li> <li>5 筋肉に関する実習 (イヌ) (後肢、全身の筋肉の観察、粘土で骨格筋再現)</li> <li>6 内臓に関する実習 (イヌ) (腹腔臓器、骨盤臓器の観察スケッチ、ブタ腎臓の外・内観スケッチ)</li> <li>7 内臓に関する実習 (イヌ) (胸腔臓器、脳の観察スケッチ、ブタ心臓の内観スケッチ)</li> <li>8 組織に関する実習 (舌、小腸、膵臓、肝臓、腎臓の観察スケッチ)</li> <li>9 組織に関する実習 (肺、心筋、骨格筋、動・静脈、皮膚、骨の観察スケッチ)</li> <li>10 体表の解剖学 (イヌ生体を用いた観察とスケッチ)</li> <li>11 循環器系に関する実習 (自分自身の心電図の計測および波形の解釈、血圧の測定および値の解釈)</li> <li>12 循環器系・呼吸器系・体温の調節に関する実習 (イヌを用いて安静時、運動後の TPR の測定)</li> <li>13 感覚器系に関する実習 (視野の測定、2 点弁別閾の測定、温冷覚の測定) 1</li> <li>14 感覚器系に関する実習 (視野の測定、2 点弁別閾の測定、温冷覚の測定) 2</li> <li>15 腎機能に関する実習 (ブタ腎臓を用いた腎小体の観察および定量)</li> </ol>							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
スケッチ等はすべて返却するので、廃棄することをしないで、今後開講される応用科目等に役立てるようにしてほしい。							
履修上の注意							
解剖実習では実際の標本や解剖模型をスケッチしたり解剖図を模写したりするので、カラーリングアトラス、スケッチブック、色鉛筆を必ず持参すること。また講義で配布したプリントなども毎回持参すること。生理実習では、実習前に掲示指示されたものを忘れずに持参すること。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
実習の詳細は毎回資料を渡してそれに基づいて展開するが、事前に、1 年次に勉強した形態学、生理学について復習してくることを心がけてほしい。これは予習であり、復習にもなる。							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業への参加度 (70%) と試験・課題・レポート (30%) を総合的に判断する。							
教科書							
解剖学実習：犬の解剖カラーリングアトラス 日本獣医解剖学会 監修 学窓社 (1 年次購入のもの) 解剖学実習および生理学実習：毎回資料を配付する。							
参考書、教材等							
家畜比較解剖図説、加藤嘉太郎著、養賢堂 基礎動物生理学、東條英昭著、アドスリー 基礎動物看護学 1 動物形態機能学・繁殖学、インターズー 生理学、真島英信、文光堂 医科生理学展望、星猛ら、丸善 わかりやすい獣医解剖生理学 浅利昌男 監訳 文永堂							

授業科目	動物生態学					担当教員	茂木 千恵
科目英名	Animal Ecology						
開講期間	1年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
<p>看護や人と動物の関係の対象となる動物に固有の生態に関する知識を習得する。アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理技術や動物行動学の基礎となる考え方を習得する。本講義の履修終了時の目標は、動物生態学の専門用語について具体的なイメージが浮かび、説明できるようになることである。</p>							
講義概要							
<p>本講義では、動物看護学及び動物人間関係学が対象とする様々な動物種において、それぞれの種に特有な、あるいは種を越えて共通する生態と行動様式を解説する。この授業で学ぶ内容は、生態学の目的、野生動物の生態、生態の進化、個体の生活史、発達・動機づけ、養育システム、生殖システム、社会システムである。最後に、応用的分野として、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理技術や動物生態学的研究法の内容を取り扱う。</p>							
授業計画							
1	動物生態学の基本概念（個体の適応度について）						
2	野生動物の生態（肉食動物）						
3	野生動物の生態（草食動物）						
4	生態の進化（自然選択説）						
5	個体の発達と群内序列の発達						
6	周期性（概日リズム、年周期、概月リズム）						
7	季節繁殖（長日繁殖と短日繁殖）						
8	季節繁殖（季節の推移を知覚する脳内機構；メラトニン）						
9	個体間コミュニケーション（視覚を用いたコミュニケーション）						
10	個体間コミュニケーション（聴覚・嗅覚を用いたコミュニケーション）						
11	哺乳類の生殖戦略（一夫一婦制、一夫多妻制、一妻多夫制、多夫多妻制）						
12	社会システムと群れの意義（単独性動物との相違、群れることの意義）						
13	摂食と排泄（食性の違いによる摂食様式の相違、排泄パターンの相違）						
14	動物生態学的研究の基礎的手法（研究目標の設定方法、具体的調査研究法の紹介）						
15	まとめ（14回までの授業内容から特に重要な部分を再解説する）						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>毎講義終了時に授業内容のレポートを提出。講義内容に関する質問も毎回講義終了後に受け付け、次回講義開始時に解説する。</p>							
履修上の注意							
<p>授業は配布資料、パワーポイントおよび板書をもとに進めていく。重要事項を積極的にノートに書きとるようにし、自筆ノートの作成と記憶の定着を心がけること。配布資料は忘れず持参すること。 *欠席した場合は、次の授業の時に、欠席届を提出すること。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修：次の授業範囲の資料を精読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：各授業回の重要内容に該当する部分をノートにまとめること。配布資料を再度読んでおくこと。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>学期末試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。 なお、授業への参加度は毎講義終了時に提出する授業内容レポートを評価する。</p>							
教科書							
<p>認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 3 《10004079》動物行動学／伴侶動物学／産業動物学／実験動物学／野生動物学</p>							
参考書、教材等							
<p>参考書は講義の中で紹介する。</p>							

授業科目	動物行動学					担当教員	茂木 千恵
科目英名	Ethology						
開講期間	2年次後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕	
<b>到達目標</b>							
<p>本講義では、臨床動物行動学の基本的な概念および伴侶動物にみられる問題行動の定義、診断、治療法を解説し、動物行動学的観点から伴侶動物の合理的かつ福祉的なハンドリングに応用できる知識を修得することを目標とする。</p> <p>講義修了時には、伴侶動物に関わる機会において、その個体の行動傾向を客観的に把握し、個体にとって最適なハンドリングを行う指針を独自で立てられるようになることが目標である。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本講義では、まず動物行動学の基本概念、行動の進化・発達・動機づけ、摂食や排せつなどの維持行動、個体間のコミュニケーション行動、生殖行動、社会行動を解説する。次に動物の学習理論、動物行動学研究の基礎的手法を解説するとともに、動物看護学が対象とする動物種、すなわち、イヌ、ネコ、コンパニオンバード、小型げっ歯類、家畜動物、展示動物などにみられる問題行動の定義、発症要因、診断・治療法についても取り扱い、最後に、応用的内容として動物行動学的観点からの合理的かつ福祉的な動物のハンドリングについて学ぶ。</p>							
<b>授業計画</b>							
1	動物行動学の基本概念（至近要因と究極要因）						
2	行動の進化（自然選択説と包括適応度）						
3	行動の動機づけ（生得的行動の探索行動と完了行動）						
4	行動の発達と維持行動（新生子期、社会化期、若年期、成年期、および高齢期）						
5	個体間コミュニケーション（五感を用いたコミュニケーション）						
6	行動の学習（古典的条件付けとオペラント条件付け）						
7	行動の修正方法（系統的脱感作、拮抗条件付け、高次条件付けなど）						
8	問題行動の定義と要因（先天的要因と後天的要因）						
9	行動診療の手順（カウンセリングとコンサルテーション）						
10	犬における問題行動（攻撃性、恐怖性、ストレスによるものなど）						
11	猫における問題行動（排泄に関するもの、攻撃性に関するもの）						
12	犬、猫以外の伴侶動物における問題行動（鳥類、ウサギ、フェレット）						
13	産業動物における問題行動（家畜および展示動物）						
14	問題行動の予防（飼育前コンサルテーション、子犬教室、適切なハンドリング法など）						
15	まとめ（14回までの授業内容から特に重要な部分を再解説する）						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
毎講義終了時に授業内容のレポートを提出。講義内容に関する質問も毎回講義終了後に受け付け、次回講義開始時に解説する。							
<b>履修上の注意</b>							
<p>授業は配布資料、パワーポイントおよび板書をもとに進めていく。重要事項を積極的にノートに書きとるようにし、自筆ノートの作成と記憶の定着を心がけること。配布資料は忘れず持参すること。 *欠席した場合は、次の授業の時に、欠席届を提出すること。</p>							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前学修：次の授業範囲の資料を精読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。							
事後学修：各授業回の重要内容に該当する部分をノートにまとめること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>学期末試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。 なお、授業への参加度は毎講義終了時に提出する授業内容レポートを評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
動物看護学教育標準カリキュラム準拠 動物行動学 （全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編） インターズー							
<b>参考書、教材等</b>							
獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 臨床行動学（森裕司、他著） インターズー							

授業科目	動物遺伝学					担当教員	古川 力
科目英名	Animal Genetics						
開講期間	2年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
<p>ヒトを始め、ヒトとの関連が深い伴侶動物、産業動物、実験動物等を例にとり、メンデル遺伝学を中心とする従来の遺伝学、分子遺伝学を中心とする新たな遺伝学、さらに実際に活用されている応用遺伝学に至るまでを体系的に学修し、動物看護学並びに動物人間関係学の両専攻において必要となる動物遺伝学の基礎知識の修得を到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>先ずメンデルの遺伝法則を解説する。次に遺伝子の構造と機能につき説明し、分子遺伝学の基本を解説した後、染色体について説明し細胞遺伝学の基本と応用について講義する。次いで遺伝地図の作成と集団遺伝学、量的遺伝学につき講義する。</p> <p>またヒトや動物を例にして種の分化を詳述する。さらに応用遺伝学としてヒト、伴侶動物、家畜にみられる具体的な遺伝現象についても教授する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 身近な遺伝学</li> <li>2 遺伝の基本法則 (1) メンデルの法則</li> <li>3 遺伝の基本法則 (2) メンデルの法則の拡張</li> <li>4 遺伝子の構造と機能 (1) DNA の構造</li> <li>5 遺伝子の構造と機能 (2) 遺伝子の複製と情報伝達</li> <li>6 染色体</li> <li>7 連鎖</li> <li>8 遺伝地図の作成</li> <li>9 突然変異</li> <li>10 性の遺伝</li> <li>11 集団の遺伝</li> <li>12 量的形質の遺伝</li> <li>13 遺伝と進化</li> <li>14 遺伝子からみた日本人</li> <li>15 授業の総括</li> </ol>							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
授業ごとに小テストを行い、次回においてその解説と質問・意見への対応を示す。							
履修上の注意							
基礎生物学を受講しておくことが望ましい。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
授業で配付した資料を復習して理解を深め、次回授業の予習とする。							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業ごとの小テスト(40%)、節目ごとの試験(レポートを含む、60%)により総合的に評価する。							
教科書							
教科書は特に指定しない。講義時に資料を配布する。							
参考書、教材等							
授業時に指示する。							

授業科目	動物薬理学					担当教員 ◎富田 幸子・尾崎 明恵
科目英名	Animal Pharmacology					
開講期間	2年次 前期	動物看護学専攻 必修科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕
到達目標						
動物診療に携わる動物看護師が、看護活動の際に必要な薬を正しく保管し、安全に取り扱うことができる。さらに薬の投与や投与後の動物の管理、観察を主体的かつ的確に行なえる。生体と薬の関わり合いについて基礎的な知識を修得する。						
講義概要						
講義の第1回から第4回では薬の取り扱いと動物薬理学の基礎（総論）を学ぶ。総論では生体には本来その恒常性を維持するメカニズムが備わっていることを理解した上で、薬とはなにか、薬がどうして効くのか（作用機序）、薬の体内での動き（吸収、分布、代謝、排泄）、薬の働きや動きを左右する動物側、薬側の因子など、薬と生体との間で生じる様々な相互作用について学修していく。第5回以降の各論では臨床で使用される代表的な薬を取り上げ、対象となる疾患の成因や病態を理解しながら、その薬効メカニズムや効果、また副作用についても説明する。						
授業計画						担当教員
1 薬の取り扱いについて						尾崎 明恵
2 薬の作用機序						尾崎 明恵
3 薬の体内動態						尾崎 明恵
4 薬物療法を左右する因子、薬の半減期と耐性について						尾崎 明恵
5 神経に作用する薬						尾崎 明恵
6 呼吸器に作用する薬						尾崎 明恵
7 循環器・泌尿器に作用する薬						尾崎 明恵
8 消化器に作用する薬						尾崎 明恵
9 オータコイド関連薬(抗炎症薬)						尾崎 明恵
10 代謝・内分泌系の薬						富田 幸子
11 血液・免疫系に作用する薬						富田 幸子
12 化学療法薬1（抗菌薬、消毒薬）ゲストスピーカー						尾崎 明恵
13 化学療法薬2（寄生虫駆除薬）ゲストスピーカー						尾崎 明恵
14 化学療法薬3（抗腫瘍薬）ゲストスピーカー						尾崎 明恵
15 薬の副作用と薬物相互作用、薬の添付文書について						尾崎 明恵
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
小テストは採点后解説を行い、解答内容が不十分な学生にはレポートの提出が課される。 確認テストは終了後に解答の解説を行う。						
履修上の注意						
始業時に復習を兼ねた確認テストを随時実施するので遅刻しないこと。総論終了後には小テストを実施するが日程等は授業で確認のこと。その際、授業計画の講義項目の内容や順番に変更を生ずる場合がある。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
事前学修：講義前に各回のテーマについて教科書等を使用して可能な限り予習をする。 事後学修：授業で示されたポイント事項及び実施された確認テストについては、配布資料、教科書等をもとに復習を行い、知識を確実なものにする。						
評価方法（評価基準を含む）						
授業への参加度 30%（レポート提出を含む）と筆記試験 70%（定期試験 50%、小テスト 20%）の結果等を踏まえ総合的に評価する。						
教科書						
認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 基礎動物看護学 2 動物病理学/動物薬理学(日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編) インターズー						
参考書、教材等						
参考書については初回の講義で紹介する。						

授業科目	動物病理学					担当教員	梅村 隆志
科目英名	Animal Pathology						
開講期間	2年次 後期	動物看護学専攻 必修科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
<b>到達目標</b>							
<p>病理学は動物の健康状態や疾病を理解する上で基礎となる極めて重要な科目である。様々な疾病がどのような原因で生じ、体内でどのような生体変化が起き、どのような経過をたどるのかという疾患概念について学修し、病気について総合的に把握することで臨床現場における種々の動物看護行為の学問的背景を理解することを目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>病理学的思考を養うためには、様々な侵襲を受けた際の生体反応を細胞レベルで理解し、また、それらの事象を個体レベルで考え、臨床症状の病理学的理解を進めることが必要である。本講義では、教科書、参考書を参照し、必要に応じて病理組織学像を提示して、形態学的な変化とそれらが持つ病理学的意義を確認しながら疾病の本質を解説する。</p>							
<b>授業計画</b>							
1	病理学分野に関する概論						
2	恒常性の維持 (ホメオスタシス、フィードバック機構)						
3	退行性病変 (変性、壊死、アポトーシス、萎縮)						
4	進行性病変 (再生、過形成、化生、創傷治癒)						
5	循環障害 (局所性循環障害、全身性循環障害)						
6	炎症 (炎症の定義、原因、転帰)						
7	急性炎症と慢性炎症 (化学伝達物質、サイトカイン)						
8	免疫 (免疫の基礎、液性免疫、細胞性免疫)						
9	免疫異常 (自己免疫疾患、アレルギー、免疫不全)						
10	腫瘍 1 (概念、分類)						
11	腫瘍 2 (遺伝子損傷、がん (抑制) 遺伝子)						
12	血液 (血液について、造血組織、血液疾患)						
13	遺伝と先天異常 (病因、遺伝病、染色体異常、発生様式、奇形の分類)						
14	代謝異常 (糖質・タンパク質・核酸・脂質・無機質・色素代謝の障害)						
15	老化とまとめ						
<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>							
提出されたレポートに関して、後日、評価基準の説明を行う予定である。							
<b>履修上の注意</b>							
動物解剖学、生化学、生理学等の基礎科目をきちんと理解しておく必要がある。また、病理学で用いられる用語について修得して欲しい。							
<b>事前・事後学修 (予習・復習) の内容</b>							
シラバスを参考に事前に基礎知識の収集に努めること。授業中に示された資料に基づきノートをまとめ、教科書を用いて復習し、図書館等を利用して知識の上積みに努めること。							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
授業への参加度 (20%)、レポート (20%)、定期試験 (60%) での総合評価							
<b>教科書</b>							
動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 基礎動物看護学② 動物病理学・動物薬理学 (インターズー)							
<b>参考書、教材等</b>							
シンプル病理学 (南江堂)							

授業科目	動物文化論					担当教員	◎小黒 美枝子・ 古川 力・島森 尚子・ 新島 典子
科目英名	Animal Cultural Studies						
開講期間	2 年次 後期	動物人間関係学専攻 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
動物と人との様々なかかわり、即ち動物文化への理解を多角的に深め、動物とのつきあいを実りあるものとし、これからの学修をより豊かにするための基礎知識の修得を到達目標とする。							
講義概要							
我々の文明は動物によってもたらされた。ラスコーやアルタミラの洞窟に描かれた野牛や馬の時代を経て、我々の祖先は動物を飼い慣らし、その力を利用し、食料とし、狩猟の部下となし、財産を守らせ、さらには友としてきた。その歴史と意味を知ること、動物と人間双方の深い理解に不可欠である。本講義では、学生諸君の動物文化に関する知識と理解とを深化させるために、4名の教員が、それぞれの専門分野における動物文化論を包括的かつ通時的に講ずる。各自の担当は以下の通りである。							
(オムニバス全 15 回)							
小黒 飼い犬、特に和犬の保護と血統管理を資料に基づき論じる。まとめ (4 回)							
古川 産業動物の家畜化の過程と家畜に関する文化を詳説する。							
日本における野生動物と人のかかわり、歴史的背景、狩猟採集文化を論じる。(5 回)							
島森 近世イギリスを中心として飼い犬・飼い猫・飼い鳥の文化を論じる。(3 回)							
新島 伴侶動物文化の多様化を、動物カフェの活況や著名な飼い犬のシンボル化から論じる。(3 回)							
授業計画							担当教員
1 産業動物の文化 家畜化と牛							古川 力
2 産業動物の文化 日本における牛							古川 力
3 産業動物の文化 山羊、馬							古川 力
4 野生動物の文化 狩猟採集文化							古川 力
5 野生動物の文化 獣肉食の歴史							古川 力
6 伴侶動物 (和犬) の文化 秋田犬							小黒 美枝子
7 伴侶動物 (和犬) の文化 川上犬							小黒 美枝子
8 伴侶動物 (和犬) の文化 和犬の血統							小黒 美枝子
9 血統伴侶動物 (犬、猫) の文化 近世イギリスのペット事情							島森 尚子
10 伴侶動物 (飼い鳥) の文化 飼い鳥の受容と人間の感受性の変化							島森 尚子
11 伴侶動物 (飼い鳥) の文化 カナリアと人間							島森 尚子
12 伴侶動物とカフェ文化 日本を含むアジアの状況							新島 典子
13 伴侶動物とカフェ文化 欧米の状況							新島 典子
14 伴侶動物とシンボル ハチ公の「物語」							新島 典子
15 まとめ							小黒 美枝子
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
各教員の担当最終回に、レポートや質問を解説する。							
履修上の注意							
日頃から、本学図書館等を利用して、動物に関する知識を積極的に吸収しておくこと。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学修 「各授業回に、教員が指示した配布資料、本などを読んでおくこと」							
事後学修 「5 回目、8 回目、11 回目、14 回目の授業後、指定された期限内に課題レポートを提出すること」							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業参加度 30%、レポート 70%として総合的に評価する。レポートは 4 名のそれぞれの講義テーマから 1 テーマ、計 4 テーマをレポートに仕上げ、各教員に提出する。							
教科書 特に指定せず。							
参考書、教材等							
各教員が教場にて指示する。							

授業科目	アニマルアシステッドセラピー論					担当教員	◎山崎 薫・秋山 順子 山崎 恵子
科目英名	Theory of Animal Assisted Therapy						
開講期間	3年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
<p>人と動物の絆を基盤とする動物介在介入（アニマルアシステッドセラピー、アクティビティー、エデュケーション）に関する基礎理論と実践について理解することを到達目標とする。具体的には、動物が人の心身の健康にもたらす明らかな効果について説明ができる。さらに、動物を介した効果的な関わり方や実践方法について説明することができる。</p>							
講義概要							
<p>わが国における動物介在介入を普及するためには、現在主にボランティアベースで行われている実践活動（アクティビティー）から、人の医療の専門家とボランティアチームによって理論的な裏づけをもとに行う実践活動（セラピー）へ進展させることが課題である。今後人と動物の共生社会における動物介在介入の必要性を理解した上で、これを説明することができる知識の修得を目標とする。本講義では、動物がもたらす人の心身への明らかな効果について正しく理解することを目的に、人と動物の絆、介在動物に関する基礎知識を学ぶ。さまざまな対象者に対する効果の具体例をもとに動物介在介入の実践に関する必要な知識と方法について学ぶ。</p>							
授業計画							担当教員
1	人と動物の関係とアニマルアシステッドセラピーの歴史						秋山 順子
2	人とイヌ・ネコ・ウマの関係と家畜化の歴史						秋山 順子
3	動物が人の健康にもたらす影響						秋山 順子
4	さまざまな対象者に対する動物介在介入						秋山 順子
5	乗馬療法とイルカ介在療法						秋山 順子
6	医療と動物						秋山 順子
7	プログラムのデザインと実施（動物の選択、リスクマネジメント）						秋山 順子
8	プログラムのデザインと実施（ボランティア、評価方法）						秋山 順子
9	動物介在の定義、アニマルセラピーの概念						山崎 恵子
10	愛護教育と動物介在教育						山崎 恵子
11	動物介在プログラムにおける動物の福祉						山崎 恵子
12	人間の福祉とワンウェルフェアの概念						山崎 恵子
13	展示動物と学校動物						山崎 恵子
14	アニマルアシステッドセラピーにおける動物の適正な飼養						山崎 薫
15	総括・最終試験						秋山 順子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
中間および最終授業回で全体に対するフィードバックを行う。							
履修上の注意							
本科目はオムニバス形式で実施する。講演者のスケジュール調整等で授業計画が変更になる場合があるため掲示や連絡事項等に注意すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：授業で配布した資料、関連書籍にて復習する。							
評価方法（評価基準を含む）							
最終試験 50%、小テスト 20%、授業への参加度 30%によって総合的に評価する。							
教科書							
特に指定しない							
参考書、教材等							
『知りたい！やってみたい！アニマルセラピー』、川添・堀井・山川・赤羽根（著）、駿河台出版社 その他書籍について授業中に指示する							

授業科目	動物臨床看護学（基礎）					担当教員	鈴木 友子
科目英名	Veterinary Technology-Basic						
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
動物臨床看護学の導入となる根幹科目で、これからの動物の臨床看護を学ぶ上で必要な基本的な知識と技術理論を総括的に学修する。その結果として動物看護師としての職業意識を自覚、発展させる。							
講義概要							
動物医療における動物看護の位置づけを明確にし、動物臨床看護学の学修目標を明らかにすることにある。したがって獣医療との関与は大きな比率を占めるが、それを踏まえて動物臨床看護で要求される動物の形態、機能、種の特性、病態、医学などを学び、さらに、飼い主への対応、礼節、飼育環境などについて学ぶ。							
授業計画							
1	オリエンテーション、チーム獣医療における動物看護学の重要性						
2	動物臨床看護学の学修法						
3	動物看護師の礼節（ホスピタリティマインド、マナー）						
4	動物看護に必要なイヌ・ネコの観察の仕方とボディランゲージ						
5	動物のバイタルサインと保定法						
6	動物のフィジカルアセスメント						
7	動物診療記録と動物看護記録（事例に対応した記録のつけ方）						
8	経過に基づく動物看護：病気のイヌ・ネコの観察の仕方と看護						
9	症状別の動物看護 I：発熱、疼痛、かゆみ、脱毛、運動異常（麻痺、跛行）						
10	症状別の動物看護 II：食欲不振、多飲多尿、嘔吐、排尿・排便異常						
11	緊急時の看護：ショック、発作・痙攣、呼吸困難、意識障害、心肺蘇生						
12	動物の看護に大切な検査：検体検査、医療機器による検査						
13	入院看護と在宅看護（周術期の看護およびターミナルケアを含む）						
14	動物の予防医学に向けた看護：健康維持またはQOL保持のための看護						
15	まとめ						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
レポート等にコメントを返す。							
履修上の注意							
学ぶ事柄が広範で基本的な項目が多いので、段階的に学ぶ専門科目の教科書や参考書に目を通して、専門用語を調べるなどして、その科目に馴染んでおくことを勧める。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習：授業の内容に関する教科書等を読み、実習とも関連づける。							
事後学習：授業および実習の資料等を見返し、ノート等にまとめる。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（50%）、定期試験等（50%）の総合評価							
教科書							
1. 臨床動物看護学1 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編 インターズー							
2. 臨床動物看護学（総論） 全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編 インターズー							
ー							
参考書、教材等							

授業科目	動物臨床看護学（基礎）実習					担当教員 ◎富田 幸子・荒川 真希 秋山 蘭・友野 悠 三井 香奈
科目英名	Veterinary Technology-Basic, Student Laboratory					
開講期間	1年次 通年	必修科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]
到達目標						
動物臨床看護学実習の導入として動物看護の基礎的な知識および技術を修得する。						
講義概要						
動物臨床看護の場における動物看護師に必要な解剖学、薬理学、寄生虫学の基礎知識を習得しながら、犬を用いた保定法、一般身体検査法、検体を用いた糞便・尿・血液・分泌物検査法、薬剤を用いた調剤・投薬・注射法などの基礎技術を講義する。						
授業計画						
1	オリエンテーション：看護実習全般の諸注意、実習器具の取扱い方と実際操作					
2	飼育環境整備と洗浄・消毒・滅菌：環境予防策、洗浄・消毒・滅菌					
3	犬の扱い方とバイタルサイン：犬のボディランゲージ、BW、T.P.R.の測定					
4	保定法 I：保定の基礎					
5	フィラリア・ノミの感染と予防：ライフサイクルと予防、顕微鏡操作の基本					
6	身体検査 I：看護過程（SOAP）、看護記録（POMR）、全身の観察					
7	身体検査 II：系統的な評価 <頭部、体幹>					
8	猫の扱い方：扱い方と保定法					
9	身体検査 III：系統的な評価 <四肢、尾、皮膚、体表リンパ節>					
10	身体検査 IV：系統的な評価 <まとめ>					
11	注射器と薬液の取り扱い：薬液量の計算、バイアル・アンプルからの吸引					
12	ワクチン：ワクチンの種類と証明書記入方法、接種前後の注意事項ロールプレイ					
13	保定法 II：処置・検査時の保定					
14	筆記テストおよび解説：これまでの知識および技術の習熟度の確認とポイント整理					
15	実技チェック：実習で学修した技術のチェック					
16	検査実習の基礎知識：検査器具・検体の取り扱い、顕微鏡および遠心分離器の操作					
17	血液検査 I：総説（採血準備、血液成分、CBC）、血液塗抹標本の作製					
18	血液検査 II：血漿・血清検査、Ht(PCV)値、TP測定					
19	血液検査 III：血球検査；血球形態のスケッチおよび白血球百分比					
20	口腔内検査とケア：口腔粘膜、CRT、歯式、咬合、歯ブラシ					
21	糞便検査：糞便の一般性状検査、浮遊法と直接法の手技と鏡検・記録					
22	尿検査：肉眼的所見、試験紙、比重、沈渣の鏡検・記録					
23	犬の保定法復習（横臥位）					
24	分泌物の検査：耳の疾患、耳の肉眼的検査と顕微鏡検査（細菌・真菌・寄生虫）					
25	調剤と薬用量の計算：剤型と調剤器具の使用法 薬包紙、薬ビンへの調剤					
26	投薬法：投薬方法の説明および犬への経口投与・点眼					
27	総まとめ：薬用量計算と調剤、検体検査					
28	実技チェック：注射器の取り扱いおよび顕微鏡検査					
29	筆記テストおよび解説：これまでの知識および技術の手順・習熟度の確認					
30	総復習（レビュー）					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
試験後の自己採点および技術復習の時間を設ける。レポートにコメントを記載して返却する。						
履修上の注意						
実習は指定の実習着・上履きを着用し、各自の実習器具を持参すること。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
配布資料をもとに復習を行い、知識を確実なものにする。						
評価方法（評価基準を含む）						
実習への参加度（50%）、実技試験結果（20%）、筆記試験（20%）、レポート成績（10%）						
教科書						
教科書は特に指定しない。講義に必要なプリントを毎回配布する。						
参考書、教材等						
1) 動物看護学テキスト（改訂第2版）、谷口明子著、ファームプレス 2) 動物看護の実践（第2版）ファームプレス 3) くわしい猫（犬）の病気大図典、小方宗次編、誠文堂新光社 4) 新・小動物看護用語辞典、中間實徳 監修、インターズー 5) 臨床動物看護学1、インターズー						

授業科目	動物臨床看護学（内科）						担当教員	富田 幸子
科目英名	Veterinary Technology-Internal Medicine							
開講期間	2年次前期	動物看護学専攻	動物人間関係学専攻	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
		必修科目 2単位	選択科目 2単位					
<b>到達目標</b>								
適切な看護を行うため、臨床で遭遇する頻度の高い主要内科疾患の病因や病態を理解し、説明できる。さらにこれら疾患に必要な看護を説明できる。								
<b>講義概要</b>								
動物医療で多く遭遇する呼吸器疾患、循環器疾患、感染症、泌尿器疾患、生殖器疾患、血液疾患、皮膚疾患、内分泌疾患、腫瘍疾患、神経疾患、感覚器（眼、耳）疾患、消化器疾患、免疫疾患について解説し、看護に必要な知識を講義する。								
<b>授業計画</b>								
1	呼吸器疾患の看護							
2	循環器疾患の看護 1：胎児循環、先天性心疾患							
3	循環器疾患の看護 2：後天性心疾患							
4	皮膚疾患の看護							
5	感覚器疾患の看護：眼、耳							
6	感染症の看護							
7	泌尿器疾患の看護：尿路結石、腎不全、膀胱炎							
8	生殖器疾患の看護							
9	腫瘍疾患の看護							
10	内分泌疾患の看護							
11	免疫疾患の看護：基礎知識、アレルギー							
12	造血疾患の看護：DIC、AIHA							
13	消化器疾患の看護 1：口腔、食道、胃、腸							
14	消化器疾患の看護 2：肝臓、胆嚢、膵臓							
15	神経疾患の看護							
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>								
小テストは、基本的に授業内で解答解説を行なう。 レポートはコメントして返却、あるいは返却しない場合は総評を行なう。質問は随時個別に受け付ける。								
<b>履修上の注意</b>								
毎回の講義に対して十分な予習と復習を行うことを希望する。								
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>								
1 年次動物臨床看護学(基礎)実習配布物を含め、教科書等の該当部分に事前事後に目を通す、ノートにまとめる、など必要に応じて指導する。								
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>								
学期末定期試験（60%）、レポートまたは小テスト（20%）、授業への参加度（20%）を考慮して総合的に評価する。								
<b>教科書</b>								
1) 認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学 3 動物臨床看護学総論/動物臨床看護学各論（日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編）インターズー								
2) 講義内容に沿ったプリントを配布する。								
<b>参考書、教材等</b>								
1) ビジュアルで学ぶ動物看護学（第2版）緑書房 2) 疾患別 動物看護学ハンドブック（日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科 臨床部門編）インターズー 3) 「くわしい犬（猫）の病気大図典」（小方宗次編）誠文堂新光社 4) 「よく診る犬の疾患・猫の疾患 60」（鈴木立雄著）インターズー								

授業科目	動物臨床看護学（内科）実習					担当教員	◎富田 幸子・荒川 真希 秋山 蘭・藤井 聖久 友野 悠・三井 香奈
科目英名	Veterinary Technology・Internal Medicine, Student Laboratory						
開講期間	2年次 通年	動物看護学専攻 必修科目2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
<b>到達目標</b>							
動物臨床看護学（内科）の講義によって、内科疾患の基礎知識を身に付けながら、併行して内科疾患の看護に必要な実践的知識・技術を修得することを目的とする。							
<b>講義概要</b>							
動物の内科診療に看護師として必須の保定法、臨床検査、治療補助や、特殊動物の取り扱い等の技術を学ぶ。さらに、代表的な症状・所見について病態の理解と看護の観点からの対処方法を講義する。							
<b>授業計画</b>							<b>担当教員</b>
1	入院動物の一般的看護Ⅰ：看護過程（SOAP）、看護記録（POMR）、一般身体検査、動物の扱い方						秋山・藤井
2	入院動物の一般的看護Ⅱ：留置針設置、輸液準備および実施補助、検査準備および実施補助						秋山・藤井
3	妊娠・新生仔・幼齢動物の看護						荒川・藤井
4	高齢動物の看護：飼育環境整備、褥瘡管理						荒川・藤井
5	疾病動物の栄養管理と給餌方法						秋山・藤井
6	飼鳥の取り扱いと臨床検査						秋山・藤井
7	飼鳥の治療補助						秋山・藤井
8	エキゾチックアニマルの取り扱い方法						富田・藤井
9	エキゾチックアニマルの臨床検査および治療補助						富田・藤井
10	皮膚に異常を認める動物の看護						富田・藤井
11	糞便に虫卵・虫体を認める動物の看護						荒川・藤井
12	神経症状を示す動物の看護						秋山・藤井
13	消化器症状（主として嘔吐、下痢）を示す動物の看護						富田・藤井
14	肝臓・胆道系に障害（主として黄疸）を示す動物の看護						荒川・藤井
15	看護総合1						荒川・藤井
16	処方箋と調剤補助						秋山・藤井
17	感染症・伝染性疾患罹患動物の看護						荒川・藤井
18	眼、耳に異常を認める動物の看護						荒川・藤井
19	尿に異常を認める動物の看護						荒川・藤井
20	呼吸、心拍に異常を認める動物の看護						富田・藤井
21	泌尿・生殖器に異常を認める動物の看護						秋山・藤井
22	貧血の鑑別検査・再生・非再生性の貧血を認める（輸血含む）動物の看護						富田・藤井
23	担癌動物の看護						秋山・藤井
24	白血球増多を認める動物の看護						富田・藤井
25	臨床検査総合						秋山・藤井
26	保定法および身体検査総合						荒川・藤井
27	血液化学スクリーニング検査Ⅰ：肝臓・腎臓・膵臓・電解質						富田・藤井
28	血液化学スクリーニング検査Ⅱ：副腎・甲状腺・上皮小体など						富田・藤井
29	看護総合2						荒川・藤井
30	看護総合3						富田・藤井
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
小テストは、基本的に授業内に解答解説を行なう。レポートはコメントして返却、あるいは返却しない場合は総評を行なう。質問は随時個別に受け付ける。							
<b>履修上の注意</b>							
都合により順序を変更することがある。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
1年次動物臨床看護学(基礎)実習配布物を含め、教科書等の該当部分に事前事後に目を通す、ノートにまとめる、など必要に応じて指導する。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度(60%)、レポート(10%)、実技試験、筆記試験(30%)結果を総合的に判断して評価する。							
<b>教科書</b>							
教科書は特に指定しない。毎回実習内容に沿ったプリントを配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
1) 動物看護学テキスト（第2版）谷口明子著、ファームプレス。2) 写真でわかる基礎の動物看護技術ガイド、誠文堂新光社。 3) 臨床動物看護学1、インターズー。4) 新・小動物看護用語辞典、中間賢徳 監修、インターズー							

授業科目	動物臨床看護学（外科）					担当教員	今村 伸一郎
科目英名	Veterinary Technology - Suegery						
開講期間	3年次前期	動物看護学専攻 必修科目2単位	動物人間関係学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕
	到達目標	<p>外科看護に必要な犬や猫が罹患する外科疾患についての概要をつかむとともに、疾患に対してどのような看護が必要となるのか、治療に伴う滅菌消毒、麻酔、モニタリングなどの知識を合わせて理解し、実践するための知識を修得することを到達目標とする。</p>					
講義概要	<p>外科疾患の症例を示しながら解説し、その原因と受傷部位およびその症状を示すとともに、必要な検査方法ならびに外科的治療法、そのための準備内容などについて講義する。各講義では、器官別に重要な疾患を取り上げ、それぞれの疾患を概説するとともに、病態に基づく看護の知識と実践について教授する。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 手術時手洗いと消毒（手術前の手洗いと術野ならびに環境の消毒を解説）</li> <li>2 器具の洗浄ならびに滅菌（手術に使用する器具・機材の洗浄と滅菌を解説）</li> <li>3 犬と猫の麻酔法（犬と猫の麻酔法について解説）</li> <li>4 麻酔モニタリング（麻酔中の心電図やカプノグラムなどによるモニタリングと不整脈を解説）</li> <li>5 循環器疾患と外科的処置（先天性心疾患、後天性心疾患、血栓塞栓症、フィラリア症などについて解説）</li> <li>6 呼吸器疾患と外科的処置（喉頭疾患、鼻腔疾患、短頭種気道症候群などについて解説）</li> <li>7 頭頸部の疾患と外科的処置（外耳炎、耳血腫、頭蓋内疾患などについて解説）</li> <li>8 肝・胆道系・消化管・腎泌尿器の疾患と外科的処置（肝臓疾患、胆嚢疾患、消化器疾患、膀胱結石などについて解説）</li> <li>9 眼科疾患と外科的処置（角膜疾患、緑内障や白内障などについて解説）</li> <li>10 骨の疾患と外科的処置（骨折や成長板早期閉鎖などについて解説）</li> <li>11 関節の疾患と外科的処置（関節炎や脱臼などの疾患などについて解説）</li> <li>12 脊椎疾患と外科的処置（椎間板ヘルニアやウォブラー症候群について解説）</li> <li>13 皮膚・軟部組織ならびに口腔腫瘍疾患と外科的処置（肥満細胞腫、軟部組織肉腫、口腔内腫瘍について解説）</li> <li>14 内分泌ならびに胸腔内腫瘍疾患と外科的処置（甲状腺、副腎、胸腺腫、肺腫瘍などについて解説）</li> <li>15 腹腔内腫瘍疾患と外科的処置（肝臓、消化管、泌尿器、生殖器の腫瘍について解説）</li> </ol>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	<p>試験の模範解答を示したり、質問があった場合は丁寧に対応する。</p>						
履修上の注意	<p>外科看護学を修得する上で、解剖学や生理学等の基礎的知識とともに、内科学や病理学を中心とした疾患の基礎知識を有することが必要不可欠となる。これらの科目について、十分に復習してくることと、それを基本として、新しく学んだ外科学的知識をしっかりと定着させることを心がけてほしい。</p>						
事前・事後学修（予習・復習）の内容	<p>事前学修：各回授業内容に関連する当該教科書の内容について、予習しておくこと          事後学修：毎回授業後、講義資料と教科書の該当箇所を突き合わせ、ノート整理を行うこと</p>						
評価方法（評価基準を含む）	<p>定期試験（70％）と授業への参加度（30％）を総合的に評価する</p>						
教科書	<p>認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学 1、3 インターズー          毎回、資料を配布する</p>						
参考書、教材等	<p>その都度、お知らせする。</p>						

授業科目	動物臨床看護学（外科）実習					担当教員	◎秋山 蘭・尾崎 明恵・ 浴本 涼子
科目英名	Veterinary Technology-Surgery, Student Laboratory						
開講期間	3年次通年	必修科目2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
小動物の外科診断および、治療における基本事項、特に器具、機材、消毒法、滅菌法の手技について実際的な技術が修得できるようにすることである。術前～術後管理まで、麻酔、鎮静、鎮痛に関して修得する。							
講義概要							
術前準備、消毒法、滅菌操作、術中のモニター管理、補助業務、各種医療機器の保守・管理についてより実践的な内容で実習を行う。							
授業計画							担当教員
1	外科手術の術前準備1（術者の手洗い消毒）実習						秋山
2	外科手術の術前準備2（ドレープ準備、滅菌）実習						尾崎
3	外科手術の術前準備3（外科手術用リネンの取扱、滅菌）実習						秋山
4	外科手術の術前準備4（キャップ、マスク、手洗い、ガウン、グローブ装着）実習						尾崎
5	外科手術の術前準備5（術野の消毒法、ドレーピング、小動物の一般身体検査）実習						秋山
6	外科手術の術前準備6（術前の小動物の一般身体検査、生体モニター装置、基本麻酔機器）実習						尾崎
7	外科手術の術前準備7（小動物用一般外科器具、手結び、結紮法、縫合材料、縫合方法）実習						秋山
8	外科手術の術前準備8（小動物用一般外科器具の取扱方）実習						秋山
9	外科手術の術前準備9（麻酔方法、麻酔薬に関する理解）実習						尾崎
10	外科手術の術前準備10（気道確保、気管挿管に関する保定、準備）実習						尾崎
11	X線の防護および実務1（フィルム管理および、関係事務）実習						秋山
12	X線の防護および実務2（撮影のための保定法、ポジショニング）実習						秋山
13	小動物外科手術1（犬・猫の去勢・不妊手術、外科手術における準備の確認）実習						秋山
14	外科総合1						尾崎
15	外科手術関連総合（トピックを選択し、復習をおこなう）実習						尾崎
16	小動物外科手術2（小動物特殊外科器具、電気メスの取扱）実習						尾崎
17	外科手術後管理1（ドレッシング材、包帯法の基本、包帯材の理解）実習						秋山
18	外科手術後管理2（包帯法、腹帯法、外用薬の調剤）実習						秋山
19	小動物歯科1（チャーティング1、歯科器具）実習						秋山
20	小動物歯科2（チャーティング2、スケーリング、ポリッシング）実習						尾崎
21	小動物歯科3（歯科レントゲン撮影、口腔内ケア）実習						尾崎
22	X線の防護および実務3（撮影後の現像、定着、フィルムの管理、特殊レントゲン）実習						秋山
23	個人防護具の取扱（抗がん薬の取扱、個人防護具）実習						秋山
24	超音波診断装置の取扱（原理、保守、管理）実習						秋山
25	内視鏡装置の取扱（基本操作、保守、管理、洗浄法）実習						秋山
26	剖検に関する実務/眼科機器の取扱（剖検の記録の取り方、安全確保/眼科検査）実習						秋山
27	救命救急対応（エマージェントの対応、A B C D）実習						秋山
28	特殊外科疾患（整形外科疾患、リハビリテーション）実習						秋山
29	外科対応の病院受付業務、入院動物の日常管理に関する実習						秋山
30	外科総合2						秋山
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行うこととする。							
履修上の注意							
服装および、衛生面に注意すること。連絡事項に注意すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」							
事後学修「毎授業後、実習資料の内容および実技について復習をしておくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（50%）、課題レポート（10%）、実技試験（10%）、筆記試験（30%）で総合的に評価。							
教科書							
臨床動物看護学1 全国動物保健看護系大学協会カリキュラム検討委員会、インターズー							
参考書、教材等							
小動物獣医看護学 小動物看護の基本と実践ガイド[第3版] 下巻、インターズー							

授業科目	動物臨床看護学（総合）					担当教員	◎本田 三緒子・富田 幸子 小方 宗次
科目英名	Veterinary Technology-Comprehensive						
開講期間	4年次 後期	動物看護学専攻 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
本講義は、3年次までに個々に教授されてきた動物臨床看護関連科目を1つにまとめ、実際の動物看護に必要な知識や考え方を総合的に理解できることを目標とする。							
講義概要							
3年次までに教授された内容を土台に、より専門的に病態、臨床病理、診断、治療、看護を相互に関連づけて総合的に概説する。							
授業計画							担当教員
1	発病の病態生理						本田 三緒子
2	動物看護過程の展開と看護						本田 三緒子
3	外傷性疾患と看護						本田 三緒子
4	若齢および新生仔の看護						富田 幸子
5	感覚器疾患を示す疾患の特徴と看護						小方 宗次
6	皮膚疾患に対する看護						小方 宗次
7	口腔疾患に対する看護						本田 三緒子
8	老齢動物に対する看護						本田 三緒子
9	循環器疾患に対する看護						富田 幸子
10	神経疾患症例に対する看護						小方 宗次
11	消化器症状を示す疾患の特徴と看護						小方 宗次
12	血尿を示す疾患の特徴と看護						富田 幸子
13	貧血を示す疾患の特徴と看護						富田 幸子
14	終末獣医療と看護師の役割						小方 宗次
15	運動器疾患の特徴と看護						本田 三緒子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
要望やメッセージに対しては、その都度回答する。							
履修上の注意							
都合により順序を変更することがある。動物臨床看護学・基礎・内科・外科について十分な理解をもっており、講義の進行状況により前の時間に配付した資料を必要とすることがあるため持参すること							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」							
事後学修「毎授業後、講義資料を復習し、興味ある点を自習により補足すること」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（40%）と学期末試験結果（60%）を総合して評価する。							
教科書							
1) 臨床動物看護学 1 動物内科看護学 動物外科看護学 動物医療コミュニケーション 一般社団法人日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編、インターズー							
2) 疾患別動物看護学ハンドブック：日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科編・緑書房							
参考書、教材等							
1) よく診る犬の疾患・猫の疾患（鈴木立雄、interzoo）、2) 獣医内科学・小動物編（日本獣医内科学アカデミー、文永堂出版）、3) 獣医看護学・上、下巻（山村穂積監訳、チクサン出版社）、小動物の臨床病理学マニュアル（日本獣医臨床病理学会、学窓社）、4) Clinical Textbook for Veterinary Technicians（J. M. Bassert, et. al, Saunders）							

授業科目	動物臨床看護学（総合）実習					担当教員 ◎本田 三緒子・富田 幸子・小方 宗次
科目英名	Veterinary Technology-Comprehensive, Student Laboratory					
開講期間	4年次 後期	動物看護学専攻 選択科目1単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕
<b>到達目標</b>						
本講義は、3年次までに個々に教授された動物看護科目を1つにまとめ、実際の動物看護に必要な知識を総合的に応用し、実践できることを到達目標とする。						
<b>講義概要</b>						
看護に必要な事項を生体の生理機能から解説し、疾病に移行する過程、さらにその患者を内科的あるいは外科的に看護する一つの流れを理解させると同時に、看護の実践に関わる関連項目の必要性について認識させる。						
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>
1	動物看護過程の展開					本田 三緒子
2	内科疾患症例に対する看護－特定疾患症例に対する看護					小方 宗次
3	外科疾患症例に対する看護－特定疾患症例に対する看護					本田 三緒子
4	新生仔の看護					富田 幸子
5	感覚器疾患症例に対する看護					小方 宗次
6	皮膚疾患に対する看護					小方 宗次
7	口腔内疾患に対する看護					本田 三緒子
8	高齢動物の看護					本田 三緒子
9	循環器疾患に対する看護					富田 幸子
10	神経疾患症例に対する看護					小方 宗次
11	消化器疾患に対する看護					小方 宗次
12	泌尿器疾患に対する動物看護					富田 幸子
13	各種モニターに対する看護師の役割					本田 三緒子
14	ターミナルケアと動物看護					小方 宗次
15	リハビリテーションと看護					本田 三緒子
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>						
要望やメッセージに対して、速やかに回答する。						
<b>履修上の注意</b>						
動物臨床看護学・基礎・内科・外科について十分な理解をもっていること。これまでの動物看護に関わる講義の総集としての意味を良く理解すること						
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>						
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」						
事後学修「毎授業後、実習資料の内容と実技について復習をしておくこと」						
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>						
授業への参加度（50%）と学期末筆記試験（50%）により評価する。						
<b>教科書</b>						
1) 臨床動物看護学1 動物内科看護学 動物外科看護学 動物医療コミュニケーション 一般社団法人日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編、インターズー						
2) 疾患別動物看護学ハンドブック：日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科編・緑書房						
<b>参考書、教材等</b>						
1) 山村穂積監修、動物看護学（上・下）、チクサン出版社						
2) 日本動物看護学会（編）、動物看護学（総論・各論）、日本動物看護学会						

授業科目	動物臨床検査学					担当教員	◎岡崎 登志夫 宮井 紗弥香
科目英名	Animal Clinical Examination Study						
開講期間	3年次前期	動物看護学専攻 必修科目 2単位	動物人間関係学専攻 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]
	到達目標						
<p>動物病院では、動物の健康状態を把握したり、診断や治療を適切に行ったりするために、さまざまな臨床検査が実施される。各種検査項目の方法や臨床的意義などの基礎的事項を理解し、検査の目的を知った上で検査を実行し、得られたデータが適切なものであるかどうか、自ら判断できる能力を養う。さらに、動物の症状やその他の臨床検査データなどから、診断に必要な検査データが何であるか、自ら考えながら検査に取り組むことができる。</p>							
講義概要							
<p>動物病院などで実施されるさまざまな種類の臨床検査項目の測定原理や方法、臨床的意義について学修する。さらに、実際に得られたさまざまな臨床検査データから、動物のからだの状態を知るための解析法について学修する。</p>							
授業計画							担当教員
1	動物臨床検査の進歩と現状					岡崎 登志夫	
2	血液の分離と成分（電解質）					岡崎 登志夫	
3	血球と溶血検査					岡崎 登志夫	
4	生化学検査（タンパク質）					岡崎 登志夫	
5	生化学検査（酵素）					岡崎 登志夫	
6	電気泳動					岡崎 登志夫	
7	凝固・線溶検査					岡崎 登志夫	
8	血液型、輸血検査					岡崎 登志夫	
9	尿検査（生化学）					宮井 紗弥香	
10	尿検査（形態学）					宮井 紗弥香	
11	糞便検査					宮井 紗弥香	
12	微生物検査（細菌）					宮井 紗弥香	
13	微生物検査（真菌、ウイルス）					宮井 紗弥香	
14	皮膚、耳垢検査					宮井 紗弥香	
15	遺伝子検査、総まとめ					宮井 紗弥香	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>毎回、前回の授業内容について小テストを実施し、その答について各自で採点し、到達度を自己評価できるようにする。また、解答用紙を回収し、次回、全体の到達度をフィードバックする。</p>							
履修上の注意							
動物生理学や生化学等の基礎科目をきちんと理解しておく。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
各授業回の内容に関連する参考書を事前に読んでおく。							
小テストの結果に基づいて、理解不足の部分について配布プリントを再度見直し、理解を深める。							
評価方法（評価基準を含む）							
試験あるいはレポート、授業への参加度（小テストを含む）から総合的に評価する。それらの割合は、試験あるいはレポート 80%、授業への参加度（小テストを含む） 20%とする。							
教科書							
なし（プリント使用）。							
参考書、教材等							
<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護学教育標準カリキュラム準拠「動物臨床検査学」、インターズー</li> <li>臨床検査学講座（血液検査学、臨床化学検査学、免疫検査学、微生物学/臨床微生物学、臨床検査総論）、医歯薬出版</li> </ul>							

授業科目	動物臨床検査学実習					担当教員 ◎岡崎 登志夫・宮井 紗弥香 荒川 真希
科目英名	Animal Clinical Examination Study-Student Laboratory					
開講期間	3 年次 通年	動物看護学専攻 必修科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]
到達目標						
動物臨床検査学講義で学習したさまざまな検査項目に関する臨床的意義や検査原理を理解した上で、実習を通して、これらの実践的検査技術を身につける。同時に、感染防止に対する意識も高める。						
講義概要						
動物看護師は高度な臨床検査の知識と技術が求められている。このため検査技術の修得のみならず、検査データの解析法や臨床的意義に関する理解を深めながら、基礎から応用まで段階的に修得していく。						
授業計画						担当教員
1 検査機器と器具の基本操作						岡崎・宮井
2 血液形態学的検査 (塗抹と染色)						岡崎・宮井
3 血液形態学的検査 (作製標本の観察および血球の正常・異常像について)						岡崎・宮井
4 血液形態学的検査 (血球計算盤による血球算定)						岡崎・宮井
5 血液形態学的検査 (自動血球算定)						岡崎・宮井
6 免疫学検査 (血液型、フィラリア検査)						岡崎・宮井
7 免疫学的検査 (クロスマッチ)						岡崎・宮井
8 皮膚・耳垢検査						岡崎・宮井
9 尿、糞便の形態学的検査						岡崎・宮井・荒川
10 尿、糞便の生化学的検査						岡崎・宮井・荒川
11 血漿分離、血色素濃度検査						岡崎・宮井
12 血漿総タンパク質濃度検査						岡崎・宮井
13 血漿タンパク質およびリポタンパク質分画検査						岡崎・宮井
14 血糖検査						岡崎・宮井
15 血漿酵素活性検査およびドライケミストリー法						岡崎・宮井
16 免疫学的検査 (ELISA 法)						岡崎・宮井
17 免疫学的検査 (二重免疫拡散法)						岡崎・宮井
18 DNA 抽出および遺伝子検査						岡崎・宮井
19 微生物検査 1 (無菌操作、培地作製～細菌、真菌培養法)微生物検査						宮井
20 微生物検査 2 (細菌の鑑別、同定検査および薬剤感受性試験)						宮井
21 微生物検査 3 (真菌検査およびウイルス検査)						宮井
22 細胞診および病理組織検査						宮井
23 臨床における細胞診：性周期とイヌの膣スミア検査						宮井・小山田
24 臨床における血液検査 1：CBCとフィラリア検査						宮井・小山田
25 臨床における血液検査 2：生化学検査						宮井・小山田
26 臨床における血液検査 3：骨髓検査と病理組織検査						宮井・小山田
27 臨床における尿検査：尿円柱の意義						荒川・小山田
28 臨床における糞便検査						荒川
29 寄生虫検査(内部・外部寄生虫)						宮井
30 動物臨床検査の総まとめ						宮井・荒川
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック						
フィードバックとして、毎回課題レポートを課し、完成度をチェックするとともに、単元終了後に回収し、実習担当者がチェックする。						
履修上の注意						
予め、各検査の臨床的意義や手技について確認をしてから実習に臨むこと。						
事前・事後学修 (予習・復習) の内容						
毎回、予め実習書の手順を熟読理解しておくこと。						
毎回、実習に関連する課題レポートを課し、完成させて次週に提出すること。						
評価方法 (評価基準を含む)						
実習への出席は原則であり、実習への参加度 (50%)、実習レポート (25%)、筆記試験 (25%) で総合的に評価する。						
教科書						
なし (プリント使用)。						
参考書、教材等						
・動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野「動物臨床検査学」、インターズー						
・臨床検査学講座 (血液検査学、臨床化学検査学、免疫検査学、微生物学/臨床微生物学、臨床検査総論)、 医歯薬出版						

授業科目	特殊検査					担当教員	◎岡崎 登志夫・ 宮井 紗弥香
科目英名	Specific Examination						
開講期間	4年次 後期	動物看護学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>高度医療、特に高齢動物医療に関連して、さまざまな特殊検査が動物医療現場に導入されており、動物看護領域の専門家にふさわしい特殊検査に関する現状を理解し、その方法や原理、サンプルの取り扱い方、特殊検査機器の構造や操作法、特殊検査データの解釈の仕方など専門的知識を身につけさせる。</p>							
講義概要							
<p>近年、動物医療に導入されつつある特殊検査に関して、その種類や原理、方法について学修する。特殊検査の多くは、難病の診断や治療のために、一般検査のあとになされるものであるため、一般検査データと特殊検査データとの関連や検査の流れを理解する事が重要である。さらに、難病の診断治療には、将来さらに新しい特殊検査が導入されることが予想されるため、現在の特殊検査の臨床的意義やその測定原理を学習すると同時に、動物看護師としていかに高度医療に貢献していくか考えさせる。最後に、特に核医学検査の基礎と実践応用に関しても学修する。</p>							
授業計画							担当教員
1	異常データの見つけ方と対処法 一般検査から特殊検査へ						岡崎 登志夫
2	電気泳動法による異常タンパク質の発見と解析法						岡崎 登志夫
3	クロマトグラフィーによる特殊検査						岡崎 登志夫
4	酵素活性異常の臨床病理						岡崎 登志夫
5	異常データの病態解析と特殊検査						岡崎 登志夫
6	生化学検査						宮井 紗弥香
7	遺伝子解析による微生物同定						宮井 紗弥香
8	遺伝病と遺伝子検査						宮井 紗弥香
9	貯留液や膈スミアの細胞診検査						宮井 紗弥香
10	特殊染色による病理組織検査						宮井 紗弥香
11	ホルモン検査						岡崎 登志夫
12	糖尿病検査						岡崎 登志夫
13	内視鏡による画像検査について(ゲストスピーカー)						岡崎 登志夫
14	核医学検査Ⅰ：核医学検査の歴史と検査に関する基礎知識について(ゲストスピーカー)						岡崎 登志夫
15	核医学検査Ⅱ：看護の基礎知識について(ゲストスピーカー)						岡崎 登志夫
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>毎回、前回の授業内容について小テストを実施し、その答について教員または各自で採点し、到達度を自己評価できるようにする。また、解答用紙を回収し、次回、全体の到達度をフィードバックする。</p>							
履修上の注意							
<p>これまで学修した一般検査の概要を理解し講義に臨むこと。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>各授業回の内容に関連する参考書を事前に読んでおく。 理解不足の部分について配布プリントを再度見直し、理解を深める。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>動物臨床検査の各特殊検査項目の測定原理や臨床的意義、および各検査データの変動と病態との関連に関する理解度を設問型試験（70%）およびレポート（30%）で評価する。</p>							
教科書							
なし（プリント使用）。							
参考書、教材等							

授業科目	動物医療機器					担当教員	鈴木 友子
科目英名	Equipment Theory for Veterinary Medicine						
開講期間	2年次 後期	動物看護学専攻 必修科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
<p>診断、検査、治療および予防に利用される動物医療機器はますます高度化しており、動物医療従事者である動物看護師が様々な医療機器に対して、原理や仕組みを理解し、使用方法を身につけておく必要があり、複雑かつ精密な機器類の点検管理を実行することも要求されている。これらを踏まえ、法令遵守のもと適性かつ安全に、種々の動物医療機器を取り扱えるようになる。</p>							
講義概要							
<p>実際に動物医療の現場で使用されている主な機器類を紹介するだけでなく、具体的に学内の機器類を例に挙げ、使用前の準備から基本的な操作方法および使用後の片付け等一連の作業も学ぶとともに、他の授業や実習とも関連付けながら、動物医療機器の取り扱いにおける動物看護師の役割も考える。</p>							
授業計画							
1	総論（医療機器と医療安全について）						
2	滅菌・消毒に関する機器類について						
3	体温計・血圧計について						
4	循環器に関する機器類について						
5	呼吸器に関する機器類について						
6	モニター機器について						
7	麻酔機器について						
8	手術用機器について						
9	電気メス・レーザーについて						
10	超音波診断装置について						
11	内視鏡について						
12	歯科機器について						
13	眼科機器について						
14	医療廃棄物の取り扱いについて						
15	まとめ						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
レポート等にコメントを返す。							
履修上の注意							
医療機器の取り扱いには注意事項等を守り、丁寧に扱うこと。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修：授業の内容に関する教科書等を読む。							
事後学修：授業の資料等を見返し、ノート等にまとめる。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（30%）、定期試験等（70%）の総合評価							
教科書							
医療機器と検査・治療のしくみ 八幡勝也、木村憲洋 日本実業出版社 基礎と臨床がつながるバイタルサイン 藤野智子 学研							
参考書、教材等							
プリント、ポイントノート							

授業科目	動物口腔ケア論					担当教員	鈴木 友子
科目英名	Veterinary Oral Care						
開講期間	3年次 前期	動物看護学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
動物における予防歯科学的観点から、動物医療において行われる口腔ケアの知識を修得する。							
講義概要							
動物の口腔の形態や機能を学んだうえで、主に犬猫の口腔疾患について解説するとともに、歯周病の治療法や予防法に関わる器具や機材の種類や準備、使用方法等、動物医療における口腔ケアの方法について講義する。 また、動物の口腔ケアにおける動物看護師の役割も考える。							
授業計画							
1	動物口腔ケアにおける動物看護師の役割						
2	動物の口腔および歯の形態と機能						
3	歯の組織構造						
4	歯周組織						
5	動物とヒトの比較歯科医学						
6	動物に認められる歯および口腔の疾患						
7	動物の歯科治療および歯科予防処置						
8	動物の歯科治療と歯科生体材料						
9	歯周病（歯肉炎および歯周炎）						
10	動物口腔ケアの種類と方法						
11	動物口腔ケアの種類と方法						
12	スケーリングの手技と手順						
13	歯ブラシと歯みがき（ブラッシング）						
14	動物口腔ケアの問題点						
15	まとめ						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
レポート等にコメントを返す。							
履修上の注意							
口腔の構造（形態学、組織学）や機能（生理学）を十分に理解したうえで受講すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習：授業の内容に関する教科書等を読む。							
事後学習：授業の資料等を見返し、ノート等にまとめる。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（30%）、定期試験等（70%）の総合評価							
教科書							
犬の予防歯科学 第2版 第1刷 林一彦 山水書房							
参考書、教材等							
プリント							

授業科目	動物口腔ケア実習					担当教員	鈴木 友子
科目英名	Practice of Veterinary Oral Care						
開講期間	3年次 後期	動物看護学専攻 選択科目1単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
動物における予防歯科学的観点から、動物医療において行われる口腔ケアの知識および実技を修得する。							
講義概要							
<p>「動物口腔ケア論」に基づき、動物の口腔の形態や機能について、標本の観察等で知識を深め、主に犬猫の歯周病の治療法や予防法に関わる器具や器材機材の準備から使用方法、片付けおよびメンテナンスまで、実際の手技や手順も学びながら、動物医療における口腔ケアについて実習する。</p> <p>また、口腔ケアの飼い主指導も考える。</p>							
授業計画							
1	オリエンテーション						
2	犬・猫の歯列および顎骨の観察						
3	動物口腔ケアの種類と方法						
4	歯ブラシと歯みがき（ブラッシング）						
5	スタディモデルの作製（石膏円柱）						
6	歯の印象採得、スタディモデルの作製（歯型）						
7	歯周病予防に使用する器具・機材および使用方法						
8	マニュアルスケーラーの構造および使用方法						
9	超音波スケーラーの構造および使用方法						
10	歯周病予防に使用する器具・機材						
11	歯周病予防の手技、手順						
12	Professional Mechanical Tooth Cleaning (PMTTC)						
13	歯科治療に使用される器具・機材						
14	歯科生体材料の使用法						
15	総合実習（まとめ）						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
スケッチブック等にコメントを返す。							
履修上の注意							
実習は授業で学んだことを実際に体得する教科である。理論に基づいて、実技・演習を行い実際に経験することにより理解度を深めることが重要である。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習：実習の内容に関する教科書を読むとともに、「動物口腔ケア論」の復習をする。							
事後学習：実習の内容をスケッチブック等にまとめる。							
評価方法（評価基準を含む）							
実習への参加度等（50%）、実習試験（50%）の総合評価							
教科書							
犬の予防歯科学 第2版 第1刷 林 一彦 山水書房							
参考書、教材等							
各自、スケッチブック（A4）を用意する。							

授業科目	ヒトと動物の共通感染症					担当教員	関谷 順一
科目英名	Zoonosis						
開講期間	3 年次 後期	動物看護学専攻	動物人間関係学専攻	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]
		必修科目 2 単位	選択科目 2 単位				
到達目標							
<p>人獣共通感染症は、人類の歴史とともに古くから存在していると思われるが、特に近年産業動物、伴侶動物、野生動物とのかかわりが深くなり、それに伴い動物の持つ病原体と接触する機会も増加している。ヒトと動物の共通感染症はウイルス、細菌、真菌、寄生虫、プリオンまで多岐にわたり、それぞれの病因、疫学、診断、治療及び予防について理解し、発生時に対処できるように理解を深めることを目標にする。</p>							
講義概要							
<p>総論ではヒトと動物の共通感染症の定義、種類と疫学などを学ぶと共に、環境の変化やグローバル化に伴って危惧されている新興・再興感染症についても解説する。各論ではウイルス、リッケチア、細菌、真菌、寄生虫（原虫、蠕虫、衛生害虫）、プリオンによるヒトと動物の共通感染症について、病因、感染様式、疫学、診断、治療及び予防について講義を展開する。また、動物だけではなくヒトの症状や予防などについても医学的見地から講義を進めていく。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論：ヒトと動物の共通感染症の定義、種類及び新興・再興感染症について</li> <li>2 ウイルス：狂犬病（ビデオ）、ハンタウイルス感染症、Bウイルス感染症など</li> <li>3 ウイルス：日本脳炎、黄熱、動物由来インフルエンザ、ウエストナイル熱など</li> <li>4 ウイルス：エボラ出血熱（ビデオ）、E型肝炎ウイルスなど</li> <li>5 ウイルス：マールブルグ病、ラッサ熱、SARS、MERS、プリオン病など</li> <li>6 細菌：炭疽、ペスト、結核、パスツレラ症、サルモネラ症など</li> <li>7 細菌：カンピロバクター症、レプトスピラ症、ライム病、豚丹毒など</li> <li>8 細菌：鼠咬症、野兎病、ブルセラ症など</li> <li>9 真菌、リケッチャなど：恙虫病、オウム病、猫ひっかき病、クリプトコックス症、アスペルギルス症など</li> <li>10 寄生原虫類：トキソプラズマ症、トリパノソーマ症、リーシュマニア症など</li> <li>11 線虫類：トキソカラ症、広東住血線虫症、犬糸状虫症など</li> <li>12 吸虫類：肺吸虫症、横川吸虫症、住血吸虫症など</li> <li>13 条虫類：包虫症（エキノコックス症）、有・無鉤条虫症、マンソン孤虫症など</li> <li>14 ヒトと動物の共通感染症を媒介する衛生動物：蚊、ノミ、ダニ類など</li> <li>15 ヒトと動物の共通感染症の防疫、検査及び発生したときの対策と届け出</li> </ol>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>試験の答案用紙は原則返却しないが、質問には応じる。また、レポートについても答案用紙と同様の扱いとするが、必要に応じて返却をする。</p>							
履修上の注意							
<p>寄生虫学、微生物学を履修しておくとう理解しやすい。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>基本的に講義の数日前に授業に係る資料（プリント等）を開示するので予習を行い、復習は当該資料と教科書とで必ずノートを作成すること。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業への参加度（30%）レポート提出（20%）と期末試験（50%）で評価する。</p>							
教科書							
<p>専門基礎分野 動物微生物学・動物感染症学、必要に応じて資料を配布する。</p>							
参考書、教材等							
<p>神山著 これだけは知っておきたい人獣共通感染 地人書館 岡部著 感染症から身を守る本 KAWADE 夢新書</p>							

授業科目	動物公衆衛生学					担当教員	植田 富貴子
科目英名	Animal Public Health						
開講期間	2年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>公衆衛生学とは人の疾病を予防し、身体的、精神的機能の増進をはかるための学問であり、動物衛生学とは異なる。しかし動物の健康と人の健康との間には密接な関係が存在する場合が少なくない。動物看護師は動物、飼い主、獣医師の三者を繋ぐ役割を果たしている。従って、動物看護の公衆衛生では動物と共存する人の健康を保持するために、動物の疾病と人の疾病との関連性を学び修得することを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>人を対象とした公衆衛生と動物を対象とした動物衛生が異なる部分と重複する部分、および人の健康が人の生活環境や動物の生存環境とどのように関連してきたのかを、公衆衛生および動物衛生の歴史と現状から解説する。また、公衆衛生の実践手段としての疫学および関連法規に関して概説する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公衆衛生概論 (食品衛生・人獣共通感染症・環境衛生における歴史、国民衛生の動向)</li> <li>2 動物衛生概論 (公衆衛生と動物衛生の違い、動物衛生の歴史と現状)</li> <li>3 公衆衛生学と動物との関わり合いの歴史 (疾病、動物愛護、動物福祉、動物介在療法)</li> <li>4 疫学と疾病予防 I (疫学の分類、疫学特性; 発生頻度、分布、関連情報など)</li> <li>5 疫学と疾病予防 II (流行と予防、感染症と非感染症、サーベイランス)</li> <li>6 食品の衛生 (HACCP、危害要因、食品添加物と安全性、衛生害虫、衛生動物)</li> <li>7 食品由来の疾病 I (食中毒、食品・水媒介感染症、アレルギー)</li> <li>8 食品由来の疾病 II (化学物質による中毒; 意図的混入と非意図的混入)</li> <li>9 食品の衛生IV (農薬の残留、飼料添加物・治療薬の残留、ポジティブリスト制度)</li> <li>10 環境衛生 I (地球環境問題の歴史と現状)</li> <li>11 環境衛生 II (地域環境問題 (公害) の歴史と現状、典型 7 公害)</li> <li>12 環境衛生 III (上水・下水の衛生、大気・土壌の汚染)</li> <li>13 環境衛生IV (廃棄物、放射性物質による汚染、その他の問題)</li> <li>14 関連法規 I (獣医事・公衆衛生・家畜衛生・薬事・環境に係わる行政法規)</li> <li>15 公衆衛生の最近の動向と問題 (薬剤耐性菌など)</li> </ol>							
* カッコ内キーワード							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
採点内容をまとめて問題点を伝える。							
履修上の注意							
講義のポイント、注意点をノートなどに自ら手書きすること							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
講義前にキーワードで内容の概要を予習し、講義後ポイントを整理すること。							
評価方法 (評価基準を含む)							
定期試験 70%、授業への参加度 30%により評価する。							
教科書							
「認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 2 公衆衛生学 動物医療関連法規 一般社団法人 日本動物保険看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 interzoo 社							
参考書、教材等							
「動物公衆衛生学」全国動物保健看護系大学協会編、株式会社インターズー							

授業科目	動物生化学					担当教員	小黑 美枝子
科目英名	Animal Biochemistry						
開講期間	2年次 前期	動物看護学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
<b>到達目標</b>							
<p>生化学は化学、栄養学、生理学などと大きく関連しており、生命現象を化学の側面から学ぶ学問である。動物の生体はさまざまな物質から構成され、各々の物質が独自にあるいは相互に作用しながら生理機能を営んでいる。動物の生体物質の構造と機能を理解するのは重要なことである。動物看護学科における生化学は、生命現象の普遍的な法則性を組織、細胞、さらには分子のレベルで理解する知識を修得すること、また、他の教科の生化学的理解を助けることができるような知識を修得することを到達目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>生物や基本単位の細胞を動かしているさまざまな生体システムを理解する必要がある。動物細胞におけるさまざまな代謝、つまり、細胞内における合成と分解反応である。本講義では、糖質代謝、脂質代謝、蛋白質アミノ酸代謝、核酸の代謝を中心に物質およびエネルギーの代謝、代謝を円滑に行うための生体触媒である酵素の性質を学ぶ。また、遺伝情報に基づいて合成されるペプチドや蛋白質、従って、核酸の構造とその生物学的機能についても学ぶ。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生化学の概説、生化学の目的および、生命科学や動物看護学における位置付け</li> <li>2 細胞成分の構造、細胞膜、細胞核、ミトコンドリア、小胞体、細胞骨格などの構造と機能</li> <li>3 身体の構成材料と消化</li> <li>4 アミノ酸、蛋白質の化学 アミノ酸、蛋白質の構造</li> <li>5 アミノ酸、蛋白質の代謝 蛋白質の消化と吸収、アミノ酸の出入り、蛋白質の動的平衡</li> <li>6 アミノ酸、蛋白質代謝 アミノ酸の代謝と合成される生理活性物質、アミノ酸から含窒素化合物の合成</li> <li>7 酵素の性質、酵素の特性</li> <li>8 酵素の性質、酵素の反応速度、補酵素とビタミン</li> <li>9 糖質の化学 糖質の構造</li> <li>10 糖質の代謝 糖質の消化と吸収、血糖、糖代謝</li> <li>11 クエン酸回路と電子伝達酸化系的リン酸化系 エネルギー代謝をクエン酸回路、電子伝達酸化系的リン酸化系</li> <li>12 脂質の化学 多様な脂質の構造、脂肪酸</li> <li>13 脂質の代謝 脂質の消化と吸収、血液による脂質の運搬、トリアシルグリセロール代謝</li> <li>14 核酸の構造 (ヌクレオチド、DNA と RNA ) 遺伝情報の流れ DNA 複製、RNA、蛋白質の生合成</li> <li>15 まとめ、確認テスト</li> </ol>							
<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>							
試験や小テスト、質問の解説を授業内で行いフィードバックする。							
<b>履修上の注意</b>							
<p>化学、生物の基礎的知識を復習しておいてもらいたい。 基礎生化学 (1年次) を選択することが望ましい。</p>							
<b>事前・事後学修 (予習・復習) の内容</b>							
<p>事前学修 「事前に、教科書の関連する項目内容を読んで理解を深めておくこと。」 事後学修 「講義内容を講義ノートにまとめ、疑問点については講義中の提出課題などを利用して質問する。」</p>							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
定期試験 (60%)、および授業時間中に実施する小テスト、授業への参加度 (40%) に基づいて総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
栄養科学 イラストレイテッド生化学 羊土社							
<b>参考書、教材等</b>							
獣医生化学 文永堂出版、大学生物学の教科書 第1巻 Blue Backs、ビギナーのための生物化学 三共出版							

授業科目	微生物学					担当教員	梅村 隆志
科目英名	Microbiology						
開講期間	3 年次 前期	動物看護学専攻 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>微生物とは何か、細菌、真菌、ウイルスなどの特徴を知るだけでなく、衛生学にもつなげるべく、病原微生物による感染の成り立ちを把握し、様々な感染症を予防するためにどのような対策が実際になされているのかを知り、また、臨床において重要な消毒や滅菌方法も学び、微生物コントロールに対する動物看護師の役割も考えることができるようになる。</p>							
講義概要							
<p>微生物学は、動物看護の様々な臨床場面における医療行為の科学的根拠を理解するために必要な学問領域である。本講義では、細菌・真菌・原虫・ウイルスについて、その基本的な特性を解説し、感染とは何かの理解を深める。また、それを予防するための免疫療法や消毒・滅菌方法について解説する。授業は、教科書を中心に必要に応じて参考書の内容を加えながら進める。</p>							
授業計画							
1	はじめに						
2	微生物とは（微生物の生物界における位置・病原微生物とは）						
3	感染と発症（感染症の経過・感染症の種類）						
4	感染の成り立ち（感染源・感染経路・感染防御能）						
5	細菌① 細菌の性状・構造（細菌の大きさ・細菌の基本構造・細菌の特殊構造）						
6	細菌② 細菌の観察・増殖（染色法・細菌の栄養素・細菌の培養）						
7	細菌③ 細菌の分類（グラム陽性球菌・桿菌、グラム陰性球菌・桿菌、その他）						
8	真菌（真菌の形態・真菌の増殖様式・真菌の分類）						
9	原虫（原虫の形態・原虫の分類）						
10	ウイルス① ウイルスの性状（ウイルスの形態と構造・ウイルスの分類・ウイルスの増殖）						
11	ウイルス② ウイルス感染の予防法（ワクチン）						
12	化学療法・各種動物の感染症（抗菌剤・薬剤耐性、犬猫鳥兎猿の感染症）						
13	洗浄、消毒、滅菌（消毒方法・消毒剤の種類と特徴・滅菌方法・院内感染とその対策）						
14	感染症の診断（病原微生物の分離と同定・血清免疫学診断）						
15	感染症の予防と防疫						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
提出されたレポートに関して、後日、評価基準の説明を行う予定である。							
履修上の注意							
微生物学の講義の前に、細菌・ウイルスの生物界での位置づけ、生態、形態学的な特徴を理解しておくこと。また、微生物学は生物学、生理・生化学および免疫学などがベースとなるので、2年生までの授業を履修しておくこと。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
シラバスを参考に事前に基礎知識の収集に努めること。授業中に示された資料に基づきノートをまとめ、図書館等を利用して知識の上積みに努めること。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（20%）、定期試験（60%）、レポート提出（20%）での総合評価							
教科書							
動物看護のための小動物衛生学 著者/岡本有史 ファームプレス							
参考書、教材等							
獣医微生物学 第2版 監修/見上彪 文永堂出版							

授業科目	血液学					担当教員	岡崎 登志夫
科目英名	Hematology						
開講期間	3年次 後期	動物看護学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
動物血液の成分や血球の特徴、その機能や役割を学修し、血液データと疾病とのかかわり、血液データ変動の臨床的意義などについて理解を深め、これら血液に関する科学的知識を基礎として適切な動物看護の意義、役割が理解できる。							
講義概要							
血液に対する人々の認識の歴史的変遷や動物血液の起源やその特徴について学修し、血液を構成する血漿成分や血球の種類と役割、血液凝固と線溶などの果たす役割やそのメカニズムを理解する。これら血液に関する基礎的理解のうえに、疾患と血液データ変動の関係について学修し、診断の根拠について明らかにする。							
授業計画							
1	血液に関する認識の歴史的変遷やさまざまな動物の血液の起源と特徴						
2	血液の循環						
3	血液の成分：血漿蛋白質成分の種類と役割						
4	血液の成分：血液細胞の種類と役割						
5	赤血球形態の特徴と赤血球の成熟過程						
6	赤血球成分・ヘモグロビンの構造、代謝、機能						
7	白血球形態の特徴と白血球の成熟過程						
8	白血球の機能、白血球の血管壁への接着機構・セレクチンとセレクチンリガンド						
9	白血球の免疫機能						
10	血小板形態の特徴と血小板の成熟過程						
11	血栓形成と血液凝固、線溶のメカニズム						
12	血液疾患と血液学の進歩						
13	貧血の原因と診断						
14	白血病の原因と診断						
15	血小板異常と凝固異常						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
毎回、前回の授業内容について小テストを実施し、その答について各自で採点し、到達度を自己評価できるようにする。また、解答用紙を回収し、次回、全体の到達度をフィードバックする。							
履修上の注意							
血液は各臓器や組織を結びつけるターミナルの役割を担っており、生理学や解剖学や検査学などの基礎的知識が必要である。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
各授業回の内容に関連する参考書を事前に読んでおく。 小テストの結果に基づいて、理解不足の部分について配布プリントを再度見直し、理解を深める。							
評価方法（評価基準を含む）							
試験あるいはレポート（80%）、授業への参加度（20%）から総合的に評価する。							
教科書							
なし。教材は講義ごとにプリントを配布する。							
参考書、教材等							
<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野「動物臨床検査学」、インターズー</li> <li>臨床検査学講座（血液検査学、臨床化学検査学、免疫検査学、微生物学/臨床微生物学、臨床検査総論）、医歯薬出版</li> </ul>							

授業科目	寄生虫学						担当教員	内田 明彦
科目英名	Parasitology							
開講期間	3 年次 前期	動物看護学専攻	動物人間関係学専攻	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
		必修科目 2 単位	選択科目 2 単位					
到達目標								
<p>身近なコンパニオンアニマルの寄生虫学および衛生動物学で扱われる生物を中心に、その形態、生態、発育環、症状、診断（検査法）、治療、予防、さらに疾病の発生機序などについて修得し、寄生虫学や衛生動物の知識や技術を身につけ、動物看護の分野で適切な対策を提言・実践できる人材となることを教育目標にする。</p>								
講義概要								
<p>寄生虫学（parasitology）は、体内外に寄生する寄生虫を対象とする学問である。その中でコンパニオンアニマルに寄生する寄生虫（蚊、シラミ、ノミ、ダニなどの衛生動物も含む）を扱い、それらの形態、生態、症状、診断、予防法などを中心に講義を行う。</p>								
授業計画								
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論（1）（寄生虫とは、寄生虫と宿主の関係、寄生虫の生活史）</li> <li>2 総論（2）（寄生虫の感染経路、寄生部位と病害作用、寄生虫と免疫）</li> <li>3 原虫類の概要</li> <li>4 原虫（トリパノソーマ、トキソプラズマ、ランブル鞭毛虫、アメーバ、トリコモナス等）</li> <li>5 蠕虫類の概要</li> <li>6 吸虫（総説、肝吸虫、肺吸虫、住血吸虫等）</li> <li>7 条虫（総説、裂頭条虫、包虫、囊虫等）</li> <li>8 線虫（総説、回虫、鞭虫、鉤虫、糸状虫等）</li> <li>9 イヌ、ネコの寄生虫（バベシア、イヌネコ回虫、瓜実条虫、イヌ糸状虫等）</li> <li>10 ウサギ等ペットおよびエキゾチックアニマルの寄生虫</li> <li>11 人獣共通寄生虫症（クリプトスポリジウム、アメーバ赤痢、幼虫移行症、有鉤条虫、疥癬等）</li> <li>12 衛生動物（蚊、ハエ、ノミ、シラミ等）</li> <li>13 衛生動物（ダニ、ネズミ）</li> <li>14 寄生虫検査法</li> <li>15 寄生虫症の疫学と予防</li> </ol>								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
<p>試験の答案用紙は原則返却はしないが、質問には応じる。またレポートについても答案用紙と同様の扱いとするが、必要に応じて返却をする。</p>								
履修上の注意								
<p>基礎的な内容があるので生物学、生化学、免疫学などの勉強をしておくこと講義が理解しやすい。</p>								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
<p>シラバスに当日の講義内容が示されているので予習をすること、また復習についても必ず講義の後まとめたノート作りをする。</p>								
評価方法（評価基準を含む）								
<p>レポート・授業への参加度での評価（30%）と、学期末の定期試験の成績（70%）により評価する。</p>								
教科書								
日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会 編 小野文子 監修 動物感染学 インターズ								
参考書、教材等								
内田明彦・黄鴻堅 図説獣医寄生虫学 改訂第3版（Mac/Win 対応 CD-ROM）メディカグローブ								

授業科目	小動物放射線学					担当教員	根本 有希
科目英名	Small Animal Radiology						
開講期間	3年次 前期	動物看護学専攻 必修科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
放射線の一つであるエックス線を用いたレントゲン撮影やCT検査は、獣医療分野においても有用な検査手段となっている。動物看護師は、獣医師の補助という形で撮影現場に立ち会う機会が多く、正確に、また安全に作業を行うためには放射線の特性を理解する必要がある。本講義では、エックス線についての基本的な知識と獣医療の現場で多用される検査技術について理解することを目的に教授する。							
講義概要							
放射線についての基本的な性質を学び、診断に適したレントゲン写真を撮影するため、その原理や、諸条件が写真に及ぼす影響について学ぶ。同時に、放射線取扱者として安全に作業するため、放射線が生体に及ぼす影響、また効果的な被ばく量減少の方法について学ぶ。基本的知識を身につけた上で現在多様化している放射線を使用した診断・治療装置の扱い方をメンテナンスも含め学ぶ。学生の興味・持続・学ぶ目的の明確化をはかるため、多数の実症例・動画を交えて学ぶ。							
授業計画							
1	レントゲン写真の原理 I：日常、獣医医療における放射線と一般的な性質						
2	レントゲン写真の原理 II：放射線照射により被写体が可視像になる理由						
3	レントゲン写真の原理 III：良いレントゲン写真（診断に適した）の条件						
4	撮影技術 I：撮影に用いる道具の基本構造と機能・取り扱い上の注意点						
5	撮影技術 II：撮影条件、現像法：方法とその利点と欠点						
6	撮影技術 III：撮影条件—保定法—正しい保定法と不適切な保定法の実例						
7	撮影技術 IV：造影法—造影剤、陽性造影、陰性造影、二重造影						
8	読影基礎：検査の実際						
9	読影基礎：正常と症例						
10	生体に及ぼす影響 I：放射線従事者の安全管理、関連法規						
11	生体に及ぼす影響 II：放射線生物学（放射線防護、被ばくについて）						
12	生体に及ぼす影響 III：放射線生物学（臓器における感受性の違い）						
13	CT検査の基礎と実際						
14	核医学						
15	腫瘍に対する放射線治療						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
レポートは個別でコメントしないが総評を行なう。授業内のテストは解答解説する。質問は随時受け付ける。							
履修上の注意							
特に無し							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
配布物等含等の該当部分に事前事後に目を通す・ノートにまとめるなど、必要に応じて指導する。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加の程度（20%）、課題レポートおよび定期試験（80%）により総合的に評価する。							
教科書							
配布プリント							
参考書、教材等							
獣医臨床X線と超音波の撮影技術マニュアル（インターズー） 実症例のレントゲン写真や作業手順の動画を多数使用							

授業科目	動物臨床繁殖学					担当教員	関谷 順一
科目英名	Theriogenology						
開講期間	3年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
<p>繁殖が順調に行われなければ、動物の種あるいは品種は維持できない。繁殖は生命にとって根幹な事象である。動物臨床繁殖学では繁殖の基礎的部分と、繁殖の実際や繁殖の病的な状態について総合的に理解を深めることを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>繁殖学の分野は、動物機能形態学や動物生理学の授業で一部紹介されるが、この講義ではさらに深く掘り下げて紹介する。また、動物、特に伴侶動物の臨床で実際に、動物病院のなかで遭遇する様々な疾患や、治療、また飼い主への対応も含め、現場で働く一次診療の臨床医という視点から、今後動物病院に就職を目指す学生諸君への生の声を、具体的に伝える講義を行っていく。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 雌性・雄性生殖器の構造と機能</li> <li>2 卵子と精子の構造 受精</li> <li>3 繁殖に関与する内分泌</li> <li>4 性成熟・性周期</li> <li>5 妊娠・発生・胎盤</li> <li>6 分娩・性決定・性行動 鳥類の生殖</li> <li>7 乳腺と泌乳</li> <li>8 人工授精と受精卵移植</li> <li>9 避妊、去勢手術について</li> <li>10 雄性生殖器の疾患</li> <li>11 雌性生殖器の疾患</li> <li>12 乳腺の疾患（各疾患や手術について）</li> <li>13 分娩、帝王切開の実際</li> <li>14 動物病院におけるVTの役割</li> <li>15 臨床現場で活躍されている動物看護師からの情報提供</li> </ol>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
試験終了後に正解を公開する。							
履修上の注意							
3年次前期までの諸授業の中に登場する動物の繁殖に関わる事項を理解しておいてほしい。また授業に意欲をもって臨んでほしい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
各回のおおよその講義内容を示してあるので、事前には、これまで学んだ関連科目のところから復習を行うこと。事後には授業時の資料を丹念に読み返すこと。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（40％）と定期試験（60％）により評価する。							
教科書							
基礎動物看護学① 動物形態機能学・動物繁殖学（「動物形態機能学」の科目でも使用）							
参考書、教材等							
必要に応じて、授業時に資料を配付する。							

授業科目	小動物栄養学						担当教員	◎大島 誠之助・ 荒木 幸子
科目英名	Small Animal Nutrition							
開講期間	2年次 前期	動物看護学 専攻必修科目 2単位	動物人間関係学 専攻選択科目 2単位	授業 形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標								
<p>本講義では、学生が主に犬と猫の栄養について考えるよう工夫する。犬と猫は同じ食肉目に属するが、犬は長い進化の過程と人間との共生によって雑食化は多面的に進んだ。一方、家畜化の歴史が浅い猫は、現在まで厳格な肉食性を維持している。つまり犬と猫の栄養を学ぶことは雑食動物と肉食動物の栄養を学ぶことでもあるが、伴侶動物には兎やハムスターのような草食動物もいる。そこで、本講義では単に犬や猫に留まらず、広範な食性の動物の普遍的知識を学生が涵養できることを到達目標とする。</p>								
講義概要								
<p>栄養とは新陳代謝、即ち古いものと新しいものを置き換える営みである。古いものとは老廃物、新しいものとは栄養素であるが、本講義では栄養素に関する基本的な問題と、犬・猫に栄養素を供給する食餌について勉強する。更に、水やエネルギーは栄養素ではないが、栄養素以上に重要といえる。そこで、前半では五大栄養素について解説し、後半は水とエネルギーの重要性、およびペットフードの栄養価や安全性に関する問題について講義していく。その中で、エネルギー要求量は、過少、過剰は消瘦や肥満と関係するので、ボディコンディションスコア、強制給餌法、経管・経静脈栄養法なども触れる予定。</p>								
授業計画							担当教員	
1	栄養学の歴史						大島 誠之助	
2	栄養素とその働き：炭水化物（単糖類、少糖類、多糖類、食物繊維、動物性多糖）						大島 誠之助	
3	栄養素とその働き：脂肪と脂肪酸（飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、必須脂肪酸）						荒木 幸子	
4	栄養素とその働き：機能的脂質（複合脂質、エイコサノイド、ステロイド、プロビタミン）						大島 誠之助	
5	栄養素とその働き：アミノ酸（種類と分類、必須アミノ酸、準必須アミノ酸、生体アミン）						大島 誠之助	
6	栄養素とその働き：タンパク質（構造と機能、合成と分解）						大島 誠之助	
7	栄養素とその働き：脂溶性ビタミン（ビタミンA,D,E,Kの生理作用、欠乏症と過剰症）						荒木 幸子	
8	栄養素とその働き：水溶性ビタミン（ビタミンB群と補酵素、欠乏症と過剰症）						荒木 幸子	
9	栄養素とその働き：ミネラル（主要ミネラルと微量ミネラルの生理機能、欠乏症と過剰症）						大島 誠之助	
10	水とエネルギーの必要性（体水分、水分出納、動物体内におけるエネルギーの分配）						大島 誠之助	
11	エネルギー評価法：（総エネルギー、可消化エネルギー、代謝エネルギー、正味エネルギー）						大島 誠之助	
12	エネルギー要求量：（食餌のME含量推定法、犬・猫のME要求量推定法、消瘦、ボディコンディションスコア、強制給餌法、経管・経静脈栄養法）						大島 誠之助	
13	ペットフード：歴史・種類・製法、家庭用食材の注意点						荒木 幸子	
14	ペットフード：栄養価および安全性の保証制度(米国)						大島 誠之助	
15	ペットフード：栄養価および安全性の保証制度(日本)						大島 誠之助	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
<p>試験は定期試験時に筆記試験で行う。学生へのフィードバックは直接的には、試験結果の報告によって行う。所定の成績に到達不可の場合は再試験（レポート方式）で理解不足の再勉強を求める。</p>								
履修上の注意								
<p>栄養学は基礎を生化学に置いているが、本講義の理解に生化学や大学受験レベルの化学は必要ない。しかし、2年次に開講する「動物生化学（2単位選択）」を併せて受講している方が解りやすいであろう（動物人間関係学専攻では「動物生化学」はあいにくカリキュラムに入っていないが、本講義だけでも十分理解はできる水準である）。</p>								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
予習より復習に重点を置いて指導する。具体的には、様子を見て小テストを実施したい、と考えている。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（70%）、授業への参加度（30%）を基に総合的に評価する。								
教科書								
「ベーシック 小動物栄養学」 阿部又信・大島誠之助著 ファームプレス(2019) 978-4-86382-105-7								
参考書、教材等								
参考書；ペット栄養学事典、日本ペット栄養学会、(株)ファームプレス (2011)								
教材；主にスライドを随時使用する。講義に際しては、スライドのコピーを当日配布する。								

授業科目	小動物臨床栄養学					担当教員	◎大島 誠之助・荒木 幸子
科目英名	Small Animal Clinical Nutrition						
開講期間	2 年次 後期	動物看護学専攻 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
<b>到達目標</b>							
<p>学生が、本講義は 2 年次前期の「小動物栄養学」のば続編と理解できるよう工夫する。臨床栄養学とは病気の予防と治療を目的とした栄養学であるが、ここでは対象を犬と猫に限定する。人医学の背後には栄養士や保健士などの幅広いパラメディカル分野が控えているが、獣医学では動物看護師がその役目を一手に引き受けることになる。本講義だけでは臨床栄養学の全体をカバーし切れないが、学生が本講義受講を以て将来における自助努力の基盤となるよう知識を涵養することを到達目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本講義は 2 年次前期科目の「小動物栄養学」の、いわば続編として実施する。前半 6 回の講義は犬と猫の食性、消化管構造、捕食行動、採食パターン等の違いや、犬・猫それぞれのライフステージ（妊娠期、泌乳期、成長期、維持期、老齢期）別の栄養と養分要求量についての学修に当てる。その後の 9 回分で各種疾病や不健康状態（過栄養性肥満、消瘦、糖尿病、心不全、栄養不均衡性皮膚病、食物アレルギーまたは過敏症、消化器疾患、肝臓疾患、腎疾患、尿石症、歯周病など）と栄養との関連、および食事療法や強制給餌法、経管・経静脈栄養法等について講義する。</p>							
<b>授業計画</b>							<b>担当教員</b>
1	犬と猫の違い：食性など						大島 誠之助
2	犬と猫の違い：嗜好と嗜好性						大島 誠之助
3	犬と猫の違い：代謝と養分要求量						大島 誠之助
4	ライフステージと栄養：母犬・母猫						大島 誠之助
5	ライフステージと栄養：子犬・子猫						大島 誠之助
6	ライフステージと栄養：成犬・成猫および老犬・老猫						荒木 幸子
7	疾病と栄養：ボディコンディションスコアと過栄養性肥満と消瘦。それらの予防と減・増量法および給餌計算						荒木 幸子
8	疾病と栄養：肥満関連の疾患						大島 誠之助
9	疾病と栄養：アレルギー反応と栄養不均衡性皮膚疾患						大島 誠之助
10	疾患と栄養：食物アレルギー（食物過敏症）と食事管理						大島 誠之助
11	疾患と栄養：消化器疾患と強制給餌法、経管・経静脈栄養法						大島 誠之助
12	疾患と栄養：肝臓疾患と食事管理						大島 誠之助
13	疾患と栄養：腎疾患と食事管理						大島 誠之助
14	疾患と栄養：尿石症と食事管理						荒木 幸子
15	疾患と栄養：歯周疾患ほか						荒木 幸子
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
<p>試験は定期試験時に筆記試験で行う。学生へのフィードバックは直接的には、試験結果の報告によって行う。所定の成績に到達不可の場合は再試験（レポート方式）で理解不足の再勉強を求める。</p>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>本講義を理解するには栄養学についての基本的知識が必要である。したがって、本科目を履修する者は全員が 2 年次前期配当の必修科目「小動物栄養学」の単位を修得することが望ましい。</p>							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
<p>予習より復習に重点を置いて指導する。具体的には、様子を見て小テストを実施したい、と考えている。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>試験（70%）、授業への参加度（30%）を基に総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学 2 動物臨床栄養学/動物臨床検査学、著者；大島誠之助、大辻一也他 5 名、株式会社インターズー（2019）978-4-86671-091-4</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>参考書；①ベーシック 小動物栄養学、阿部又信・大島誠之助著、㈱ファームプレス（2019） ②ペット栄養学事典、日本ペット栄養学会、㈱ファームプレス（2011）</p>							
<p>教材；主にスライドを随時使用する。講義に際しては、スライドのコピーを当日配布する予定。</p>							

授業科目	ヒトと動物の関係学					担当教員	安藤 孝敏
科目英名	Human-Animal Interaction						
開講期間	2 年次 後期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
<b>到達目標</b>							
<p>変化しつつある「ヒトと動物の関係」を多面的・総合的に捉え、人間と動物の望ましい関係を構想して、提案・説明できるようになることがこの授業の目標である。具体的には、①人間と動物のかかわりを説明することができる、②人間と動物の望ましい関係について討議できるようになる、③人間が動物に対して持つべき社会的責任・倫理観について説明できる、ということである。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>犬や猫などの動物たちに対するとらえ方が、従来の「ペット（愛玩動物）」から家族の大切な一員である「コンパニオン・アニマル（伴侶動物）」へと変化してきている。この授業では、動物とのかかわりが人間の生活の質にどのような影響を及ぼすのかを理解し、人間と動物の望ましい関係について構想できるように、人間と動物の関係に関する様々な話題を取りあげ講義を行う。</p>							
<b>授業計画</b>							
1	「ヒトと動物の関係学」とは？						
2	社会の中のペット：ペット飼育状況						
3	高齢者と動物のかかわり						
4	子どもと動物のかかわり						
5	動物を介した教育の試み						
6	身体障害者補助犬（1）：盲導犬						
7	動物園の新しい取り組み：行動展示						
8	ペットの飼育費用						
9	ペットと暮す住宅：集合住宅の場合						
10	地域猫の取り組み						
11	身体障害者補助犬（2）：介助犬と聴導犬						
12	ペットロスとその対処法						
13	日本人の動物観						
14	「ヒトと動物の関係学」の研究動向						
15	まとめ						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
授業内容などに関する質問に対して、次回授業時に回答する。							
<b>履修上の注意</b>							
さまざまな資料や映像素材を用いて授業を行う。受講者には毎回、講義や資料などに関するコメント・質問の提出を求める（出席票を兼ねる）。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前に教科書や関係する Web サイトを見て、授業で取り上げるテーマについて理解しておく。授業で説明された重要なキーワードについて、各自が調べて、追加の情報を含めて整理する。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
成績は、毎回提出するコメント・質問 40%、ミニ課題 30%、学期末レポート 30%の配分で評価する。							
<b>教科書</b>							
安藤・種市・金児（訳）『ペットと生きる－ペットと人の心理学－』（北大路書房）							
<b>参考書、教材等</b>							
桜井富士朗・長田久雄（編）『「人と動物の関係」の学び方』インターズー（2003）							
中村禎里『日本人の動物観－変身譚の歴史』ビーイングネットプレス（2006）							
森 裕司・奥野卓司（編）『ヒトと動物の関係学（第3巻）ペットと社会』岩波書店（2008）							

授業科目	社会福祉論					担当教員	山川 伊津子
科目英名	Social Welfare						
開講期間	2年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
<p>社会福祉とは何を指すのか、現代社会における多様なニーズを知り、我々の日々の生活は社会福祉とどのように関わっているのかを理解する。少子高齢社会において生活の質を向上させるために、動物が果たす役割を認識し、ヒトと動物の共生社会の実現に向けて何が必要であるかを理解できるようになることを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>社会福祉の理念や歴史、基礎概念を踏まえ、われわれの日常生活が社会福祉とどのようにつながりを持つかを理解する。少子高齢の現代社会において、ヒトのライフステージにおける動物の果たす役割や福祉の側面から動物の働きを考える。ヒトの福祉と動物福祉が共存する、ヒトと動物の共生社会構築のために必要なことを学ぶ。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：授業概要他、社会福祉とは</li> <li>2 社会福祉の基礎概念</li> <li>3 社会福祉の歴史</li> <li>4 社会保障・公的扶助</li> <li>5 子ども家庭福祉</li> <li>6 障害者福祉</li> <li>7 高齢者福祉</li> <li>8 少子高齢社会と動物－現代社会の特徴とヒトと動物の絆</li> <li>9 ヒトと動物の関わり方の歴史；動物がヒトに与える効果</li> <li>10 動物介在福祉（Veterinary Social Work）①動物介在福祉とは</li> <li>11 動物介在福祉（Veterinary Social Work）②アニマルセラピー</li> <li>12 動物介在福祉（Veterinary Social Work）③身体障害者補助犬</li> <li>13 動物介在福祉（Veterinary Social Work）④ペットロス</li> <li>14 動物介在福祉（Veterinary Social Work）⑤動物愛護と動物福祉</li> <li>15 まとめ－ヒトと動物の共生社会</li> </ol>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、授業内でのリアクションペーパーやレポートについてコメントする。							
履修上の注意							
ディスカッションを含め、授業への積極的な参加を希望する。またリアクションペーパーや授業内レポートを複数回実施予定。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前授業として、各授業のテーマについての情報を集めてきてもらう。 事後授業としては、各授業毎にリアクションペーパーまたはレポートを提出する。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（60%）、授業内課題（20%）、授業に対する積極性（20%）による総合評価。							
教科書							
特になし							
参考書、教材等							
『社会福祉の動向 2019』社会福祉の動向編集委員会編 中央法規 『よくわかる社会福祉第 10 版』ミネルヴァ書房							

授業科目	臨床心理学					担当教員	加藤 理絵
科目英名	Clinical Psychology						
開講期間	2年次 前期	動物人間関係学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>どのような年代や立場にあっても、人間関係や健康、勉強、進路、仕事のことなどの問題や悩みはつきないものである。また、生きていく中で思いもよらない病に悩むこともある。時には他者の援助を求め、ある時はサポート側に立つこともあり、ケアのやり取りをしながら、人間は生きていく。本講義では、心理学の立場から人間の心の理解を深め、心理的問題についての基礎知識を学ぶことを到達目標とする。発表を行うことで習熟度を高め、これらの知識を日常生活、今後社会に出て行く上で役立てていく。</p>							
講義概要							
<p>人間が生きていく中で経験をする様々な心の問題、そして病についての知識を得るため、そしてこのような時に、人はどのようにして問題を解決したら良いのか、またどのようなケアが必要となるのだろうかについての理解を深めることは、今後、誰もが自分らしく伸び伸びと生き、心の問題を抱える身近な他者について理解し、ケアしていくうえで大きな力になるだろう。また、本講義では、心理的な視点から自分の性格や行動の特徴をとらえ、対人関係やストレスと効果的に取り組むことが出来るような知識を学ぶ。</p>							
授業計画							
1	人の心を支えるー臨床心理学とは何か						
2	メンタルヘルス・異常と正常とは						
3	心の課題・病理について発表およびディスカッションⅠ：発達障害						
4	心の課題・病理について発表およびディスカッションⅡ：気分障害						
5	心の課題・病理について発表およびディスカッションⅢ：危機介入						
6	心の課題・病理：思春期・青年期におけるパーソナリティ障害の世界観Ⅰ						
7	心の課題・病理：思春期・青年期におけるパーソナリティ障害の世界観Ⅱ						
8	心の課題・病理について発表およびディスカッションⅣ：様々なパーソナリティ障害						
9	心の課題・病理について発表およびディスカッションⅤ：統合失調症						
10	心の課題・病理：統合失調症における世界観Ⅰ						
11	心の課題・病理：統合失調症における世界観Ⅱ						
12	心の課題・病理について発表およびディスカッションⅥ：神経症						
13	より自分らしく、より良い人間関係へ						
14	援助者としての姿勢 現場での人間関係						
15	まとめ						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして発表やレポート、課題に対するコメントを口頭にて行う							
履修上の注意							
<p>本授業は、グループによる発表を中心に行われることから、授業外において各グループにより発表の準備における作業が必要となる。その他、ワークシート作成、小レポート提出などがある。授業では、発表、発言、作業、ワークシート提出が求められる。授業に積極的に参加することが求められる。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連するテーマについて調べておくこと」							
事後学修「毎授業後、配付資料の重要キーワードについて理解、整理しておくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>評価方法 授業における発表、授業におけるディスカッション等の参加態度・意欲度 70% 学期末試験もしくは期末レポート 30%をもとに評価する。</p>							
教科書							
特になし							
参考書、教材等							
参考書は講義中に紹介する。ビデオなど視聴覚機材も用いる。							

授業科目	コミュニケーション論					担当教員	加藤 理絵
科目英名	Communication						
開講期間	3年次 後期	動物人間関係学専攻 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
<b>到達目標</b>							
<p>コミュニケーションという言葉は、日常生活でもしばしば使われ、職場や学校、家庭などさまざまな場面でのコミュニケーションの重要性が指摘されている。また、コミュニケーションの豊富は多様化し、その範囲は世界規模に広がり、情報が伝わる速度は加速する一方である。一方、コミュニケーションが広く、速く、大量に行われるに従って、さまざまな問題も生じている。本講義では、私たちはどのようにして効果的に、適切なコミュニケーションをすることが出来るのかについて、基本から臨床場面での応用までを本講義で学び、日常生活や職場で活かせるようになることを到達目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>コミュニケーションを行う相手は他者だけではない。まずは、適切で円滑なコミュニケーションを行う上では、自己と向き合い、自己との間の円滑なコミュニケーションを確立することが大切である。本講義では、ポジティブ心理学的なアプローチから前半においては自らと向き合い、自分の考え方や、感情とうまく付き合う方法を学び、実践していく。そして後半においては、人間関係を育てる上でのコミュニケーションスキルについて学び、実践を行う</p>							
<b>授業計画</b>							
1	ガイダンス						
2	Well-being について学ぶ						
3	自分の強みを知る						
4	自分の強みを生かすトレーニング						
5	ノンバーバルコミュニケーション・表情の力について学ぶ						
6	聞くと聴くの違い、傾聴について学ぶ						
7	レジリエンストレーニングⅠ（認知、思考、感情の仕組みについて知る）						
8	レジリエンストレーニングⅡ（認知、思考、感情についてのトレーニング）						
9	関係性構築、ほめるエクササイズ						
10	インプロを使ったボディワークエクササイズ						
11	マインドフルネス						
12	人生に対する肯定的捉え方について学ぶ						
13	自分、他者との総合的コミュニケーションに関するまとめ						
14	アサーショントレーニングⅠ（プレゼンテーション）						
15	アサーショントレーニングⅡ（プレゼンテーション）						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
プレゼンテーション、課題等について適宜口頭や紙面によってフィードバックを行う。							
<b>履修上の注意</b>							
<p>授業では、講義の他にワークを行うことが多い。積極的にワークに取り組むことを求める。ワークは、動きやすい服装と靴で参加すること。ワークでは、学生同士の接触（手を握る、肩に手を置く、など）が生じる場合がある。また、受講者には、毎回、ワーク後のディスカッション、小レポートの提出などを求める。</p>							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前学修：毎回のテーマにそって重要なキーワードについて各自調べる							
事後学修：毎回教示する課題を行う							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加態度、意欲度 80% 課題ノート 20%をもとに総合的に行う							
<b>教科書</b>							
特になし							
<b>参考書、教材等</b>							
参考書は講義中に紹介する。ビデオなど視聴覚機材も用いる。							

授業科目	子ども福祉と心理ケア					担当教員	◎加藤 理絵 山川 伊津子
科目英名	Child Welfare and the Psychological Care						
開講期間	2年次 後期	動物人間関係学専攻 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>動物看護をはじめとし、人と関わる仕事に携わる者として人の発達と心理ケアについての知識を深めることは重要である。本講義では“子ども”について学ぶことを中心とする。“子ども”のを知るには、様々な切り口があるが、本講義では「子どもの福祉」と「子どもの発達」及び「心理ケア」を軸に学修していく。その結果、子どもと接する上でどのようなことが求められるか理解できるようになることを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>子どもに必要とされている「福祉」と「心理ケア」を、遊びの視点などを取り入れながら実践的に学んでいく。「子どもの福祉」では、近代の子どもを取り巻く環境について国際的な視点を交えながら講義を行う。「子どもの心理ケア」としては、乳幼児と児童、思春期と発達心理学を理解しながら実践例を紹介し、介入や連携などの方法、背景理論を学修する。</p>							
授業計画							担当教員
1	オリエンテーションと概論 「福祉」について / 「心理」について						加藤・山川
2	子ども福祉の理念と子どもの定義						山川
3	子どもの権利—子ども権利条約						山川
4	子どもを取り巻く状況—少子化社会の子どもの問題						山川
5	子育て支援						山川
6	絵本と子育て①						山川
7	絵本と子育て②						山川
8	乳児の心理発達とケアについてプレゼンテーション及びディスカッション						加藤
9	幼児の心理発達とケアについてプレゼンテーション及びディスカッション						加藤
10	児童の心理発達とケアについてプレゼンテーション及びディスカッション						加藤
11	思春期の心理発達についてプレゼンテーション及びディスカッション						加藤
12	子どもを対象とした心理ケアの実践1：遊技療法、芸術療法等						加藤
13	子どもを対象とした心理ケアの実践2：集団、対人ゲーム等						加藤
14	子どもへの心理ケアの実際：スクールカウンセリング						加藤
15	振り返りまとめ						加藤・山川
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして発表やレポート、課題に対するコメントを口頭にて行う							
履修上の注意							
<p>講義はグループ演習的な要素をもって進めていく。 個人、グループによる発表が行われることから、授業外において各自、各グループにより発表の準備における作業が必要となる。その他、リアクションペーパー、レポート提出などがある。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連するテーマについて調べておくこと」							
事後学修「毎授業後、教示する課題に取り組むこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度と授業態度（70%）							
課題発表とレポート（30%）							
教科書							
適宜資料を提示、配布							
参考書、教材等							
授業内で紹介する							

授業科目	高齢者福祉と心理ケア					担当教員	◎加藤 理絵 山川 伊津子
科目英名	Social Services and Mental Care for the Aged						
開講期間	3 年次 後期	動物人間関係学専攻 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>日本は世界有数の少子高齢社会であり、高齢者の増加、中でも要介護高齢者、認知症高齢者が重要な社会問題になっている。高齢者がその人なりの健康や生活を維持していくためには、高齢者に対する社会福祉や心理的理解が重要となる。授業を通して高齢者に対する理解を深め、福祉、心理の立場から、身近な高齢者とのかかわり方や自分の将来に関して考える力を養うことを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>高齢者が安心してその人らしく最後まで生きられるような社会的なサポート、心理的なサポートについて、福祉学、心理学の両面から具体的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化社会の現状とその課題を把握したうえで日本の高齢者福祉に関わる法制度を学び、高齢者のおかれている社会的立場とその支援を理解する。</li> <li>・高齢者の心理的側面に焦点をあて、身体的変化が高齢者に与える心理的影響や幸福感、孤独感など高齢者が経験していることを学修する。</li> </ul>							
授業計画							担当教員
1	オリエンテーション：授業の概要と進め方						山川 伊津子
2	高齢社会－少子高齢社会の現状とその課題①						山川 伊津子
3	高齢社会－少子高齢社会の現状とその課題②						山川 伊津子
4	高齢者の理解－身体的、社会的、精神的特性						山川 伊津子
5	高齢者の介護－介護保険制度						山川 伊津子
6	高齢者の介護－介護の実際						山川 伊津子
7	認知症サポーター養成講座（外部講師）						山川 伊津子
8	老年期の心理						加藤 理絵
9	高齢者の心理的な問題Ⅰ：ストレスと孤独						加藤 理絵
10	高齢者の心理的な問題Ⅱ：老人性うつ、精神疾患						加藤 理絵
11	高齢者の心理ケアⅠ 認知症についてプレゼンテーション及びディスカッション						加藤 理絵
12	高齢者の心のケアⅡ 回想法についてプレゼンテーション及びディスカッション						加藤 理絵
13	高齢者の心のケアⅢ 老人期についてプレゼンテーション及びディスカッション						加藤 理絵
14	ポジティブエイジング						加藤 理絵
15	まとめ						加藤 理絵
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして発表やレポート、課題に対するコメントを口頭にて行う							
履修上の注意							
<p>本授業において、個人、グループによる発表も行われることから、授業外において各自、各グループにより発表の準備における作業が必要となる。その他、ワークシート作成、小レポート提出などがある。授業では、発表、発言、作業、ワークシート提出が求められる。授業に積極的に参加することが求められる。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連するテーマについて調べておくこと」							
事後学修「毎授業後、教示する課題に取り組むこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
評価方法 授業における発表、授業におけるディスカッション等の参加態度・意欲度 70% テストもしくはレポート 30%をもとに評価する。							
教科書							
適宜資料を提示、配布							
参考書、教材等							
授業中に知らせる							

授業科目	障がい者福祉と心理ケア					担当教員 ◎加藤 理絵 山川 伊津子
科目英名	Social Service and Mental care for the Disabled					
開講期間	2年次 前期	動物人間関係学専攻 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]
到達目標						
障がいとは何か、障がいに関する基礎的な事項である各障がいの用語、定義、原因、分類、発達とその特性について知識を深める。また、障がいを有する人々とその家族が抱える問題の共通性と個別性について考察していく。さらに、実際の事例を用いて当事者とその家族への心理ケアのあり方について、個人またはグループにより自らまとめ、検討を行い、授業内で発表を行うことで理解を深めることを到達目標とする。						
講義概要						
1981年の国際障害者年以降、わが国における障がい者福祉への関心は徐々に高まり、支援も改善されてきた。2006年5月の障害者自立支援法、2013年4月の障害者総合支援法の施行により、これまでの施設福祉を中心とした支援から在宅福祉・地域ネットワークによる支援への移行が推し進められている。本講義では、障がいを有する人々と共に暮らす社会の実現に向け、これまでの福祉政策の変遷と障がいの特性について解説し、その心理社会的な問題と各問題に応じた心理ケアについて自らまとめ、検討を行う。						
授業計画						担当教員
1	オリエンテーション：授業概要と進め方					山川 伊津子
2	障がい者福祉の理念：ノーマライゼーションとインクルージョン					山川 伊津子
3	障害の概念：国際障害分類（ICIDH）から国際機能分類（ICF）へ					山川 伊津子
4	身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者：定義とその支援					山川 伊津子
5	身体障害者補助犬					山川 伊津子
6	自助具と補装具：自助具と補装具を実際に用いての演習					山川 伊津子
7	障がい者と社会保障制度					山川 伊津子
8	障がい者心理ケアとは					加藤 理絵
9	障がい児・者の理解に向けて					加藤 理絵
10	障がい児の心理特性					加藤 理絵
11	障がい児に対する心理的援助行動					加藤 理絵
12	障がい者の心理特性についてプレゼンテーション					加藤 理絵
13	障がい者における社会的取り組みについてプレゼンテーション					加藤 理絵
14	障がい者理解と心理的援助技術についてプレゼンテーション					加藤 理絵
15	まとめ					加藤 理絵
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
フィードバックとして発表やレポート、課題に対するコメントを口頭にて行う						
履修上の注意						
本授業において、個人、グループによる発表も行われることから、授業外において各自、各グループにより発表の準備における作業が必要となる。その他、ワークシート作成、小レポート提出などがある。授業では、発表、発言、作業、ワークシート提出が求められる。授業に積極的に参加ことが求められる。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
事前学修「各授業回の内容に関連するテーマについて調べておくこと」 事後学修「毎授業後、教示する課題に取り組むこと」						
評価方法（評価基準を含む）						
評価方法 授業における発表、授業におけるディスカッション等の参加態度・意欲度 70% テストもしくはレポート 30%をもとに評価する。						
教科書						
適宜資料を提示、配布						
参考書、教材等						
『障害者白書』 内閣府 編 財務省印刷局発行 『よくわかる障害者福祉 第5版』小澤 温編 ミネルヴァ書房						

授業科目	リハビリテーション論					担当教員	手塚 潤一
科目英名	An Introduction to Medical Rehabilitation						
開講期間	3年次 前期	動物看護学専攻 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
<b>到達目標</b>							
リハビリテーションの概念、内容と方法（医学的、社会的、職業的、教育的）、リハビリテーション関連法、リハビリテーション関連職種、チーム医療、リハビリテーションの流れ、地域保健と福祉などについて基本的な概念を修得する。							
<b>講義概要</b>							
本講義では、リハビリテーションの理念と目的を理解し、障害の理解とリハビリテーションの各アプローチの方法について学ぶことを目標とする。障害者や高齢者の方々に対し「全人的復権」を目指したケアが提供できるように、障害（加齢に伴う障害を含む）の理解および障害の評価を学ぶとともに、理学療法や作業療法を中心としたリハビリテーションの理論と実際について学修する。さらに動物に通じる人体の仕組みや動作の特徴、障害の起こり方についても学ぶ。							
<b>授業計画</b>							
1	リハビリテーションの概念・歴史						
2	リハビリテーションの対象、リハビリテーションの諸段階						
3	障害論（障害とは、国際疾病分類、国際障害分類、国際生活機能分類、等）						
4	障害論（廃用症候群、誤用症候群、過用症候群、等）						
5	障害者と心理（障害者心理、防衛機制、障害受容の過程）						
6	ADLとQOL（分類、評価とアウトカム）						
7	リハビリテーション関連職種とチーム医療						
8	医学的リハビリテーション(1) 理学療法・作業療法・言語療法、他						
9	医学的リハビリテーション(2) 義肢・装具、車いす、歩行補助具、リハビリテーション機器						
10	教育的・職業的・社会的リハビリテーション						
11	人体の仕組みとリハビリテーション（骨格、筋肉）						
12	人体の仕組みとリハビリテーション（歩行と走行）						
13	人体の仕組みとリハビリテーション（スポーツ動作）						
14	人体の仕組みとリハビリテーション（肩こり、スポーツ障害）						
15	まとめ						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
メールによる質疑応答及び補充解説							
<b>履修上の注意</b>							
予備知識がなくとも受講は可能であるが、できるだけ興味を持って臨んでいただきたい。自分なりのリハビリテーション観を持てるよう主体的な学修を期待する。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
リハビリテーションや保健福祉に関する内容は、社会情勢と密接に関係するため、ニュース、新聞などで常に情報収集を心掛ける必要がある。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度と貢献度 20点、定期試験 80点							
<b>教科書</b>							
特に定めない（適宜プリントを配布する）。							
<b>参考書、教材等</b>							
講義中に適宜紹介する。							

授業科目	動物リハビリテーション					担当教員	井上 留美
科目英名	Veterinary Rehabilitation and Physical Therapy						
開講期間	4年次 前期	動物看護学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
<b>到達目標</b>							
<p>動物リハビリテーションは動物医療において、近年、関心が高まっており、その施術者として動物看護師の役割へ期待が集まっている。また、家庭動物の高齢化を背景に、動物の QOL（生活の質）の向上が重要視されている。今後の臨床現場で需要が見込まれる動物理学療法、基本的な技術と理論の理解を深めることは、良質な動物看護を提供するために必須である。</p> <p>動物リハビリテーションの要である解剖学や神経学を基盤として学び、実際の動物リハビリテーション療法治療プログラムへの理解を深め、さらに治療計画が立案できることを目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
リハビリテーションにおける動物の正しい扱いや、機能回復に有効とされるさまざまな運動器具の使用方法を修得し、小動物臨床でのリハビリテーションにおける動物看護師の役割の多様性について可能性を探り発展させていく。							
<b>授業計画</b>							
1	動物リハビリテーション概論						
2	評価①（検査各種）						
3	評価②（可動域測定法、等）						
4	徒手療法（マッサージ、ストレッチ、等）						
5	運動療法						
6	物理療法						
7	水治療法（UWT、等）						
8	電気療法						
9	補完療法						
10	理学療法の適用①（補装具、パフォーマンスの最適化、等）						
11	理学療法の適用②（肥満、高齢、等）						
12	理学療法の適用③（痛み、関節炎、等）						
13	治療計画の作成						
14	動物リハビリテーションの実際						
15	まとめと復習						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
小テストの解答と解説を行う。							
<b>履修上の注意</b>							
毎回出席をとる。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事後学習：各授業回の内容に関する文献紹介。							
事後学習：各授業に於いて前回授業を復習する。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度（50%）と試験（50%）による総合評価とする。							
<b>教科書</b>							
指定教科書はないが、適宜、参考文献の紹介を行う。							
<b>参考書、教材等</b>							
「Canine Rehabilitation」－BASIC LEVEL－ HELEN NICHOLSON 著 株式会社教育アシストセンター							
犬のリハビリテーション Darryl L. Millis 他著 インターズー							

授業科目	動物病院実習					担当教員	◎今村 伸一郎・茂木 千恵・ 荒川 真希・友野 悠
科目英名	Animal Hospital Practice						
開講期間	3年次 通年	動物看護学専攻 必修科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
<b>到達目標</b>							
動物病院実習は、小動物臨床現場において、学内で学んだ動物看護の知識・基礎技術をもとに、実務を通して様々なケースに対応できる実践的能力を身に付けることを目標とする。							
<b>講義概要</b>							
<p>講義を通じて学んだ基礎知識をもとに、学外の動物病院で臨床現場を体験する。</p> <p>動物病院の仕事は、病院受付業務補助（来院対応、問合せ、カルテ取り扱い）、診療関係業務補助（保定、一般身体検査補助、記録）、臨床検査（検体の取り扱い、準備、後片付け、記録）、入院動物や預かり動物の看護補助（バイタルサインの観察、日常管理）、院内外管理（清掃・消毒）、クライアントエデュケーション補助（投薬方法、療法食・処方食、一般食）などを通じ総合的に学ぶ。</p> <p>病院実習に先立ち、事前授業を行い、その中で、動物病院実習の心得、到達目標、実習内容、留意事項について説明する。また各実習施設への配置に当たっては、学生個々の希望、学生の所在地と通院手段など、総合的判断の上で決定し、効果的な実習が行えるように配慮する。</p> <p>なお、学生の中には、重度の動物アレルギーを持ち動物病院実習を課することが出来ない学生等も在籍している。こうした学生に対し、学生と協議の上、担当教員の判断で動物病院実習に替わる特別な実習を課し、単位を認定することもある。</p> <p>病院実習終了後には事後授業を実施。皆で実習現場の情報を交換し、反省を含めた総括の場とする。</p>							
<b>授業計画</b>							
前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレ実習オリエンテーション</li> <li>・1日プレ実習（ヤマザキ学園コンパニオンアニマルセンター）（帰宅後の報告書作成を含む）</li> <li>・事前授業や本実習の流れのためのオリエンテーション（以後、事前・事後授業に対する予習、復習を含む）</li> <li>・事前授業1回目：動物病院院長先生の講話</li> <li>・事前授業2回目：技術講義①（保定法・予防ワクチン・投薬法など）</li> <li>・事前授業3回目：実習先動物病院の発表、選抜方法、昨年度の紹介</li> <li>・事前授業4回目：技術講義②（外科器具・エコー検査・手術ビデオなど）</li> <li>・事前授業5回目：技術講義③（臨床実習のための動物行動学）</li> <li>・事前授業6回目：技術講義④（糞便検査・血液検査・細胞学的検査など）</li> <li>・事前授業7回目：実習先での礼儀作法と訪問のための電話のかけ方、お礼の手紙の書き方</li> <li>・事前授業8回目：まとめ、実習における心得および諸注意、実習先で使用する書類配布</li> </ul>						
病院実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1週間の病院実習（外部病院）（帰宅後の報告書、課題レポート作成を含む）</li> </ul>						
後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後授業1回目：巡回担当教員を含めたグループワークショップ（10月中旬）</li> <li>・事後授業2回目：ワークショップ結果の報告とまとめ（11月初旬）</li> </ul>						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
事後授業1回目に、各病院間で体験してきた情報交換を行ない、2回目で全体的なまとめを行ない、また、病院からのコメントも披露し、学生の今後に役立ててもらおう。							
<b>履修上の注意</b>							
基本的に、事前・事後授業にはすべて出席すること。 詳細な日程、時間等は逐次掲示していくので、情報確認を怠らないこと。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前授業では講義テーマが決まっているので、そのテーマについて自分がそれまでに学んできたことを総復習してくること。実習期間中は帰宅後、その日の実習内容についてしっかりまとめを行なってもらう。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
事前授業および事後授業への参加度 30%、動物病院実習評価表 30%、実習レポート 40%の割合で総合評価する。							
<b>教科書</b>							
必要に応じて資料を配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野「臨床動物看護学・各論」「臨床検査学」「動物行動学」							

授業科目	アニマルアシステッドセラピー実習					担当教員	◎秋山 順子・堀井 隆行 山川 伊津子
科目英名	Practice of Animal Assisted Therapy-Student Laboratory						
開講期間	3年次 後期	動物人間関係学専攻 選択科目 1単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>「アニマルアシステッドセラピー論」で学んだことをより深く理解し、動物を介在した活動について幅広い専門知識を応用しながら、社会で実践できる能力を身につけることを到達目標とする。具体的には、介在動物が人にもたらす効果とそれぞれの特性について実習を通して考察することにより説明ができる。動物介在介入の実践活動においてボランティアやハンドラーとして必要となる知識と技術を実習を通して習得する。</p>							
講義概要							
<p>動物介在介入（アニマルアシステッドセラピー、アクティビティー、エデュケーション）を実践するものが知っておくべき知識と手法を総合的に学び、実践活動することができる技術を習得することを目指す。理論と事例検証を通して動物を介したプログラムについて考え具体的に作成する。動物がもたらす効果を評価し、介在動物の特性を学ぶ。活動において重要な役割を担う動物の理解を求められるハンドラーにとって必要な知識と技術を学ぶ。また、対象者の理解のために専門的知識を得ながら、動物介在活動の体験研修を通してボランティアとしての知識と技術を学ぶ。最終プレゼンテーションを通して総合的な理解を深めるとともに応用力を身につける。</p>							
授業計画						担当教員	
1	授業説明、オリエンテーション、概論					秋山 堀井 山川	
2	動物介在介入（Animal Assisted Intervention ; AAI）の解説					山川 伊津子	
3	高齢者施設で必要なコミュニケーションの解説とワークショップ					山川 伊津子	
4	有料老人ホームでのAAAと見学研修					山川 伊津子	
5	AAT/AAAプログラム作成法①					秋山 順子	
6	AAT/AAAプログラム作成法②					秋山 順子	
7	動物がもたらす効果の評価方法①					秋山 順子	
8	動物がもたらす効果の評価方法②					秋山 順子	
9	乗馬実習					秋山 順子	
10	動物のリスクマネジメントと動物福祉					堀井 隆行	
11	AAT/AAAに必要なイヌのハンドリング技術					堀井 隆行	
12	AAT/AAAに必要な学習理論とイヌのトレーニング技術①					堀井 隆行	
13	AAT/AAAに必要な学習理論とイヌのトレーニング技術②					堀井 隆行	
14	実習課題説明、勉強会、予行練習					秋山 堀井 山川	
15	実習課題 - プレゼンテーション発表会					秋山 堀井 山川	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、授業内でのリアクションペーパーやレポートにコメントを返す。							
履修上の注意							
学外における実習や時間割の変更があるため掲示や連絡事項等を確認すること 実習はオムニバス形式であるため各授業回について担当教員の指示に従うこと							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前授業：各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおく。 事後授業：各授業回に、リアクションペーパーまたはレポートを提出する。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業内に取り扱うレポートやプレゼンテーションを中心に評価する。 (授業への参加度 60%、レポートやプレゼンテーション 20%、授業に対する積極性 20%)							
教科書							
『知りたい！やってみよう！アニマルセラピー』、川添・堀井・山川・赤羽根（著）、駿河台出版社							
参考書、教材等							
『人と動物の関係学 動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門基礎分野』インターズー							

授業科目	アシスタンスドッグ論					担当教員	◎秋山 順子・高柳 友子
科目英名	Theory of Assistance Dog						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学専攻 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
<p>障がい者の自立と社会参加を促進することを目的に訓練された身体障害者補助犬（補助犬）に関する基礎知識と日本の補助犬普及の現状と課題について理解することを到達目標とする。具体的には、社会における補助犬の役割と補助犬法における補助犬の位置づけについて説明ができる。さらに、社会において補助犬を普及するために必要な取組みについて自分の考えを具体的に述べるができる。</p>							
講義概要							
<p>補助犬に関する基礎的知識および専門的知識によって、わが国の補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の現状について正しく理解することを目標とする。まず、補助犬についての理解を深めるため、人とイヌの関係と補助犬の成り立ちを学ぶ。社会における補助犬を理解する上で、補助犬法、障害者福祉について学ぶ。さらに、補助犬の育成と普及啓発に携わる育成の専門家やリハビリテーション医学の専門家の専門的知識を得ながら、社会における補助犬の役割について学ぶ。補助犬に関するわが国の現状および課題を正しく理解した上で、補助犬の普及について具体的な取組みについて考える。</p>							
授業計画							担当教員
1	ガイダンス						秋山 順子
2	補助犬の定義と歴史						秋山 順子
3	補助犬のわが国での実情と欧米との比較						秋山 順子
4	補助犬がもたらす恩恵と人の健康への効果						秋山 順子
5	補助犬とさまざまな使役動物						秋山 順子
6	補助犬育成の現状と課題						秋山 順子
7	障がい者の自立と社会参加の現状と課題						秋山 順子
8	身体障害者補助犬法の成り立ちと意義						高柳 友子
9	補助犬を知る（介助犬）（ゲストスピーカー）						高柳 友子
10	補助犬を知る（盲導犬）（ゲストスピーカー）						高柳 友子
11	補助犬を知る（聴導犬）（ゲストスピーカー）						高柳 友子
12	補助犬と作業療法（ゲストスピーカー）						高柳 友子
13	補助犬と理学療法（ゲストスピーカー）						高柳 友子
14	わが国における補助犬の展望						高柳 友子
15	総括・最終試験						秋山 順子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
中間および最終授業回で全体に対するフィードバックを行う。							
履修上の注意							
本科目はオムニバス形式で実施する。講演者のスケジュール調整等で授業計画が変更になる場合があるため掲示や連絡事項等に注意すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：授業で配布した資料、関連書籍にて復習する。							
評価方法（評価基準を含む）							
最終試験 50%、小テスト 20%、授業への参加度 30%によって総合的に評価する。							
教科書							
特に指定しない							
参考書、教材等							
「介助犬を知る」高柳哲也（編）、名古屋大学出版会 その他書籍について授業中に指示する							

授業科目	アシスタンスドッグ演習					担当教員	◎秋山 順子・堀井 隆行 山川 伊津子
科目英名	Theory of Assistance Dog						
開講期間	4年次 前期	動物人間関係学専攻 選択科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
<p>「アシスタンスドッグ論」の授業で得た知識をさらに発展させ、身体障害者補助犬とその使用者に対する理解を深めることを到達目標とする。社会で補助犬を受け入れ、補助犬使用者である身体障害者の社会参加と自立を促進するために必要となる補助犬使用者を取り巻く障害者福祉、補助犬の育成について演習を通して考察することにより説明ができる。さらに、社会において補助犬を普及するために必要な取組みについて自分の考えを具体的に述べるができる。</p>							
講義概要							
<p>盲導犬・介助犬・聴導犬それぞれを理解した上で、各補助犬の使用者である視覚障害者・肢体不自由者・聴覚障害者への障害者福祉を学び、現在の補助犬使用者の置かれている状況と抱える問題について理解を深める。また、そうした問題を抱える補助犬使用者にとって補助犬が果たす役割と共に暮らす意味について考える。最終的には、補助犬とその使用者を社会で受け入れ補助犬を普及させるために、補助犬の育成の専門家、補助犬使用者、国民全体で取り組むべきことは何かを考えることができる力を身につける。</p>							
授業計画							担当教員
1	オリエンテーション 補助犬をとりまく状況					秋山 堀井 山川	
2	身体障害者補助犬とは：歴史					山川 伊津子	
3	身体障害者補助犬とは：育成の現状					山川 伊津子	
4	身体障害者補助犬とは：サービス内容（補助犬の仕事）					山川 伊津子	
5	身体障害者補助犬法					秋山 順子	
6	補助犬と障害者福祉					山川 伊津子	
7	補助犬と動物福祉					山川 伊津子	
8	補助犬とボランティア					山川 伊津子	
9	補助犬とトレーニング入門①：適性（特にレスポナント反応）の重要性					堀井 隆行	
10	補助犬とトレーニング入門②：歩行および基礎動作のトレーニング					堀井 隆行	
11	補助犬のケア					秋山 順子	
12	盲導犬使用者の現状					山川 伊津子	
13	介助犬使用者の現状					山川 伊津子	
14	聴導犬使用者の現状					山川 伊津子	
15	まとめ・総復習					秋山 堀井 山川	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、授業内でのリアクションペーパーやレポートにコメントを返す。							
履修上の注意							
本演習の履修者は、「アシスタンスドッグ論」を履修していることが望ましい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修としては、毎授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと。また、事後学修としては、授業毎にリアクションペーパーまたはレポートを提出する。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（60%）、授業内課題（20%）、授業に対する積極性（20%）による総合評価							
教科書							
『アシスタンスドッグ演習テキスト 盲導犬・介助犬・聴導犬の理解とケア』山崎薫監修 山川伊津子/福山貴昭著 株式会社教育アシストセンター							
参考書、教材等							
『人と動物の関係学 動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門基礎分野』インターズー							

授業科目	伴侶動物育種・資源学					担当教員	◎古川 力・天野 卓
科目英名	Companion Animal Breeding and Their Resources						
開講期間	3 年次 後期	動物人間関係学専攻 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>伴侶動物育種学と伴侶動物資源学の2分野から構成されている科目である。すなわち、伴侶動物の品種改良の理論と実際を学ぶだけでなく、現在伴侶動物として飼育され始めた動物や、将来伴侶動物と成り得る動物資源についても合わせて学修する。</p> <p>本講義を通して、伴侶動物のブリーダーとして活躍するために、動物育種の知識の修得とともに新たな伴侶動物の開発に対しての知識も修得することを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>全ての伴侶動物は野生動物が家畜化されたことにより成立したことを説明し、主要伴侶動物の野生原種のみならず、その近縁野生種についても解説する。次いで取り上げた伴侶動物の育種の沿革と品種についても詳述する。また、量的、質的形質の遺伝・育種を解説した後、育種目標、選抜方法、交配方法等の具体的育種方法につき講義する。</p> <p>さらに今後新たな伴侶動物と成り得る動物資源、すなわち、ミニヤギ、ミニブタ、ポニー、キツネ、ゲツ歯類等の小型哺乳類等についても教授する。</p>							
授業計画							担当教員
1 伴侶動物資源学とは：講義の目的と特色、講義の進め方等のガイダンス							天野 卓
2 伴侶動物と成り得る動物資源 (1) ミニヤギ、野生原種と近縁野生種							天野 卓
3 伴侶動物と成り得る動物資源 (2) ミニブタ、野生原種と近縁野生種							天野 卓
4 伴侶動物と成り得る動物資源 (3) ポニー、野生原種と近縁野生種							天野 卓
5 伴侶動物と成り得る動物資源 (4) キツネ、タヌキ等、野生原種と近縁野生種							天野 卓
6 伴侶動物と成り得る動物資源 (5) その他							天野 卓
7 伴侶動物資源学総括							天野 卓
8 伴侶動物育種学とは：講義の目的と特色、講義の進め方等のガイダンス							天野 卓
9 家畜化と動物育種の沿革							古川 力
10 質的形質と量的形質の遺伝・育種							古川 力
11 伴侶動物の選抜方法							古川 力
12 伴侶動物の交配方法							古川 力
13 伴侶動物の品種 (1) 犬							古川 力
14 伴侶動物の品種 (2) 猫、爬虫類等							古川 力
15 伴侶動物の品種 (3) その他、伴侶動物育種学総括							古川 力
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
ミニテストやレポートを実施後、速やかに正解を解説し、学生にフィードバックする。							
履修上の注意							
講義中における自筆ノートの作成や配布資料への重要説明の記入を行なうこと。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学習：毎回の授業前に、配布された資料や紹介した本を読んでおくこと。							
事後学習：毎回の授業後に、配布された資料やノートで復習し、レポート等を作成すること。							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業への参加度 (40%) と授業の節目ごとに実施するミニテストやレポート (60%) により総合的に評価する。							
教科書							
特に指定しない。							
参考書、教材等							
授業中に紹介する。							

授業科目	動物飼育管理論					担当教員 ◎堀井 隆行・島森 尚子 田向 健一・吉田 俊一
科目英名	Animal Rearing					
開講期間	2 年次 前期	動物人間関係学専攻 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕
到達目標						
<p>人が飼育する動物種は、それぞれに分類学的、生態学的、行動学的、解剖学的、生理学的など様々な特徴を有するため、その飼育管理は一樣ではない。それぞれの動物種（あるいは品種）が有する特徴をふまえた飼育管理は、人と動物が良好な関係性を築くための基盤であり、動物の愛護及び管理に関する法律にも定められた事項である。そのため本講義では、家庭飼育動物（イヌ・ネコについては他の科目で充填されるため除く）の特徴をふまえた適正な飼育管理について基礎的知識を学修し、理解を深めることを目標とする。</p>						
講義概要						
<p>イヌ・ネコ以外の家庭飼育動物として一般的な、小型哺乳類、小型の飼鳥、爬虫類、両生類、観賞魚（アクアリウム）、および家庭飼育動物として一般的ではないが伴侶動物として位置付けられるウマ（ポニー）、更には産業動物としては小型であり近年新しい伴侶動物になり得るのではないかと注目されるヤギ、ブタについて、分類学的・生態学的・行動学的・解剖学的・生理学的な特徴をふまえた飼育管理方法を学ぶ。</p>						
授業計画						担当教員
1	動物の飼育管理とは：概論、適正な飼育管理の在り方					堀井 隆行
2	小型哺乳類の飼育管理①：ウサギの飼育管理					堀井 隆行
3	小型哺乳類の飼育管理②：ハムスター・モルモットの飼育管理					堀井 隆行
4	小型哺乳類の飼育管理③：フェレットの飼育管理					堀井 隆行
5	飼鳥の飼育管理①：インコ目に属する小型飼鳥の分類と特徴、飼料と飼育環境					島森 尚子
6	飼鳥の飼育管理②：スズメ目に属する小型飼鳥の分類と特徴、飼料と飼育環境					島森 尚子
7	爬虫類の飼育管理①：カメの飼育管理					田向 健一
8	爬虫類の飼育管理②：トカゲ、ヘビの飼育管理					田向 健一
9	両生類の飼育管理：カエル、イモリの飼育管理					田向 健一
10	観賞魚の飼育管理①：観賞魚一般とアクアリウムの癒し効果について					吉田 俊一
11	観賞魚の飼育管理②：観賞魚の飼育管理学					吉田 俊一
12	観賞魚の飼育管理③：観賞魚の基礎魚医学					吉田 俊一
13	ウマ（ポニー）の飼育管理					堀井 隆行
14	ヤギの飼育管理					堀井 隆行
15	ブタの飼育管理					堀井 隆行
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
<p>授業内で模擬試験を行った場合には、解答の解説を行う。また、要望や質問等については都度口頭にて回答を行う。</p>						
履修上の注意						
<p>非常勤講師との調整により、各授業回の内容が前後する場合がありますため、連絡事項に留意する。</p>						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
<p>各授業回に関連する教科書の内容は事前に読んでおくこと。また、授業後には教科書および配布資料等を基に内容をまとめること。</p>						
評価方法（評価基準を含む）						
<p>定期試験（70%）・授業への参加度（30%）による総合評価。</p>						
教科書						
<p>『認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 3 動物行動学/伴侶動物学/産業動物学/実験動物学/野生動物学』 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 インターズー 『観賞魚飼育・管理士ハンドブック I』 日本観賞魚振興事業協同組合</p>						
参考書、教材等						
<p>必要に応じて随時紹介する。</p>						

授業科目	動物飼育管理実習					担当教員	◎堀井 隆行・島森 尚子 田向 健一・細野 茂之 吉田 俊一
科目英名	Practice of Animal Rearing						
開講期間	2年次 後期	動物人間関係学専攻 必修科目1単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
<p>「動物飼育管理論」で得た知識を基に動物の飼育管理を実践する。動物飼育に伴う、生命に対する責任、公衆衛生的配慮、作業上の工夫、肉体的疲労など、多くの要素を体験的に学ぶ。動物の適正な飼育管理の重要性と必要性あるいは理想と現実の違いなどを他科目とも統合的により深く理解することを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>グループに分かれ、学内・学外での動物の飼育管理について実習する。また、動物種によっては飼育管理の模擬体験を行う。学内で飼育する動物に関しては、ローテーションを組んで日々の飼育管理を行い、実践的技術を体得する。</p>							
授業計画							担当教員
1	オリエンテーション						堀井 隆行
2	学内飼育動物の飼育管理実習①：ヤギの飼育環境設定、誘導・保定法など						堀井 隆行
3	学内飼育動物の飼育管理実習②：ヤギの体重測定、ブラッシング、削蹄など						堀井 隆行
4	学内飼育動物の飼育管理実習③：ウサギの飼育環境設定、抱き方・保定法など						堀井 隆行
5	学内飼育動物の飼育管理実習④：ウサギの体重測定、ケアなど						堀井 隆行
6	学内飼育動物の飼育管理実習⑤：日常の飼育管理実践						堀井 隆行
7	爬虫類・両生類の飼育管理模擬体験①：爬虫類・両生類飼育施設の見学実習						田向 健一
8	爬虫類・両生類の飼育管理模擬体験②：爬虫類・両生類飼育施設の見学実習						田向 健一
9	飼鳥の飼育管理実習①：小型の飼鳥飼育の実際						島森 尚子
10	飼鳥の飼育管理実習②：小型の飼鳥飼育の実際						島森 尚子
11	観賞魚の飼育管理模擬体験①：観賞魚水槽のデザイン計画の作成						吉田 俊一
12	観賞魚の飼育管理模擬体験②：観賞魚水槽のセッティング実技体験						吉田 俊一
13	ポニーの飼育管理実習①：給餌、清掃、グルーミング、馬具の装着など						細野 茂之
14	ポニーの飼育管理実習②：給餌、清掃、グルーミング、馬具の装着など						細野 茂之
15	まとめ						堀井 隆行
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>授業内のレポートについてはコメントを返す。また、要望や質問等については都度口頭にて回答を行う。</p>							
履修上の注意							
<p>詳細なスケジュールは別途提示するが、学外での現場実習がある場合には、別途説明会を実施する場合もある。</p> <p>掲示板の確認や連絡事項には十分に留意する。遅刻・欠席や課題の遅れは厳禁とする。</p> <p>実習時には動物を取扱うことに適した身だしなみを整えること。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>各授業回に関連する動物飼育管理論で学んだ内容を確認しておくこと。また、授業後には体験した内容を記録し、まとめること。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
課題レポート（50%）・授業への参加度（50%）による総合評価。							
教科書							
特になし。必要に応じて随時プリントを配布する。							
参考書、教材等							
『認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 3 動物行動学/伴侶動物学/産業動物学/実験動物学/野生動物学』							
日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 インターズー							
その他、必要に応じて随時紹介する。							



授業科目	コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習					担当教員	◎福山 貴昭・早田 由貴子・ 嶋崎 加奈恵・土屋 恵美・ 武田 侑子
科目英名	Practice of Companion Animal Care(Basic Grooming)						
開講期間	1年次 前後期	必修科目 1単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
<p>基礎実習では、ヒトと動物の安全を確保したグルーミングを実施するための知識・技術の取得を到達目標とする。動物の健康状態の観察法から始まり、ボディーランゲージの観察と解釈、保定方法、専門器具の保持等を実際のグルーミングケア作業の中で実習教材に触れながら修得する。毎授業にテーマとなるケア作業を設定し修得に努める。</p>							
講義概要							
<p>イヌは人為的な選択繁殖により他の家畜にない品種の多さや、同種内での形態の大差を持ち合わせている。その中には人為的なグルーミングケアなしには、スムーズな換毛、聴覚や視覚の確保、皮膚の健康を保つことが不可能な品種も多く存在している。本実習ではイヌ（ネコも含む）の形態、ライフステージ、飼育環境、飼育目的、健康状態等を考慮した、家庭内飼育において健康管理上必要なグルーミング手技を学修し、コンパニオンアニマルのグルーミング需要に即応できる人材の育成を行う。</p> <p>実施グルーミングケア工程：健康チェック（体重、体温、脈拍数、呼吸数計測。口腔内、皮膚観察）⇒耳道処置⇒ブラッシング⇒ベイジング（洗浄）・肛門腺絞り⇒ドライイング（乾かし）⇒耳道処置⇒爪切り⇒クリッピング（バリカン刈り）⇒カット</p>							
授業計画							担当教員
1	キャットグルーミング。爪切り、ブラッシング、ベイジング、ドライイングケア。						早田
2	グルーミング器具の確認とグルーミングケア作業準備。衛生管理方法。						福山
3	イヌのボディーランゲージの観察とケージからの出し入れ、テーブル上の取り扱い。						福山
4	イヌのリーシュコントロール、リーシュの結束。イヌの抱上げ法（大、小型犬）						福山
5	グルーミング器具の保持と取り扱い。コーム、ブラシを使用してのブラッシングケア。						福山
6	ベイジング、ドライイングケア。イヌに最適な湯温度の設定。洗浄方法とシャンプー剤の選定法。						福山
7	ベイジング、ドライイングケア。ブローの温度、風量の設定。						福山
8	クリッピングケア。クリッパーを使用しての被毛処理。						福山
9	クリッピングケア。細部の被毛処理。足底部ケア。						福山
10	爪切り。足先作業の保定と爪切りの使用方法。						福山
11	大型犬のグルーミング。大型犬の保定、専用器具の使用法。						福山
12	四肢のハンドリングと、頭部の保持。						福山
13	シザーワーク。ハサミの保持と使用。						福山
14	グルーミン作業工程（時間）の自己チェック。						福山
15	グルーミン作業工程（内容）の自己チェック。						福山
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
手技に対する評価を授業内において口頭で伝える。							
履修上の注意							
ユニフォーム着用し、実習器具は各自毎回持参すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の作業内容をマニュアルで確認しておく」							
事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
実技(50%)、授業参加度(50%)を基に総合的に評価する。							
教科書							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 MAIN Vol.							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 SEPARATE Vol.							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 (DVD)							
参考書、教材等							
『全犬種標準書』 ジャパンケネルクラブ 等							

授業科目	コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習					担当教員	◎福山 貴昭・宮田 淳嗣・ 嶋崎 加奈恵・土屋 恵美・ 武田 侑子
科目英名	Practice of Companion Animal Care (Advanced Grooming)						
開講期間	2年次 前後期	選択科目 1 単位	授業形態	実習	科目 区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
基礎実習で修得した、ヒトと動物の安全を確保したグルーミングを実施するための知識・技術内容を様々な年齢、気質、サイズのイヌにも安定して実施することを到達目標とする。毎授業にテーマとなるケア作業を設定し修得に努める。							
講義概要							
コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習で学んだ内容に加え、イヌのもつ多様な被毛、形態、行動パターンへの応用力を修得する。そのため、ハンドリングが多少困難な性質をもつイヌも使用し、イヌのライフステージ、飼育環境、飼育目的に沿ったグルーミングケア方法について学修する。							
授業計画							
1 グルーミングケア。基礎復習。							
2 グルーミングケア。ハサミ動銕テスト。カンシ綿花作製。							
3 グルーミングケア。毛玉ケア（特殊器具使用）。							
4 グルーミングケア。上毛・下毛ケア（特殊器具使用）。							
5 グルーミングケア。季節別（高温多湿環境対策）。							
6 グルーミングケア。季節別（低温乾燥環境対策）。							
7 グルーミングケア。作業者同士の確認方法。							
8 グルーミングケア。作業評価方法。							
9 グルーミングケア。飼育環境別。							
10 グルーミングケア。ドライケアー（ムース）。							
11 グルーミングケア。ドライケアー（パウダー）。							
12 グルーミングケア。泡洗浄。							
13 グルーミングケア。ライフステージ（老齢犬）。							
14 グルーミングケア。大型イヌ品種ケア。							
15 グルーミングケア応用総合。							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業内に手技に対する評価を口頭で伝える。							
履修上の注意							
ユニフォーム着用し、実習器具は各自毎回持参すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の手技をマニュアルで確認しておくこと」							
事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
実技(70%)、授業参加度(30%)を基に総合的に評価する。							
教科書							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 MAIN Vol.							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 SEPARATE Vol.							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 (DVD)							
参考書、教材等							
『全犬種標準書』 ジャパンケネルクラブ 等							

授業科目	イヌの特性論					担当教員 ◎山崎 薫・古川 力 福山 貴昭・宮田 淳嗣
科目英名	Characteristics of Domestic Dogs					
開講期間	2年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕
到達目標						
<p>本講義はイヌ品種の多種多様な形態、能力、行動特性等を総合的に学修し、イヌという生物がもつ多様性を理解することを到達目標とする。また、その特性をヒトが人間社会の中でどのように役立っているか、その特性を理解した上でイヌにとって必要な福祉的配慮についても修得することを目標とする。</p>						
講義概要						
<p>イヌは最古の家畜としてヒトとの共生の中で人為的な選択繁殖を続け、他の家畜にはない800種を超える種類の多さと、同種内での形態の差異を持ち合わせてきた。イヌへの理解を深めるため、その計画的選択繁殖の目的や、歴史、文化の背景、動物観等についても多用な視点から捉えるとともに、イヌ品種の現状を解説する。また、主要なイヌ品種を例にイヌの特性について知識と理解を深める。</p>						
授業計画						担当教員
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イヌの遺伝性疾患</li> <li>2 イヌの品種解説</li> <li>3 前躯体構成と前肢の役割。形状の違いに関連する能力の違い</li> <li>4 中躯体構成と腰部の役割。脊椎形状の違い</li> <li>5 後躯体構成と後肢の役割。尾の形状。歩様</li> <li>6 頭部形状と頭部各部名称。頭部形状に関連する咬合の種類</li> <li>7 動物取扱業で使用される用語解説</li> <li>8 イヌの仕事 (1)</li> <li>9 感覚器とその能力 (1)</li> <li>10 感覚器とその能力 (2)</li> <li>11 イヌの毛色とサイズ (1)</li> <li>12 イヌの毛色とサイズ (2)</li> <li>13 日本におけるイヌの登録</li> <li>14 家庭犬としての適性を備えたイヌ品種及び、日本アキタとアメリカアキタの違い</li> <li>15 日本犬</li> </ol>						古川 力 古川 力 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 宮田 淳嗣 宮田 淳嗣 宮田 淳嗣 宮田 淳嗣 宮田 淳嗣 古川 力 山崎 薫 福山 貴昭
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
解答を掲示する						
履修上の注意						
日本で登録頭数の多いイヌ約30品種については、予習を前提で授業を進行する。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
事前学修「各授業回の内容に関連する資料を読んでおくこと」						
事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」						
評価方法（評価基準を含む）						
授業への参加度・学修態度(60%)、課題(40%)を基に総合的に評価する。						
教科書						
特に指定しない。						
参考書、教材等						
『家庭犬に向くイヌ品種』 山崎 薫 著 ㈱教育アシストセンター出版部						

授業科目	伴侶動物行動学					担当教員	堀井 隆行
科目英名	Companion Animal Behavior						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学専攻 必修科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
<b>到達目標</b>							
<p>動物の行動は、その動物の健康状態や心理状態、身体的能力や知的能力など様々な情報を含んでいる。これらの情報を正確に読取ることは、人と動物が良好な関係性を築く上で不可欠である。そのため本講義では、伴侶動物として代表的なイヌ・ネコを中心に、その行動についての基礎的知識を学修し、理解を深め、実際に伴侶動物を取り扱う場面において還元することができる考察力を修得することを目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>伴侶動物（主にイヌ・ネコ）の行動原理を知り、行動に含まれる情報を理解するために、動物行動の基礎概念から個体行動・社会行動、維持行動・生殖行動・失宜行動といった行動分類に沿って体系的にその行動について学ぶ。また、学習理論や行動発達などにも着目し、ドッグ（キャット）トレーニングとの関連性、成長過程におけるイヌ・ネコの行動、問題行動との関連性についても学ぶ。</p>							
<b>授業計画</b>							
1	動物行動の基礎的理解①：動物行動の基礎概念と特性について学ぶ						
2	動物行動の基礎的理解②：家畜化による行動変化と行動分類、行動発現のメカニズムについて学ぶ						
3	伴侶動物の維持行動①：摂食行動（摂食、飲水）、休息行動、排泄行動について学ぶ						
4	伴侶動物の維持行動②：護身行動、身繕い行動、探査行動、個体遊戯行動について学ぶ						
5	伴侶動物の社会行動①：群れと社会構造、社会空間行動について学ぶ						
6	伴侶動物の社会行動②：知覚能力とコミュニケーションシグナル、社会的探査行動について学ぶ						
7	伴侶動物の社会行動③：敵対行動と親和行動、社会的遊戯行動について学ぶ						
8	伴侶動物の生殖行動：性行動と母子行動について学ぶ						
9	伴侶動物の失宜行動：葛藤行動と異常行動（ストレス負荷時の行動）について学ぶ						
10	学習理論①：古典的条件づけ、オペラント条件づけについて学ぶ						
11	学習理論②：馴化、鋭敏化、般化、弁別、消去等について学ぶ						
12	学習理論③：学習理論とドッグ（キャット）トレーニングとの関連性（反応形成）について学ぶ						
13	イヌ・ネコの行動発達①：子イヌ・ネコの各成長過程における行動発達について学ぶ						
14	イヌ・ネコの行動発達②：子イヌ・ネコの社会化について学ぶ						
15	イヌ・ネコの問題行動入門：問題行動の発生とその予防・対処について、これまでに学んだ内容と関連付けながら入門的に学ぶ						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
<p>授業内のレポートについては総括したコメントを返す。また、要望や質問等については都度口頭にて回答を行う。</p>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>動物生態学（1年次必修）、動物行動学（2年次必修）の学修内容の振り返りをしておくこと。</p>							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
<p>各授業回に関連する教科書の内容は事前に読んでおくこと。また、授業後には教科書および配布資料等を基に内容をまとめること。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>定期試験（60%）・課題レポート（10%）・授業への参加度（30%）による総合評価。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>『認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 3 動物行動学/伴侶動物学/産業動物学/実験動物学/野生動物学』 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 インターズー</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>『動物行動図説 家畜・伴侶動物・展示動物』 佐藤衆介・近藤誠司・田中智夫・楠瀬良・森裕司・伊谷原一 編 朝倉書店 教材には、Microsoft Power Point で作成したスライドに具体的事例の画像や動画を盛り込んだものを使用。</p>							

授業科目	伴侶動物行動演習					担当教員	堀井 隆行
科目英名	Practice of Companion Animal Behavior						
開講期間	3 年次 後期	動物人間関係学専攻 選択科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>伴侶動物（主にイヌ・ネコ）の行動から様々な情報を読み取るためには、行動観察法および行動解析法を修得する必要がある。特に実践的な観察法・解析法により問題行動の対処への応用につなげることについて学ぶ。実際に伴侶動物を取り扱う場面（特に問題行動対処）においてその行動に対する正確な状況判断ができるスキルを修得することを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>伴侶動物行動学で学んだ知識をより活用できるようにするために、生体やビデオなどを用いて行動観察法・行動解析法を解説する。各手法の基礎を解説し、その後に様々な状況におけるイヌ・ネコの行動（特に問題行動）について周辺環境刺激や生体の解剖的・生理的状态など様々な要因から行動の意図を考察させる。ディスカッションあるいは生体を扱う体験を通して、問題行動への対処について主体的・実践的に授業を展開する。</p>							
授業計画							
1	行動観察と行動研究：研究的手法と実践的手法それぞれの意義と特徴について学ぶ						
2	実践的行動観察・解析法：実現場における行動観察・解析の着目点について学ぶ						
3	イヌ・ネコのボディランゲージ：ボディランゲージの微細な特徴・変化について学ぶ						
4	実践的行動観察・解析演習①：動画を用いてボディランゲージを観察し、考察する						
5	実践的行動観察・解析演習②：生体を用いてボディランゲージを観察し、考察する						
6	問題行動対処：問題行動対処の根幹、カウンセリング、コンサルテーションについて学ぶ						
7	問題行動対処演習①：人との歩行に関する問題の原因と対処についてディスカッションする						
8	問題行動対処演習②：異嗜・食糞の原因と対処についてディスカッションする						
9	問題行動対処演習③：活動性に関する問題の原因と対処についてディスカッションする						
10	生体とのコミュニケーション演習：的確なコミュニケーション方法の微細な特徴について学ぶ						
11	問題行動対処演習④：“かむ”行動に関する問題の原因と対処についてディスカッションする						
12	問題行動対処演習⑤：“かむ”行動に関する問題の原因と対処についてディスカッションする						
13	問題行動対処演習⑥：恐怖・不安に関する問題の原因と対処についてディスカッションする						
14	問題行動対処演習⑦：恐怖・不安に関する問題の原因と対処についてディスカッションする						
15	問題行動対処演習⑧：排泄に関する問題の原因と対処についてディスカッションする						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業内のレポートについては総括したコメントを返す。また、要望や質問等については都度口頭にて回答を行う。							
履修上の注意							
いくらか知識があっても実際の観察力と考察力が伴わなければ、何の役にも立たない。本演習では行動研究法については大幅に省略し、実現場における実践的手法に主眼を置く。特に問題行動について飼い主の主訴からスタートして原因と対処を導くことができるようにイヌ・ネコの行動をよく観察して、その行動の意図を考察する力を身につける。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
各授業回に関連する教科書の内容は事前に読んでおくこと。また、授業後には教科書および配布資料等を基に内容をまとめること。							
評価方法（評価基準を含む）							
課題レポート（50%）・授業への参加度（50%）による総合評価。							
教科書							
『認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 3 動物行動学/伴侶動物学/産業動物学/実験動物学/野生動物学』 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 インターズー 『ドッグ・トレーナーに必要な「深読み・先読み」テクニック』 ヴィベケ・S・リーセ 著 藤田りか子 編 誠文堂新光社							
参考書、教材等							
『動物行動図説 家畜・伴侶動物・展示動物』佐藤衆介・近藤誠司・田中智夫 他 編 朝倉書店 『ドッグ・トレーナーに必要な「犬に信頼される」テクニック』、『同「子犬レッスン」テクニック』 共にヴィベケ・S・リーセ 著 藤田りか子 編 誠文堂新光社 教材には、Microsoft Power Point で作成したスライドや観察用動画・生体などを使用。							

授業科目	コンパニオンドッグトレーニング論					担当教員	◎堀井 隆行・ 山本 央子
科目英名	Companion Dog Training Theory						
開講期間	3年次 後期	動物人間関係関係学専攻 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>長い歴史の中で、最も人と近い位置で暮らし続け、人の手による品種改良を繰り返し、「人工動物」と化してきた犬。しかし、人の伴侶として暮らす家庭犬も、人を傷つける鋭い犬歯を持つ動物である。人の社会に受け入れられる「理想的なコンパニオン・ドッグとは?」、そのトレーニング理論と実践能力を持つ人材を目指し、犬との適切なコミュニケーション技術から育成論を学ぶことを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>人と暮らす犬、犬と暮らす人、双方の幸せと福祉を踏まえて、理想的なコンパニオンドッグの定義とは?犬種特性の行動や、社会とコンパニオンドッグの相互関係を基本に、犬に何を、どのようにして習得させるか?様々な犬具からトレーニング方法まで、より効果的、かつ倫理に叶う適切な用い方。理想的なコンパニオンドッグの育成方法を追究する。</p>							
授業計画							担当教員
1	学習と行動/行動の原理						堀井 隆行
2	犬の家畜化の歴史						堀井 隆行
3	レスポナント (古典的) 条件付け						堀井 隆之
4	オペラント条件付け/強化随伴性						堀井 隆行
5	オペラント条件づけ/弱随伴性						堀井 隆行
6	弁別刺激/刺激性制御						山本 央子
7	環境と行動のエンリッチメント						山本 央子
8	行動の強化、弱随伴性、消去~強化子の種類と用い方~誘導と報酬						山本 央子
9	子犬のトレーニング1/排泄、クレート						山本 央子
10	子犬のトレーニング2/社会化						山本 央子
11	新しい行動を教える~行動の獲得と学習						山本 央子
12	シェイピング~成功するためのトレーニング工程/行動の観察と記録						山本 央子
13	ターゲット~キャッチング						山本 央子
14	問題行動~問題行動の定義と原因の分析						山本 央子
15	老犬との暮らしを豊かに~感謝と喜びのトレーニング						山本 央子
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
講義中の口頭試問や質問等に対してはその都度コメントを返す							
履修上の注意							
講義内容への理解を深めるため、積極的に発言を促す目的で質疑応答時間を設ける							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
授業前には前回配布資料を読み、授業後には授業内容をまとめること (可能であれば実践すること) 質疑応答形式で予習・復習の状態を確認する							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業の参加度 30%、定期試験 70%							
教科書							
特定の教科書の使用は無し、随時必要に応じた最新資料の配布							
参考書、教材等							
「行動分析学入門」 杉山尚子著							
「犬の博物図鑑」 A.ミクローシ著							
「メイザーの学習と行動」 J.E.メイザー著							
「学習の心理」 実森正子、中島定彦共著							
その他							

授業科目	コンパニオンドッグトレーニング実習					担当教員	山本 央子
科目英名	Practical Training of Companion Dog						
開講期間	4年次前期	動物人間関係学専攻 選択科目1単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護師として動物看護臨床における家庭犬のハンドリングに必要な技術を修得する</li> <li>・動物看護師として動物看護臨床における飼い主へのサポートに必要なコミュニケーション能力を修得する</li> </ul>							
講義概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬の行動の観察と記録</li> <li>・犬の行動の変容の技術</li> <li>・問題とされる犬の行動の分析</li> <li>・系統的脱感作と拮抗条件付けの技術</li> <li>・オペラント条件づけの技術</li> </ul>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自発的な犬の行動の観察と種類、記録</li> <li>2 トレーニングの環境設定と衝動反応の分析、制御</li> <li>3 古典的条件づけの応用/拮抗条件付け</li> <li>4 オペラント条件づけの応用/アイコンタクト～ルーズリード歩行</li> <li>5 フードの優先順位</li> <li>6 クレートトレーニングの行程/行動の強化と弱化</li> <li>7 行動の消去</li> <li>8 行動に合図を付ける/刺激性制御</li> <li>9 クリッカーによるフリーオペラントトレーニング</li> <li>10 弁別トレーニング対象物の弁別</li> <li>11 限りなく完全な呼び戻し</li> <li>12 教育としての犬の遊び/口に加えたものを放す</li> <li>13 臭気探索作業①</li> <li>14 臭気探索作業②</li> <li>15 オンリードからオフリードへ</li> </ol>							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
質疑応答、実習を通して実技能力への評価を個別に伝える。							
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に犬の行動の管理、環境設定に気をつける</li> <li>・犬へのストレスの軽減に気をつける</li> </ul>							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
自主的な観察作業の奨励として課外観察や記録の提出							
評価方法 (評価基準を含む)							
・授業への参加度(30%)と実技能力(70%)							
教科書							
配布教材							
参考書、教材等							
「行動分析学入門」 杉山尚子著 「犬の博物図鑑」 A.ミクローシ著 「メイザーの学習と行動」 J.E.メイザー著 「学習の心理」 実森正子、中島定彦共著 そのほか随時							

授業科目	ジェロントロジーとドッグウォーキング					担当教員	秋山 順子
科目英名	Gerontology and Dog Walking						
開講期間	3年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>ジェロントロジー（老年学）の視点から、世界に先がけて超高齢社会を迎えたわが国におけるさまざまな健康課題と、イヌを飼う・散歩すること（ドッグウォーキング）が、わが国の健康課題の解決に対して果たす役割を理解することを到達目標とする。具体的には、ジェロントロジーの学問の概念とわが国の現状について説明ができる。ドッグウォーキングが健康にもたらす効果とその具体的な方法を説明できる。</p>							
講義概要							
<p>わが国の超高齢社会における課題を理解した上で、ヒトの健康に対するドッグウォーキングの可能性を捉え、社会において応用できる知識の修得を目標とする。ジェロントロジーの学問の概念とそれに伴う健康問題、健康寿命や介護予防の考え方、座り過ぎの問題について学ぶ。イヌを飼う・散歩すること（ドッグウォーキング）がヒトの健康にもたらす効果に関する研究成果に基づき、ドッグウォーキングを課題解決の一つの手段として認識する。医学、社会学や心理学の観点からヒトの健康について、生理学や行動学の観点からイヌに配慮した散歩について専門的知識を得ながら、ヒトとイヌの関係に基づいたより良いドッグウォーキングについて考える。</p>							
授業計画							
1	ガイダンス						
2	ジェロントロジーとその概念						
3	健康寿命と介護予防の実際						
4	高齢者における座り過ぎの健康問題						
5	超高齢社会の到来と大往生の創造（ゲストスピーカー）						
6	加齢に伴う身体の変化とそれに対する対応（ゲストスピーカー）						
7	超高齢社会とペットの役割（中間試験）						
8	高齢者の心と体の特性に配慮したケア（ゲストスピーカー）						
9	高齢者と喪失体験－ペットロス（ゲストスピーカー）						
10	高齢者の社会参加（ゲストスピーカー）						
11	ソーシャルキャピタルとドッグウォーキング（ゲストスピーカー）						
12	ドッグウォーキングの効用と動向（中間試験）						
13	イヌの健康と運動（ゲストスピーカー）						
14	ヒト社会におけるヒトとイヌのより良い散歩（ゲストスピーカー）						
15	総括・最終試験						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
中間および最終授業で全体に対するフィードバックを行う。							
履修上の注意							
本科目はオムニバス形式で実施する。講演者のスケジュール調整等で授業計画が変更になる場合があるため掲示や連絡事項等に注意すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：授業で配布した資料、関連書籍にて復習する。中間授業内試験による理解度の確認を行う。							
評価方法（評価基準を含む）							
最終試験 50%、小テスト 20%、授業への参加度 30% によって総合的に評価する。							
教科書							
特に指定しない							
参考書、教材等							
東大がつくった高齢社会の教科書、東京大学高齢社会総合研究機構（編著）、東京大学出版 超高齢社会の基礎知識、鈴木隆雄(著)、講談社現代新書							

授業科目	ネコの特性論				担当教員	早田 由貴子
科目英名	Characteristics of Domestic Cats					
開講期間	2年次 前期	選択科目 2単位	授業 形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕
到達目標						
<p>ネコの習性,特性を理解し、より良いコミュニケーションをはかる。野生の血を深く残しつつ現代社会に繁栄している愛らしい生き物を勉強することで多くの学生が猫に魅せられ、癒されることを目指す。各純血猫種のスタンダード（審査基準）を修得する。</p>						
講義概要						
<p>コンパニオンアニマルである猫と楽しく暮らすにはネコの特性、習性、生理を知ることから始まる。5000年もの長い間、人間とともに暮らしてきた猫、しかしこれだけの時間をかけても人間は猫を完全に家畜化することは出来なかった。彼らの野生の血こそが彼らの魅力なのだろう。人間と猫との係わり合いを勉強し、正しく猫を理解することによって猫と人間が快適に生活できるようになる。</p>						
授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 猫の起源、進化、分類</li> <li>2 外部形態（体の構造—骨格、各部位の名称）</li> <li>3 ネコの毛色とパターン、目色、ボディータ입</li> <li>4 ネコ種（長毛種 ペルシャ、メインクーンキャット他）</li> <li>5 ネコ種（短毛種Ⅰ）</li> <li>6 ネコ種（短毛種Ⅱ）</li> <li>7 猫の感覚器官各部位の機能と特性（嗅覚、味覚、聴覚、視覚）</li> <li>8 猫の習性「行動学」</li> <li>9 飼育管理（猫の飼い方、居住環境）</li> <li>10 栄養、消化器系の主な疾患</li> <li>11 呼吸器系 循環器系の主な疾患</li> <li>12 泌尿器系 内分泌系の主な疾患</li> <li>13 猫の繁殖</li> <li>14 遺伝学</li> <li>15 キャットショー、血統書</li> </ol>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
課題レポートに対して評価解説する。						
履修上の注意						
上記に示す各講義項目のうち、それぞれ独立して1—2回の講義で行う場合と、内容によっては総合的に講義を行うこともある。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
予習、復習として教科書プリント集をよく読み勉強すること。						
評価方法（評価基準を含む）						
授業への参加度（10%）と定期試験（筆記試験、90%）						
教科書						
猫の教科書 高野八重子 他 ペットライフ社						
参考書、教材等						
イラストでみる猫学 林良博 講談社 プリント						

授業科目	コンパニオンバードの特性論					担当教員	◎島森 尚子・ 小嶋 篤史
科目英名	Characteristics of Companion Birds						
開講期間	3 年次 前期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>一口に飼鳥と言ってもその種類は千差万別であり、鳥を飼う目的も様々だが、近年では、コンパニオンバードとして鳥を飼う人たちが増えてきており、同時に、病気や問題行動で悩む飼い主も増加している。本講義では、動物看護職および飼鳥に関連する職種を目指す学生が必要とするコンパニオンバードに関する知識の修得を到達目標として、2名の教員がオムニバス形式で講義する。</p>							
講義概要							
<p>(島森尚子)家禽化した飼鳥を例にとって飼養の歴史などを学んだ後、飼鳥として人気の高い幾つかの種を取上げてその特質を学び、さらに適正飼養について考えてゆく。授業では、必要に応じてビデオを見たり実際の鳥を見たりしながら、鳥という生き物についての認識を深める。</p> <p>(小嶋篤史)今まで勉強してきた食肉目(犬、猫)の看護学と鳥類の看護がどのように異なるのか、鳥類の分類学的位置、生理学的特徴、解剖学的特徴の基礎を学び、いくつかの病気を紹介する中で理解を進めてゆく。</p>							
授業計画							担当教員
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス・コンパニオンバード概論 1 鳥類学概論</li> <li>2 コンパニオンバード概論 2 鳥の文化史</li> <li>3 コンパニオンバード概論 3 一般的飼育法</li> <li>4 カナリア 歴史と品種</li> <li>5 その他のフィンチ類</li> <li>6 セキセイインコ 歴史と品種</li> <li>7 オカメインコとその他の小型・中型インコ類</li> <li>8 大型インコ・オウム類</li> <li>9 巣引きと育雛</li> <li>10 人間と鳥の関係</li> <li>11 鳥類の進化と分類</li> <li>12 鳥類の骨の解剖と疾患、その看護</li> <li>13 鳥類の消化器の解剖と疾患、その看護</li> <li>14 鳥類の生殖器の解剖と疾患、その看護</li> <li>15 まとめと復習</li> </ol>							島森 島森 島森 島森 島森 島森 島森 島森 島森 島森 小嶋 小嶋 小嶋 小嶋 島森
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック							
課題については適宜解説と講評を行う。							
履修上の注意							
やむを得ない事情により、講義の順序を変更する場合がある。その場合、掲示およびガイダンス等で案内する。							
事前・事後学修(予習・復習)の内容							
指定された教科書、および配布教材等を用い、毎回シラバスに従って予習・復習を行うこと。							
評価方法(評価基準を含む)							
平常点(小課題など)30%、定期試験70%として総合的に評価する。							
教科書							
『小鳥図鑑』誠文堂新光社 『コンパニオンバードの病気百科』誠文堂新光社							
参考書、教材等							
教場で指示する。							

授業科目	保全生物学					担当教員	◎古川 力・天野 卓
科目英名	Conservation Biology						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
<b>到達目標</b>							
<p>生物は様々な環境に適応して進化し、その多様性を維持してきた。しかし近年、人間の生活による環境破壊は生物多様性のバランスを崩し、多様性の持続が困難な状況を生み出している。本講義は、生物多様性保全の意義、環境破壊の現状、希少動物保全活動の具体例等を学修することにより、生物多様性保全や地球環境保全に資するために必須となる基礎知識を修得するのみならず、生物多様性を維持するために今後自らがどのような行動をとるべきかについて考察できることを到達目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>現在、生物の多様性とそれを支える環境が地球規模で悪化しつつある。それら原因の多くは生態系を考慮しない人の営みに起因し、自然環境を保全することは我々の責務であることを解説する。本講義では生物保全に関わる具体事例を多く紹介する。希少種の保全と管理だけでなく、乱獲や獣害など個体数管理の問題、人のふるまいに起因する外来種問題、保全のための各種技術、法制度や社会の合意形成、遺伝学的諸問題などの幅広い講義内容を通じ、保全生物学が総合的学問であることを理解してもらう。</p>							
<b>授業計画</b>							<b>担当教員</b>
1 保全生物学で学ぶべきこと：講義の目的と特色、講義の進め方等のガイダンス							天野 卓
2 生物多様性とは何か							天野 卓
3 生態系破壊の現状と要因 (1) 自然環境の人為的破壊							天野 卓
4 生態系破壊の現状と要因 (2) 生物相の攪乱、地規模の環境破壊							天野 卓
5 保全のための技術							天野 卓
6 希少種保全対策の具体例(1)：アホウドリ、ツル、トキ、ヤンバルクイナ等							天野 卓
7 希少種保全対策の具体例(2)：イリオモテヤマネコ、ツシマヤマネコ等							天野 卓
8 絶滅危惧種：絶滅危惧種とは、日本における絶滅危惧種							天野 卓
9 外来種問題：外来種とは、日本における外来種問題							古川 力
10 獣害問題：シカ、イノシシ、サルの個体数管理と各種の獣害対策							古川 力
11 鳥獣保護法と動愛法：野生鳥獣保全の法的枠組み、ノラネコの管理							古川 力
12 地球規模の保全努力：ワシントン条約、生物多様性条約、ラムサール条約など							古川 力
13 域内保全と域外保全：遺伝学と生殖技術を応用した多様性保全							古川 力
14 動物園、水族館の新たな役割							古川 力
15 保全生物学総括							古川 力
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
ミニテストやレポートを実施後、速やかに正解を解説し、学生にフィードバックする。							
<b>履修上の注意</b>							
保全生物学と合わせて野生動物学を受講していることが望ましい。講義中における自筆ノートの作成や配布資料への重要説明の記入を行なうこと。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前学習：毎回の授業前に、配布された資料や紹介した本を読んでおくこと。							
事後学習：毎回の授業後に、配布された資料やノートで復習し、レポート等を作成すること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度（40%）と授業の節目ごとに実施するミニテストやレポート（60%）により総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
特に指定しない。							
<b>参考書、教材等</b>							
保全生物学 樋口広芳編 東京大学出版会							
保全生物学のすすめ リチャードB. プリマック、小堀洋美共著 文一総合出版							

授業科目	産業動物学					担当教員	古川 力
科目英名	Farm Animal Science						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>わが国で飼育されている主な産業動物は牛・豚・鶏である。これらの動物の役割は食料の生産にあり、我々の生活と密接に関係している。これら動物の存在意義について理解するとともに、生物を利用した食料生産の仕組みを理解できるようになることを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>産業動物は家畜と言われるものの中でも人々の衣食住、特に今日では食に大いに貢献している動物である。これらの動物は野生種から人が改良を加えてきたものであり、その成立の歴史、役割の変遷をまず説明し、次に各種動物の品種とその特徴、能力の改良方法、繁殖と増殖方法、栄養給与方法などを紹介する。また、生産に重要な影響を与える病気と防疫対策、排泄物の処理方法などについても述べる。</p> <p>最後に農業の中での産業動物の位置づけや産業動物を用いる経営と、現在産業動物に生じている問題点をあげ、今後の産業動物のあり方について考える。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 産業動物とは、産業動物のなりたち</li> <li>2 産業動物が人の生活に果たす役割</li> <li>3 産業動物飼育の世界と日本における状況</li> <li>4 豚について</li> <li>5 鶏について</li> <li>6 肉牛について</li> <li>7 乳牛について</li> <li>8 我が国では少数が飼育されている、あるいは全く飼育されていない産業動物について</li> <li>9 産業動物の改良について</li> <li>10 産業動物の繁殖について</li> <li>11 産業動物の栄養と飼料について</li> <li>12 産業動物の衛生について</li> <li>13 産業動物の排泄物について</li> <li>14 産業動物の生産物と飼育経営について</li> <li>15 産業動物の問題点と将来について</li> </ol>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業ごとに小テストを行い、次回においてその解説と質問・意見への対応を示す。							
履修上の注意							
動物生理学、動物機能形態学、動物遺伝学等で得た知識が関係するので、これらを復習しておくことが望ましい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
授業で配付した資料を復習して理解を深め、次回授業の予習とする。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業ごとの小テスト(40%)、試験(レポートを含む、60%)により総合的に評価する。							
教科書							
教科書は特に指定しない。講義時に資料を配布する。							
参考書、教材等							
授業時に指示する。							

授業科目	実験動物学					担当教員	◎今村 伸一郎・ 梅村 隆志
科目英名	Laboratory Animal Science						
開講期間	4年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
<b>到達目標</b>							
<p>動物実験はなぜ必要なのか、動物実験の現状（動物実験擁護論と反対論）、倫理的かつ科学的動物実験、各種実験動物の特性、適正な動物実験、動物実験における危害防止などについて理解する。本講義の到達目標は、動物実験の必要性とそれを行うにあたり十分に考慮しなければならないルールについて説明できるようにすることである。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>実験動物は生命科学の研究には欠くことのできないものである。これまでに、様々な生命現象の解明や有益な薬の開発が、実験動物を用いて行われてきた。動物実験は単に科学的であるだけでなく、実験動物の福祉を十分配慮した倫理的な実験でなければならない。本講義では、各種実験動物の利用特性、動物実験を取り巻く社会情勢、適正な動物実験のあり方と「科学的かつ倫理的動物実験」を行うための知識について概説する。</p>							
<b>授業計画</b>							<b>担当教員</b>
1	実験動物学概説：動物実験の意義、実験動物の定義と利用状況、歴史と今後の展望						今村伸一郎
2	動物実験の倫理と法規制						今村伸一郎
3-8	各種実験動物の比較生物学： マウス、ラット、ハムスター、スナネズミ、モルモット、 ウサギ、ネコ、イヌ、ブタ、サル等						今村伸一郎
9	実験動物の育種						梅村 隆志
10	実験動物の繁殖						梅村 隆志
11	実験動物の飼育管理						梅村 隆志
12	実験動物の疾病						梅村 隆志
13	生物学的・疾患モデル動物						梅村 隆志
14	動物実験代替法：動物実験と3R原則、動物実験代替法のメリット・デメリット						梅村 隆志
15	動物実験からヒトへの外挿						梅村 隆志
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
各担当者で1回ずつレポートを課す予定で、これについては返却しながらコメントする予定である。							
<b>履修上の注意</b>							
動物実験に関しては賛否両論があるので、動物実験の是非について反対意見の人々と十分な議論ができるよう自分の意見を常に明確にしておく必要がある。その上で授業に出席してほしい。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
毎回資料を配布する予定だが、予習は自分の裁量の中でやるとして、復習は、授業および資料のノート整理を中心に、しっかりとまとめておくこと。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業参加度（30%）、学期末試験（50%）、レポート（20%）により総合的に成績評価を行う。							
<b>教科書</b>							
特に指定しない。 適宜プリントを配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
最新実験動物学 前島一淑、笠井憲雪編、朝倉書店							

授業科目	野生動物学					担当教員	天野 卓
科目英名	Wild Animal Science						
開講期間	2 年次 後期	動物人間関係学専攻 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>野生動物学を学ぶためには、野生動物が現在に至る過程、そしてそれらが現在日本や世界にどのように生息し、どのような環境でどのような生活様式を持ち、どのように人と関わっているのかを知っておかなければならない。講義前半では動物の系統進化と分類、野生動物の形態、行動、社会的構造を、後半では人間の社会経済活動と野生動物との関連を学び、野生動物に対する豊富な知識の修得と、社会が求める野生動物の保全や行動管理技術に必要な知識の修得を目標とする。</p>							
講義概要							
<p>動物の系統進化から始まり、現世哺乳類の分類、動物地理、野生動物の形態、生態、行動、社会構造等についての基本並びに生息地との関わりについて講義する。全ての伴侶動物や産業動物が野生動物から生じた事実も教示する。また、野生動物の調査法についても具体的に教授する。対象動物は哺乳類を中心とし、人との関連性が深い動物、保全上の問題を抱える動物、外来動物等を取り上げる。さらに日本と世界における野生動物教育・研究の取組みについても講義する。</p>							
授業計画							
1	野生動物学で学ぶべきこと：講義の目的と特色、講義の進め方等のガイダンス						
2	動物の系統進化と分類：分類区分、種の定義、機能形態進化						
3	世界の動物地理、日本の動物地理、現世哺乳類の分類体系						
4	日本の野生動物 (1) 霊長目、ゲッ歯目、						
5	日本の野生動物 (2) ウサギ目、食肉目						
6	日本の野生動物 (3) 奇蹄目、鯨偶蹄目等						
7	野生動物調査法：調査設計、生息域、生息密度						
8	野生動物調査法：捕獲と不動化						
9	野生動物の保護・管理：個体数管理・生息環境管理・被害管理						
10	野生動物の救護と看護、野生復帰						
11	ヒトと関係の深い動物 (1) イヌ、ネコの原種と近縁野生種						
12	ヒトと関係の深い動物 (2) ウシ、ウマ、ロバの原種と近縁野生種						
13	ヒトと関係の深い動物 (3) ゾウ、キリンの原種と近縁野生種						
14	ヒトと関係の深い動物 (4) その他の原種と近縁野生種						
15	野生動物学総括						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
ミニテストやレポートを実施後、速やかに正解を解説し、学生にフィードバックする。							
履修上の注意							
野生動物学と合わせて保全生物学を受講していることが望ましい。講義中における自筆ノートの作成や配布資料への重要説明の記入を行なうこと。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学習：毎回の授業前に、配布された資料や紹介した本を読んでおくこと。							
事後学習：毎回の授業後に、配布された資料やノートで復習し、レポート等を作成すること。							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業への参加度 (40%) と授業の節目ごとに実施するミニテストやレポート (60%) により総合的に評価する。							
教科書							
特に指定しない。							
参考書、教材等							
川道武男(編) 日本動物大百科 1 哺乳類 I 平凡社							
伊沢斯紘生・粕谷俊雄・川道武男(編) 日本動物大百科 2 哺乳類 II 平凡社							
村田浩一・坪田敏男(編) 獣医学・応用動物科学系学生のための野生動物学 文永堂出版							
教材としてプリント、スライド等を随時使用する。							

授業科目	生物統計学					担当教員	植田 富貴子
科目英名	Biostatistics						
開講期間	2年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>動物を対象として行った実験結果から、全体の傾向を把握し、また種々の外的および内的要因によって起こる実験の誤差を取り除き、あるいはその誤差を補正して一つの正しい推論を導き出す最適な統計手法を学修し、推計学解析に関する基礎的な方法を修得することを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>ある集団の傾向や性質、集団現象を数量的かつ客観的に把握するための最適な統計手法を、卒業論文や学術論文の論証方法として理解し活用できるよう解説し、研究主題に関連する文献・調査・実験などから得られた様々な情報やデータを解析するための技術を講義する。具体的には、分散・標準偏差・相関係数などの基礎統計量や、平易で多用性のある統計検定を教科書の例題、演習問題を用い具体的には以下の授業計画に従って教授する。</p>							
授業計画							
1	生物統計学とは						
2	母集団と標本、データの中心						
3	分散、標準偏差、標準誤差						
4	分散、標準偏差、標準誤差の演習						
5	エクセル演習						
6	推定と検定						
7	平均値の差の検定法 (1) 対応のない2組の標本数が等しい場合						
8	平均値の差の検定法 (2) 対応のない2組の標本数が異なる場合						
9	平均値の差の検定法 (3) 対応のある場合						
10	エクセル演習						
11	分散分析法						
12	カイ二乗検定法						
13	相関係数						
14	回帰係数						
15	エクセル演習						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
講義ごとに演習を行い、その結果について解説する。							
履修上の注意							
受講に際しては、平方根並びに10桁以上の計算可能な電卓を持参すること。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学習: 授業内容に関連する教科書のページをよく読んでおくこと。							
事後学習: 授業内容を復習して、計算問題を解くこと。							
評価方法 (評価基準を含む)							
定期試験 50%、授業への参加度 50%により評価する。							
教科書							
計量生物学 生物統計の基礎と演習 田中一栄 (監修) 天野 卓、野村こう、横濱道成編著 三共出版							
参考書、教材等							
特に指定しない。							

授業科目	バイオテクノロジー					担当教員	小黑 美枝子
科目英名	Biotechnology						
開講期間	2年次後期	動物人間関係学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
<b>到達目標</b>							
<p>生物がどのようなシステムで動くかを調べることは、バイオサイエンスと呼ばれている。そのシステムが解明されれば、そのシステムの修理、補助、作成ができる。バイオテクノロジー（遺伝子工学）は、その技術であり、生物を分子の集合体として理解し、化学の知識、技術を応用したバイオサイエンスと深い関係がある。将来、動物看護学や動物人間関係学の専門分野や、実生活において、膨大なバイオテクノロジーが利用され、バイオの問題に直面あるいは、判断を迫られる状況が増えるだろう。このような場面に的確に対応できる基礎的バイオテクノロジー知識を修得することを到達目標とする</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>動物看護やその周辺関連分野では、幅広い総合的なサイエンスの知識を必要とする。動物看護学ばかりでなく、日常一般生活においても、最近では、DNA 鑑定や遺伝子などの言葉が頻繁に使用され、分子生物学やバイオテクノロジーの内容を理解することが必要である。本授業では、このような時代に不可欠なバイオの基礎知識を、生物に関する基礎知識を踏まえながら修得する。1.遺伝情報の発見、概念 2.動物の生命現象を分子レベルで見える方法 3.バイオテクノロジーの応用利用 4.バイオテクノロジー技術がもたらす光と影の2面性、以上をまとめ、バイオテクノロジーに対する正しい理解を修得する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 バイオテクノロジー科目の紹介、遺伝子の不思議</li> <li>2 ゲノム・遺伝子とは何か。</li> <li>3 ヒトのゲノム、さまざまな動物のゲノム</li> <li>4 遺伝子情報からタンパク質をつくる仕組み</li> <li>5 遺伝子組み換え技術の基礎</li> <li>6 PCR 法</li> <li>7 遺伝子診断</li> <li>8 DNA 鑑定</li> <li>9 遺伝子組み換え作物</li> <li>10 クローン動物</li> <li>11 毛色を決める遺伝子</li> <li>12 毛質を決める遺伝子</li> <li>13 体の大きさを決める遺伝子</li> <li>14 バイオテクノロジーが社会にもたらすこと</li> <li>15 まとめと確認テスト</li> </ol>							
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
試験や課題の解説を授業中に行い、フィードバックする。							
<b>履修上の注意</b>							
バイオテクノロジー技術、その応用利用が新聞、テレビ等にニュースとして取り上げられる。日常生活にどのように密接に関わっているかについて、興味をもってほしい。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
<p>事前学修： 第 2～第 14 回目の授業については、事前にレジメを配布するので、事前に目を通し、参考書やインターネットで理解を深めておくこと。</p> <p>事後学修： レジメ、板書を活用して講義内容を講義ノートとしてまとめる。疑問点については、授業中の提出小テストなどを利用して質問する。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>定期試験、授業中に実施する小テスト（授業への参加度含む）により、総合的に評価する。</p> <p>評価基準は、それぞれ、60%、40%の割合とする。</p>							
<b>教科書</b>							
配布プリント							
<b>参考書、教材等</b>							
DNA ジェームス・ワトソン 講談社、ポピュラーサイエンス DNA 鑑定のはなし 裳華房、分子生物学講義中継 羊土社、コア講義、分子生物学 田村隆明著、遺伝子工学第2版 講談社							

授業科目	動物愛護・福祉と関連法規					担当教員	◎関谷 順一 会田 保彦
科目英名	Act on Animal Kindness and Welfare						
開講期間	3年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
<p>21世紀のキーワードは「環境問題」と言われ、その一環として世界的にも動物愛護の気風が高まっている。しかし、極めて耳に心地よい「動物愛護」なる言葉も、人が動物に対して抱く気持ちは千差万別であり、その本質的な意を理解することは難しい。</p> <p>動物愛護・福祉に関する高邁な理念に触れ、基本的な考え方を理解するとともに、普遍的で客観性の高い社会的規範としての法律とからめながら、実情を考察することを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>悠久の歴史を有する人と動物の係わりは、ある種の文化の歴史でもある。このことをマクロの観点からとらえ、人と動物が共有する生態系（地球）における野生動物の絶滅等の問題点とその原因や対策を論じながら、人と動物の共存こそが地球の将来を救う方策であることを解き明かしていく。そして、動物の命を尊重する考え方を確立すると共に、共生の論理や法律の必然性を理解する。</p>							
授業計画							担当教員
1	動物愛護とは：「個人の心の在り方」を脱皮し、社会の普遍性を認識し共有する						会田保彦
2	日本人の動物観と動物観の多様性：日本人特有の動物観とは。みんな違う動物観						関谷順一
3	日本における動物愛護運動の歴史：愛護運動・保護活動はどのように広がったか						会田保彦
4	動物愛護思想の変遷：アニミズムからアニマルライツまでの多様な歴史をたどる						会田保彦
5	愛護・福祉（アニマルウェルフェア）・動物の権利（アニマルライツ）の違い						関谷順一
6	動物福祉：動物の苦痛に配慮するという考え方。動物の幸せを考える						関谷順一
7	犬猫問題：日本人は犬猫をどう扱ってきたのか？						関谷順一
8	改正「動物愛護管理法」のポイント：災害対策の担保等、看護師認定試験を視野						会田保彦
9	世界の動物愛護の実態：世界各地の人と動物の関わりの実態を掘り下げる						会田保彦
10	東日本大震災にみる動物愛護：被災状況、救援活動、現状を踏まえ、将来の課題を探る						会田保彦
11	人とペットの関係学：子どもとペット、高齢者とペット等、多様な角度から検討						会田保彦
12	動物愛護の推進①：動物虐待・ネグレクト・飼育放棄・殺処分されるペットたち						関谷順一
13	動物愛護の推進②：人と動物の共生社会を実現するために。私たちができること						会田保彦
14	関連法規の現状：動物看護師として獣医師法、補助犬法、フード安全法を学ぶ						会田保彦
15	動物愛護と福祉の総括						会田保彦
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、提出レポート（抜粋）の発表とコメントを付言する。							
履修上の注意							
なし							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修：授業時間内におけるメディアの動物ニュースを見聞し、トピックスを発表（任意）							
事後学修：授業15回の内、1～3回のレポート提出（指定テーマについて）							
評価方法（評価基準を含む）							
定期試験（70%）、授業への参加度（30%）をベースに総合的に評価する。							
教科書							
基本的には授業都度に教材としてレジュメプリントを配布し、時にスライドを使用する。 応用動物看護学① 動物福祉・倫理（動物看護学概論での使用の本教科書を併用）							
参考書、教材等							
参考書～動物看護コアテキスト 「人と動物の関係」動物人間関係学、動物関連法規などで構成され動物看護師統一認定試験対応です。 株式会社 ファームプレス発行							

授業科目	ペットロス論					担当教員	◎新島 典子・ 山川 伊津子
科目英名	Theories of Pet Loss and Bereavement						
開講期間	4年次 前期	動物看護学専攻 選択科目2単位	動物人間関係学専攻 必修科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕
到達目標							
本講義ではペットロス（ペットの喪失やそれにより生じる悲嘆）に関する諸知識を社会心理学、社会福祉学等の観点から学修し、学生が動物看護の現場でよき理解者、支援者となれることを目標とする。							
講義概要							
ペットロスとは、愛着対象のペットを喪失する体験およびその際に生じる飼い主の悲嘆である。飼い主にとって、家族同様に飼育するペットとの別れは深刻で悲痛な体験となる。調査等で収集した具体的な実例や学外ゲストの講演等も含め、ペットを喪失した飼い主がどのような過程を辿るか、周囲の他者はどのように対応できるのかについて、喪失原因や人間関係等の諸要因をふまえ、人との死別体験にも応用可能な死生学の知見も入れて分析する。講義全15回中10回は新島が、5回は山川が担当する。							
授業計画							担当教員
1	ペットロス論とはなにか						新島
2	ペットロスの基礎知識Ⅰ：ペットロスの定義、ヒトと動物の絆、愛着とは						山川
3	ペットロスの基礎知識Ⅱ：心と体の変化（通常の悲嘆反応）						山川
4	ペットロスの基礎知識Ⅲ：立ち直りのプロセス						山川
5	ペットロスの基礎知識Ⅳ：ペットロスの背景要因						山川
6	ペットロスの基礎知識Ⅴ：ペットロスに対する予防策と対処法						山川
7	ペットと飼い主の関係性Ⅰ：先行研究紹介など						新島
8	ペットと飼い主の関係性Ⅱ：時事的問題ほか						新島
9	ペットの喪失Ⅰ：先行研究紹介など						新島
10	ペットの喪失Ⅱ：時事的問題ほか						新島
11	ペットの喪失に影響を及ぼす要因Ⅰ：先行研究紹介など						新島
12	ペットの喪失に影響を及ぼす要因Ⅱ：時事的問題ほか						新島
13	ペットの喪失への対処Ⅰ：先行研究紹介など						新島
14	ペットの喪失への対処Ⅱ：時事的問題ほか						新島
15	ペットロス論のまとめ						新島
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとしてレポートを回収後、解答例の共有、解説を行います。							
履修上の注意							
履修予定者は「生活と社会」を履修しておくことが好ましい。授業計画の各回の内容や順番は、前後する場合がある。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する個人的経験などを振り返っておくこと」 事後学修「授業で扱ったテーマを、読書やウェブ検索により深化させ、定着させること」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度 35%、課題レポート 25%、試験 40%を総合的に評価。							
教科書							
講義内で適宜紹介する。必要なときにはプリントを配布する。							
参考書、教材等							
・Lagoni, Butler 他著,1994. <i>The Human-Animal Bond and Grief</i> , W.B.Saunders Company.=2000. 鷺巣月美監訳・山崎恵子（訳）『ペットロスと獣医療』チクサン出版社。 ・Stewart, Mary F.著,1999. <i>Companion Animal Death: A Practical and Comprehensive Guide for Veterinary Practice</i> , Butterworth Heinemann.=2000.永田正訳『コンパニオンアニマルの死：獣医療のための実際的、包括的ガイド』学窓社。 ・その他講義内で適宜紹介する。必要なときにはプリントを配布する。							

授業科目	高齢動物看護学					担当教員 ◎富田 幸子・鈴木 友子 花田 道子・本田 三緒子
科目英名	Animal Geriatrics Technology					
開講期間	4年次 前期	動物看護学専攻 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕
到達目標						
<p>動物医療の進展やヒトと動物の暮らしの変化等に伴い、犬猫の寿命が飛躍的に長く延びてきているが、一方で高齢動物において様々な問題が生じている。このため犬猫の身体的な加齢変化を理解でき、生理学的変化か病的変化なのかを説明できる。その後の健康管理や疾病治療および看護の方法を説明できる。また、疾病予防につながる高齢動物の生活の質（quality of life, QOL）の維持および向上の必要性を理解し、高齢動物の飼い主教育をすることができる。高齢動物の積極的な予防看護ができる。</p>						
講義概要						
<p>高齢動物とは何かを定義し、高齢動物の理解とその周囲をとりまく状況について解説し、高齢に伴って出現する動物の身体に加齢変化について各臓器別の変化と正確な知識、それに対応する必要な看護について講義する。QOLの維持管理に必要な知識を講義し、最後に死と向き合うグリーフケアについて講義する。</p>						
授業計画						担当教員
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢動物をめぐる状況</li> <li>2 高齢動物と循環器疾患の看護</li> <li>3 高齢動物と呼吸器疾患の看護</li> <li>4 高齢動物と歯科疾患</li> <li>5 高齢動物と消化器・内分泌疾患の看護</li> <li>6 高齢動物と運動器・神経疾患の看護</li> <li>7 高齢動物と認知障害の看護</li> <li>8 高齢動物と腫瘍疾患の看護（ゲストスピーカー）</li> <li>9 高齢動物と皮膚疾患の看護（ゲストスピーカー）</li> <li>10 高齢動物と眼科疾患の看護（ゲストスピーカー）</li> <li>11 高齢動物と術後管理・リハビリテーション</li> <li>12 高齢動物と感染症対策</li> <li>13 高齢動物と泌尿器疾患の看護</li> <li>14 高齢動物の食餌管理と代替医療</li> <li>15 まとめ（予防）と最終課題（グリーフケア）</li> </ol>						本田 三緒子 富田 幸子 富田 幸子 鈴木 友子 花田 道子 本田 三緒子 鈴木 友子 富田 幸子 富田 幸子 富田 幸子 本田 三緒子 鈴木 友子 富田 幸子 花田 道子 富田 幸子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
小テストは回収後、すぐに解答の解説を行なう。または、レポートはコメントを記載して返却する。						
履修上の注意						
<p>これまでの3年間で学んできた臨床動物看護（内科学、外科学の講義と実習）を履修・単位修得していることが望ましい。これらの上に成り立つ科目のため、各々の講義前に関連科目の予習をしてから講義に望んでほしい。また新聞やニュースなどでとりあげられる高齢動物関連の最新情報にも耳を傾け、社会環境や動物とヒトの介護問題に注意を向けてほしい。</p>						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
事前学修：各講義内容に関連するこれまでの講義資料、教科書を読んでおくこと。						
事後学修：配布資料、教科書をもとに復習を行い、知識を確認する。						
評価方法（評価基準を含む）						
授業への参加態度（レポート提出を含む）20%、小テスト20%、定期試験60%から総合的に評価する。						
教科書						
講義内容に合った資料を配布する						
参考書、教材等						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 犬と猫におけるリハビリテーション、支持療法および緩和療法（監修 長谷川篤彦、学窓社）。</li> <li>2) 高齢動物の医学（監訳 長谷川篤彦、インターズー）。</li> <li>3) 犬と猫の老齢医学（監訳 丸尾幸嗣、インターズー）。</li> <li>4) 疾患別 動物看護学ハンドブック（緑書房）</li> </ol>						

授業科目	動物自然療法論					担当教員	◎花田 道子 ・本田 三緒子
科目英名	Animal Natural Therapy						
開講期間	4年次 後期	動物看護学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>動物自然療法とは疾患を治すことより動物の健康と幸福を保ち、自然治癒力の向上に重点を置いた療法である。すなわち、動物の体の器官がより良く働くように動物をホリスティック的な考え方で全体として捉えて予防をし、罹患した動物の看護計画も原因を是正し、動物の安楽、ストレスの軽減、自然治癒のプロセスを考慮して立て、症状が治癒した後も生活習慣をサポート・方向修正していきける看護をするための一つの手段・方法であることを現代西洋医学と比較しながら学ばせていく。特に、難病といわれる疾患や高齢動物に対する看護において現代西洋医学の知識・技術を修得し、数々ある自然療法の正しい理解の上に立った療法の的確な選択・実践ができる動物看護師になることが到達目標ではあるが、両方の長所をうまく取り入れた動物と飼い主にとって最良の看護となるよう心掛けなければならない。</p>							
講義概要							
<p>各回の療法・内容に精通して実際に経験したことのある教員によって講義を行い、具体例を示しながら学生に動物看護への応用を考えさせ、将来の展望や動物看護師の技術の拡大へつなげていく。</p>							
授業計画							担当教員
1	自然療法・補完・代替療法と現代西洋医学の比較						花田 道子
2	ホリスティック医療の考え方：未病、病気の捉え方、自然治癒力のプロセス						花田 道子
3	東洋医学の捉え方、中医療(中国医学)の基礎知識：漢方・生薬を含む						本田 三緒子
4	鍼灸療法と指圧：経穴、経絡						花田 道子
5	ストレスとリラクゼーション・デトックスプログラム						本田 三緒子
6	ホリスティック栄養療法：自然食品、天然素材の薬効・薬理						花田 道子
7	栄養補助食品（サプリメント）の効能						花田 道子
8	理学療法①リンパマッサージ等の施術法と効能						花田 道子
9	理学療法②テリントンTタッチセラピー						花田 道子
10	理学療法③マイクロバブル、炭酸泉の効能						本田 三緒子
11	アロマセラピー						本田 三緒子
12	バッチフラワーレメディー						本田 三緒子
13	ハーバルメディシン						本田 三緒子
14	事故防止と安全管理						本田 三緒子
15	まとめ：自然療法を今後の動物看護にどのように生かしていくか						花田 道子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行う。 フィードバックとして、レポートを添削し、コメントを記載して返却する。</p>							
履修上の注意							
<p>あくまでも、現代西洋医学の看護が修得できた上での療法と捉えておくこと。 都合により順序を変更することがある。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学習：各授業内容に関連のある参考書などを読んで、専門用語に慣れておくこと。 事後学習：毎授業後、期限内にレポートを提出すること。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（50%）、レポートおよび学期末試験（50%）で総合的に評価する。							
教科書							
特になし。必要に応じてプリントを配布する。							
参考書、教材等							
<p>ペットの自然療法事典：山根 義久 監修 バーバラ・フジェル著 ガイヤブックス・産調出版 ペットホリスティック・ケア ―ペットの心と体を癒す― 高橋美知代著 ペットライフ社 ペットのための鍼灸マッサージマニュアル 石野孝ら著 医道の日本社</p>							

授業科目	在宅・訪問動物看護論					担当教員 ◎富田 幸子・花田 道子 本田 三緒子
科目英名	Home Care and Home-Visit Animal Nursing Care					
開講期間	4年次 後期	動物看護学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕
到達目標						
<p>近年の動物医療の発展は、良質な食餌の普及、予防医学の進歩、病気に対する飼い主の意識向上によってイヌ・ネコの寿命を飛躍的に亢進させた。それに伴って、疾病動物、とくに高齢の疾病動物は病院での治療後、自宅での継続した看護やケアが必要となることが多くなっている。そのため前半はヒトの在宅看護で蓄積された知識について理解する。ヒトの在宅看護から得られる情報を基本として、第5回からは在宅動物看護で予想される問題点を理解して列挙でき、その対処方法を学修する。第13から15回で動物医療面接法を理解できる。</p>						
講義概要						
<p>動物にとって住み慣れた自宅、飼い主のそばで飼育されることはもっとも好ましいことである。本講義ではヒトでこれまでに培われてきた在宅看護の方法論（家庭訪問、訪問看護）についてとりあげ解説する。次にこれを基本に、動物にとっての在宅訪問看護の役割と在宅での看護方法を講義する。第13,14,15回は動物医療面接法を説明し、演習を実施する。</p>						
授業計画						担当教員
1 動物医療における在宅・訪問看護（ヒトの在宅看護から）						富田 幸子
2 訪問看護する心がまえ（ヒトの看護に学ぶ、プライバシー保護、コミュニケーション術、訪問看護で何ができるか）						本田 三緒子
3 訪問・在宅看護のトラブル防止（ヒトの判例から問題点をつかむ）						本田 三緒子
4 ヒトにおける訪問看護とは（ゲストスピーカー）						富田 幸子
5 在宅動物看護の必要性和課題						花田 道子
6 在宅動物看護における飼主支援（退院時支援と調整）						本田 三緒子
7 在宅動物看護における飼主支援（安全対策と感染予防）						本田 三緒子
8 在宅動物看護における緊急対応、環境改善・医療機器						本田 三緒子
9 在宅動物看護とインフォームドコンセントと動物看護術（ゲストスピーカー）						富田 幸子
10 在宅動物看護と動物看護術（ゲストスピーカー）						富田 幸子
11 在宅動物看護と栄養管理						花田 道子
12 在宅動物看護とターミナル期（看取り支援とは）						花田 道子
13 在宅動物看護と倫理的課題（飼主のポリシーを理解する）と動物医療面接						富田 幸子
14 在宅・訪問動物看護の動物医療面接						富田 幸子
15 在宅・訪問看護看護の動物医療面接（演習）						富田 幸子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
小テストは回収後、すぐにまたはその次の週に解答を行う。レポートはコメントを記載して返却する。						
履修上の注意						
動物看護学（内科学、外科学、総合）の講義と実習を履修・単位取得していることが望ましい。日頃から様々な雑誌、新聞、テレビなどのメディアに注目して周囲の社会環境、ヒトや動物の看護に関する情報を考える目を養うことが大切である。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
事前学修：講義後、次回講義についての予告をするのでそれについて各自予習すること。						
事後学修：レポートは期限内に提出すること。						
評価方法（評価基準を含む）						
授業への参加度（レポートを含む）20%、小テスト20%、定期試験60%の結果等を踏まえ総合的に評価する。						
教科書						
教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。						
参考書、教材等						
1) 家族看護を基盤として在宅看護論Ⅰ（第4版、日本看護協会出版会） 2) 在宅看護（改訂第2版）（学研） 3) 犬と猫におけるリハビリテーション、支持療法および緩和療法（監修 長谷川篤彦、学窓社） 4) 臨床動物看護学Ⅰ（インターズー）						

授業科目	動物災害・危機管理					担当教員	◎福山 貴昭・会田 保彦 小島 香代子
科目英名	Animal Health Emergency Management						
開講期間	4年次 後期	動物人間関係学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
人命・財産・動物の救助体制（フレームワーク）の構築や救助方法の手立ての他、重要な位置付けとなるボランティア活動のありかた等を検証し、危機管理の一環として平時における動物の適正な飼養も学修する。動物看護の視点から、災害時に必要な知識の修得を到達目標とする。							
講義概要							
災害時に動物を救うことは人を救うことでもあることを理解する。そのため、過去の大災害をケーススタディの中心として、不測の事態における基本的な救援体制のフレームワークのありかた、人材としてのボランティアの質と量の確保が動物救援の成否のカギであることについて理解を深める。また、動物看護学における、防災のあり方について解説する。							
授業計画							担当教員
1 災害時における動物救援実例：近年の動物救援活動ケーススタディ							会田 保彦
2 動物救護の必然性：改正「動物愛護管理法」に裏付けられた根拠について							会田 保彦
3 東日本大震災に特化した動物救援：理解と今後の課題							会田 保彦
4 同行避難の原則：被災者（飼い主）と動物は必ず一緒に避難することが原則							会田 保彦
5 予防は治療に勝る：平時の適正な飼養こそが全ての基本原則							会田 保彦
6 被災動物たち（東日本大震災）							小島 香代子
7 ペット災害対策							小島 香代子
8 災害時のペットの救護対策と活動							小島 香代子
9 動物保護行政の現状と課題							小島 香代子
10 犬猫の保護活動							小島 香代子
11 動物管理者の防災1							福山 貴昭
12 動物管理者の防災2							福山 貴昭
13 被災地動物対応事例報告1							福山 貴昭
14 被災地動物対応事例報告2							福山 貴昭
15 ペット同行避難の見直し							福山 貴昭
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業内で模範レポートを示す。							
履修上の注意							
なし							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する資料を読んでおくこと」							
事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
課題（60%）、授業への参加度（40%）を基に総合的に評価する。							
教科書							
プリント等を随時頒布する。							

授業科目	ペットビジネス起業論					担当教員	宮下 めぐみ
科目英名	Pet Business Entrepreneurship						
開講期間	3年次 後期	動物人間関係学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>本講義はわが国の多様なペット関連市場の各種現状をデータや実例などから吸収し、ペット関連市場にビジネスチャンスになりうる商品やサービス等の模索を行う。ペット関連市場への就職に役立つ知識や起業に関しての経営手法等を修得し、ペット業界の即戦力となりうるようにスキルアップを目指す。</p>							
講義概要							
<p>ペット関連市場のデータの読み解きと実例を用いた各種ビジネスの解説を行い、ペットビジネスについての理解を深める。ワークショップを随所に組み込み、講義後半にはビジネスプランの作成を各自行うことでビジネスに必要なエッセンスを実践で学んでいく。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ペット関連市場の状況(1)：コンパニオンアニマル市場（流通や問題点等）</li> <li>2 ペット関連市場の状況(2)：流行犬種&amp;猫種分析</li> <li>3 ペット関連市場の状況(3)：ペット関連商品の市場分析</li> <li>4 ペット関連市場の状況(4)：ペット関連サービスの市場分析</li> <li>5 ペット関連市場の状況(5)：ペット保険の現状と役割（予防医療の推進）</li> <li>6 ペット関連市場の状況(6)：ペットビジネスに関する法令</li> <li>7 ペット関連市場の状況(7)動物病院の現状と分析</li> <li>8 ペット関連市場の状況(8)ペットツーリズム</li> <li>9 ペット業界の就職事情(1)就職に関する知識～労務関連～</li> <li>10 ペット業界の就職事情(2)就職に関する知識～資格など～</li> <li>11 事例研究：ビジネスビジョンの作成 ～売買成立の話～</li> <li>12 ビジネスプラン(1)：事業計画の立て方 ～SWOT分析など～</li> <li>13 ビジネスプラン(2)：事業計画の立て方 ～収支計画など～</li> <li>14 ビジネスプラン(3)：事業計画の立て方 ～リスク計画など～</li> <li>15 ビジネスプラン(4)：ビジネスプラン報告会</li> </ol>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
ビジネスプラン記載用紙にフィードバックとしてコメントを記載する。							
履修上の注意							
<p>授業の後半でビジネスプランの作成を行い、報告会にて各自プレゼンを行う。止むを得ない欠席の際は、事前に届け出るか、後日担当教員の指示を仰ぎ、次回の講義までにプリントの作成をし、持参すること。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習として、関連書物やサイトの確認（60分）、事後学習として配布資料の確認（60分）が必要。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度を40%、ビジネスプランの作成・報告を30%、試験を30%とし総合評価する。							
教科書							
なし							
参考書、教材等							
講義中に紹介する。スマートフォンかタブレットを任意で使用する回あり。適宜、資料を配布する。							

授業科目	簿記基礎					担当教員	荒木 幸子
科目英名	Basic Bookkeeping						
開講期間	3年次 後期	動物人間関係学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>簿記は、企業活動を貨幣額で記録・計算し、その結果を報告するための技術である。簿記は、企業の経済活動のストック（一定時点における財政状態）と、フロー（一定期間にわたる経営成績）に関する情報を測定・伝達する技術であり、企業経営のためにも、また企業評価のためにも必須のものである。本講義では、簿記の初学者を対象として、簿記の手続きの流れと基本的な仕訳方法を中心に説明する。日商簿記検定3級の内容をほぼ理解するとともに、試算表の作成までを主な目標とする。</p>							
講義概要							
<p>簿記を理解するには、反復した仕訳・計算練習を行うことが大変重要である。講義では、教科書の内容を中心に解説したのちに、問題の演習を通じて理解を深める。また、單元ごとに授業外の自己学修課題を課すことで理解の定着に努める。なお、自己学修と課題を重視するため、授業中の演習を積極的に行う意欲のある学生を対象とし、毎週の課題（学修目安2時間）の提出を重視して評価を行う。</p>							
授業計画							
1	ガイダンス：簿記の基礎（仕訳、試算表、貸借対照表、損益計算書）						
2	仕訳と転記						
3	商品売買						
4	現金預金						
5	手形						
6	有価証券と固定資産						
7	その他の取引1						
8	その他の取引2						
9	帳簿1						
10	帳簿2						
11	試算表1						
12	試算表2						
13	伝票と日計表						
14	決算手続（概要）						
15	総合演習（演習問題・テスト）						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業で課せられる課題を学生が提出した際には、教員がフィードバックを記載して返却する。							
履修上の注意							
授業時には必ず教科書と電卓を用意すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修：該当する教科書の内容を熟読する。							
事後学修：自己学修課題（宿題）を課す。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業参加度（30%）、課題の提出（50%）、期末試験（20%）で評価する。							
教科書							
滝澤 ななみ著『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第8版』TAC 出版							
滝澤 ななみ著『みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商3級 商業簿記 第8版』TAC 出版							
参考書、教材等							
特になし							

授業科目	動物とアート					担当教員	長能 美香
科目英名	Animals in Art						
開講期間	4 年次 前期	動物人間関係学専攻 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>全 15 講を通して、視覚芸術に表現された動物の意味と 3 つの形象タイプについて学修する。学修したことが、なぜ集大成として動物のキャラクターデザインを考案して描くことにつながるのか自ら考えて作品を制作する。さらに、人間だけが創造するアート、人間と動物、動物とアートの三者は不可分な関係にあり、本講義が動物人間関係学を構築する一翼を担うものであることを学修する。</p>							
講義概要							
<p>西洋美術の動物表現を概観すると、さまざまな意味を信仰と結びつけて動物に付与してきたことがわかる。主な意味は神格化と聖なるものの象徴である。また、人間だけがもつ想像力によって実際には存在しない動物（幻獣）も生み出された。日本美術の動物表現の特質は「カワイイ」ことである。動物表現を形象から考察すると「ハイブリッド型」、「カワイイ抽出型」、「完全なる創造型」の 3 つに分類される。本講義では、こうした特別な意味や役割をもった動物が古代文明で生み出され、その伝統が現代まで脈々と続いていることを芸術作品を通して解説する。さらに現代への影響のひとつとして、3 種の形象の分類がさまざまな動物のキャラクターと合致していることを検証する。</p>							
授業計画							
1	アートとはなにか：ゾウやオランウータンのペインティングと現代美術						
2	ラスコーの壁画：人類最古の動物壁画が意味するものとは						
3	古代エジプト、オリエント美術に表された動物：神格化された動物						
4	ギリシア、ローマ美術に表された動物：幻獣の図像確立						
5	初期キリスト教、中世美術における動物：象徴としての動物と聖書の動物						
6	中世の写本芸術と工芸：文様としての動物						
7	「フィシオログス」と「ベスティアリウム」：博物誌の伝統とキリスト教寓意の動物						
8	幻獣（想像上の動物）：一角獣を中心に						
9	ゾディアック（黄道 12 宮）星座の動物：オリエント、ギリシア文化の影響						
10	西洋近代美術以降の動物：モデルブックとルネサンス美術						
11	日本の絵巻：国宝「鳥獣人物戯画」と「年中行事絵巻」、「十二類絵巻」						
12	琳派、伊藤若冲、歌川国芳の動物表現						
13	動物とキャラクターデザイン：ディズニーの動物たち、スヌーピー、ムーミンなど						
14	うさ子ちゃんとデ・ステイル：動物キャラクターとアート						※実技課題提出
15	動物人間関係学における「動物とアート」の位置づけ						※講義内試験
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
講義内試験と実技課題は、採点のほか添削と講評を記入した後、あわせて返却する。							
履修上の注意							
第 14 回の講義後に実技課題である動物のキャラクターデザインを必ず提出すること。詳細は第 1 回と第 13 回の講義中に説明する。作品制作への熱意を評価する。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修：講義の理解を助けるために、簡単な美術史概説書を読んでおくこと。歴史教科書や図説の文化史の部分でもよい。							
事後学修：各講義の内容に該当する配布資料を読むこと。動物のキャラクターデザイン制作。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（25%）、実技課題（25%）、講義内試験（ノート・資料持ち込み可）（50%）の割合で総合的に評価する。							
教科書							
なし							
参考書、教材等							
講義中に適宜紹介する。							

授業科目	動物文化人類学					担当教員	奥野 卓司
科目英名	Animal Cultural Anthropology						
開講期間	3年次前期	動物人間関係学専攻 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標	世界の多様な文化のありよう、動物観を学び、人間と動物の関係、動物愛護の考え方の多様性、相対性を理解する。そのもとで、近未来の動物看護のあり方について、国際的に通じる自分の考えを構築する。						
講義概要	文化人類学のなかで、とくに動物と人間・諸民族との関係にかかわるテーマを、担当者の制作した映像、パワーポイントを多用して、解説する。文化人類学の考え方、方法論から、担当者が調査、研究している鶺鴒、家畜化・家禽化の諸文化、生き物に関する民族芸術、クールジャパンなどの各論に入り、近未来の人類と動物の関係について考察したい。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・・・文化とは何か</li> <li>2 パンダはなぜかわいいか・・・「攻撃性」抑制の表象</li> <li>3 霊長類学、動物社会学から生まれた文化人類学・・・「裸のサル」の生態探求</li> <li>4 文化人類学の方法・・・フィールドワークと比較、解説</li> <li>5 狩猟社会と農耕社会・・・動物・植物を「食べる」文化の構造と機能</li> <li>6 遊牧社会の起源と展開・・・動物を核とした文化の構造と機能</li> <li>7 アニミズム、トーテミズム、シャーマニズム・・・宗教の原初的形態と動物観</li> <li>8 縄文文化から「花鳥風月」へ・・・柳田國男、折口信夫、南方熊楠、今西錦司、梅棹忠夫</li> <li>9 「生類憐みの令」はあったのか・・・キリスト教と東アジア多神教の「動物愛護」比較</li> <li>10 ニワトリはいつから庭にいるのか・・・「家畜化」の起源と展開</li> <li>11 「鶺鴒」の起源と伝搬を求めて・・・世界の鶺鴒文化・日本の「観光鶺鴒」</li> <li>12 アニメ・アニマル・アニミズム・・・「鳥獣戯画」、若冲・鶺鴒亭から「火の鳥」、ジブリまで</li> <li>13 家族関係としてのペットの位置・・・「コンパニオン・アニマル」とは</li> <li>14 「利己的な遺伝子」としてみた人類史・・・人間はウイルスの殻か</li> <li>15 人類と動物の近未来・・・SDGs、多様性かシンギュラリティか</li> </ol>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	各回の冒頭で前回のレポートに書かれた質問に回答する。また、意見について（匿名のまま）報告し、受講生に討議してもらう。						
履修上の注意	授業中、スマホによるパワーポイントの撮影は禁止する。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容	各回の授業で述べた人名やテクニカル・タームは、必ずインターネットや書物で確認し、理解しておくこと。						
評価方法（評価基準を含む）	各回のレポート・・・50パーセント 定期試験・・・50パーセント の総合で評価する。 なお、講義中の質問、意見表明、態度は上記に加点する。						
教科書	定めない。必要なレジュメを配布する。						
参考書、教材等	『鳥と人間の文化誌』奥野卓司著（筑摩書房） 『動物観と表象』奥野卓司・秋篠宮文仁編著（岩波書店）						

授業科目	サイエンスイングリッシュ					担当教員	小黑 美枝子
科目英名	Scientific English						
開講期間	3年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
<b>到達目標</b>							
<p>動物看護学や動物人間関係学専攻で要求されるサイエンス（科学）は、国際的で、学問進歩が急速である。グローバルな視野に立ち、英文参考書、資料、論文などの科学英語に抵抗なく読むことが要求されている。本授業では、基礎的な科学英文を読解するためのスキルを修得することを目標とする。卒業研究における英語資料、論文の読解のための基礎力修得を到達目標とする。また、国際社会が身近になり、英語のリスニングも、動物や動物と人間の関わりに関する分野、またその関連科学分野においても必要になっている。そのために、基礎的英文読解力に基づいた専門分野の科学英語の英文読解力を修得することを到達目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>動物看護学専攻、動物人間関係学専攻の両専攻において、関連諸専門科目で要求されるサイエンス（科学）分野の英語文献、資料を理解するために基礎的な英文読解のスキルの修得を目標とする。基礎英語科目での既習内容を継続的に発展させ、サイエンス英語読解の基礎能力の確実な定着をめざす。動物看護学や動物人間関係学の専門的英語書の精読をめざす。サイエンス英語に特有な英文構造の把握、専門用語や関連語彙、用語の習熟を進めていく。あわせて、自然科学ビデオやCDなどによる listening を行い、専門分野関連の科学英語を修得する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（サイエンスイングリッシュの科目の紹介、1，2年次に学修した英語科目との違いを説明、サイエンスイングリッシュの学び方を紹介）</li> <li>2 動物看護学関連：Animal Biology, Cells &amp; Basic Tissues</li> <li>3 動物看護学関連：Blood</li> <li>4 動物看護学関連：Bone</li> <li>5 動物看護学関連：Movement of Materials within the Body</li> <li>6 動物看護学関連：Basic Nutrition(1)</li> <li>7 動物看護学関連：Basic Nutrition(2)</li> <li>8 動物人間関係学関連：How Dogs Think inside the Canine Mind</li> <li>9 動物人間関係学関連：Amazing Tales of Amazing Dogs Doing Utterly Amazing Things</li> <li>10 動物人間関係学関連：The Golden Retriever Who Saved a Baby Deer</li> <li>11 動物人間関係学関連：The One Eyed Rescue Who Sniffed out Skin Cancer</li> <li>12 動物人間関係学関連：A Dog's Five Senses: They are just Like Ours-But not</li> <li>13 学生によるトピックス提供、発表(1)</li> <li>14 学生によるトピックス提供、発表(2)</li> <li>15 レビュー、確認テスト</li> </ol>							
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
試験や小テストの解説を15回目授業中に行い、フィードバックする。							
<b>履修上の注意</b>							
辞書を駆使し、課題の予習をしっかりと行うこと。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
事前学修： 授業で配布したプリントは、単語を調べ予習すること。							
事後学修： 重要な語彙や表現をノートにまとめる。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業時に実施する小テスト（授業への参加度を含む）、確認テストを総合的に評価する。評価基準は、それぞれ、40%、60%の割合とする。							
<b>教科書</b>							
配布プリント							
<b>参考書、教材等</b>							
Animal Biology and Care, Sue Dallas, Blackwell Science Time Special Edition How Dogs Think 2018 Time Inc. Books							

授業科目	実用英語					担当教員	大橋 由紀子
科目英名	Practical English - Preparation for TOEIC and TOEFL						
開講期間	2年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
資格試験対策として、リーディング・リスニング力を強化し、TOEIC、TOEFLの点数の向上を目指す。TOEICならびにTOEFLの模擬問題を解きながら実践的な英語を学び、様々な状況に対応できる英語力をつける。							
講義概要							
この授業は、TOEICならびにTOEFLの試験対策形式の問題演習を含めた解説をしながら、講義形式で行う。リスニング、リーディングだけではなく、ライティング、スピーキングも含まれる。解説後、ペアワーク、グループワークも取り入れ、授業で解説した内容を理解しているか、確認しながら進める。授業では、ディクテーション、シャドーイング等の技法を使い、総合的な英語力を身につけるための訓練を行う。得点の伸びを測定するために、語彙テスト等の小テストも行うため、自宅学修が要求される。							
授業計画							
1	新TOEIC, TOEFLの概要説明と解法のテクニックについて						
2	'job hunting' (問題演習後、内容確認等解説)						
3	'giving a presentation' (問題演習後、内容確認等解説)						
4	'traveling 1' (問題演習、ペアワーク後、解説)						
5	'traveling 2' (問題演習、ペアワーク後、解説)						
6	'new distribution channel' (解説後、小テスト)						
7	'borad meeting' (問題演習後、内容確認等解説)						
8	'writing a letter' (問題演習、ペアワーク後、解説)						
9	'texting' (問題演習、ペアワーク後、解説)						
10	'business trip abroad' (解説後、小テスト)						
11	TOEFLリスニング問題演習 (解説後、ペアワーク)						
12	TOEFLリーディング問題演習 (解説後、ペアワーク)						
13	TOEFL練習問題総復習 (解説後、小テスト)						
14	TOEIC総合テスト (テストを含む、まとめと総復習)						
15	TOEFL練習テスト (テストを含む、まとめと総復習)						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
授業は予習してあることが前提で進める。毎回必ず予習をして出席すること。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学修として、テキスト (該当箇所は教場で指示) を予習すること。 事後学修として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法 (評価基準を含む)							
試験 (60%)、発言など授業への参加度 (40%)							
教科書							
<i>Enjoy practicing for the TOEIC listening and reading test</i> (三修社)							
参考書、教材等							
教場にて指示、あるいは配布する。							

授業科目	アドバンストイングリッシュ					担当教員	◎新島 典子・茂木 千恵
科目英名	Advanced English						
開講期間	3年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
<b>到達目標</b>							
専門的な英語で書かれた論文を読み、自らの論文作成に必須な知識、および自力で英語論文を読む力を身につける。							
<b>講義概要</b>							
<p>動物看護とその周辺分野の学問は、いずれも我が国ではまだ若く、英語圏の国々に一日の長がある。従って、これらの学問を真摯に修めようとするならば、英語で書かれた論文を読む必要が生じる。しかも、多くは学際的な分野なので、読まなければならない論文も多岐にわたることとなる。</p> <p>そうした要請に応えるため、この講義では、専門分野に関する英語論文を読めるようになることを目指す。まずは英文を読みこなすコツを学修する。その上で、専門分野の異なる教員と英語論文を読む。卒業論文で英語論文の読解が必要と思われる諸君、あるいは大学院進学や海外への留学を考えている諸君は、特に積極的に受講して欲しいが、幅広い知識を身につけたいと思う諸君の受講も歓迎する。論文読解を通じて、学生諸君は知的好奇心を存分に満たすことができるはずである。</p>							
<b>授業計画</b>							<b>担当教員</b>
1	ガイダンス：欧文論文を読むに際しての基本的事項、教科書の使い方の説明						新島 典子
2	第1章1：接頭辞、語幹、接尾辞						新島 典子
3	第1章2：単語の前後をよく見よう、第2章1：英語の段落の決まりがある						新島 典子
4	第2章2：英語の段落のタイプ、第3章1：案内標識を見逃すな						新島 典子
5	第3章2：段落と文章の関係、まとめ						新島 典子
6	臨床社会学関連の英文（ <i>Pet Loss Support in Veterinary Practice</i> ）を読む						新島 典子
7	動物人間関係学論文（ <i>Society and Animals</i> ）を読む						新島 典子
8	まとめテスト						新島 典子
9	理系科学論文の構文を学ぶ						茂木 千恵
10	理系科学論文に示される図と表（ <i>Figures &amp; Tables</i> ）を読み解く						茂木 千恵
11	理系科学論文（ <i>Scientific Reports</i> ）を翻訳する						茂木 千恵
12	理系科学論文（ <i>Scientific Reports</i> ）を翻訳する						茂木 千恵
13	理系科学論文（ <i>Behavioral Processes</i> ）を翻訳する						茂木 千恵
14	理系科学論文（ <i>Behavioral Processes</i> ）を翻訳する						茂木 千恵
15	まとめテスト						茂木 千恵
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
試験の答案用紙は原則として返却しないが、質問には応じる。またレポートについても答案用紙と同様の扱いとするが、必要に応じて返却をする。							
<b>履修上の注意</b>							
使い慣れた英和辞典か電子辞書を持参すること。							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
シラバスに当日の講義内容が示されているので予習をすること、また復習についても必ず講義の後まとめたノート作りをする。茂木担当回では各自翻訳した内容を発表するワークショップを取り入れる。事前に和訳する等の準備が必須である。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業参加度 40%、試験 60%として総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
新島担当回に使用する。『単語力がなくても英文を読みこなす法』勝見務、クリストファー・バーナード著、プレイス その他教材はプリントで配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
教場で配付、指示する。茂木担当回に使用する科学論文課題はガイダンス時に配布する。							

授業科目	研究法					担当教員 小黒 美枝子・岡崎 登志夫 今村 伸一郎・内田 明彦 島森 尚子・富田 幸子 梅村 隆志・高橋 克樹 古川 力・石川 牧子 新島 典子・奥野 卓司 若林 義啓・植田 富貴子 関谷 順一・加藤 理絵 大橋 由紀子・茂木 千恵 鈴木 友子・堀井 隆行 福山 貴昭・秋山 順子 宮井 紗弥香・荒川 真希 秋山 蘭
科目英名	Research Methods					
開講期間	3年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕
到達目標						
主に「動物看護学」あるいは「動物人間関係学」に関わる研究の仕方を修得し、卒業論文を作成するに当たって必要なそれぞれの研究方法を学修することを目標とする。						
講義概要						
各指導教員の指導のもと、4年次必修科目「卒業論文」に向けて、研究テーマに沿った研究の進め方、まとめ方を学修する。						
授業計画						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に着手する前の心構え</li> <li>・研究テーマの選び方</li> <li>・研究方法の選択（文献研究、症例研究、理論研究、調査研究、実験研究など）</li> <li>・文献の検索法・記載の仕方、資料の引用法</li> <li>・研究計画の立て方</li> <li>・研究における倫理的配慮</li> <li>・データの集め方と解析法</li> <li>・論文のまとめ方</li> <li>・論文の構成</li> <li>・原稿の書き方と推敲</li> <li>・学術誌への投稿の方法</li> <li>・口頭発表の仕方</li> </ul> <p>なお、研究室配属等の詳細は、掲示板などで告知する。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
履修上の注意						
各担当教員の指導となるので、連絡等に注意すること。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
評価方法（評価基準を含む）						
授業への参加度(50%)、レポート等提出物(50%)により総合的に評価する。						
教科書						
なし。必要に応じて、授業や掲示板で通知する。						
参考書、教材等						
なし。必要に応じて、授業や掲示板で通知する。						

授業科目	卒業論文					担当教員 天野 卓・小黒 美枝子 岡崎 登志夫・今村 伸一郎 内田 明彦・島森 尚子 富田 幸子・梅村 隆志 高橋 克樹・古川 力 石川 牧子・新島 典子 奥野 卓司・若林 義啓 植田 富貴子・関谷 順一 加藤 理絵・大橋 由紀子 茂木 千恵・鈴木 友子 堀井 隆行・福山 貴昭 秋山 順子・宮井 紗弥香 荒川 真希・秋山 蘭
科目英名	Graduation Thesis					
開講期間	4年次 通年	必修科目 4単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕
到達目標						
主に「動物看護学」あるいは「動物人間関係学」に関わる分野において、担当指導教員の指導の下、特に興味を持った事項についてまとめて、成果として卒業論文もしくは卒業製作物を提出することを目標とする。						
講義概要						
学生の能力の向上や社会に貢献できる人材成長のため、学生が自ら選んだ卒業論文指導教員の下で、文献調査から始まり、研究テーマの設定、実行計画の立案、課題に継続的に取り組む自主性、得られたデータをまとめて発表する能力あるいは得られた材料を基に作品を製作するまでを一貫して指導していく。						
授業計画						
3年次必修科目「研究法」で修得した内容に基づいて、研究テーマの設定、実行計画の立案、研究の実施、得られたデータを論文あるいは作品にまとめる。 なお、作成した論文あるいは製作物の提出締切日は、別に掲示板で通知する。中間報告および卒業論文発表会を実施する。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
履修上の注意						
各所属研究室で個別指導となるので、連絡等に注意すること。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
評価方法（評価基準を含む）						
研究態度（30%）と提出論文または製作品（70%）で総合的に判断する。						
教科書						
なし						
参考書、教材等						
なし						

授業科目	インターンシップ					担当教員 ◎堀井 隆行・秋山 蘭 三井 香奈
科目英名	Internship					
開講期間	3・4年次 通年	選択科目 1単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔総合科目〕
<b>到達目標</b>						
<p>学生が在学中に大学指定の企業等（動物病院を含む）で将来のキャリアに関連した就業体験を行うことにより、主体的な職業選択の能力や職業意識の育成および実務的知識が修得できるよう実践的な能力を身につけることを到達目標とする。</p>						
<b>講義概要</b>						
<p>事前授業を通して、基本知識や社会常識を身につけるとともに、科目インターンシップを通して職業適性や実社会への適応能力を身に付けていく。また、多様な職域での就業体験と事後授業を通して、自己の職業適性を考える機会とする。</p>						
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>
<p>1. 科目インターンシップに向けた事前授業（4～7月）</p> <p>事前授業 1 オリエンテーション インターンシップとは、企業を知る、自分を知る</p> <p>事前授業 2 ビジネスマナー①身だしなみと立ち居振る舞い</p> <p>事前授業 3 ビジネスマナー②言葉遣いと電話応対</p> <p>事前授業 4 ビジネスマナー③報告・連絡・相談、記録と守秘義務、席次・名刺交換・手紙（お礼状）のマナー</p> <p>事前授業 5 エントリーシートの書き方</p> <p>事前授業 6 面接のシミュレーション</p> <p>事前授業 7 インターンシップ先との連絡のとり方</p> <p>事前授業 8 インターンシップ直前オリエンテーション①</p> <p>事前授業 9 インターンシップ直前オリエンテーション②</p> <p>2. 科目インターンシップ（8～9月） 16時間以上の科目としての学外インターンシップ 大学指定の企業等（動物病院を含む）で実施する</p> <p>3. 科目インターンシップ後の事後授業（10月）</p> <p>事後授業 1 就業体験の共有</p> <p>事後授業 2 今後のキャリア形成に向けた総括</p>						堀井・秋山 堀井・秋山 堀井・秋山 堀井・秋山 堀井・秋山 堀井・秋山 堀井・秋山 堀井・秋山 堀井・秋山 堀井・秋山 堀井・秋山 堀井・秋山
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>						
<p>授業内のレポートについては、総括したコメントを返す。また、要望や質問等については都度口頭にて回答を行う。</p>						
<b>履修上の注意</b>						
<p>通年科目となっているが、実施スケジュールの概略は上記の通りである。 詳細なスケジュールは初回授業にて別途提示する。 内容等を変更する必要があるため、掲示板の確認や連絡事項には十分に留意する。 対外的な科目履修になるため、責任や誠意ある行動をするように心がける。 遅刻・欠席や課題の遅れは厳禁とする。</p>						
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>						
<p>各授業回に関連する内容を書籍等で下調べしておくこと。また、授業後には配布資料等を基に内容をまとめること。さらに、各自インターンシップ先の業界・企業研究をすること。</p>						
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>						
<p>授業への参加度（30%）・インターンシップ評価（30%）・課題レポート（40%）による総合評価。</p>						
<b>教科書</b>						
<p>特になし。必要に応じて随時プリントを配布する。</p>						
<b>参考書、教材等</b>						
<p>必要に応じて随時紹介する。</p>						

授業科目	研修・ボランティア活動					担当教員	◎加藤 理絵・ 宮井 紗弥香
科目英名	Volunteer Study & Activity						
開講期間	1～4年次 通年	選択科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育〔総合科目〕	
<b>到達目標</b>							
<p>動物看護及び動物人関係学を学ぶ人間として、飼い主がペットと安心して生活できる環境を提供できる知識と能力を持つことが求められる。それは、動物病院の中だけではなく、様々な状況や環境で生じている。地域支援、高齢者支援、子育て支援、障害者支援、農業支援、震災時の支援など様々な場面で動物を含めた中で、動物に関わる職業人としての役割が求められている。</p> <p>この授業では、実際に研修やボランティアに参加し、「飼い主と動物」を取り巻く環境に対して、専門職として介入ができる知識と能力を身に付けることを到達目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本授業では、大学で指定する研修とボランティアに参加することが義務付けられる。前期に講義（事前授業）を行い、それらの意義や原則を理解することとする。主として「夏季休暇」を利用した研修やボランティア活動を実践するとともに、後期には事後授業を実施し、研修やボランティアに関する発表とレポートの提出をもって単位の認定を行うこととする。</p>							
<b>授業計画</b>							
事前授業							
1回目	オリエンテーション、「海外研修」、「国内研修」の紹介と研修意義						
2回目	ボランティアの意義：ボランティア、地域づくり、活動の紹介①						
3回目	ボランティアの意義：ボランティア、地域づくり、活動の紹介②						
4回目	ボランティアの意義：ボランティア、地域づくり、活動の紹介③						
実習	下記予定地のいずれかで実施する（複数選択可）						
(1)	海外研修：海外における伴侶動物などの社会的地位と現状（実費）						
(2)	国内研修：北里大学八雲牧場 産業動物における飼育・管理についての実習（実費）						
(3)	学内ボランティア：学内ボランティア、学内イベントや研修の手伝い						
(4)	科目担当が認めた研修やボランティア						
事後授業							
1回目	研修やボランティアで学んだことの振り返りと発表・報告会						
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>							
レポートなどは必要に応じて返却する。							
<b>履修上の注意</b>							
<p>実習先との連絡を徹底し、事故のないように注意する。</p> <p>「海外研修」および「国内研修」は実費とする。詳しい内容は第1回目の授業内で説明する。</p> <p>（「海外研修」および「国内研修」は、本授業を履修しなくても参加可能な研修である）</p>							
<b>事前・事後学修（予習・復習）の内容</b>							
シラバスに当日の講義内容が示されているので予習をすること、また復習についても必ず講義の後まとめたノート作りをする。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
出席（25％）と研修・ボランティア参加状況（25％）、レポート（25％）と発表（25％）を総合的に勘案し判断する。							
<b>教科書</b>							
随時プリントを配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
なし							

授業科目	動物実習短期留学					担当教員 ◎山崎 薫・島森 尚子 荒木 幸子
科目英名	Short-term Animal Practical Training Abroad					
開講期間	1～4年 次 通年	選択科目 4単位	授業形態	講義・実 習	科目区分	専門教育〔総合科目〕
到達目標						
海外の動物関連施設における実際的な英語および動物飼育実習の学修を通じて、多文化共生社会における動物関連学問領域のあり方を幅広く学び、グローバルな視野を身に着ける。						
講義概要						
事前学修として、担当教員による夏季集中英語講座を受け、実習に必要な英語表現を学ぶ。渡航先ではオーストラリア動物園での実習が主体となるが、ネイティブの英語教師（本学客員教授）による実用英語のレッスンを受け、現地で必要な英語を身に着ける。帰国後には事後学習として発表を行い、レポートにまとめる。						
授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事前学修1 オリエンテーション（講義目的・内容と履修方法の理解）</li> <li>2 事前学修2 地域学習（実習先の地域に関する英語学修）</li> <li>3 事前学修3 旅行英語（渡航および滞在に必要な語彙および表現）</li> <li>4 事前学修4 専門英語（実習に必要な語彙および表現）</li> <li>5 事前学修5 専門英語（実習に必要な語彙および英語）</li> <li>6 実習1 オーストラリア動物園での実習</li> <li>7 実習2 オーストラリア動物園での実習</li> <li>8 実習3 オーストラリア動物園での実習</li> <li>9 実習4 オーストラリア動物園での実習</li> <li>10 実習5 オーストラリア動物園での実習</li> <li>11 実習6 オーストラリア動物園での実習</li> <li>12 実習7 オーストラリア動物園での実習</li> <li>13 実習8 オーストラリア動物園での実習</li> <li>14 事後学習1 学生による実習報告発表および担当教員による講評</li> <li>15 事後学習2 学生による実習報告発表および担当教員による講評</li> </ol>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
実習報告発表後に講評を行う。						
履修上の注意						
海外での生活および実習の受講に支障がない健康状態であること、および定められた日程および実習先で求められる規律を遵守することを履修の条件とする。社会情勢によって、あるいは最低参加人数（昨年度は16名。変更があった場合は掲示にて知らせる。）が充足されない場合開講しないことがある。なお、本科目は海外での実習体験であるため、旅費等を含めた別途費用が必要となる。授業計画は、諸般の事情により変更になることがある。4月に説明会を行い、履修登録を行う。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
事前学習で学んだ内容をよく復習して実習に臨むこと。実習の際は当日行った内容を毎回ノートにまとめ、疑問点等があれば次回に質問すること。						
評価方法（評価基準を含む）						
授業参加状況70%、発表およびレポート30%として総合的に評価する。						
教科書						
教場にて配布する。						
参考書、教材等						
教室にて資料を配布する。 動物園にて実習テキストを配布する。						

授業科目	アッセンブリーアワー I (動物と看護)					担当教員	◎若林 義啓・ 秋山 順子
科目英名	Special Seminar (Animal and Nursing)						
開講期間	1年次 通年	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育 [総合科目]	
<b>到達目標</b>							
<p>学園の建学の精神と大学の教育理念を通して、動物看護の歴史や日本における動物看護の現状について多角的視点から理解することを目指す。また、学内外の講師を招いた講演会・セミナーを通じて学ぶ姿勢、文章表現力、コミュニケーション能力や礼節等の大学生としての基礎力を修得し、自ら将来のためにすべきことを考え判断する能力を見つけることを目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>アッセンブリーアワーとは学園の教育理念や目標を共有する時間として設けられ、自校教育アワー、キャリア教育アワー、トピックスアワー、コミュニケーションアワーの4つから構成されている。1年次の自校教育アワー、キャリア教育アワーにおいては、動物愛護の精神に基づいた本学における動物看護教育の歴史を中心に学ぶ。さまざまな職域において動物看護師に求められる役割と意義、動物看護に関する幅広い教養を身につける。トピックスアワー、コミュニケーションアワーでは、学外の施設見学や動物飼育体験を通して興味や関心を持って積極的に学ぶ姿勢を身につけるとともに、得た知識を整理し自ら考え表現する力を養う。</p>							
<b>授業計画</b>							
1	オリエンテーション、学生生活・教務ガイダンス、図書館ガイダンス						
2	[自校教育アワー1] 学園と動物看護の歴史について						
3	[自校教育アワー2] 動物愛護の精神と本学の教育理念 (創始者記念礼拝)						
4	[自校教育アワー3] 動物看護フォーラム (創立記念日)						
5	[自校教育アワー4] ヤマザキ動物愛護シンポジウム						
6	[キャリア教育アワー1] 動物園における動物看護の仕事						
7	[キャリア教育アワー2] 馬に関わる動物看護の仕事						
8	[キャリア教育アワー3] 身体障害者補助犬の仕事						
9	[トピックスアワー1] ストレスへの対処方法						
10	[トピックスアワー2] 消費者教育						
11	[トピックスアワー3] 薬物、アルコール依存の危険性						
12	[コミュニケーションアワー1] 動物飼育管理体験実習について						
13	[コミュニケーションアワー2] 動物園の役割と展示動物の健康管理・園内見学						
14	[コミュニケーションアワー3] 国内海外研修・実習報告会、専攻説明会						
15	総括 (1年次の振り返り)						
<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>							
レポート(ノート形式)等の質問について、中間および最終回の総括においてフィードバックする。							
<b>履修上の注意</b>							
隔週、通年授業であり、講演者のスケジュール調整等で授業計画が変更になる場合がある。開催の掲示物や学園行事に関する連絡事項等を確認すること。							
<b>事前・事後学修 (予習・復習) の内容</b>							
事前: 授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後: 授業で配布した資料、関連書籍にて復習し、1週間以内にレポート(ノート形式)を書く。レポートは、授業中間時点に回収し中間レビューを行う。							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
レポート(ノート提出)50%、授業への参加度 50%で総合的に判断する。レポートの評価基準: 与えられた課題を講義内容とからめて深く考察しているかどうかを評価する。							
<b>教科書</b>							
特に指定なし。必要に応じて資料を配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
必要に応じて授業や掲示板にて通知する。							

授業科目	アッセンブリーアワーⅡ(動物と環境)					担当教員	◎新島 典子・ 植田 富貴子
科目英名	Special Seminar (Animal and Environment)						
開講期間	2年次 通年	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育〔総合科目〕	
<b>到達目標</b>							
動物をめぐる環境、そして、動物に関わる人をめぐる環境についてさまざまな観点から知識を広げてゆく。気候変動、グローバル化による動物生態系の変化や動物への深刻な影響、災害時に必要な動物保護、動物看護をめぐる環境等について国内外の事情を把握し、理解する。							
<b>講義概要</b>							
本科目は自校教育アワー、キャリア教育アワー、トピックスアワー、コミュニケーションアワーの4つから構成される。動物と環境を巡るさまざまな教養を身につけ、知識を広げてゆく。例えば、職場環境や自然環境から生じる人と動物の複雑な問題に関する教養や専門職としてのストレス耐性も養う。トピックスアワーにおいては、「動物と環境」をテーマに、社会で活躍するスペシャリストを招へいして教授する。また、コミュニケーションアワーの一環として、水族館への日帰り見学の他、動物飼育体験実習にも参加する。講演者のスケジュール等で授業計画の順番が変更になる場合がある。							
<b>授業計画</b>							
1	オリエンテーション(動物看護学部2年次生の環境と目標)[コミュニケーションアワー1]						
2	動物看護師のストレス環境(1)[キャリア教育アワー1]						
3	動物看護師をめぐる環境(認定動物看護師の資格と認定等)[自校教育アワー1]						
4	職場環境で求められる動物看護師のコミュニケーション[コミュニケーションアワー2]						
5	介在動物と環境[トピックスアワー1]						
6	海の動物と環境(海洋生物と環境)[トピックスアワー2]						
7	海外の動物看護教育の歴史[自校教育アワー2]						
8	動物看護師のストレス環境(2)[キャリア教育アワー2]						
9	動物と多様な環境(国立科学博物館)[コミュニケーションアワー3]						
10	動物看護学生の研修環境(学外研修成果発表)[コミュニケーションアワー4]						
11	生命の教育[自校教育アワー3]						
12	人と動物の環境改善を目指して(絆祭シンポジウム)[トピックスアワー3]						
13	動物看護師の環境とマナー[キャリア教育アワー3]						
14	ヒトと動物の共生[トピックスアワー4]						
15	まとめ:ヒトと動物の社会環境を考える						
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b>							
フィードバックとしてノートを回収後、コメントを記載して返却する。							
<b>履修上の注意</b>							
隔週・通年授業で、学外講師らとの調整結果によって授業計画の順番や日時の変更がありうる。初回授業にて配布する授業計画表、掲示や連絡事項等に注意すること。							
<b>事前・事後学修(予習・復習)の内容</b>							
事前学修「各授業回の内容に関連する個人的経験などを振り返っておくこと」							
事後学修「授業で扱ったテーマを、読書やウェブ検索により深化させ、定着させること」							
<b>評価方法(評価基準を含む)</b>							
授業への参加度50%、課題レポート(ノート形式)50%により総合的に判断する。							
<b>教科書</b>							
なし。必要に応じて掲示板や授業にて通知する。							
<b>参考書、教材等</b>							
なし。必要に応じて掲示板や授業にて通知する。							

授業科目	アッセンブリーアワーⅢ(動物と職業)					担当教員 ◎関谷 順一・秋山 蘭
科目英名	Special Seminar (Animal and Business)					
開講期間	3年次 通年	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育〔総合科目〕
<b>到達目標</b>						
<p>社会における動物とヒトの多様な関係をヒト側の視点と動物側の視点の双方から理解することにより動物に関与した職業を理解する。さらに少子高齢化著しい現代社会において、子どもから高齢者まで幅広い世代のヒトと動物とのかかわりについて修得し、その知識と技術を身につけ社会に還元できる人材となることを到達目標とする。</p>						
<b>講義概要</b>						
<p>本科目は、入学から3年間各学年の学修レベルに合わせた自校教育、キャリア教育、トピックス、コミュニケーションに関する4分野からアワーを構成し提供する。3年次では、「動物と職業」をテーマに、日本社会における伴侶動物とヒトの様々なかかわりを取り上げ、現場で求められる動物看護学の知識や技術を深化させる。講義では、動物と社会に関わる多様な分野に携わる担当者が講義と実践的で有意義な内容を展開していく。</p>						
<b>授業計画</b>						
1	オリエンテーション(動物看護学部3年次生の社会との繋がり)					
2	図書館ガイダンス[自校教育アワー]					
3	職業としての動物看護の資格と現状[自校教育アワー]					
4	社会における動物看護師の役割Ⅰ[キャリア教育アワー]					
5	社会における動物看護師の役割Ⅱ[キャリア教育アワー]					
6	社会人のストレスマネジメント[自校教育アワー]					
7	社会におけるヒトと動物の多様な関係性[トピックスアワー]					
8	動物に用いる薬物の管理と社会的責任[コミュニケーションアワー]					
9	社会における動物文化[トピックスアワー]					
10	社会における動物看護師の役割Ⅲ[キャリア教育アワー]					
11	社会における動物看護師の役割Ⅳ[キャリア教育アワー]					
12	救急救命講習Ⅰ[コミュニケーションアワー]					
13	救急救命講習Ⅱ[コミュニケーションアワー]					
14	生命の教育[自校教育アワー]					
15	学習成果まとめ、卒業論文発表会					
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b>						
原則試験は実施せず、ノートやレポートは提出後にチェックが終わったら返却する。						
<b>履修上の注意</b>						
上記の授業計画は、変更する場合がある。						
<b>事前・事後学修(予習・復習)の内容</b>						
事前学修として、授業計画に沿って関連資料や書籍を読み予習を行う。講義終了後は、講義内容をまとめたノートを作成・提出する。						
<b>評価方法(評価基準を含む)</b>						
授業への参加度(60%)とレポート等提出物(40%)をもとに評価する。						
<b>教科書</b>						
なし(各講師によるレジюмеあり)						
<b>参考書、教材等</b>						
なし						

授業科目	アッセンブリーアワーⅣ(動物と社会)					担当教員	◎小黒 美枝子 加藤 理絵
科目英名	Special Seminar (Animal and Society)						
開講期間	4年次 通年	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育 [総合科目]	
<b>到達目標</b>							
ヒトと動物の共生する平和な社会の構築を目的とし、社会における動物とヒトの多様な関係を修得することを目標とする。卒業に向かい、社会に巣立つ前に社会人としての基礎力を身につけることを到達目標とする。							
<b>講義概要</b>							
<p>本科目はアッセンブリーアワーⅠ,Ⅱ,Ⅲと入学からすでに3年間にわたり実施してきた、自校教育、キャリア教育、トピックス、コミュニケーションアワーの4つから構成されている科目シリーズのひとつである。卒業年次に開講するため、社会におけるヒトと動物の多様な関係を、ヒトの視点と動物の視点の双方からとらえるとともに、学生自身が将来展望を見据え、社会に巣立つ前の重要な時期を充実させるため、トピックスアワーにおいては、学内のカリキュラムの授業には盛り込めない多岐にわたる専門的な情報や研究結果等を、動物関連産業で活躍するスペシャリストや卒業生等を招へいして教授する。</p> <p>トピックス内容は社会の変化に対応し、時事性があるため、開講年次に詳細内容を提示する。</p>							
<b>授業計画</b>							
1 オリエンテーション、授業初回に詳細の授業計画内容を提示する。							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b>							
授業中に課題レポートに対する解説を行い、フィードバックする。							
<b>履修上の注意</b>							
通年授業であり、学外講師らとの調整結果によっては時間帯の変更がありうる。 掲示や連絡事項などに注意すること。							
<b>事前・事後学修(予習・復習)の内容</b>							
事前学修 掲示される「授業の計画内容」を確認すること。							
事後学修 レジメや板書を活用して、授業内容を講義ノートとしてまとめる。							
<b>評価方法(評価基準を含む)</b>							
授業への参加度(60%)、および課題レポート等提出物(40%)をもとに総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
なし。必要に応じて、掲示板や授業中に通知する。							
<b>参考書、教材等</b>							
なし。必要に応じて、掲示板や授業にて通知する。							